

# 深谷市民まちづくりアンケート

---

## 調査報告書

令和元年 9 月

深谷市

## 目次

1.	I.	アンケート調査結果の概要	2
	1.	アンケート調査の実施方法	2
	2.	アンケート調査結果の信頼度	3
	3.	アンケート調査結果の概要	4
	4.	市全体、地区別の調査結果の分析	8
2.	II.	アンケート調査結果の詳細	19
	1.	回答者属性	19
	2.	深谷市のまちづくりについて	21
	3.	深谷市の施策について	150
	4.	自由記入欄（まちづくり全般について）	174
3.	III.	アンケート調査結果の単純集計結果	180
	1.	深谷市のまちづくりについて	180
	2.	深谷市の施策について	184
	3.	自由記入欄（まちづくり全般について）	188
	4.	最後に、あなた自身のことについておたずねします。	188

# 1. I. アンケート調査結果の概要

## 1. アンケート調査の実施方法

### (1) 目的

「深谷市総合振興計画・後期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

### (2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する20歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和元年6月13日から同年6月23日に実施しました。

### 注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
  - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
  - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

## 2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

### ・計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

### ・各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	平成 31 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳人口（18 歳以上）の総数（121,591 人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度 95%設定により、1.96 とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,591}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,591-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383 票回収すれば信頼度 95%±5%の調査結果を得ることが分かることが分かります。

今回の調査では 765 票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

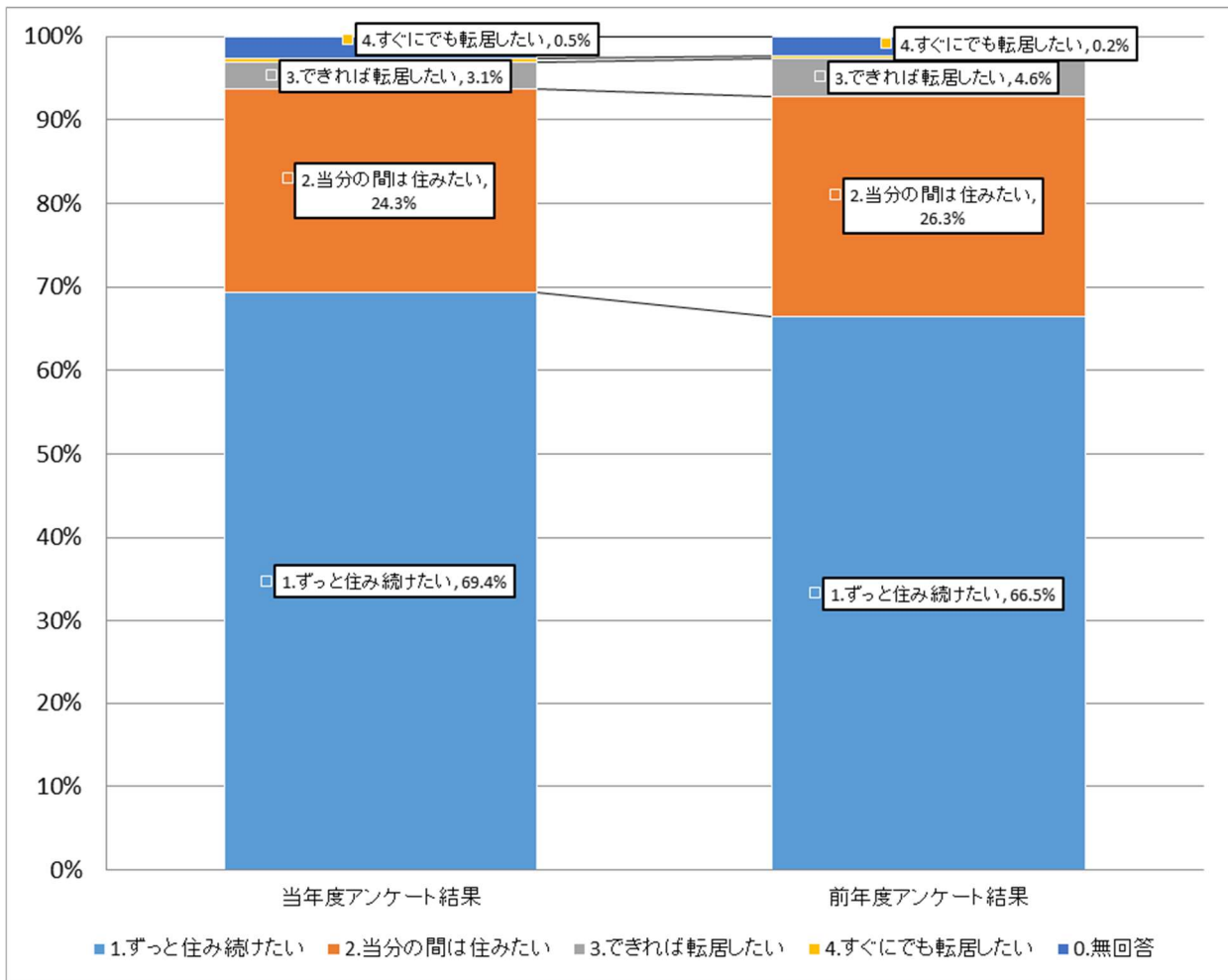


### 3. アンケート調査結果の概要

#### (1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和元年6月13日から同年6月23日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満20歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、765人（38.3%）でした。

#### (2) 深谷市への定住意識について

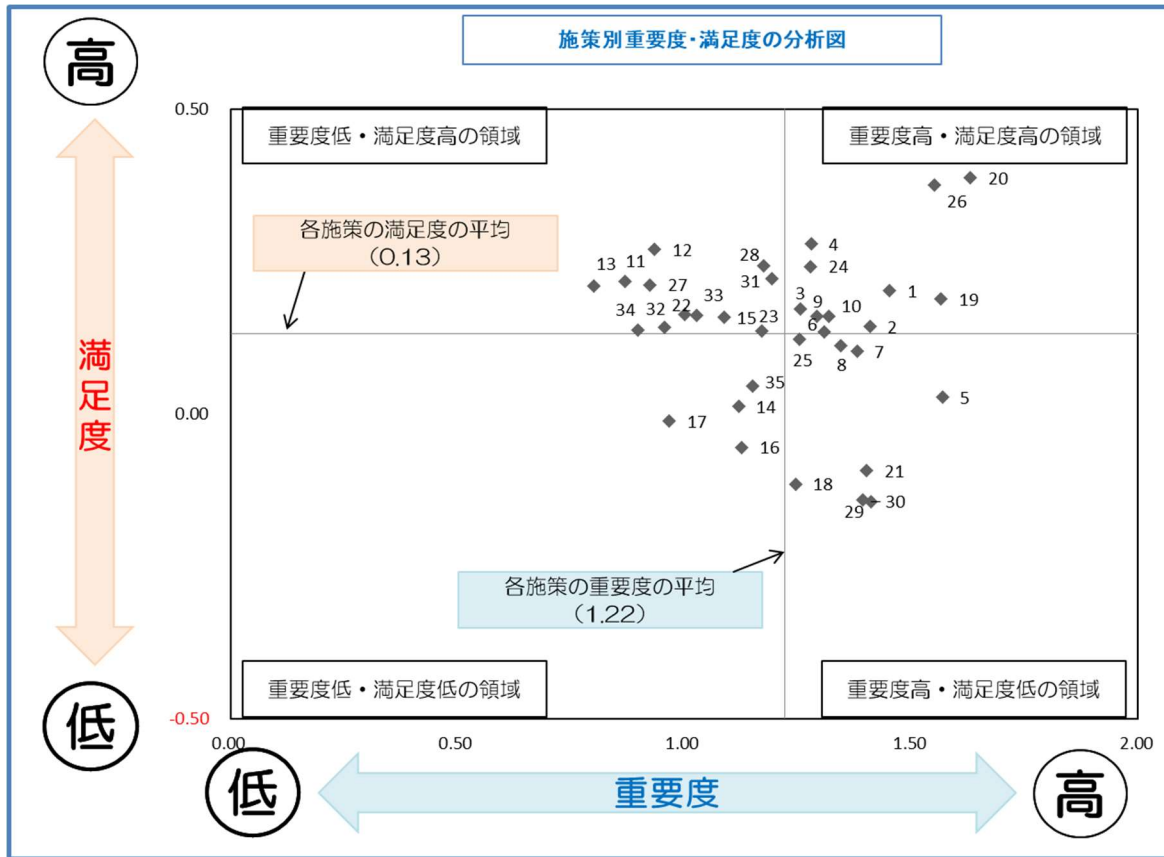


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が69.4%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が24.3%となっています。合計は93.7%と9割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

### (3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

#### ① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
28	治水対策の推進	19	災害に強い防災体制の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	20	消防・救急体制の充実
32	男女共同参画の実現	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進		
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### <重要度高・満足度高>

重要度が高く、満足度も高い領域には「消防・救急体制の充実」や「水の安定供給と下水処理の適正化」、「災害に強い防災体制の推進」、「子育て支援の充実」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### <重要度高・満足度低>

重要度が高く、満足度が低い領域には、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」や「道路・交通環境整備の推進」、「防犯・空き家対策の推進」、「地域医療体制の充実」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### <重要度低・満足度高>

重要度が低く、満足度が高い領域には、「郷土の歴史・文化の継承と活用」や、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「生涯学習の推進」などの施策が該当します。

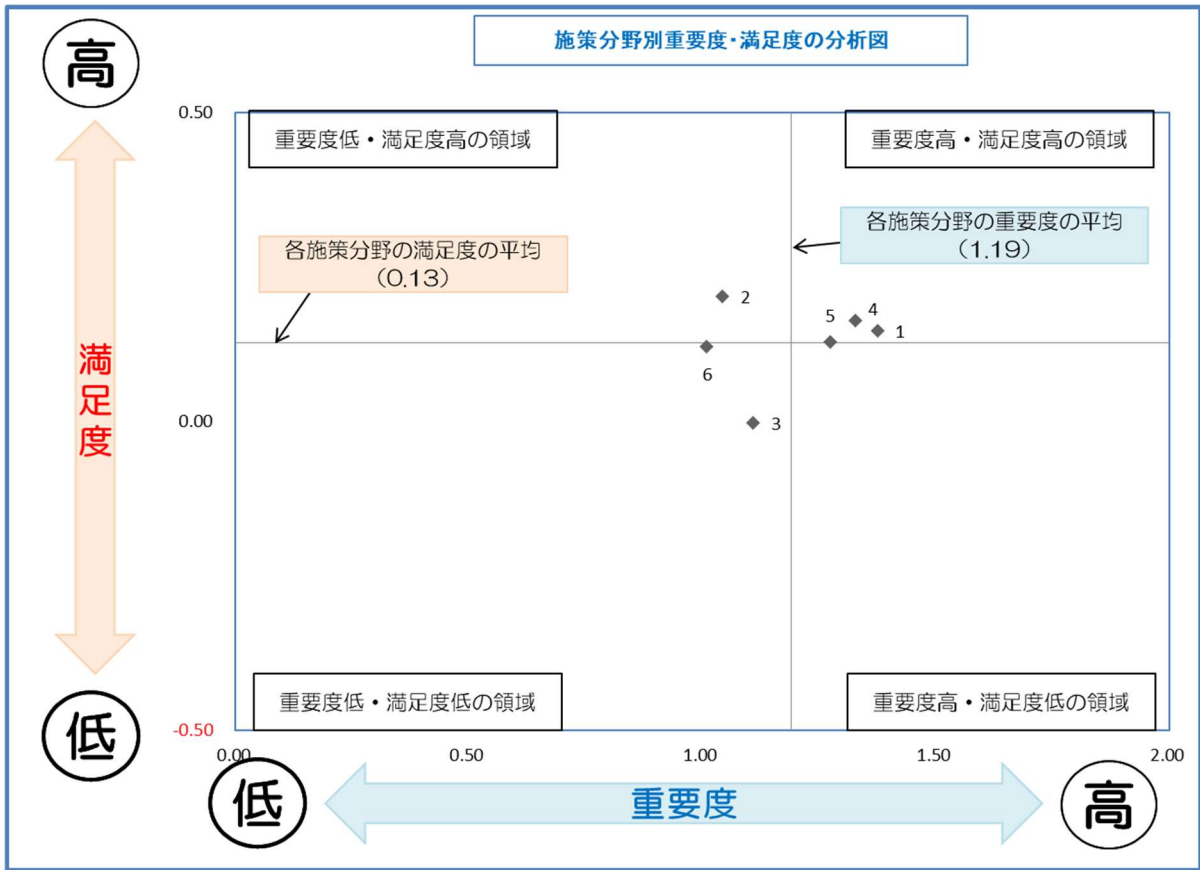
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

#### <重要度低・満足度低>

重要度が低く、満足度も低い領域には、「商工業の振興」や「観光資源の整備と活用」、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、1. 子育て・保健・福祉、4. 暮らし・環境、5. 都市・生活基礎の2分野であり、<重要度高・満足度低>に分類される施策分野はありませんでした。

また、<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、2. 教育・文化の1分野であり、<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、3. 産業振興、6. 協働・行政経営の2分野となっています。

今年度のアンケートでは、<重要度高・満足度低>に分類された施策分野はなかったことから、おおむね市民ニーズに即した取り組みが行われているといえます。

#### 4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

##### (1) 調査からわかったこと（市全体）

###### ➤ 市への定住意識

- ・「平成30年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート」）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で9割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

###### ➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は3割未満となっています。
- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は6割を超えています。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約6割となり、「前年度アンケート」の結果から微減していることがわかります。
- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は8割を超えているものの、「前年度アンケート」の結果からは微減していることがわかります。
- ・7割を超える市民に、かかりつけ医がいることがうかがえます。その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる自治会や民生委員などがあると回答した人の割合は、「前年度アンケート」の結果から微増し、半数を超える結果となっています。

###### ➤ 教育・文化について

- ・生涯学習を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約3割と少なく、「前年度アンケート」からも微減している

ことがわかります。

- ・芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、3割未満となっています。さらに、男女によっても差がみられ、男性は女性に比べ、5.1ポイント少ないことがわかります。
- ・スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、4割以下となり、「前年度アンケート」から微減しています。

➤ 産業振興について

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は約6割であり、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、地域や年代によって意識に差があることがうかがえます。
- ・自身または家族の仕事と生活のバランスが「とても取れている」または「やや取れている」と回答した人の割合の合計は6割を超え、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。

➤ 暮らし・環境について

- ・自宅に災害に対する備えが「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約4割と、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を、市民の約3割が「知らない」と回答しており、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・1年間で消費者トラブルに巻きこまれた人の割合は、「前年度アンケート」と同様、ごくわずかであることがうかがえます。
- ・約6割の市民が、日ごろ防犯対策を「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答していることがわかります。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、半数以下となっているものの、「前年度アンケート」と比較すると微増していることがわかります。

- ・環境に配慮した取組（省エネ、自然や川の保全活動など）を、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、「前年度アンケート」と比較して微減しています。また、環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は5割ほどで、「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はありませんでした。
- ・8割以上の市民が、普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

#### ➤ 都市・生活基盤について

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した人の割合は半数以上になっています。
- ・住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約7割となり、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。地域により20%台～80%台と、大きな差があることがわかります。
- ・約7割の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約7割となっており、多くの市民が深谷市内に魅力的なまち並みがあると感じていることがわかります。
- ・7割以上の市民が、水害に対して安心した生活を送ることができていると感じていることがうかがえます。
- ・約半数の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じると回答していることがわかります。公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）についても、半数以上が不便を感じると回答しており、道路と公共交通機関のどちらにおいても、多くの人が不便を感じていることがうかがえます。

#### ➤ 協働・行政経営について

- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じている人は、約6割でした。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人の割合は、1割未満とごくわずかであることがわかります。
- ・お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」

と回答した人の割合の合計は約 6 割でした。「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はみられませんでした。

- ・市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約 1 割と少ないものの、「前年度アンケート」と比較すると、微増しています。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると思うと回答した人の割合の合計は、約 6 割でした。男性よりも女性の回答が 7.2 ポイント少なく、男女間で大きな差がみられました。
- ・男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、約 2 割になっています。「前年度アンケート」と比較すると 7.6 ポイント高くなっており、前年よりも意識が高くなった事がうかがえます。
- ・7 割近い市民が、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答しています。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合の合計は約 7 割でした。「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はありませんでした。
- ・約半数の市民が、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答しています。
- ・市民活動に興味は「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合の合計は、3 割に届かず、「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はみられませんでした。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は 5 割未満ではあるものの、「前年度アンケート」と比較して微増しており、認知度が高くなった事がうかがえます。
- ・約 7 割の市民が、花と緑をいかしたまちづくり活動について「興味がある」と回答しています。「前年度アンケート」と比較して微増しているものの、「参加したい」と回答した人の割合は「前年度アンケート」と比較して大きな変化はみられませんでした。



## (2) 調査からわかったこと（地区別）

### ➤ 深谷地区

- ・小学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思いと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

### ➤ 藤沢地区

- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思いと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、不便を感じるということがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活をしていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・ 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ スポーツやレクリエーションを行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 住まい周辺の住環境に満足しているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ お互いの人権について意識をして生活をしているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実しているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思おうと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・かかりつけの医者があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境問題を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思おうと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると思おうと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

## ➤ 八基地区

- ・ これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ かかりつけの医者があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 自身または家族の、仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 日ごろ防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

## ➤ 豊里地区

- ・ これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・小学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーションを行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境問題を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・男女共同参画について以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・ 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・ 地域で子どもを育む活動に参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 日ごろ防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の道路を普段利用する際に、不便を感じるがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 男女共同参画について以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・自身または家族の、仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

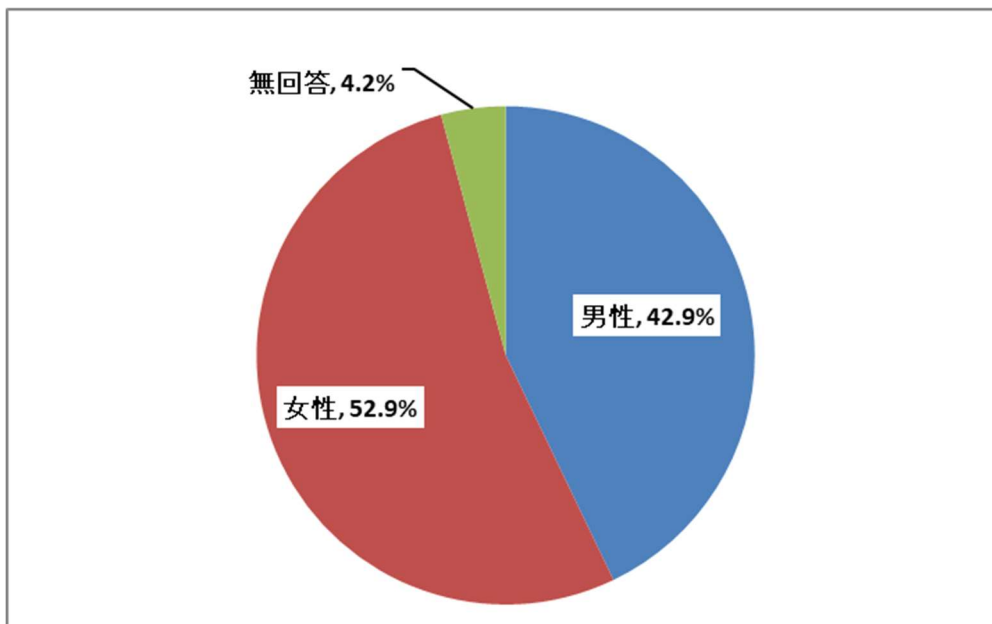
➤ 花園地区

- ・自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

## 2. II. アンケート調査結果の詳細

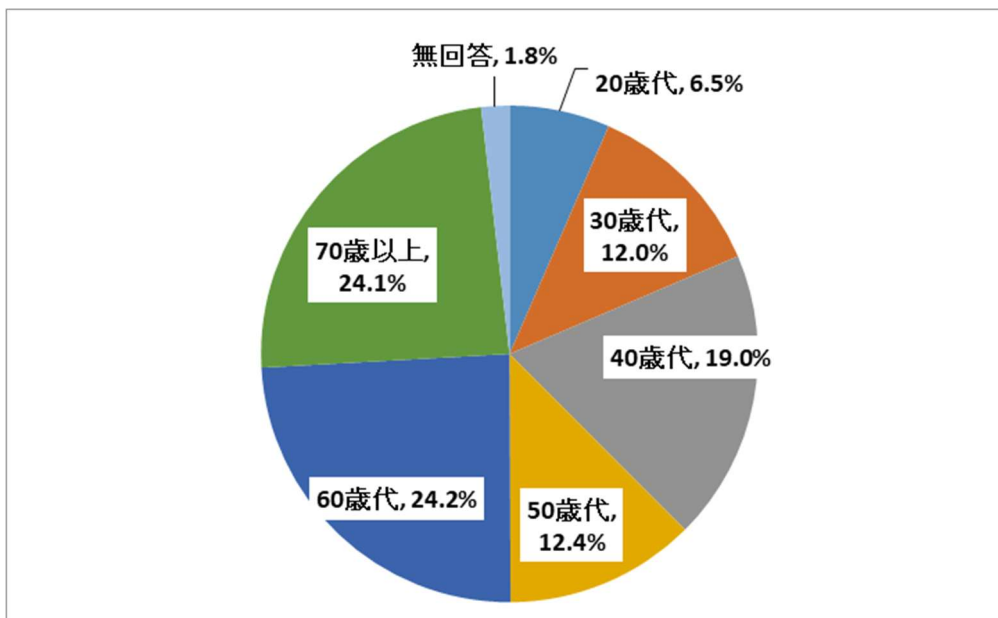
### 1. 回答者属性

#### (1) 性別



男性が 42.9%、女性が 52.9%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

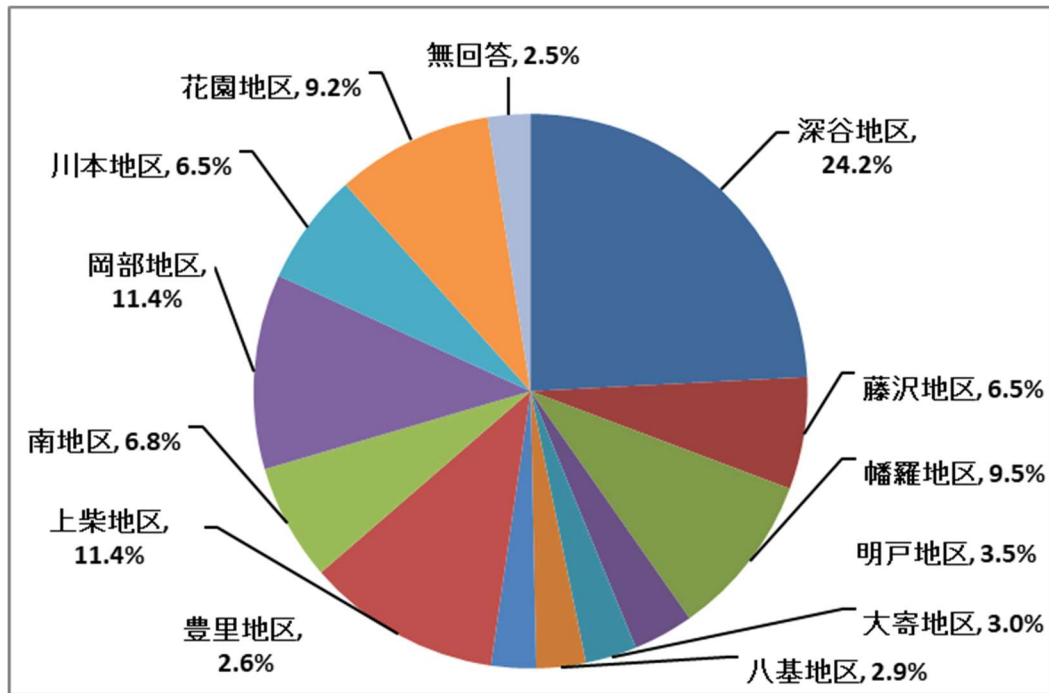
#### (2) 年齢



年齢では、60歳代が最も多く、24.2%となっています。次いで、70歳以上 24.1%、40歳代 19.0%、50歳代 12.4%、30歳代 12.0%となっており、最も少ないのは 20歳代で 6.5%となっています。



### (3) 居住地区

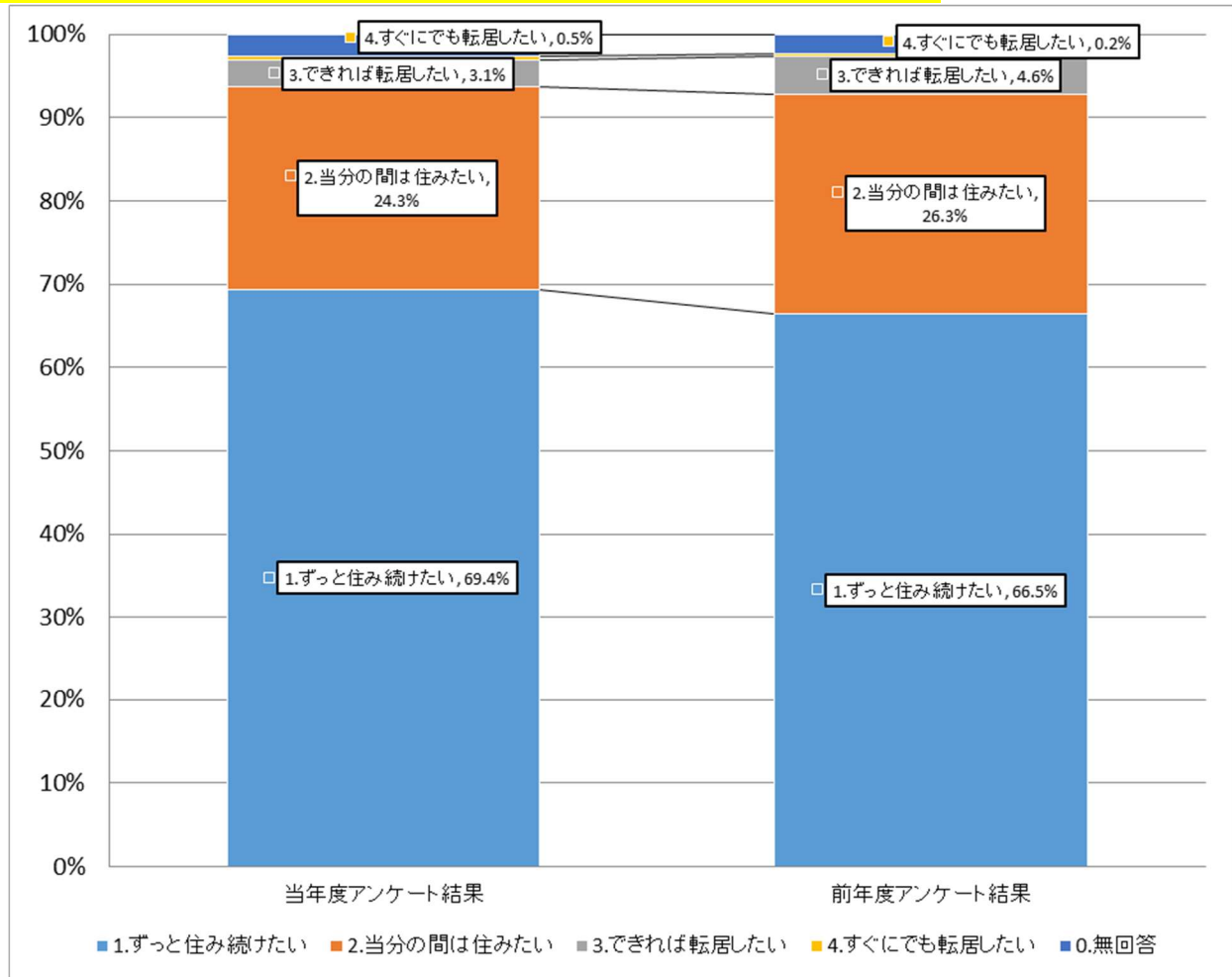


深谷地区が最も多く 24.2%となっています。次いで、岡部地区・上柴地区で 11.4%、幡羅地区 9.5%となっています。最も少ないのは豊里地区であり、2.6%となっています。

## 2. 深谷市のまちづくりについて

### (1) 市への定住意識について (1. 問1)

あなたは、これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

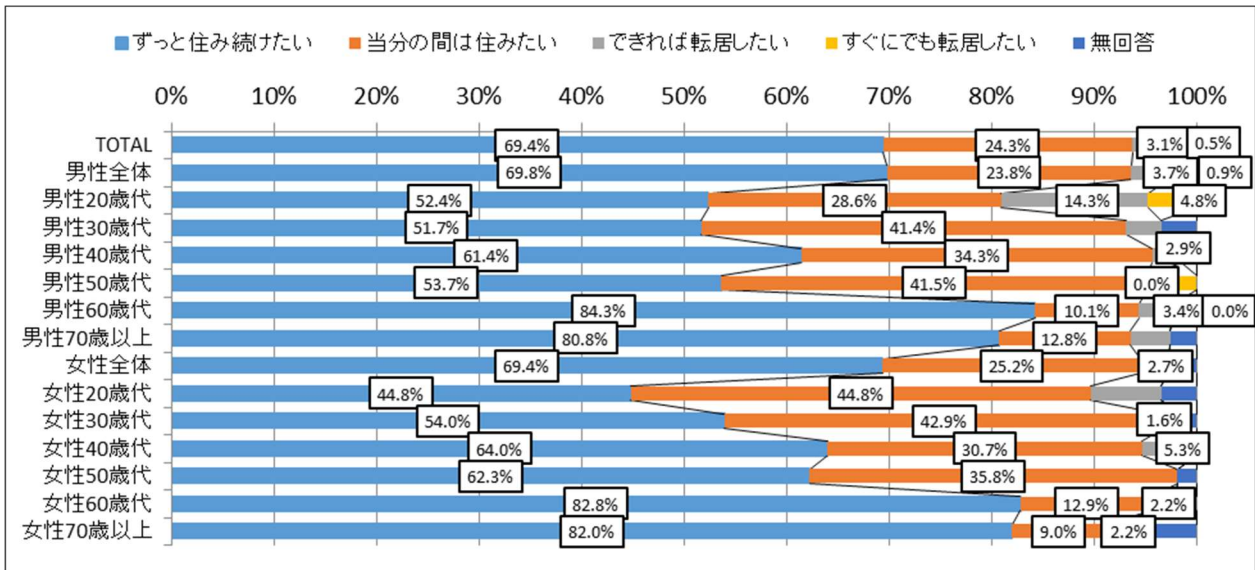


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 69.4%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 24.3%となっており、2つの合計は 93.7%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 92.8%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	765	69.4%	24.3%	3.1%	0.5%	2.6%	100.0%
男性全体	328	69.8%	23.8%	3.7%	0.9%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	21	52.4%	28.6%	14.3%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	51.7%	41.4%	3.4%	0.0%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	61.4%	34.3%	2.9%	0.0%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	53.7%	41.5%	0.0%	4.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	84.3%	10.1%	3.4%	0.0%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	80.8%	12.8%	3.8%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	69.4%	25.2%	2.7%	0.0%	2.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	44.8%	44.8%	6.9%	0.0%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	54.0%	42.9%	1.6%	0.0%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	64.0%	30.7%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	62.3%	35.8%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	82.8%	12.9%	2.2%	0.0%	2.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	82.0%	9.0%	2.2%	0.0%	6.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	62.7%	30.3%	3.8%	0.5%	2.7%	100.0%
藤沢地区	50	76.0%	16.0%	4.0%	0.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	72.6%	21.9%	4.1%	0.0%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	70.4%	14.8%	7.4%	0.0%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	69.6%	21.7%	8.7%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	50.0%	25.0%	5.0%	5.0%	15.0%	100.0%
上柴地区	87	66.7%	29.9%	1.1%	1.1%	1.1%	100.0%
南地区	52	75.0%	19.2%	3.8%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	73.6%	24.1%	2.3%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	50	76.0%	22.0%	0.0%	0.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	74.3%	21.4%	1.4%	0.0%	2.9%	100.0%
無回答	19	57.9%	21.1%	5.3%	0.0%	15.8%	100.0%

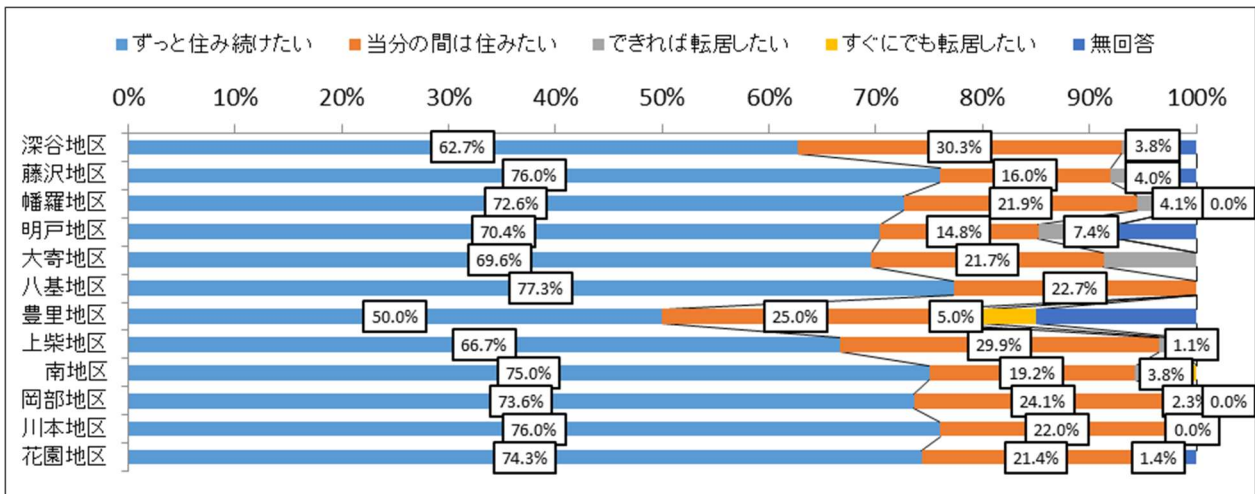
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、男性が 69.8% であるのに対し、女性は 69.4% となっています。男女ともに多くの市民が、住みたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住みたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性が 30 歳代 (51.7%)、女性は 20 歳代 (44.8%) であり、一方で最も多い世代は、男性、女性ともに 60 歳代 (男性 84.3%、女性 82.8%) となっています。

➤ 地区別



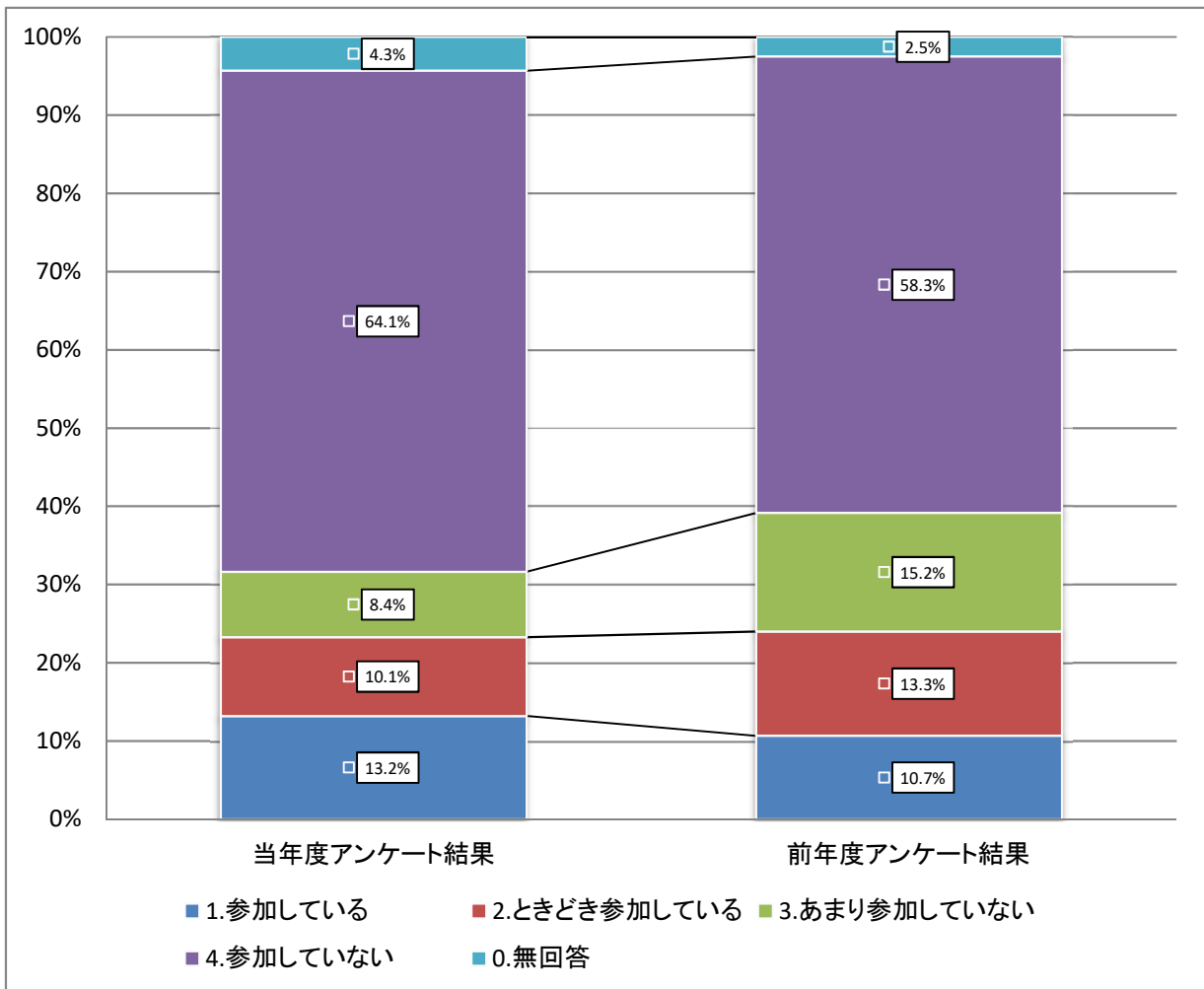
地区別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、豊里地区においては 50.0% と低い数値になっている一方で、八基地区においては 77.3% と高い数値になっています。地域によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計はすべての地区で 7 割以上と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少ないことがうかがえます。

(2) 子育て・保健・福祉について

① 子育てについて (2. 問1~3)

地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例: ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)



「参加していない」と回答した人の割合が 64.1%と最も多く、次いで、「参加している」と回答した人の割合が 13.2%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が 10.1%、「あまり参加していない」と回答した人の割合は 8.4%となっています。

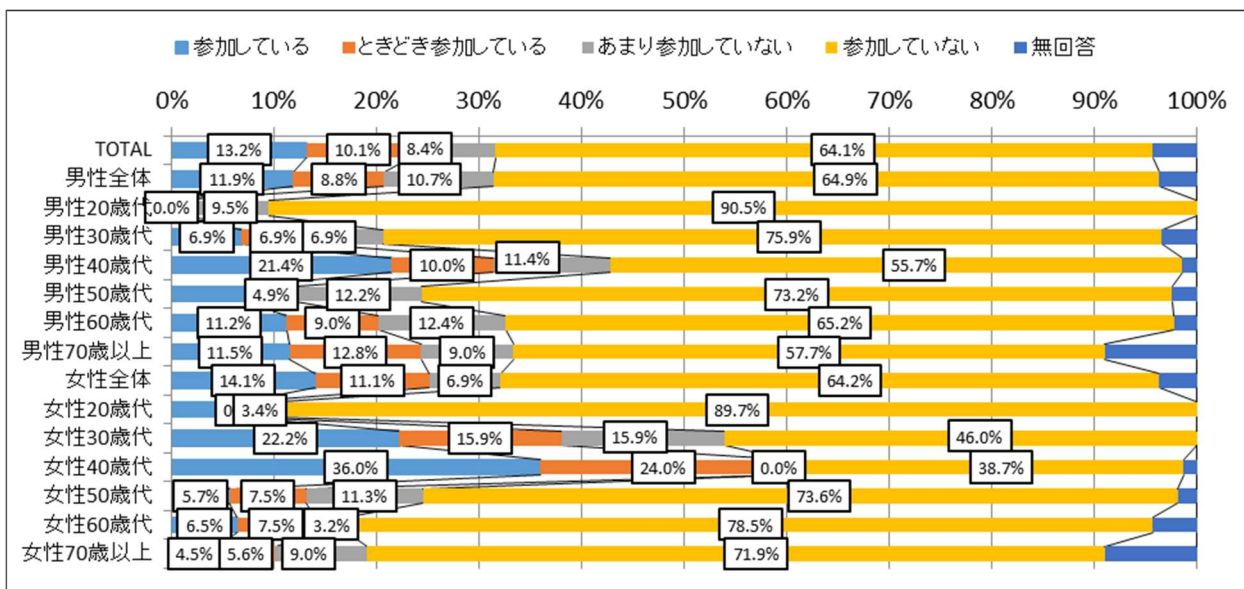
「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 23.3%であり、活動に参加している市民は 3 割にも満たない状況です。

また、前年度アンケートの結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 24%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。「参加していない」の割合が前年度に比べ、5.8%増加という結果となっています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	765	13.2%	10.1%	8.4%	64.1%	4.3%	100.0%
男性全体	328	11.9%	8.8%	10.7%	64.9%	3.7%	100.0%
男性 20 歳代	21	0.0%	0.0%	9.5%	90.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	6.9%	6.9%	75.9%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	21.4%	10.0%	11.4%	55.7%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	7.3%	4.9%	12.2%	73.2%	2.4%	100.0%
男性 60 歳代	89	11.2%	9.0%	12.4%	65.2%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	11.5%	12.8%	9.0%	57.7%	9.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	14.1%	11.1%	6.9%	64.2%	3.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	0.0%	3.4%	89.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	22.2%	15.9%	15.9%	46.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	36.0%	24.0%	0.0%	38.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	5.7%	7.5%	11.3%	73.6%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	6.5%	7.5%	3.2%	78.5%	4.3%	100.0%
女性 70 歳以上	89	4.5%	5.6%	9.0%	71.9%	9.0%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	12.4%	6.5%	3.8%	73.0%	4.3%	100.0%
藤沢地区	50	18.0%	8.0%	10.0%	60.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	15.1%	13.7%	11.0%	54.8%	5.5%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	14.8%	7.4%	48.1%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	8.7%	4.3%	13.0%	65.2%	8.7%	100.0%
八基地区	22	4.5%	9.1%	4.5%	81.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	0.0%	10.0%	65.0%	10.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	12.6%	4.6%	69.0%	2.3%	100.0%
南地区	52	11.5%	25.0%	7.7%	53.8%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	12.6%	11.5%	19.5%	55.2%	1.1%	100.0%
川本地区	50	14.0%	8.0%	4.0%	68.0%	6.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	5.7%	12.9%	62.9%	2.9%	100.0%
無回答	19	10.5%	10.5%	0.0%	63.2%	15.8%	100.0%



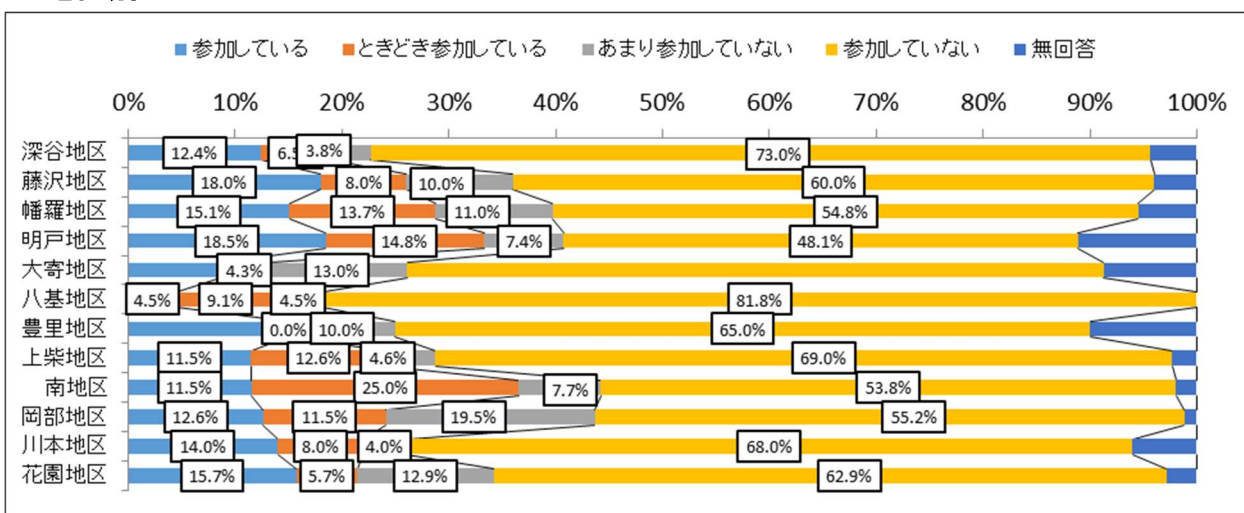
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は、男性が 20.7%であるのに対して、女性は 25.2%となっています。このことから、男性に比べて女性の活動への参加率が高いことがわかります。

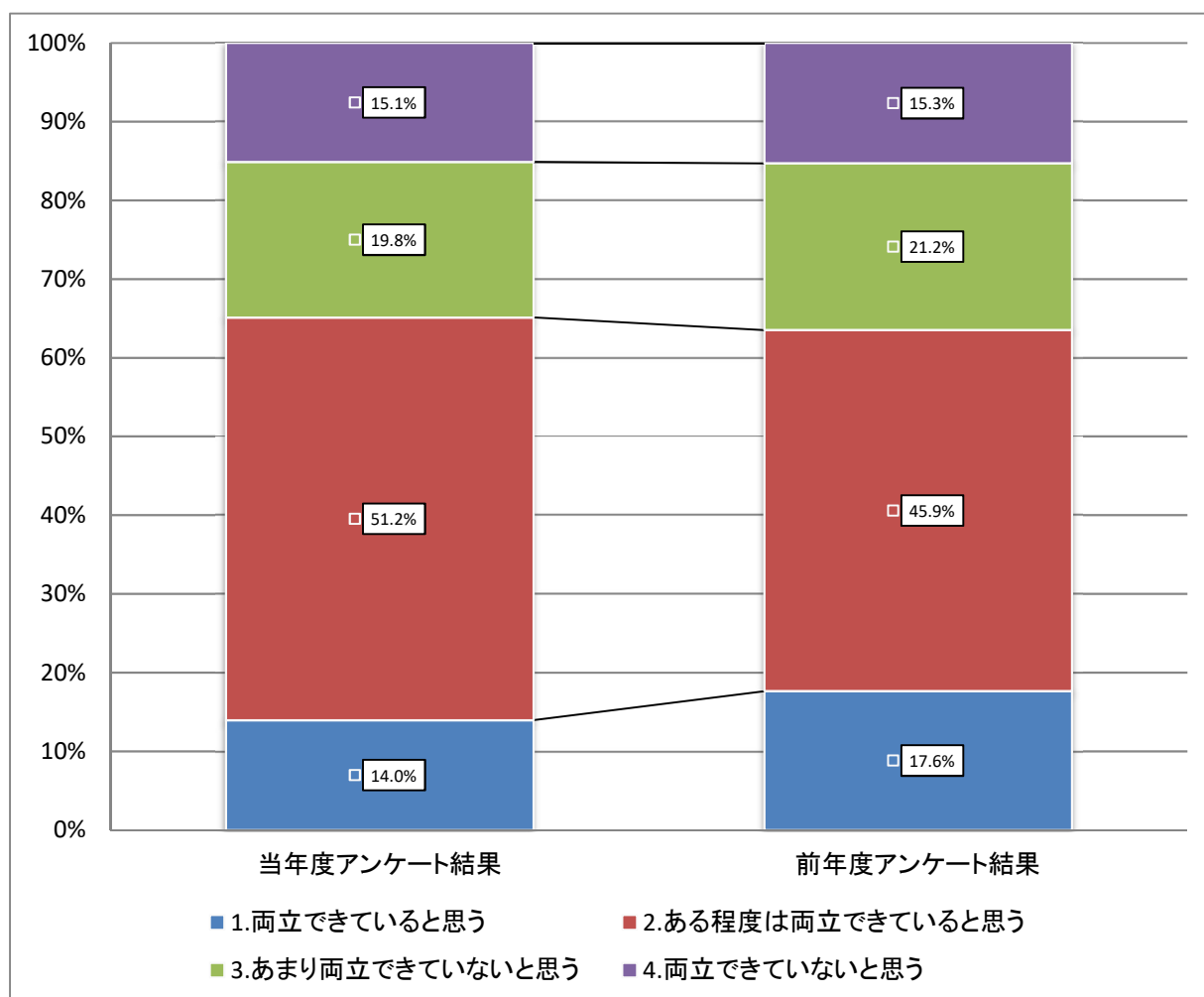
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに 20 歳代（男性 0.0%、女性 6.9%）でした。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに 40 歳代（男性 31.4%、女性 60.0%）となっています。性別・世代によって、大きな差があることがうかがえます。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（13.0%）であり、次いで八基地区（13.6%）となっています。最も多い地区は、南地区（36.5%）であり、次いで明戸地区（33.3%）となっています。地域によっても、比較的差があることがうかがえます。

小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。  
 仕事と子育てを両立できていると思いますか。



「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が51.2%と最も多く、次いで、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合が19.8%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合は15.1%、「両立できていると思う」と回答した人の割合が最も少なく14.0%となっています。

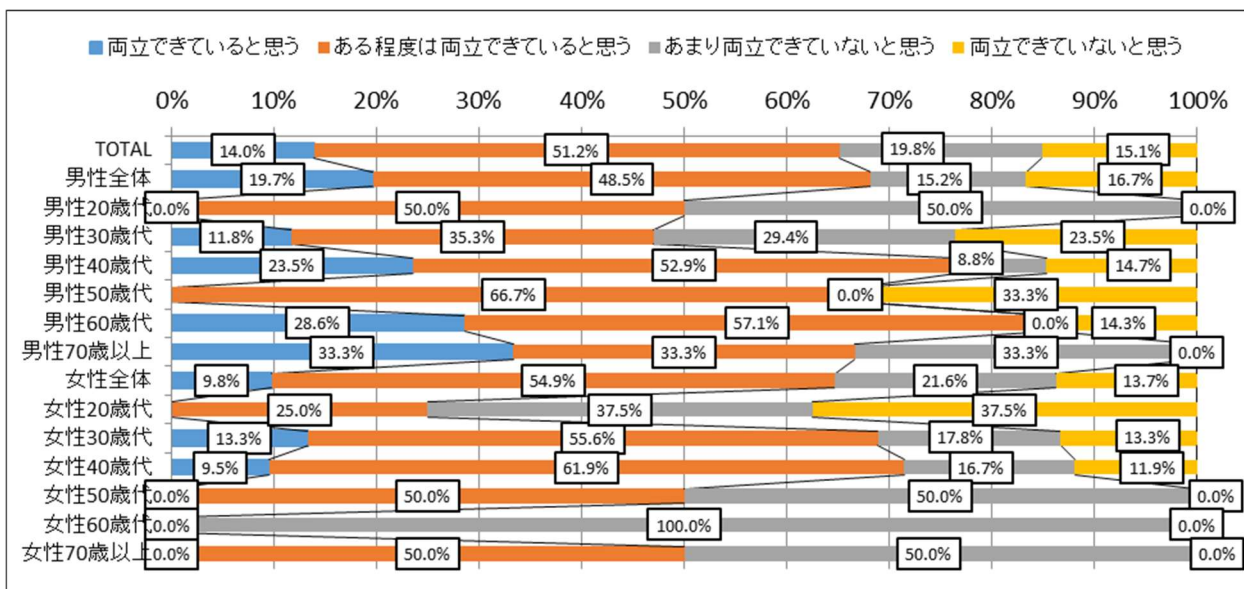
「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は65.1%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち、6割以上は、仕事と子育ての両立ができていると回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は63.5%であり、前年度アンケートと比較して、若干の増加となっています。



母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	172	14.0%	51.2%	19.8%	15.1%	0.0%	100.0%
男性全体	66	19.7%	48.5%	15.2%	16.7%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	17	11.8%	35.3%	29.4%	23.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	34	23.5%	52.9%	8.8%	14.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	7	28.6%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	102	9.8%	54.9%	21.6%	13.7%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	8	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	45	13.3%	55.6%	17.8%	13.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	42	9.5%	61.9%	16.7%	11.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	49	8.2%	51.0%	18.4%	22.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	13	0.0%	69.2%	23.1%	7.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	18	22.2%	38.9%	33.3%	5.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	19	10.5%	57.9%	15.8%	15.8%	0.0%	100.0%
南地区	11	9.1%	54.5%	9.1%	27.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	21	23.8%	52.4%	14.3%	9.5%	0.0%	100.0%
川本地区	11	18.2%	45.5%	9.1%	27.3%	0.0%	100.0%
花園地区	17	17.6%	52.9%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

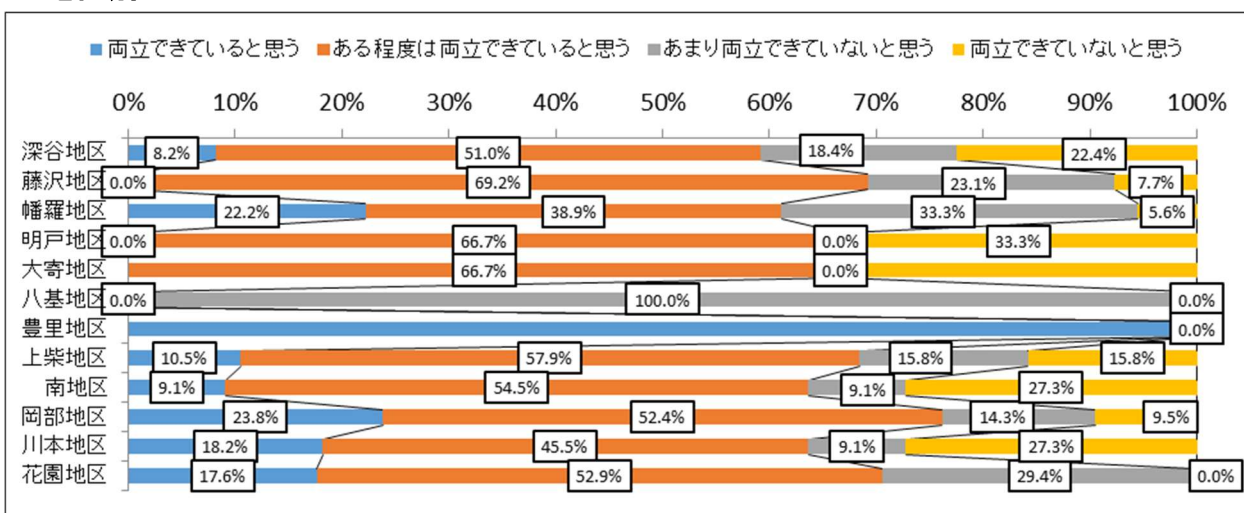


「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性は68.2%、女性は64.7%となっています。

30歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が47.1%であるのに対し、女性は68.9%となっています。

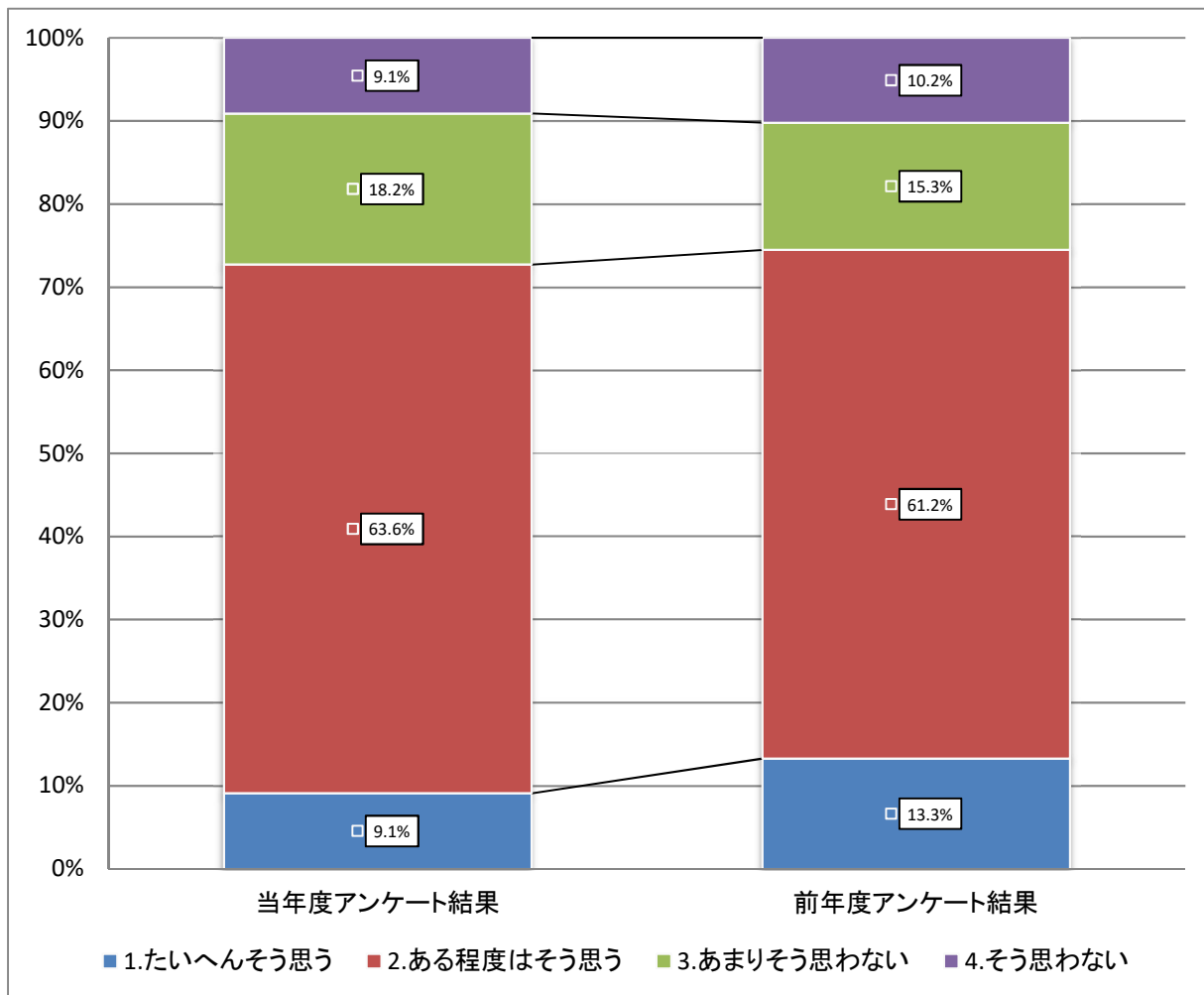
40歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が76.5%であるのに対し、女性は71.4%と、30歳代よりも両立できていると回答している人の割合が高くなっています。

➤ 地区別



地区別にみると、20人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区（59.2%）であり、最も多い地区は、岡部地区（76.2%）となっています。

中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。  
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



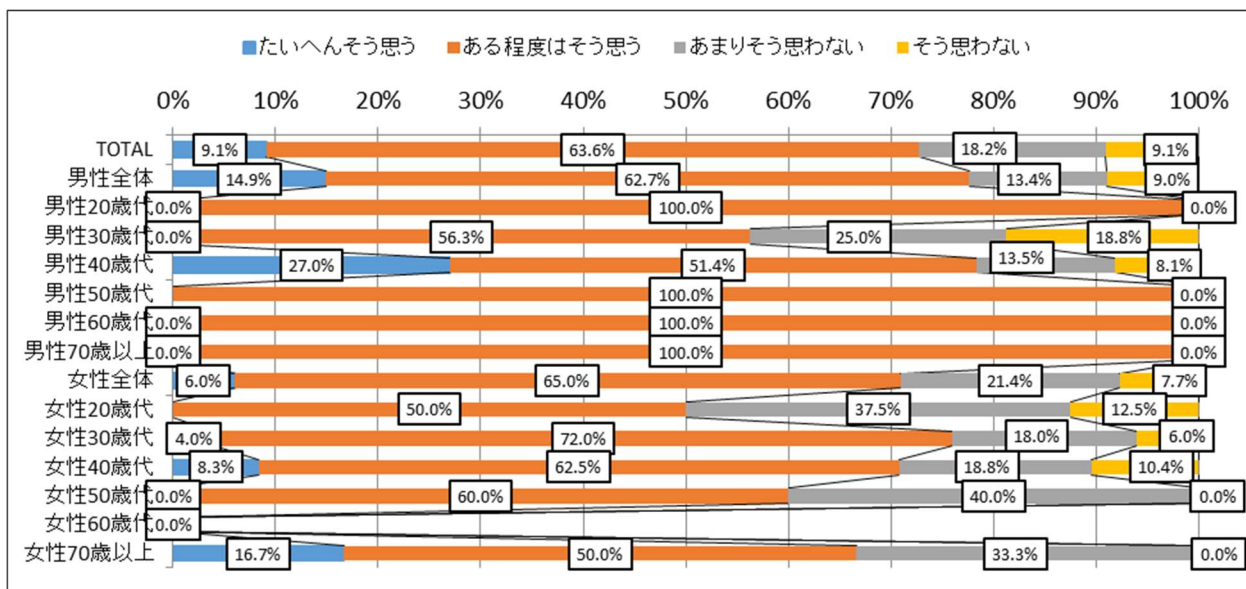
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 63.6%と最も多く、次いで、「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 18.2%、「たいへんそう思う」「そう思わない」と回答した人の割合はどちらも 9.1%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 72.7%であり、中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち7割以上が子育てのしやすいまちだと回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 74.5%であり、前年度アンケートと比較して、若干の減少となっています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度は そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	187	9.1%	63.6%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%
男性全体	67	14.9%	62.7%	13.4%	9.0%	0.0%	14.9%
男性20歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性30歳代	16	0.0%	56.3%	25.0%	18.8%	0.0%	0.0%
男性40歳代	37	27.0%	51.4%	13.5%	8.1%	0.0%	27.0%
男性50歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性60歳代	6	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性70歳以上	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	117	6.0%	65.0%	21.4%	7.7%	0.0%	6.0%
女性20歳代	8	0.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%
女性30歳代	50	4.0%	72.0%	18.0%	6.0%	0.0%	4.0%
女性40歳代	48	8.3%	62.5%	18.8%	10.4%	0.0%	8.3%
女性50歳代	5	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性60歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性70歳以上	6	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	52	0.0%	59.6%	25.0%	15.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	13	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	18	27.8%	44.4%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	0	—	—	—	—	—	—
豊里地区	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	20	10.0%	70.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100.0%
南地区	17	11.8%	70.6%	11.8%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	26	15.4%	69.2%	15.4%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	12	16.7%	50.0%	25.0%	8.3%	0.0%	100.0%
花園地区	17	0.0%	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%	100.0%
無回答	4	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%

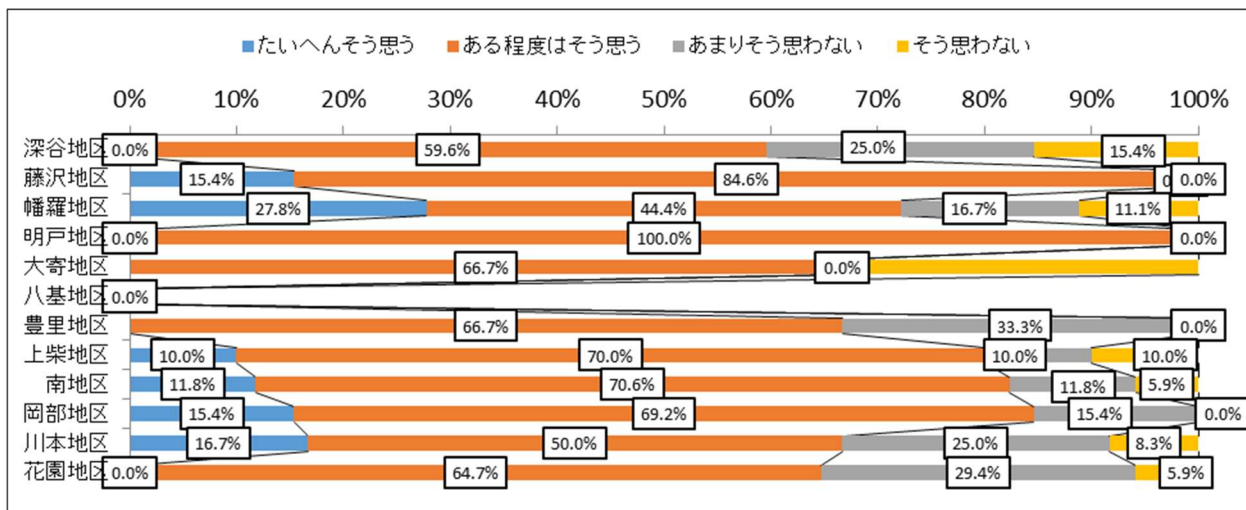
➤ 性別・世代別



「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性は77.6%、女性は70.9%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が56.3%であるのに対し、女性は76.0%と男女によって意識に差がみられます。40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が78.4%であるのに対し、女性は70.8%となっています。

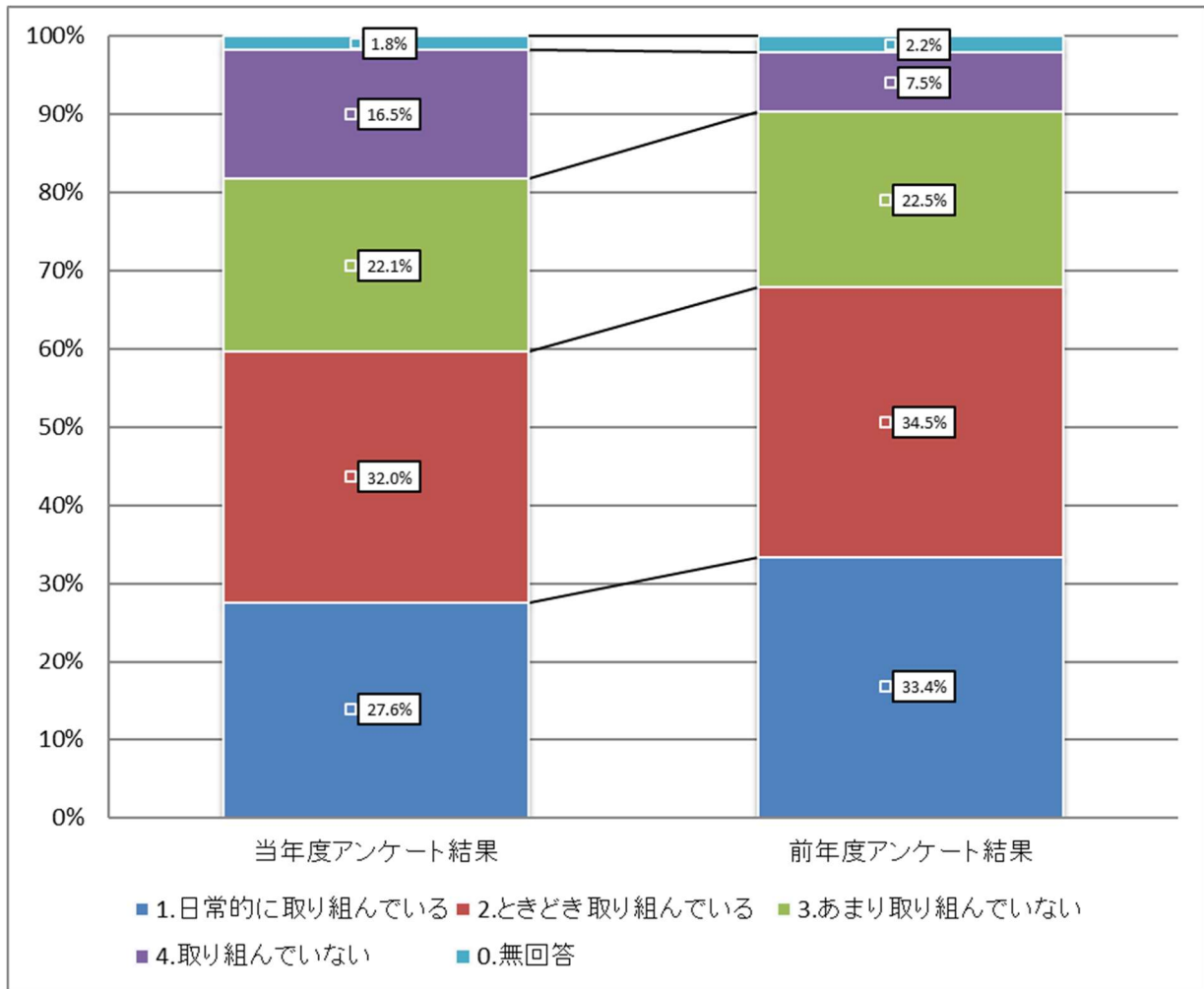
➤ 地区別



地区別にみると、20人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区（59.6%）であり、最も多い地区は、岡部地区（84.6%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 32.0%と最も多く、次いで、「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合は 27.6%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合は 22.1%、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 16.5%となっています。

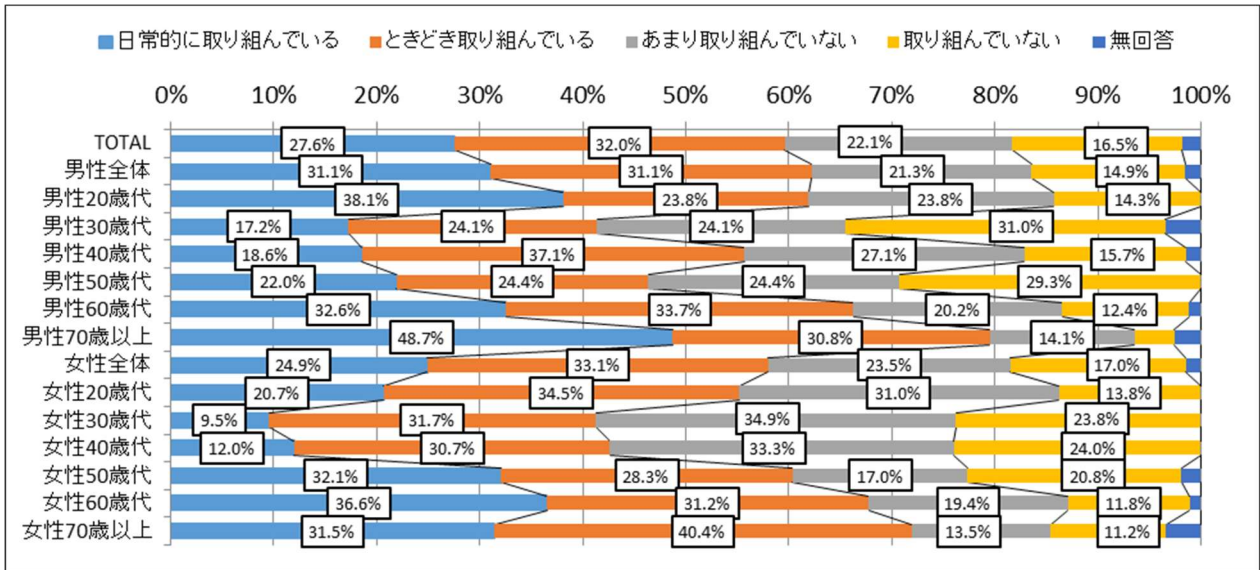
「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、59.6%であり、過半数の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果をみると「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は 67.8%であり、普段の生活で健康づくりに取り組んでいる人の割合は、「前年度アンケート」と比較して 8.2 ポイント減少していることがうかがえます。



母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	765	27.6%	32.0%	22.1%	16.5%	1.8%	100.0%
男性全体	328	31.1%	31.1%	21.3%	14.9%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	23.8%	23.8%	14.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	24.1%	24.1%	31.0%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	18.6%	37.1%	27.1%	15.7%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	22.0%	24.4%	24.4%	29.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	32.6%	33.7%	20.2%	12.4%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	48.7%	30.8%	14.1%	3.8%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	24.9%	33.1%	23.5%	17.0%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	34.5%	31.0%	13.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	9.5%	31.7%	34.9%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	12.0%	30.7%	33.3%	24.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	32.1%	28.3%	17.0%	20.8%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	36.6%	31.2%	19.4%	11.8%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	31.5%	40.4%	13.5%	11.2%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	26.5%	29.7%	21.6%	20.5%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	26.0%	22.0%	32.0%	16.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	30.1%	37.0%	21.9%	11.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	29.6%	33.3%	7.4%	22.2%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	30.4%	30.4%	13.0%	26.1%	0.0%	100.0%
八基地区	22	45.5%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	20.0%	25.0%	15.0%	35.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	28.7%	34.5%	24.1%	11.5%	1.1%	100.0%
南地区	52	26.9%	34.6%	21.2%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	29.9%	33.3%	24.1%	12.6%	0.0%	100.0%
川本地区	50	22.0%	42.0%	18.0%	16.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	25.7%	31.4%	28.6%	12.9%	1.4%	100.0%
無回答	19	21.1%	36.8%	15.8%	10.5%	15.8%	100.0%

➤ 性別・世代別

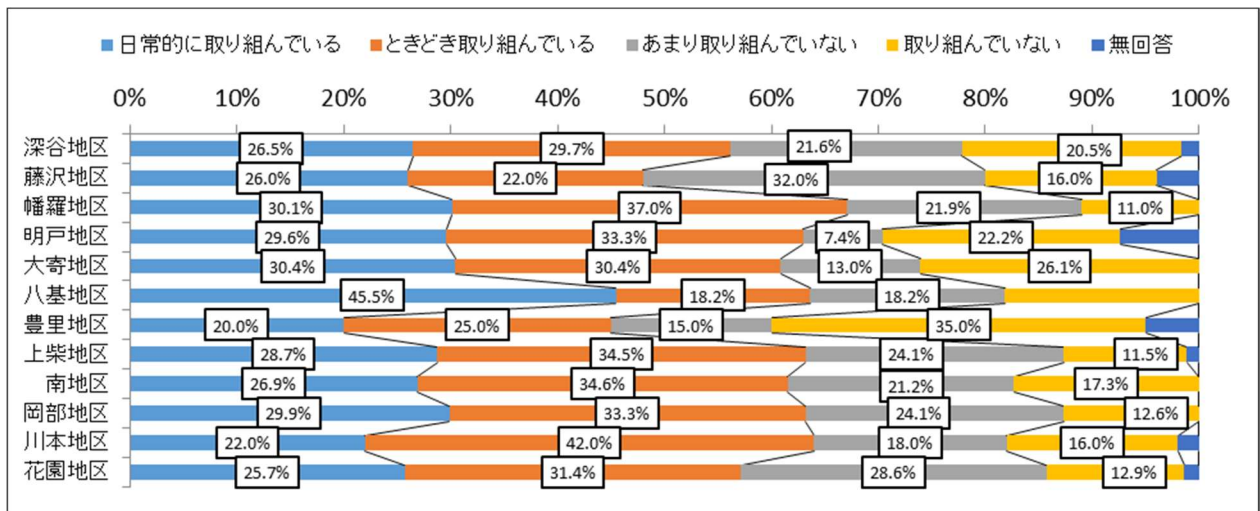


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は男性が62.2%であるのに対して、女性は58.0%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性41.4%、女性41.3%）であることがわかります。一方で、最も多い世代は男女ともに70歳代以上（男性79.5%、女性71.9%）となっています。

最も少ない世代の回答割合と最も多い世代の回答割合との差は、男性が38.1%、女性は30.6%であり、男女共に世代間での差が大きいことがうかがえます。

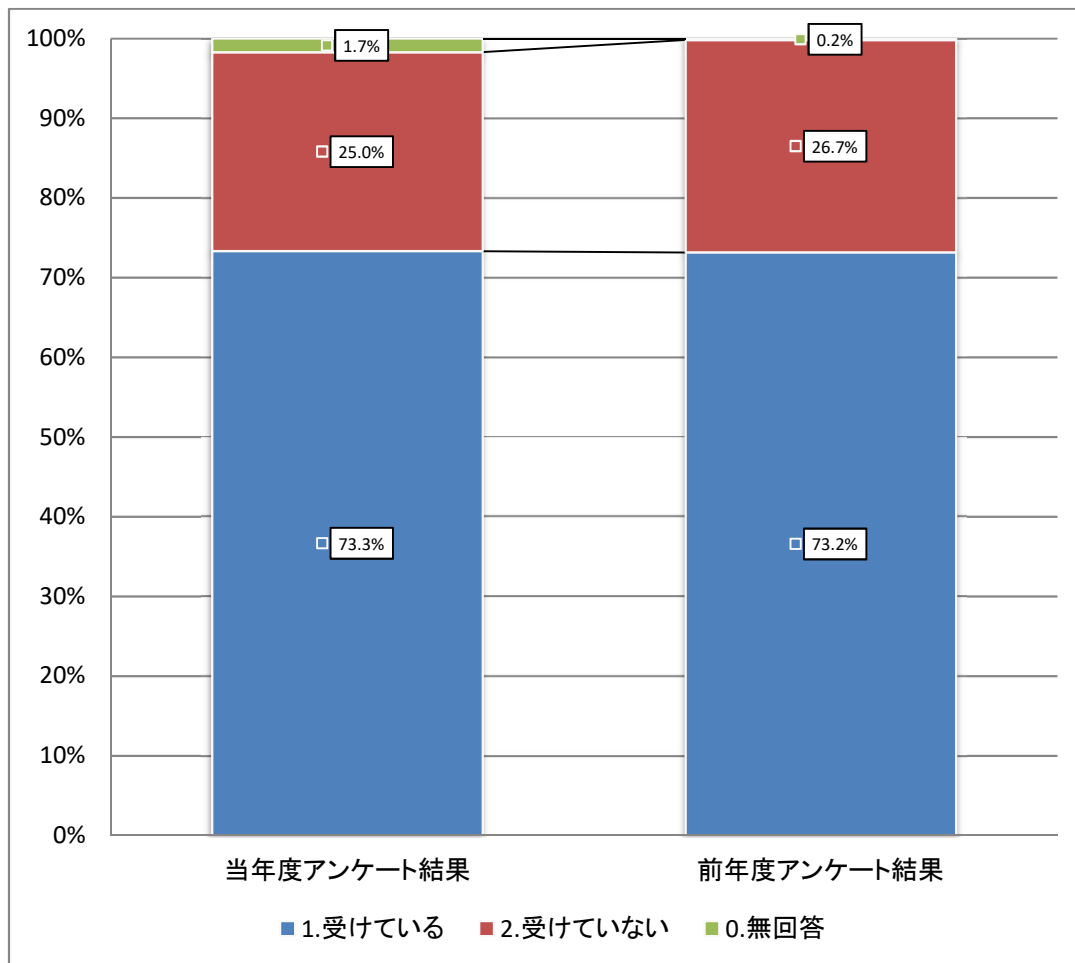
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区（45.0%）であり、次いで藤沢地区（48.0%）となっています。最も多い地区は、幡羅地区（67.1%）であり、次いで川本地区（64.0%）となっています。



定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



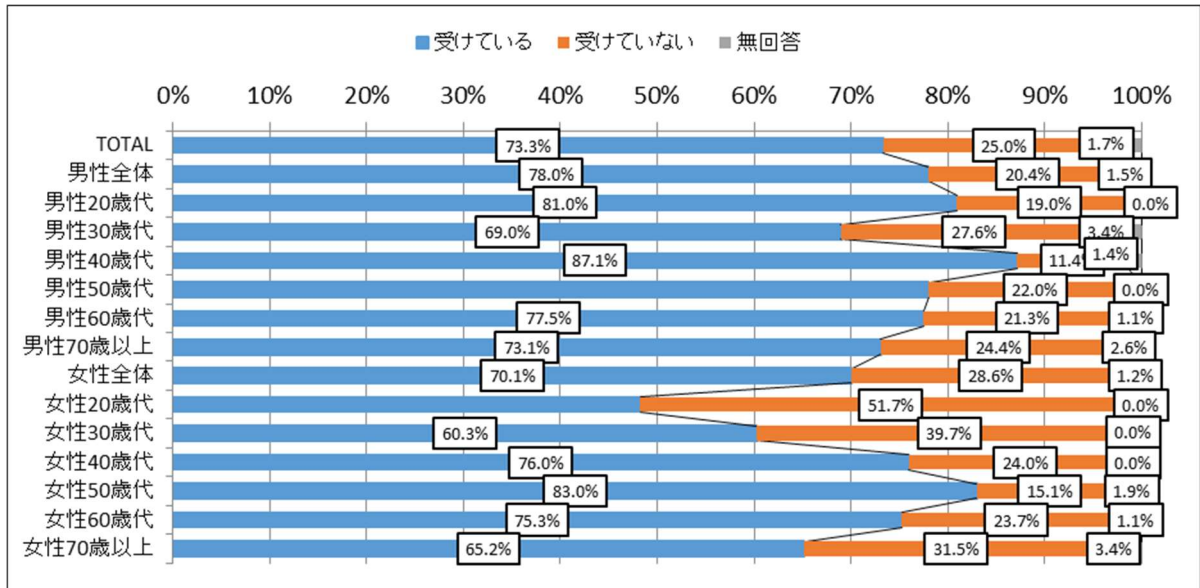
「受けている」と回答した人の割合は 73.3%、「受けていない」と回答した人の割合は 25.0%となっています。

市民の7割以上が、定期的に健康診断や人間ドック、がん検診を受けていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「受けている」と回答した人の割合は 73.2%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	765	73.3%	25.0%	1.7%	100.0%
男性全体	328	78.0%	20.4%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	69.0%	27.6%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	87.1%	11.4%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	78.0%	22.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	77.5%	21.3%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	73.1%	24.4%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	70.1%	28.6%	1.2%	100.0%
女性 20 歳代	29	48.3%	51.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	60.3%	39.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	76.0%	24.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	83.0%	15.1%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	75.3%	23.7%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	65.2%	31.5%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	67.0%	31.4%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	72.0%	24.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	82.2%	17.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	66.7%	25.9%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	65.2%	34.8%	0.0%	100.0%
八基地区	22	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	70.0%	25.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	77.0%	21.8%	1.1%	100.0%
南地区	52	78.8%	21.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	73.6%	26.4%	0.0%	100.0%
川本地区	50	66.0%	32.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
無回答	19	78.9%	5.3%	15.8%	100.0%

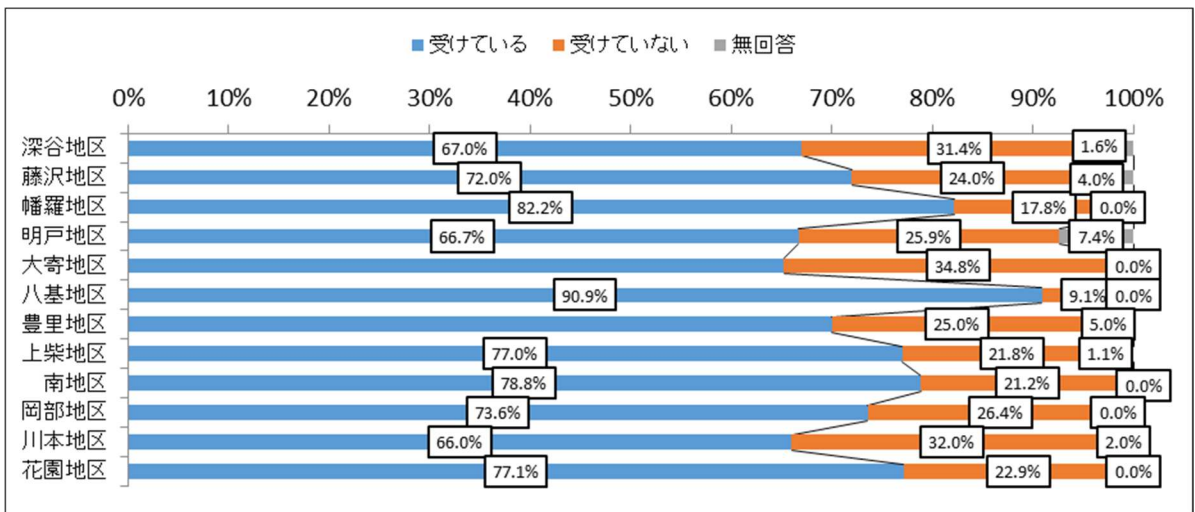
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は男性が 78.0%であるのに対して、女性は 70.1%と 7.9 ポイントの差がみられます。

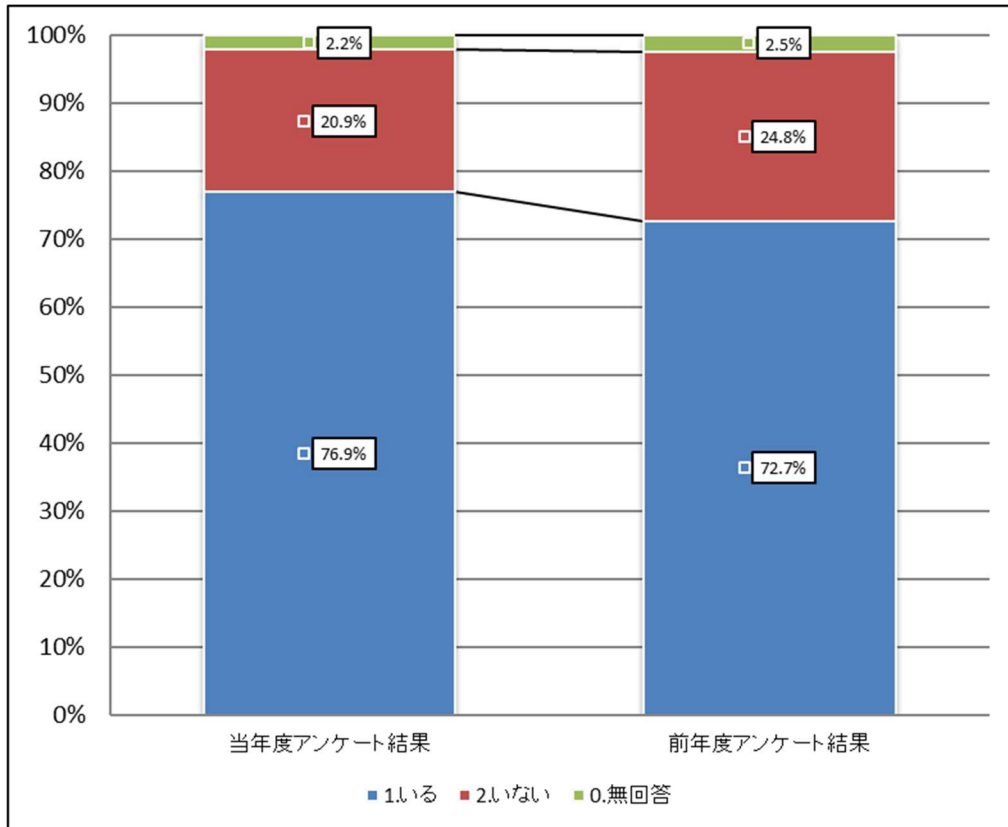
「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 30 歳代 (69.0%)、女性は 20 歳代 (48.3%) となっています。一方で、最も多い世代は、男性は 40 歳代 (87.1%)、女性は 50 歳代 (83.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区 (65.2%) であり、次いで川本地区 (66.0%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (90.9%) であり、次いで幡羅地区 (82.2%) となっています。

## かかりつけのお医者さんはいますか。

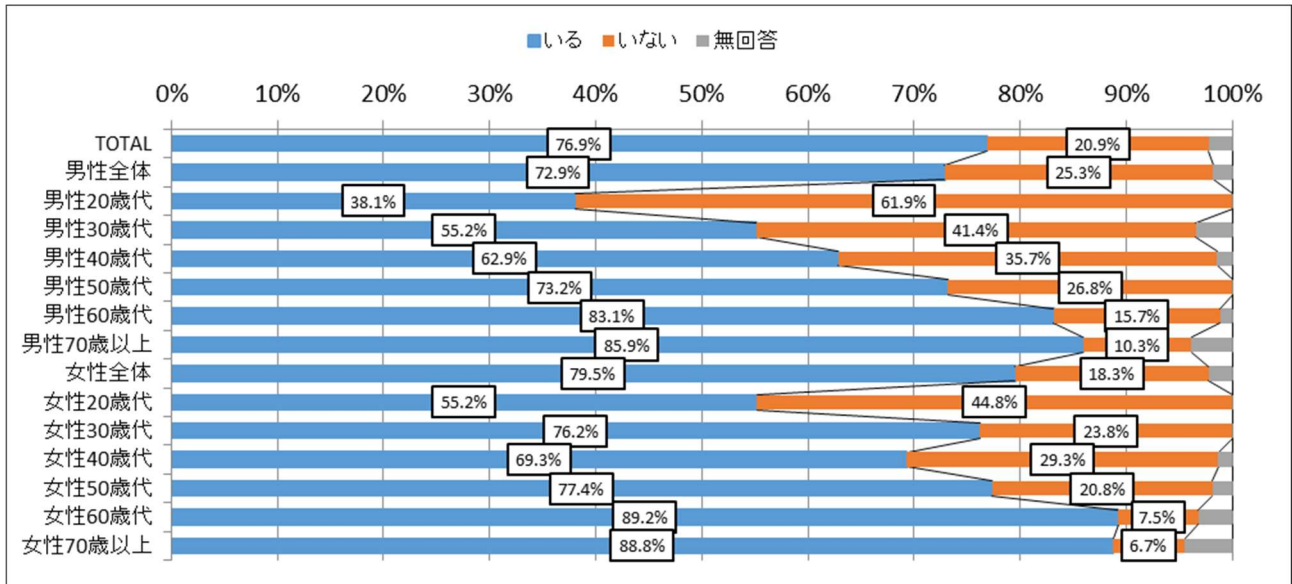


「いる」と回答した人の割合は76.9%、「いない」と回答した人の割合は20.9%であり、大多数の市民にかかりつけ医がいる一方、約5人に1人はかかりつけ医がないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合が72.7%、「いない」と回答した人の割合が24.8%であり、「前年度アンケート」と比較して、かかりつけ医がいると回答した人の割合が4.2ポイント増加していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	765	76.9%	20.9%	2.2%	100.0%
男性全体	328	72.9%	25.3%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	61.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	55.2%	41.4%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	62.9%	35.7%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	73.2%	26.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	83.1%	15.7%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	85.9%	10.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	79.5%	18.3%	2.2%	100.0%
女性 20 歳代	29	55.2%	44.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	76.2%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	69.3%	29.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	77.4%	20.8%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	89.2%	7.5%	3.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	88.8%	6.7%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	72.4%	24.9%	2.7%	100.0%
藤沢地区	50	72.0%	24.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	78.1%	20.5%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	70.4%	22.2%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	78.3%	17.4%	4.3%	100.0%
八基地区	22	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	75.0%	20.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	75.9%	24.1%	0.0%	100.0%
南地区	52	88.5%	11.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	83.9%	14.9%	1.1%	100.0%
川本地区	50	80.0%	16.0%	4.0%	100.0%
花園地区	70	72.9%	27.1%	0.0%	100.0%
無回答	19	68.4%	21.1%	10.5%	100.0%

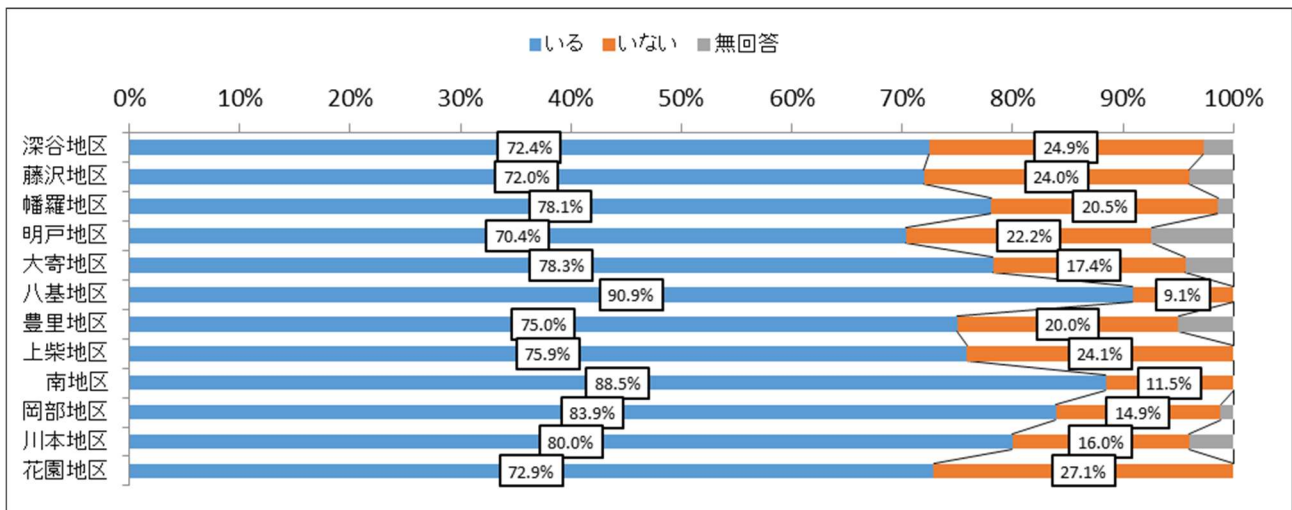
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が72.9%であるのに対して、女性は79.5%と6.6ポイントの差がみられました。

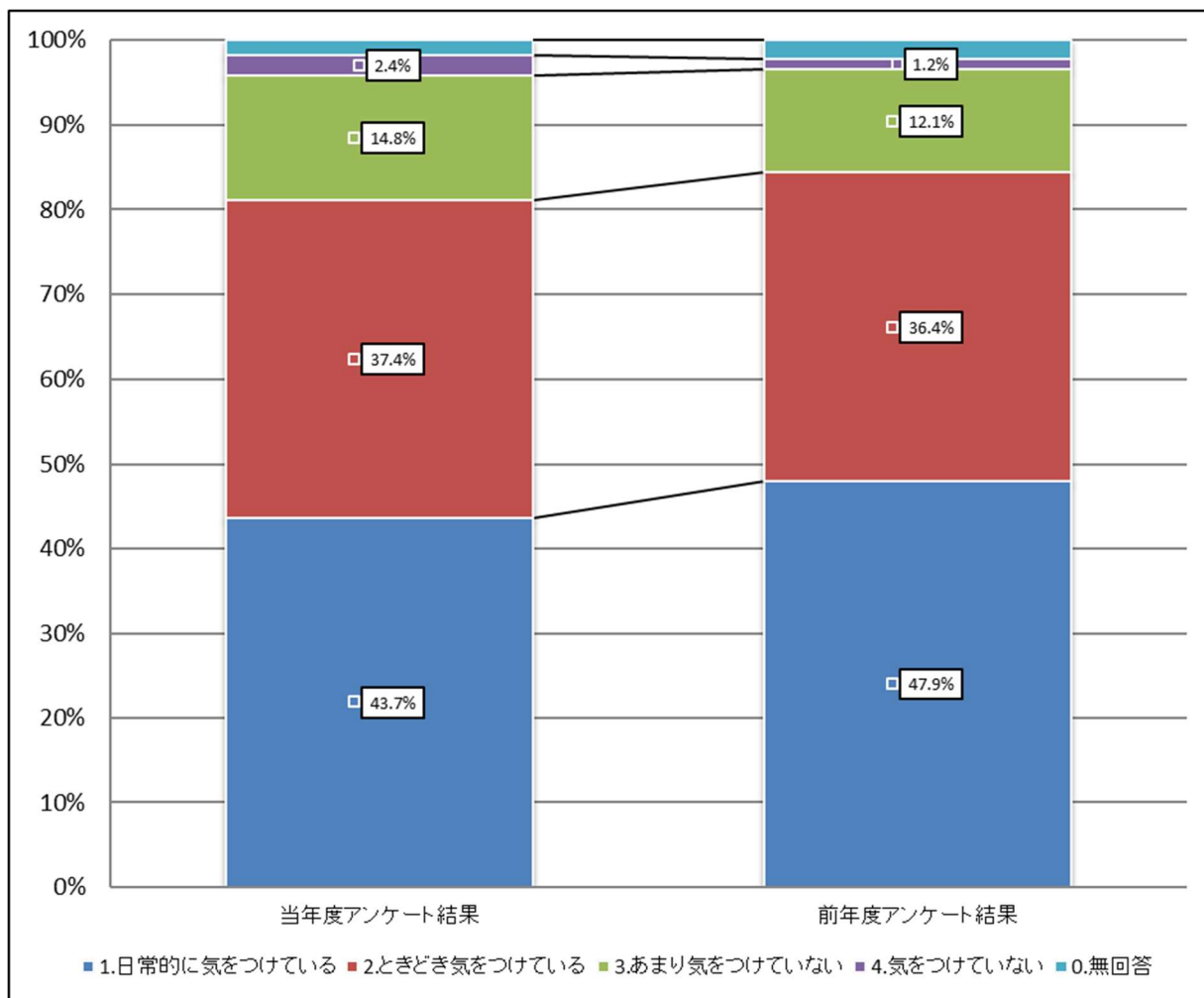
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代(男性38.1%、女性55.2%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は70歳以上(85.9%)、女性は60歳代(89.2%)であり、大多数の人にかかりつけ医がいることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区(70.4%)であり、次いで藤沢地区(72.0%)となっています。最も多い地区は、八基地区(90.9%)であり、次いで南地区(88.5%)となっています。

## 健康的な食生活に気をつけていますか。



「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 43.7%と最も多く、次いで、「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 37.4%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合は 14.8%、「気をつけていない」と回答した人の割合は 2.4%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、81.0%であり、8割以上の市民が、健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

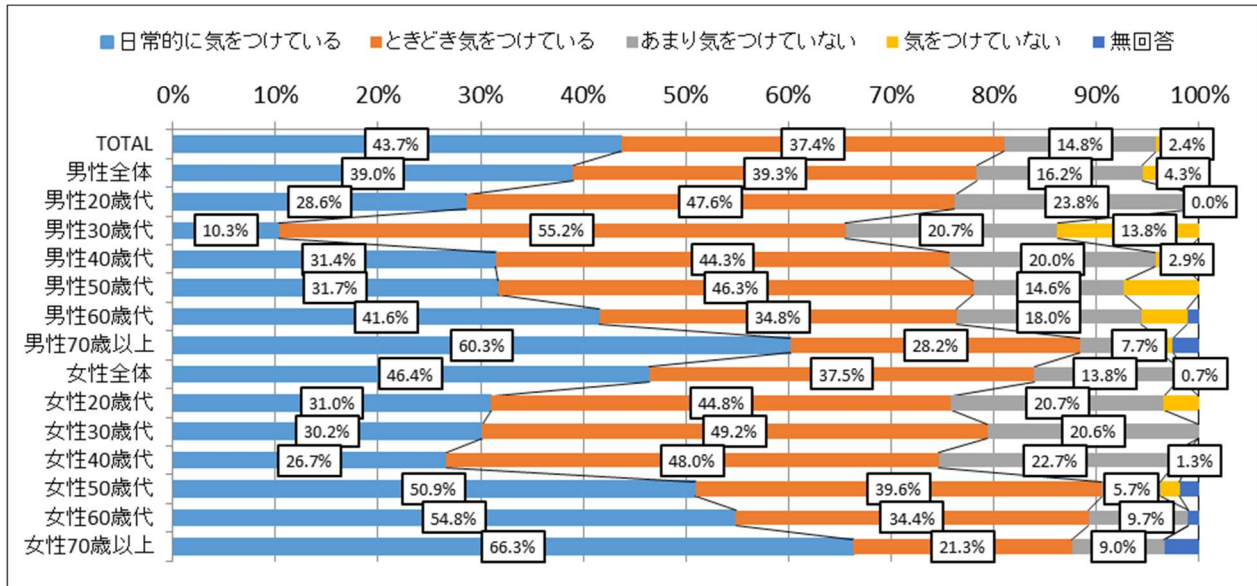
また、「前年度アンケート」の結果では、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 84.3%であることから、健康的な食生活に気をつけている人の割合は、前年度アンケート時から大きく変動していないことがうかがえます。



母集団		日常的に気をつけている	ときどき気をつけている	あまり気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	765	43.7%	37.4%	14.8%	2.4%	1.8%	100.0%
男性全体	328	39.0%	39.3%	16.2%	4.3%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	28.6%	47.6%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	10.3%	55.2%	20.7%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	31.4%	44.3%	20.0%	2.9%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	31.7%	46.3%	14.6%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	41.6%	34.8%	18.0%	4.5%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	60.3%	28.2%	7.7%	1.3%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	46.4%	37.5%	13.8%	0.7%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	31.0%	44.8%	20.7%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	30.2%	49.2%	20.6%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	26.7%	48.0%	22.7%	1.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	50.9%	39.6%	5.7%	1.9%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	54.8%	34.4%	9.7%	0.0%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	66.3%	21.3%	9.0%	0.0%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	43.2%	34.6%	17.3%	3.2%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	46.0%	40.0%	8.0%	2.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	46.6%	37.0%	13.7%	1.4%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	25.9%	51.9%	7.4%	7.4%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	43.5%	30.4%	26.1%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	25.0%	50.0%	5.0%	15.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	44.8%	32.2%	23.0%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	52	50.0%	38.5%	9.6%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	49.4%	37.9%	12.6%	0.0%	0.0%	100.0%
川本地区	50	44.0%	36.0%	12.0%	6.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	34.3%	47.1%	15.7%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	19	47.4%	21.1%	15.8%	0.0%	15.8%	100.0%



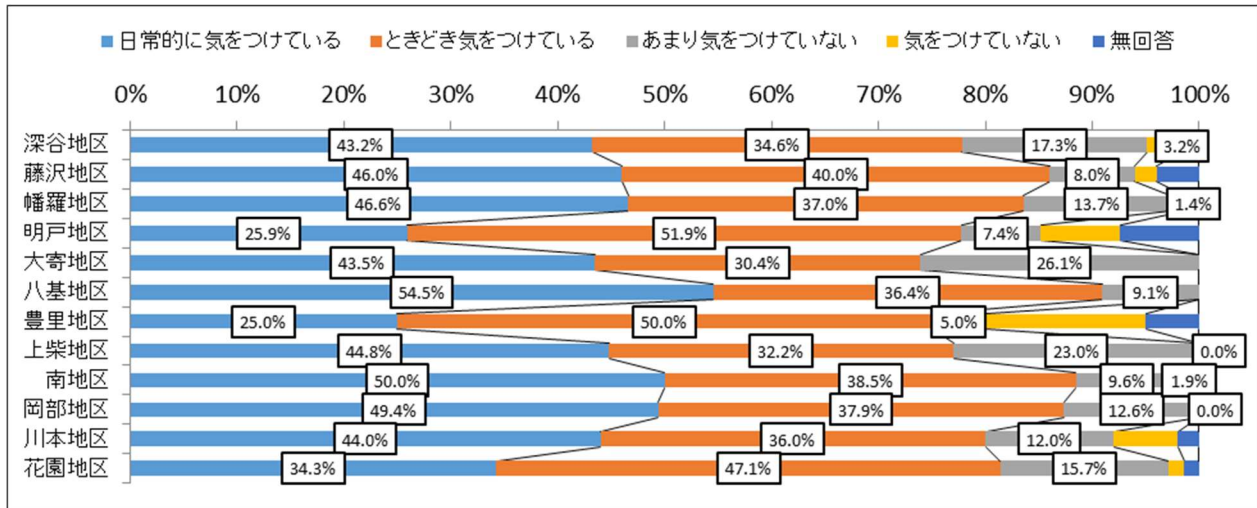
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は男性が 78.4%であるのに対して、女性は 84.0%と 5.6 ポイントの差がみられます。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性が 30 歳代(65.5%)であるのに対して、女性は 40 歳代(74.7%)であり、一方で最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (88.5%)、女性が 60 歳代 (89.2%) となっています。

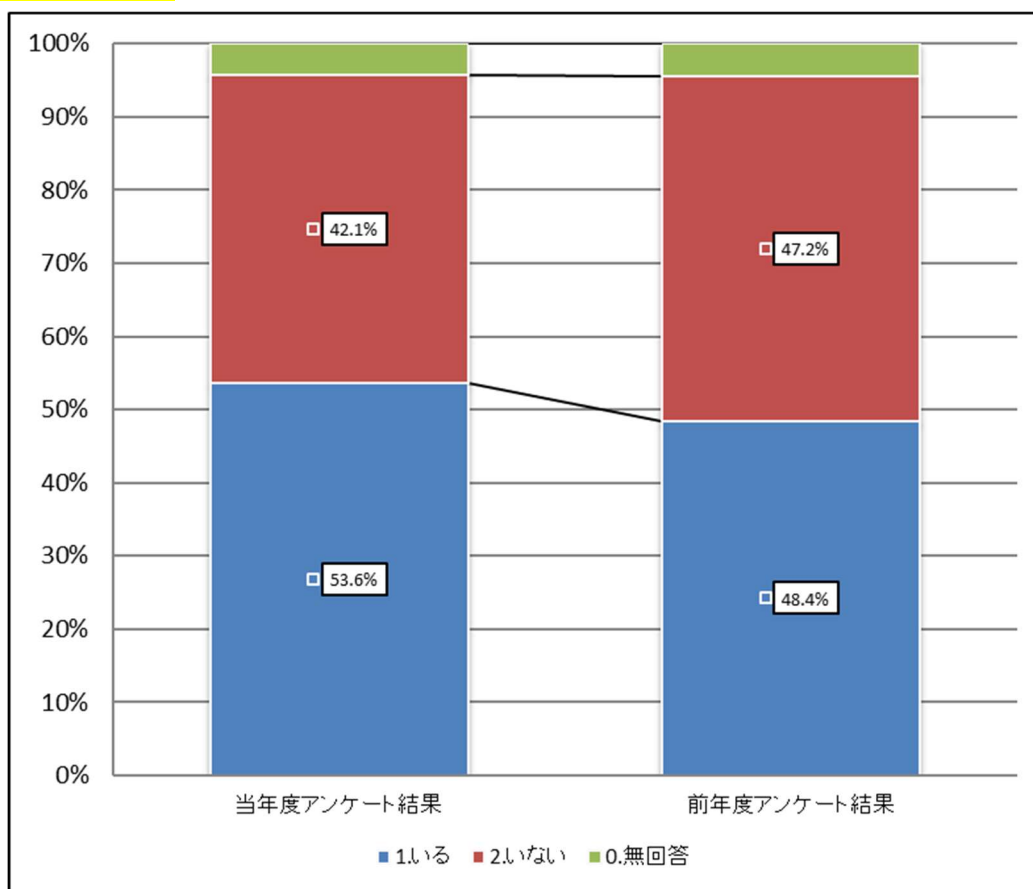
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区 (73.9%) であり、次いで豊里地区 (75.0%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (90.9%) であり、次いで南地区 (88.5%) となっています。

### ③ 福祉について（2. 問8）

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

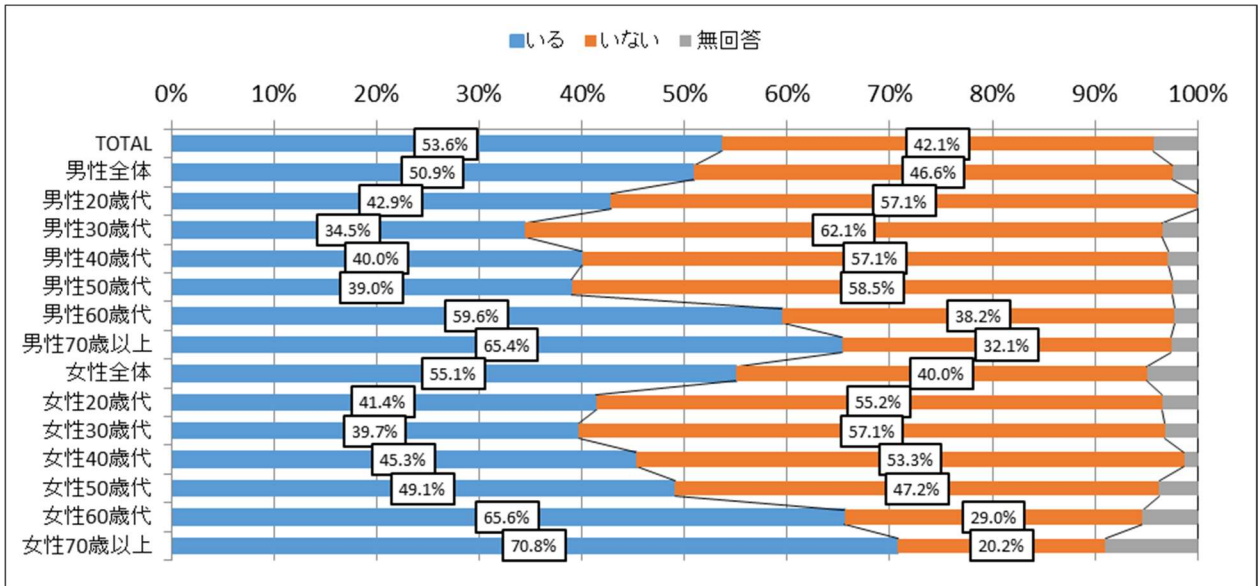


「いる」と回答した人の割合は53.6%、「いない」と回答した人の割合は42.1%となっており、日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいないと回答した人が4割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「いる」と回答した人の割合は48.4%、「いない」と回答した人の割合が47.2%でした。「前年度アンケート」と比較して、手助けしてくれる人がいると回答した人は5.1ポイント微増していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	765	53.6%	42.1%	4.3%	100.0%
男性全体	328	50.9%	46.6%	2.4%	100.0%
男性 20 歳代	21	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	34.5%	62.1%	3.4%	100.0%
男性 40 歳代	70	40.0%	57.1%	2.9%	100.0%
男性 50 歳代	41	39.0%	58.5%	2.4%	100.0%
男性 60 歳代	89	59.6%	38.2%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	65.4%	32.1%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	55.1%	40.0%	4.9%	100.0%
女性 20 歳代	29	41.4%	55.2%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	39.7%	57.1%	3.2%	100.0%
女性 40 歳代	75	45.3%	53.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	49.1%	47.2%	3.8%	100.0%
女性 60 歳代	93	65.6%	29.0%	5.4%	100.0%
女性 70 歳以上	89	70.8%	20.2%	9.0%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	42.2%	55.7%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	68.0%	28.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	54.8%	42.5%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	44.4%	33.3%	22.2%	100.0%
大寄地区	23	73.9%	26.1%	0.0%	100.0%
八基地区	22	95.5%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	70.0%	20.0%	10.0%	100.0%
上柴地区	87	43.7%	52.9%	3.4%	100.0%
南地区	52	57.7%	38.5%	3.8%	100.0%
岡部地区	87	55.2%	42.5%	2.3%	100.0%
川本地区	50	48.0%	44.0%	8.0%	100.0%
花園地区	70	67.1%	30.0%	2.9%	100.0%
無回答	19	36.8%	42.1%	21.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

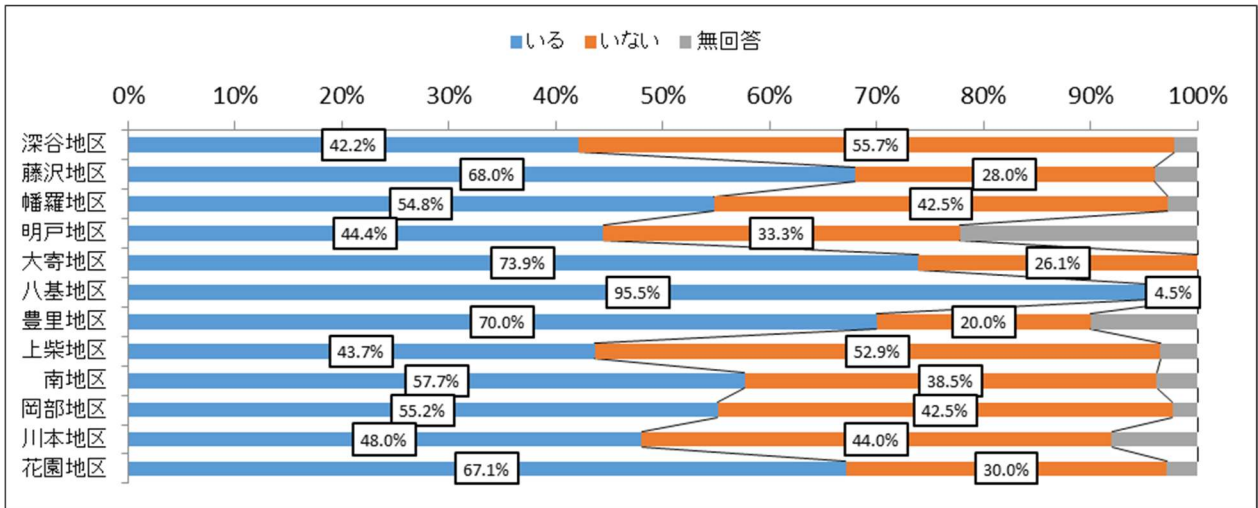


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が50.9%であるのに対して、女性は55.1%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代(男性34.5%、女性39.7%)となりました。一方で、最も割合の多い世代は、男女ともに70歳以上(男性65.4%、女性70.8%)となっています。

男女ともに60歳代以上から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が増加傾向にあることがわかります。

➤ 地区別

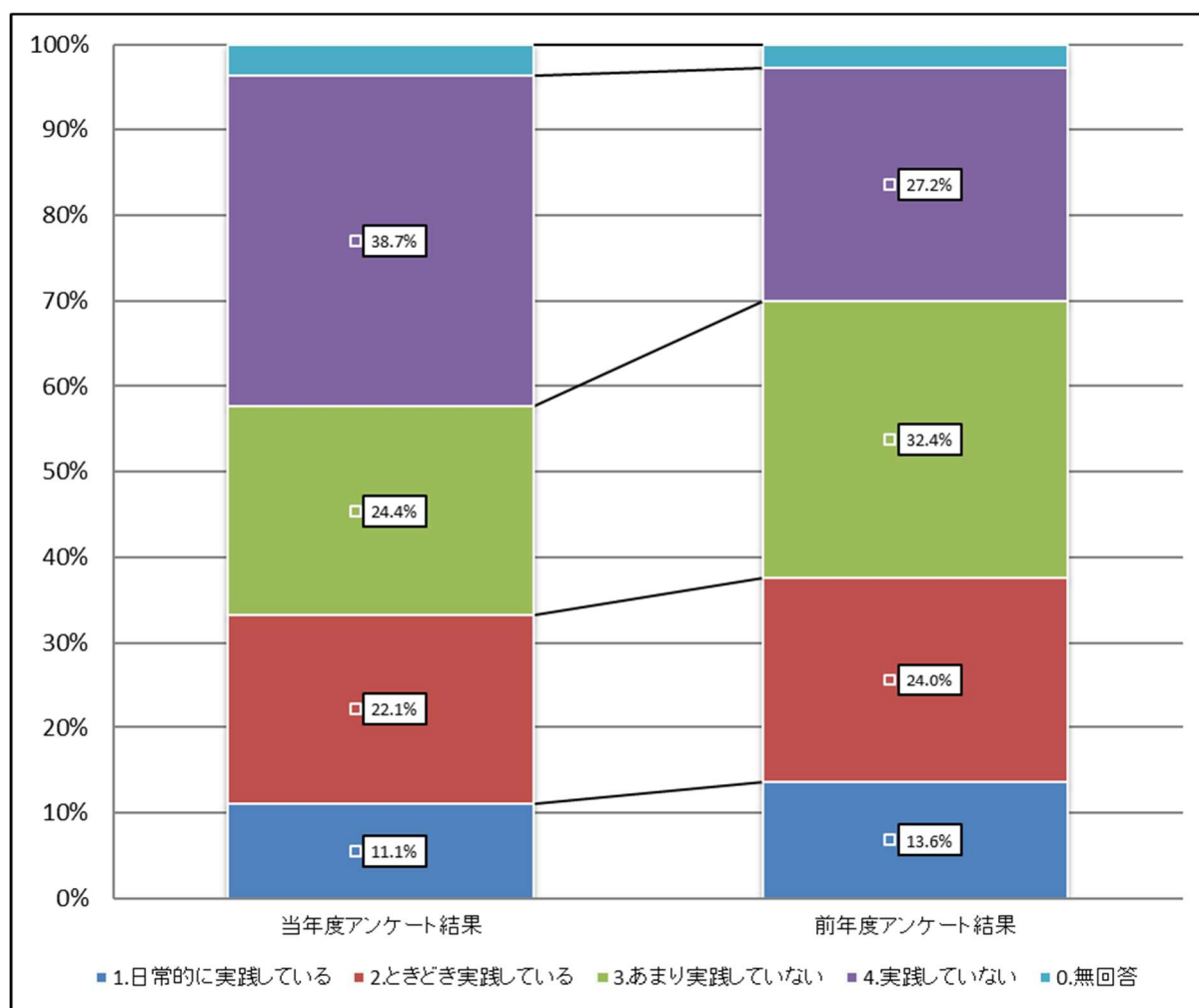


地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区(42.2%)であり、次いで上柴地区(43.7%)となっています。最も多い地区は、八基地区(95.5%)であり、次いで大寄地区(73.9%)となっています。

### (3) 教育・文化について

#### ① 生涯学習の振興（3. 問1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



「実践していない」と回答した人の割合が38.7%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が24.4%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が22.1%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく11.1%となっています。

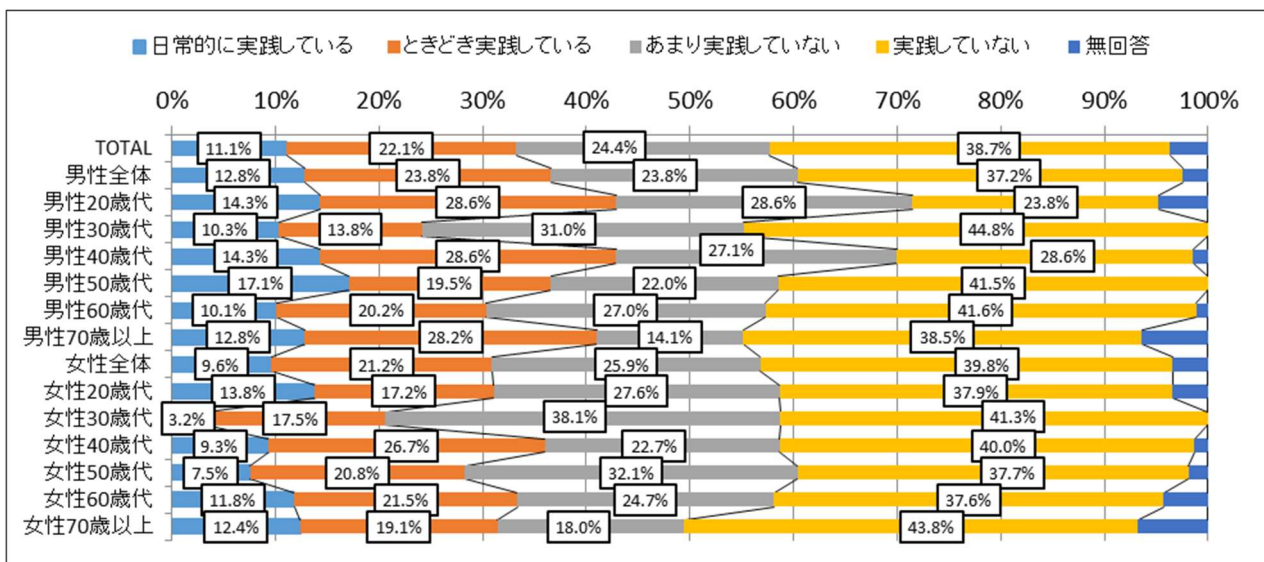
「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は、33.2%にとどまり、大多数の市民は生涯学習を実践していないということがうかがえます。

また、「前年度アンケート」では、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は37.6%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	765	11.1%	22.1%	24.4%	38.7%	3.7%	100.0%
男性全体	328	12.8%	23.8%	23.8%	37.2%	2.4%	100.0%
男性 20 歳代	21	14.3%	28.6%	28.6%	23.8%	4.8%	100.0%
男性 30 歳代	29	10.3%	13.8%	31.0%	44.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	14.3%	28.6%	27.1%	28.6%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	17.1%	19.5%	22.0%	41.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	10.1%	20.2%	27.0%	41.6%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	12.8%	28.2%	14.1%	38.5%	6.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	9.6%	21.2%	25.9%	39.8%	3.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	17.2%	27.6%	37.9%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	3.2%	17.5%	38.1%	41.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	26.7%	22.7%	40.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	7.5%	20.8%	32.1%	37.7%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	11.8%	21.5%	24.7%	37.6%	4.3%	100.0%
女性 70 歳以上	89	12.4%	19.1%	18.0%	43.8%	6.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	11.9%	20.5%	20.5%	43.2%	3.8%	100.0%
藤沢地区	50	10.0%	20.0%	22.0%	44.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	12.3%	28.8%	21.9%	30.1%	6.8%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	14.8%	14.8%	51.9%	14.8%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	26.1%	17.4%	39.1%	4.3%	100.0%
八基地区	22	9.1%	13.6%	36.4%	40.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	10.0%	15.0%	20.0%	45.0%	10.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	27.6%	27.6%	33.3%	0.0%	100.0%
南地区	52	9.6%	25.0%	19.2%	46.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	14.9%	23.0%	29.9%	29.9%	2.3%	100.0%
川本地区	50	6.0%	22.0%	30.0%	40.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	7.1%	18.6%	34.3%	38.6%	1.4%	100.0%
無回答	19	26.3%	15.8%	15.8%	26.3%	15.8%	100.0%



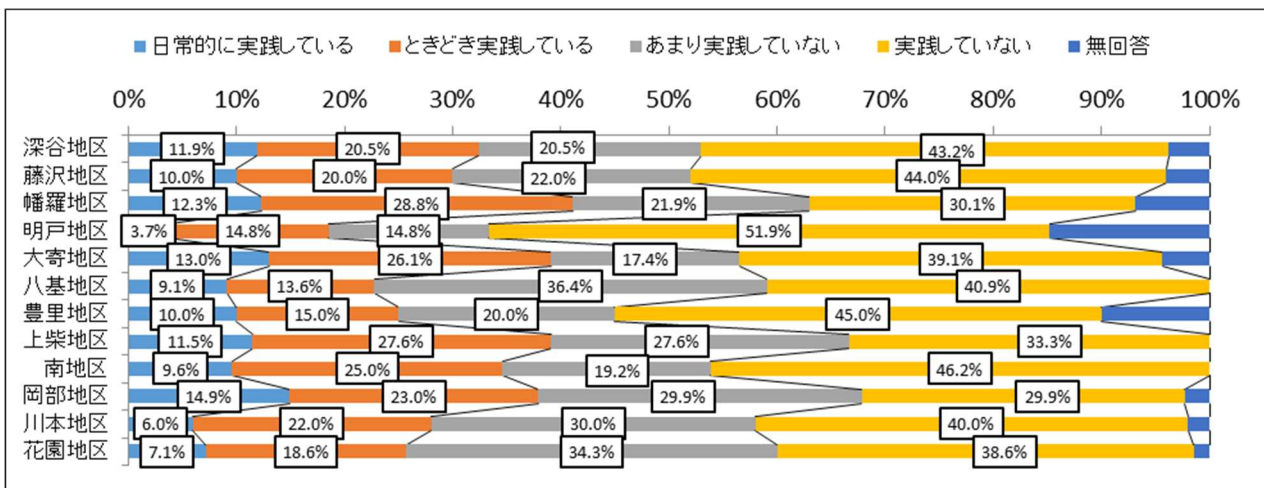
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は男性が36.6%であるのに対して、女性は30.9%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性24.1%、女性20.6%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が20歳代・40歳代（42.9%）であるのに対して、女性は40歳代（36.0%）となっています。

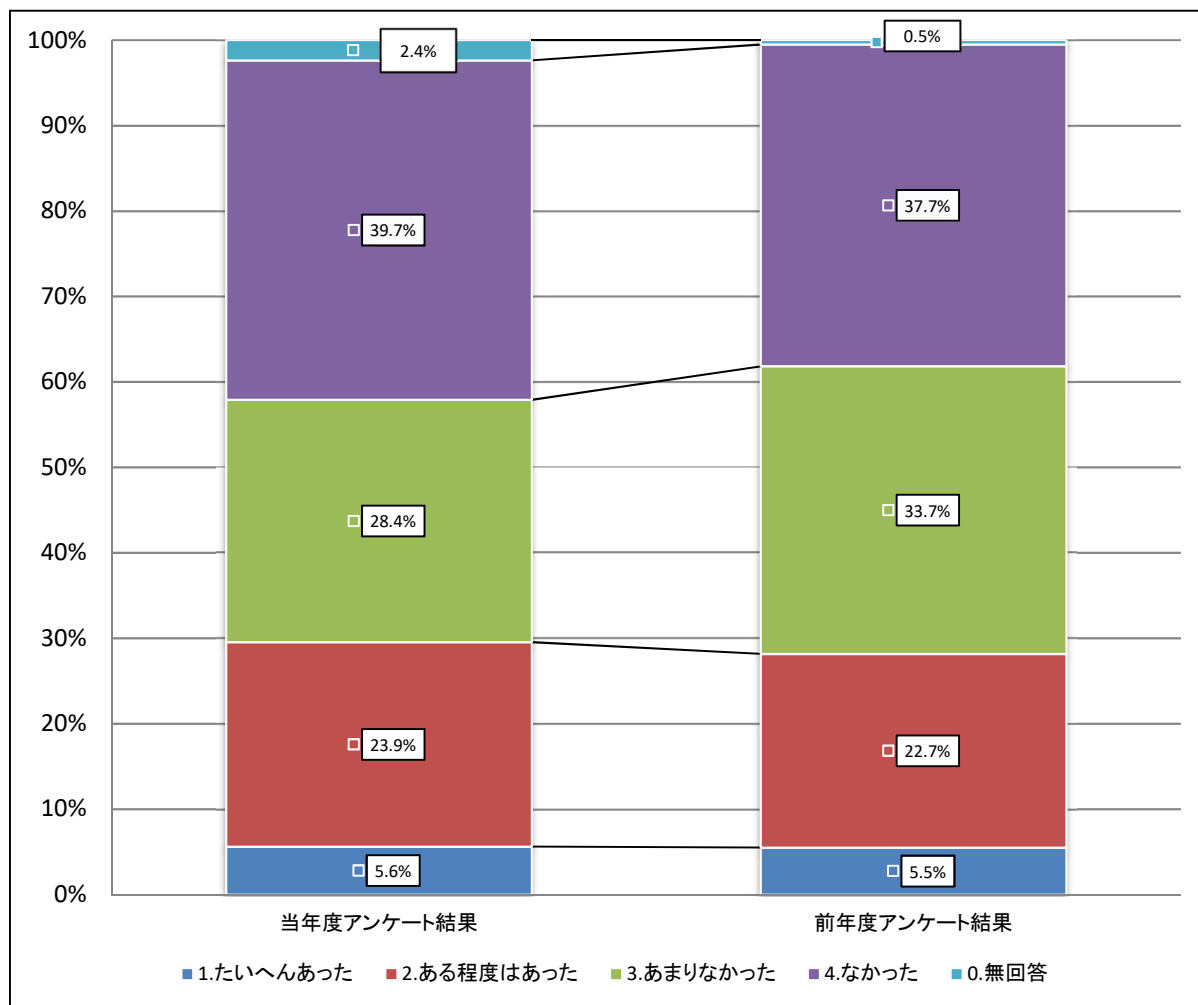
## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（18.5%）であり、次いで八基地区（22.7%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（41.1%）であり、次いで大寄地区（39.1%）となっています。

## ② 文化の振興（3. 問2）

この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



「なかった」と回答した人の割合が 39.7%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 28.4%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 23.9%、「たいへんあった」と回答した人の割合が 5.6%となっています。

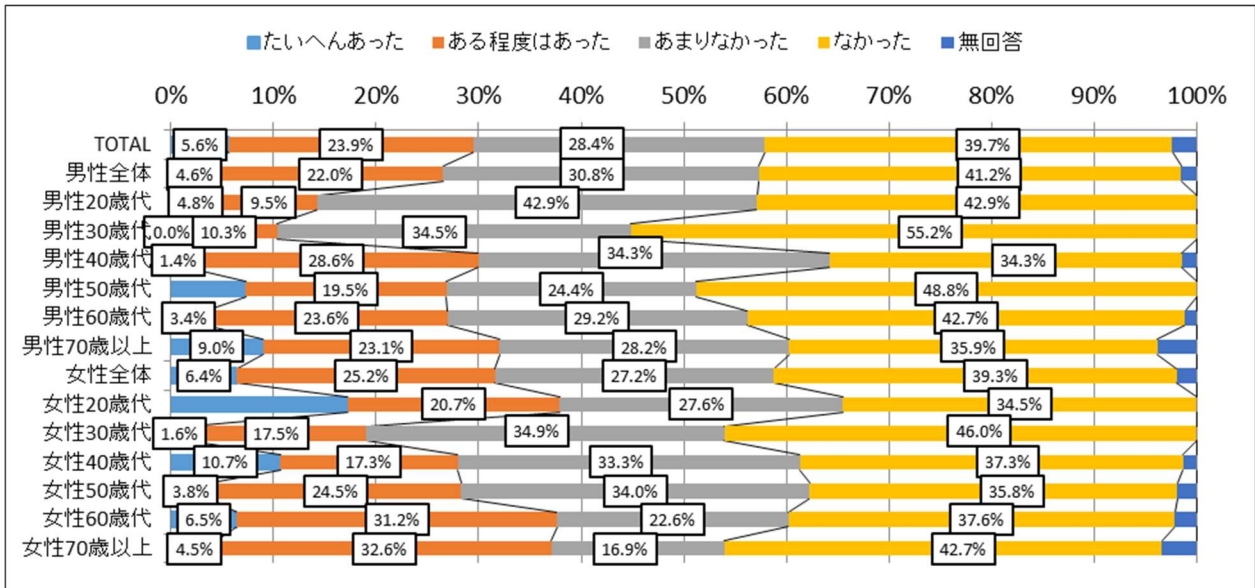
「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は、29.5%であり、7割以上の市民が芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がなかったことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は 28.2%であり、前年度アンケートと比較して、若干増加したものの、「なかった」と回答した人の割合が増加した結果となっています。



母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	765	5.6%	23.9%	28.4%	39.7%	2.4%	100.0%
男性全体	328	4.6%	22.0%	30.8%	41.2%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	4.8%	9.5%	42.9%	42.9%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	0.0%	10.3%	34.5%	55.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	1.4%	28.6%	34.3%	34.3%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	7.3%	19.5%	24.4%	48.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	3.4%	23.6%	29.2%	42.7%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	9.0%	23.1%	28.2%	35.9%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	6.4%	25.2%	27.2%	39.3%	2.0%	100.0%
女性20歳代	29	17.2%	20.7%	27.6%	34.5%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	1.6%	17.5%	34.9%	46.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	75	10.7%	17.3%	33.3%	37.3%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	3.8%	24.5%	34.0%	35.8%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	6.5%	31.2%	22.6%	37.6%	2.2%	100.0%
女性70歳以上	89	4.5%	32.6%	16.9%	42.7%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	6.5%	21.6%	25.4%	44.9%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	2.0%	20.0%	30.0%	44.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	9.6%	30.1%	23.3%	34.2%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	18.5%	22.2%	48.1%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	8.7%	21.7%	17.4%	47.8%	4.3%	100.0%
八基地区	22	4.5%	31.8%	22.7%	40.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	0.0%	35.0%	35.0%	25.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	6.9%	26.4%	28.7%	37.9%	0.0%	100.0%
南地区	52	3.8%	19.2%	40.4%	36.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	8.0%	28.7%	24.1%	39.1%	0.0%	100.0%
川本地区	50	2.0%	20.0%	40.0%	36.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	2.9%	22.9%	34.3%	38.6%	1.4%	100.0%
無回答	19	10.5%	15.8%	26.3%	26.3%	21.1%	100.0%

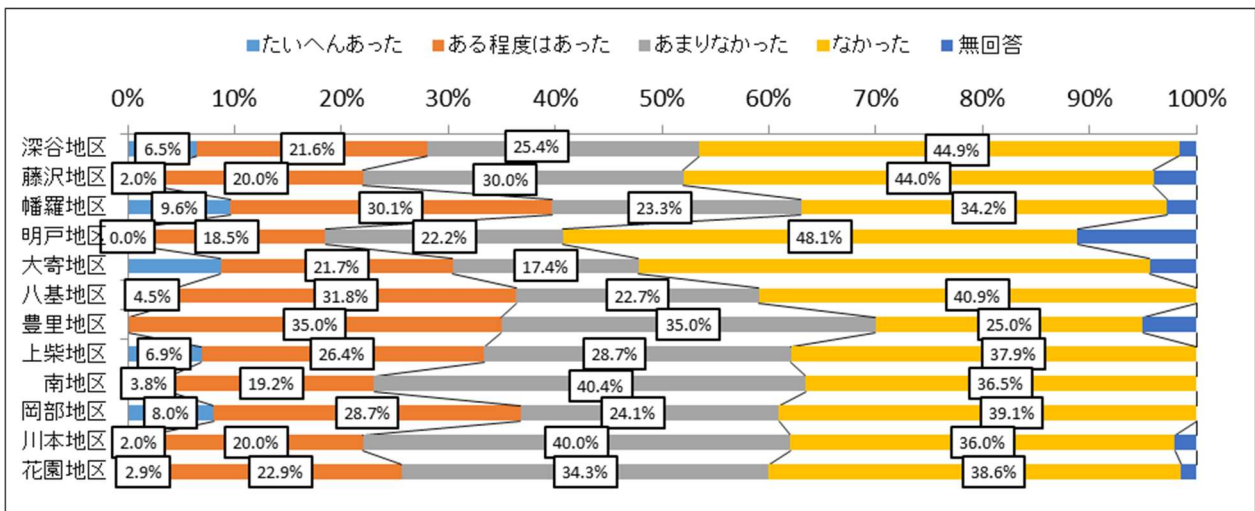
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は男性が26.5%であるのに対して、女性は31.6%となっています。このことから、男女によって意識の差があることがわかります。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性10.3%、女性19.0%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が70歳以上（32.1%）であるのに対して、女性は20歳代（37.9%）となっています。

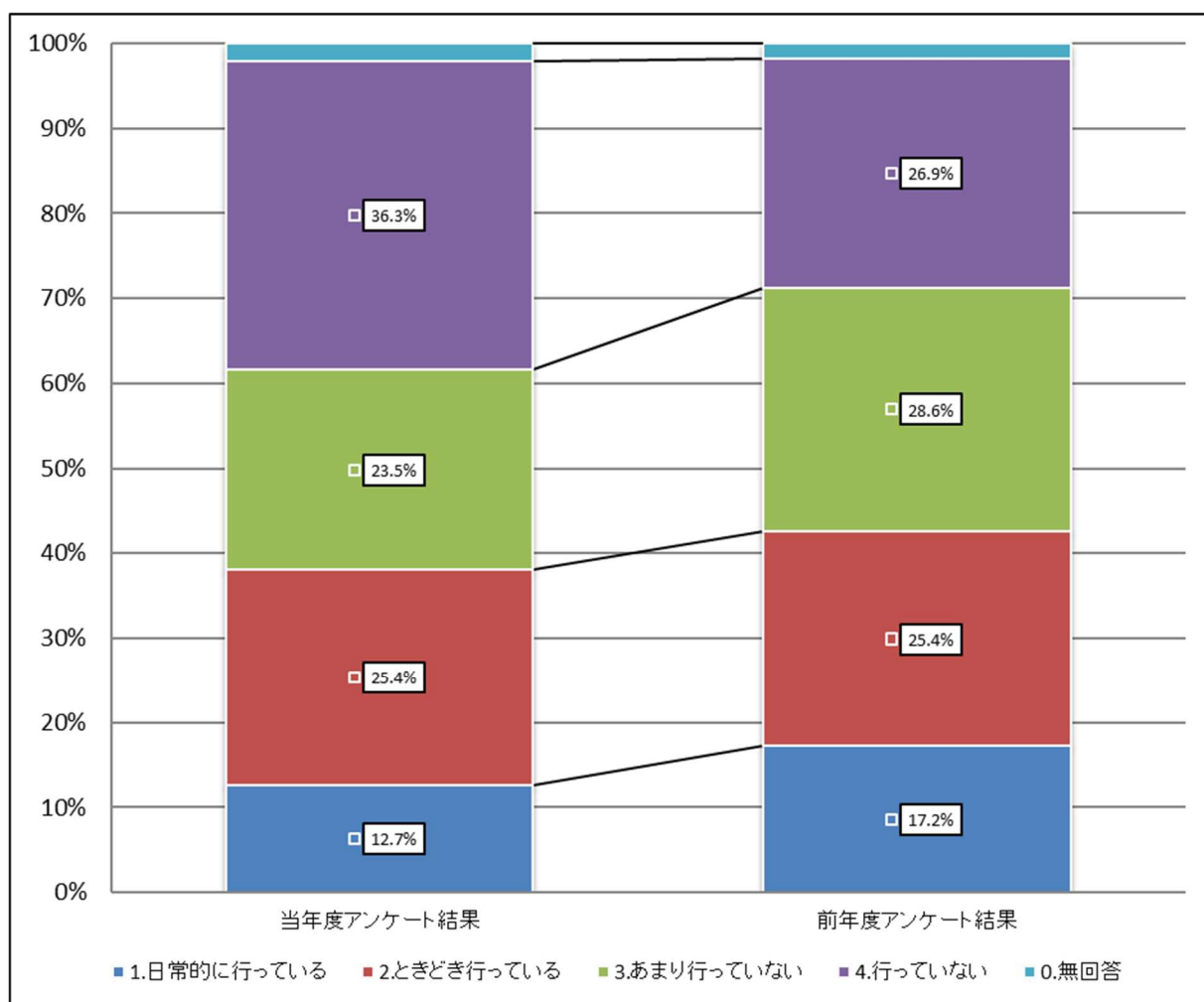
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（18.5%）であり、次いで藤沢地区・川本地区（22.0%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（39.7%）であり、次いで岡部地区（36.8%）となっています。

### ③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。



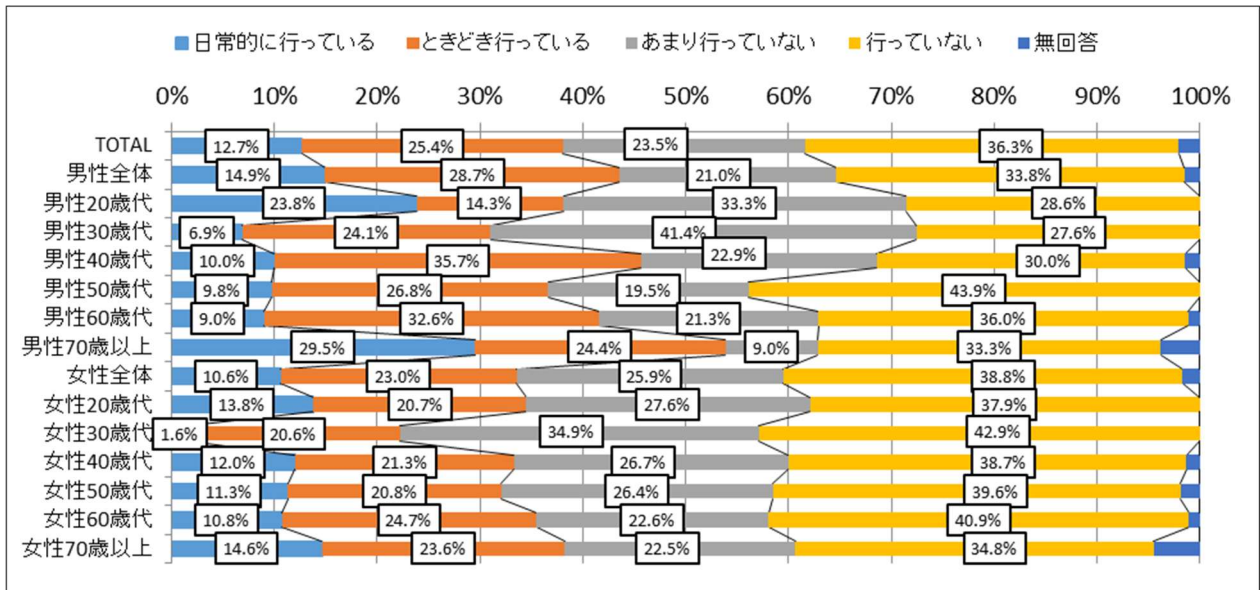
「行っていない」と回答した人の割合が36.3%と最も多く、次いで、「ときどき行っている」と回答した人の割合は25.4%、「あまり行っていない」と回答した人の割合は23.5%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は12.7%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合は、38.0%であり、日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っている人は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は42.6%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	765	12.7%	25.4%	23.5%	36.3%	2.1%	100.0%
男性全体	328	14.9%	28.7%	21.0%	33.8%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	21	23.8%	14.3%	33.3%	28.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	24.1%	41.4%	27.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	10.0%	35.7%	22.9%	30.0%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	9.8%	26.8%	19.5%	43.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	9.0%	32.6%	21.3%	36.0%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	29.5%	24.4%	9.0%	33.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	10.6%	23.0%	25.9%	38.8%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	20.7%	27.6%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	1.6%	20.6%	34.9%	42.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	12.0%	21.3%	26.7%	38.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	11.3%	20.8%	26.4%	39.6%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	10.8%	24.7%	22.6%	40.9%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	14.6%	23.6%	22.5%	34.8%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	11.4%	21.6%	20.0%	44.9%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	6.0%	32.0%	18.0%	40.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	23.3%	24.7%	26.0%	24.7%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	33.3%	14.8%	33.3%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	26.1%	21.7%	21.7%	26.1%	4.3%	100.0%
八基地区	22	0.0%	40.9%	13.6%	45.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	10.0%	30.0%	40.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	13.8%	25.3%	26.4%	34.5%	0.0%	100.0%
南地区	52	9.6%	30.8%	21.2%	38.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	17.2%	28.7%	19.5%	34.5%	0.0%	100.0%
川本地区	50	14.0%	20.0%	28.0%	36.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	4.3%	22.9%	38.6%	34.3%	0.0%	100.0%
無回答	19	15.8%	31.6%	26.3%	10.5%	15.8%	100.0%

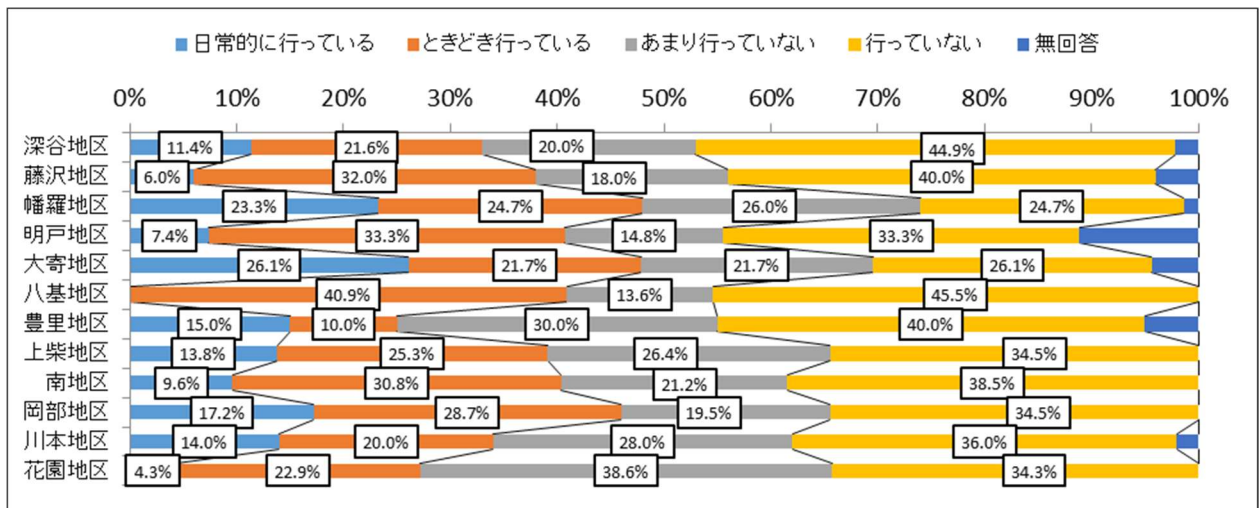
➤ 性別・世代別



性別・世代別みると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が43.6%であるのに対して、女性は33.6%となっています。男女間で10ポイントの差があることから、男性の方がスポーツやレクリエーションに対する意識が高いことがうかがえます。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性31.0%、女性22.2%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男女ともに70歳以上（男性53.8%、女性38.2%）となっています。

➤ 地区別



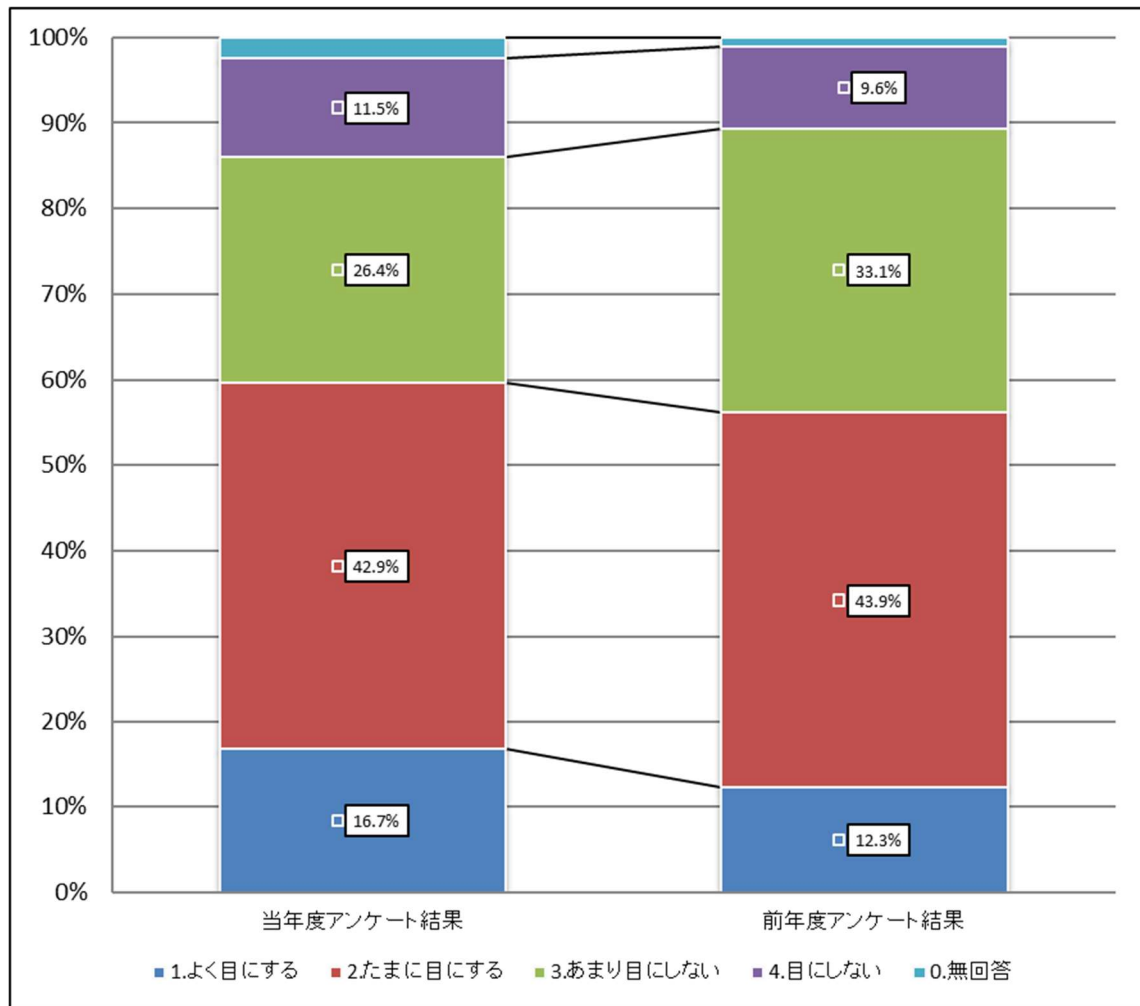
地区別みると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区（25.0%）であり、次いで花園地区（27.1%）となっています。最も多い地区は、幡羅地区（47.9%）であり、次いで大寄地区（47.8%）となっています。



#### (4) 産業振興について

##### 全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



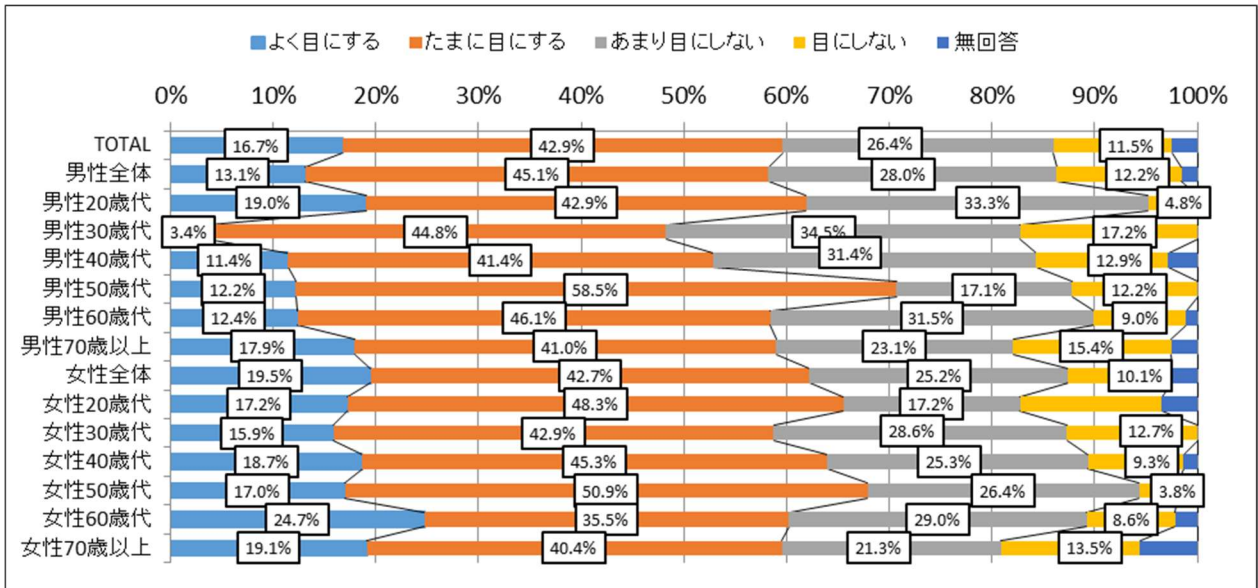
「たまに目にする」と回答した人の割合が 42.9%と最も多く、次いで「あまり目にしない」と回答した人の割合が 26.4%、「よく目にする」と回答した人の割合が 16.7%、「目にしない」と回答した人の割合は 11.5%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 59.6%であり、市民の約 6 割が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 56.2%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目に見えない	無回答	合計
TOTAL	765	16.7%	42.9%	26.4%	11.5%	2.5%	100.0%
男性全体	328	13.1%	45.1%	28.0%	12.2%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	19.0%	42.9%	33.3%	4.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	3.4%	44.8%	34.5%	17.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	11.4%	41.4%	31.4%	12.9%	2.9%	100.0%
男性50歳代	41	12.2%	58.5%	17.1%	12.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	12.4%	46.1%	31.5%	9.0%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	17.9%	41.0%	23.1%	15.4%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	19.5%	42.7%	25.2%	10.1%	2.5%	100.0%
女性20歳代	29	17.2%	48.3%	17.2%	13.8%	3.4%	100.0%
女性30歳代	63	15.9%	42.9%	28.6%	12.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	75	18.7%	45.3%	25.3%	9.3%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	17.0%	50.9%	26.4%	3.8%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	24.7%	35.5%	29.0%	8.6%	2.2%	100.0%
女性70歳以上	89	19.1%	40.4%	21.3%	13.5%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	17.3%	39.5%	28.6%	12.4%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	22.0%	48.0%	24.0%	2.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	13.7%	50.7%	26.0%	6.8%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	22.2%	33.3%	29.6%	3.7%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	43.5%	26.1%	13.0%	4.3%	100.0%
八基地区	22	22.7%	40.9%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	20.0%	20.0%	35.0%	20.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	17.2%	42.5%	31.0%	9.2%	0.0%	100.0%
南地区	52	11.5%	40.4%	30.8%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	20.7%	43.7%	20.7%	13.8%	1.1%	100.0%
川本地区	50	20.0%	38.0%	26.0%	12.0%	4.0%	100.0%
花園地区	70	5.7%	58.6%	18.6%	17.1%	0.0%	100.0%
無回答	19	21.1%	31.6%	21.1%	10.5%	15.8%	100.0%

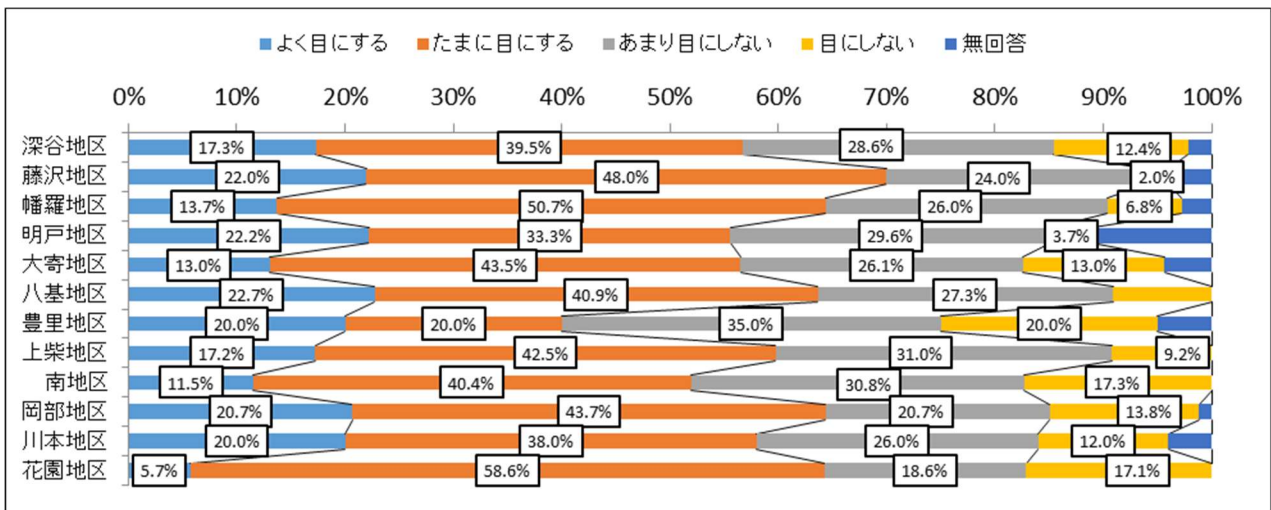
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は男性が58.2%であるのに対して、女性は62.2%となっています。

また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性48.3%、女性58.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（61.9%）女性が50歳代（67.9%）となっています。

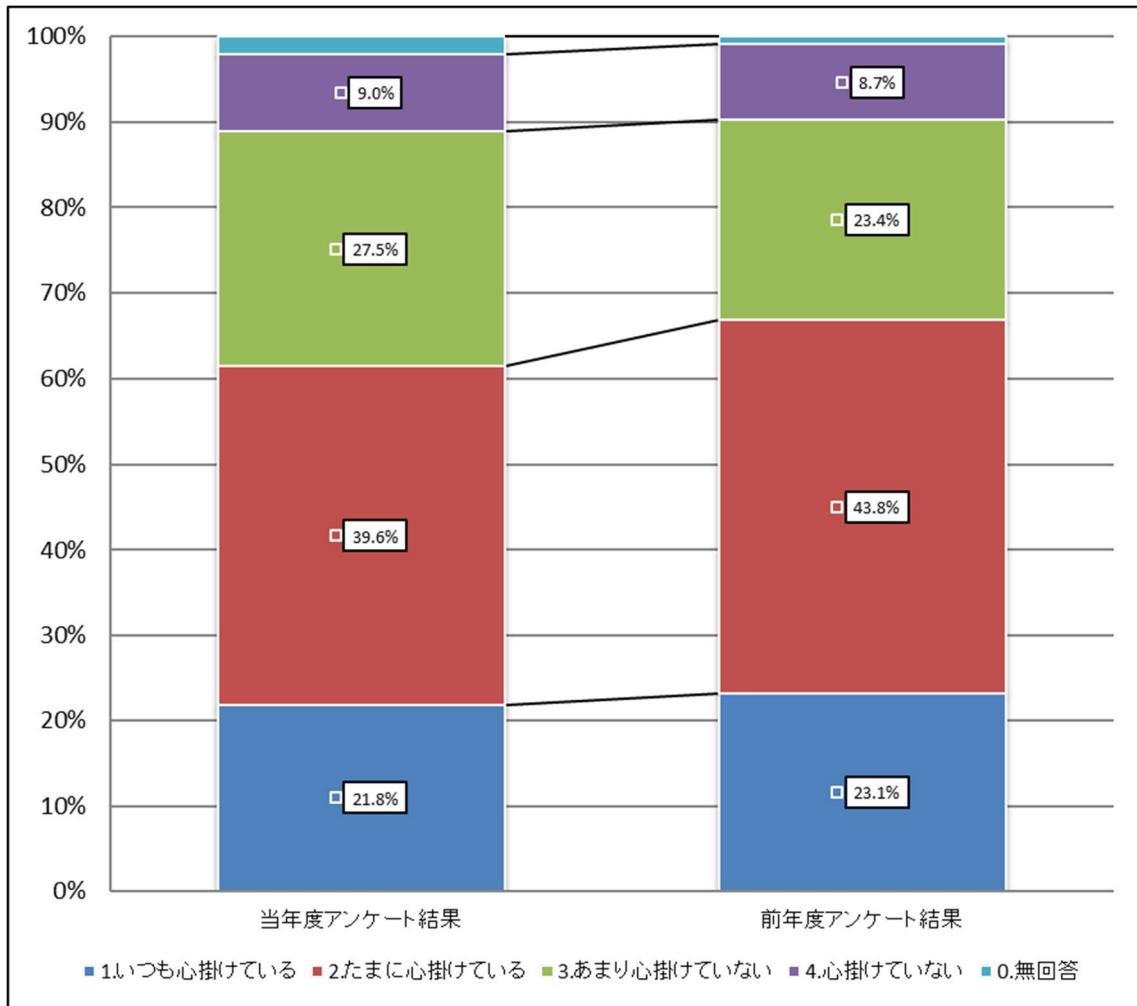
➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（40.0%）であり、次いで南地区（51.9%）となっています。最も多いのは藤沢地区（70.0%）であり、次いで岡部地区（64.4%）となっています。



食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



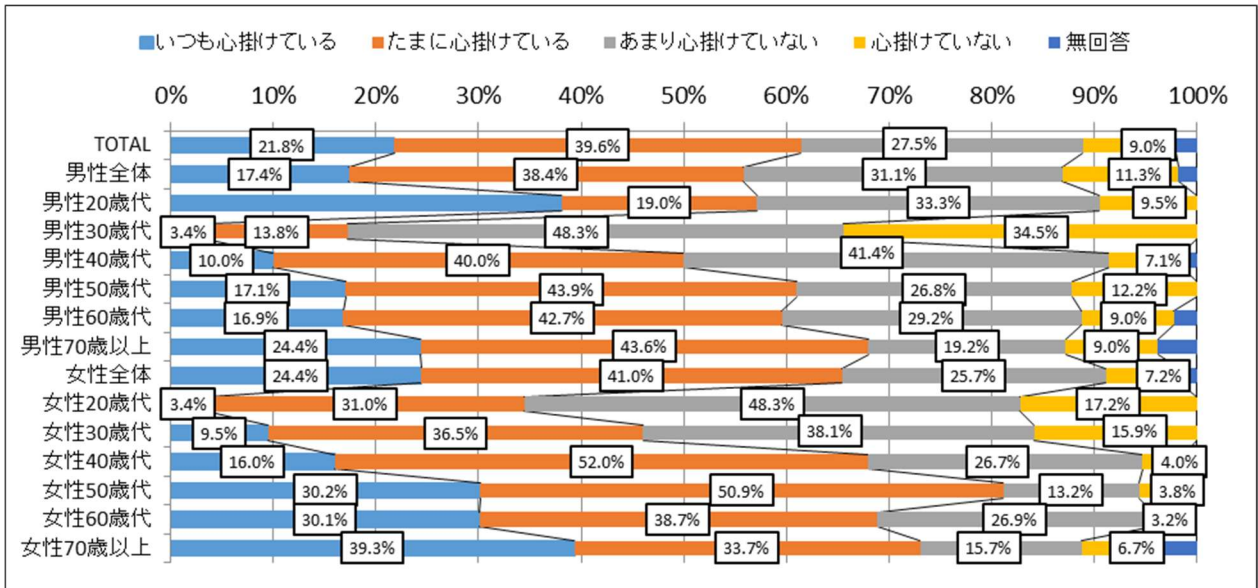
「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 39.6%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 27.5%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 21.8%、「心掛けていない」と回答した人の割合は最も少なく 9.0%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 61.4%であり、6 割以上の市民が食材等の購入時に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 66.9%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けていない	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	765	21.8%	39.6%	27.5%	9.0%	2.1%	100.0%
男性全体	328	17.4%	38.4%	31.1%	11.3%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	19.0%	33.3%	9.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	13.8%	48.3%	34.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	10.0%	40.0%	41.4%	7.1%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	17.1%	43.9%	26.8%	12.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	16.9%	42.7%	29.2%	9.0%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	24.4%	43.6%	19.2%	9.0%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	24.4%	41.0%	25.7%	7.2%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	31.0%	48.3%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	9.5%	36.5%	38.1%	15.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	16.0%	52.0%	26.7%	4.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	30.2%	50.9%	13.2%	3.8%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	30.1%	38.7%	26.9%	3.2%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	39.3%	33.7%	15.7%	6.7%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	765	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	23.8%	35.7%	28.1%	10.3%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	18.0%	38.0%	34.0%	6.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	27.4%	41.1%	26.0%	4.1%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	40.7%	22.2%	7.4%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	17.4%	52.2%	17.4%	13.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	22.7%	27.3%	45.5%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	55.0%	10.0%	10.0%	10.0%	100.0%
上柴地区	87	24.1%	36.8%	27.6%	11.5%	0.0%	100.0%
南地区	52	32.7%	38.5%	25.0%	3.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	13.8%	52.9%	24.1%	9.2%	0.0%	100.0%
川本地区	50	22.0%	40.0%	30.0%	6.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	38.6%	30.0%	15.7%	0.0%	100.0%
無回答	19	26.3%	15.8%	31.6%	10.5%	15.8%	100.0%

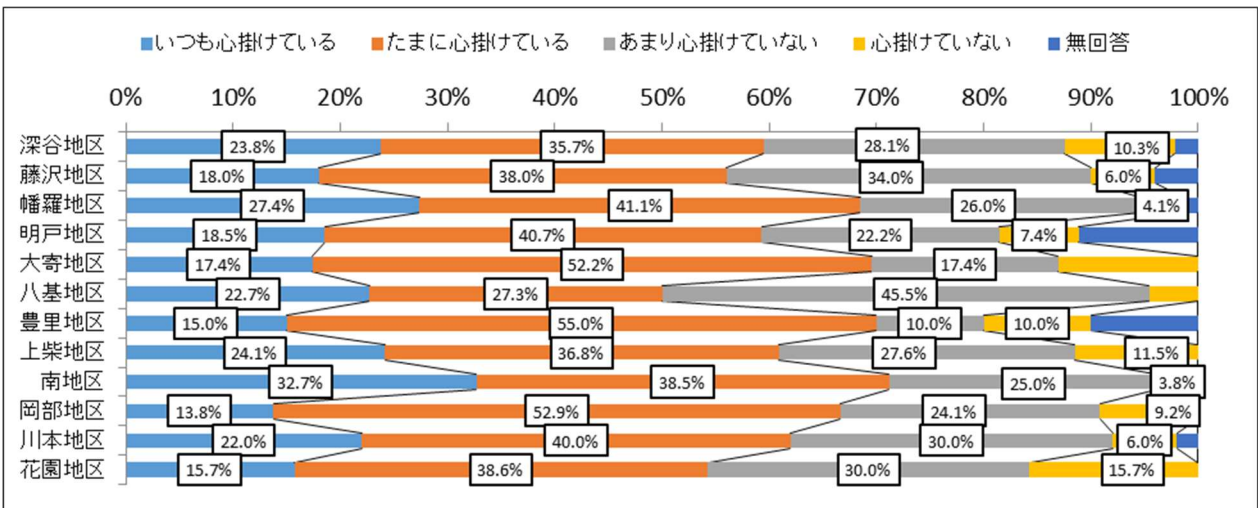
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は男性が 55.8%であるのに対して、女性は 65.4%となっています。このことから、男性よりも女性の方が意識が高いことがうかがえます。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (17.2%)、女性が 20 歳代 (34.5%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (67.9%)、女性が 50 歳代 (81.1%) となっています。

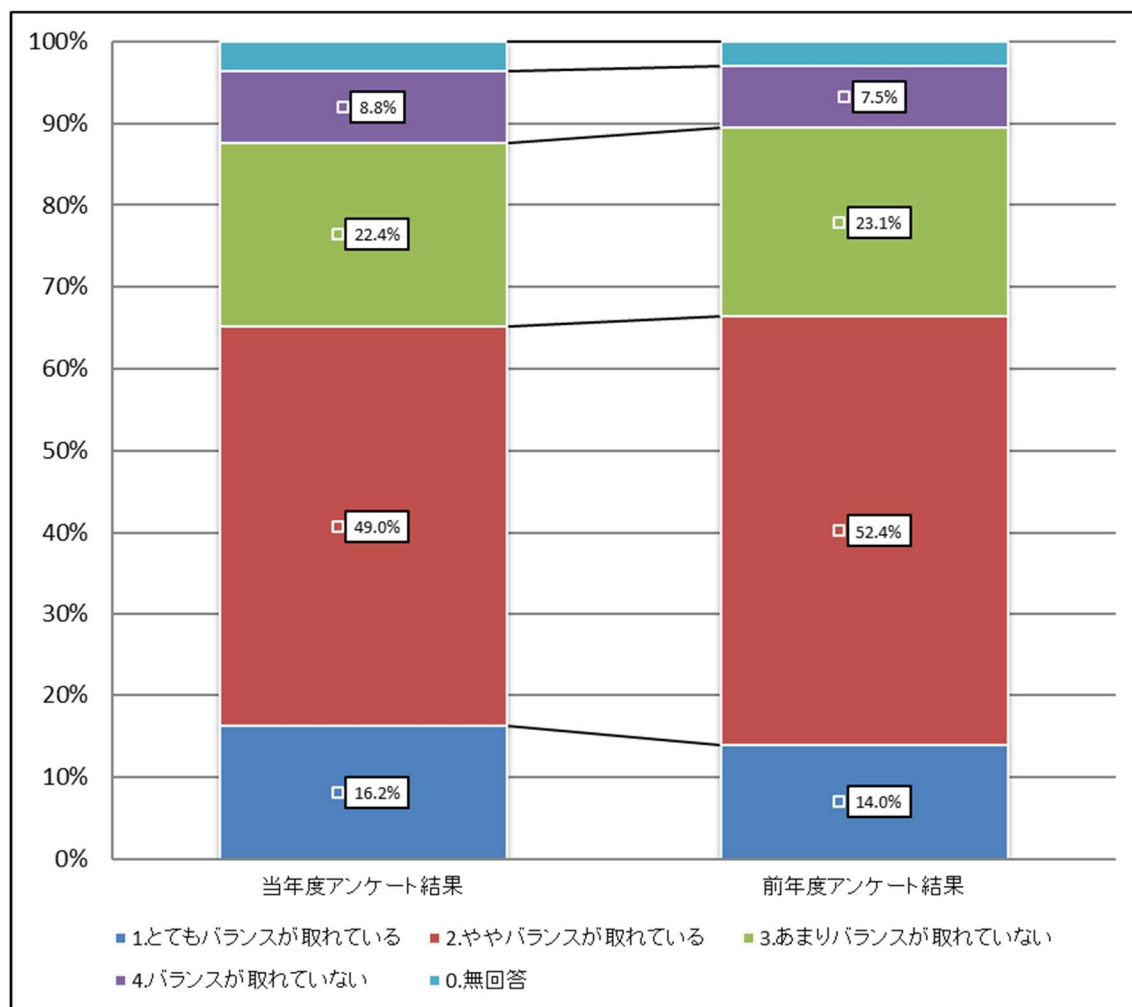
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (50.0%) であり、次いで花園地区 (54.3%) となっています。最も多いのは南地区 (71.2%) であり、次いで豊里地区 (70.0%) となっています。

## ②雇用の創出・安定と勤労者への支援（3. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 49.0%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 22.4%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 16.2%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合は最も少なく 8.8%となっています。

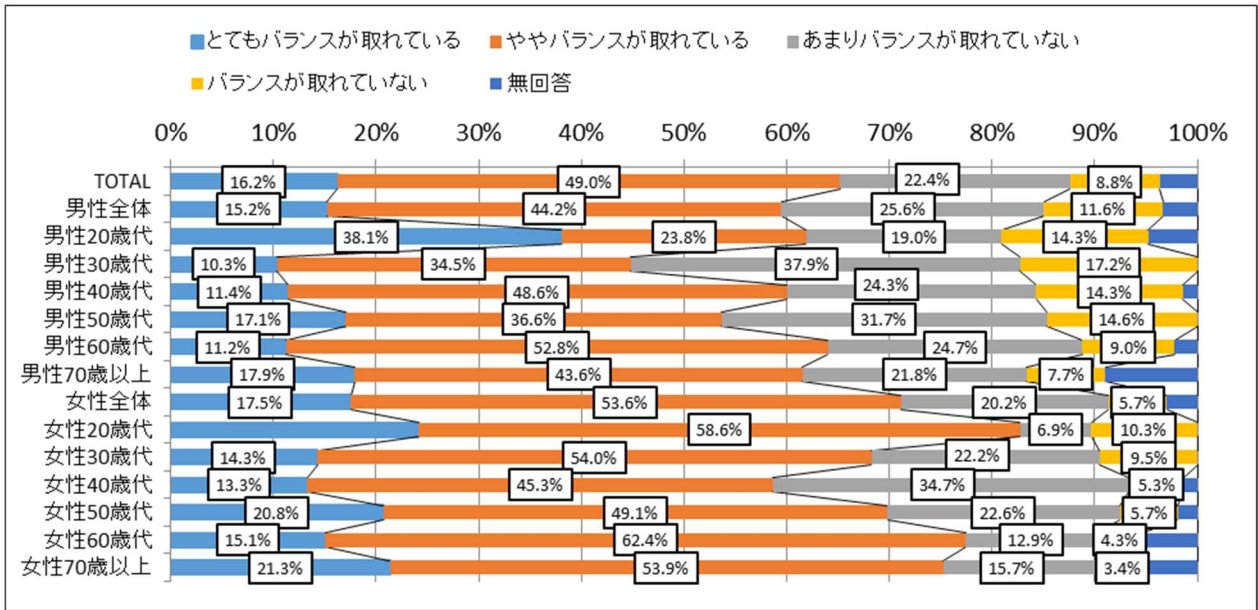
「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 65.2%であり、市民の 6 割以上が、仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。一方で、「あまりバランスが取れていない」または「バランスが取れていない」と回答した人の割合は 31.1%であり、3 割以上の人仕事と生活のバランスが取れていないと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 66.4%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とてもバランスが 取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが 取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	765	16.2%	49.0%	22.4%	8.8%	3.7%	100.0%
男性全体	328	15.2%	44.2%	25.6%	11.6%	3.4%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	23.8%	19.0%	14.3%	4.8%	100.0%
男性 30 歳代	29	10.3%	34.5%	37.9%	17.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	11.4%	48.6%	24.3%	14.3%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	17.1%	36.6%	31.7%	14.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	11.2%	52.8%	24.7%	9.0%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	17.9%	43.6%	21.8%	7.7%	9.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	17.5%	53.6%	20.2%	5.7%	3.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	58.6%	6.9%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	14.3%	54.0%	22.2%	9.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	13.3%	45.3%	34.7%	5.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	20.8%	49.1%	22.6%	5.7%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	15.1%	62.4%	12.9%	4.3%	5.4%	100.0%
女性 70 歳以上	89	21.3%	53.9%	15.7%	3.4%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	16.8%	49.7%	19.5%	10.8%	3.2%	100.0%
藤沢地区	50	12.0%	44.0%	30.0%	10.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	11.0%	54.8%	21.9%	6.8%	5.5%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	55.6%	3.7%	11.1%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	4.3%	56.5%	21.7%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	18.2%	36.4%	36.4%	4.5%	4.5%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	45.0%	25.0%	5.0%	10.0%	100.0%
上柴地区	87	18.4%	41.4%	29.9%	6.9%	3.4%	100.0%
南地区	52	15.4%	50.0%	23.1%	9.6%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	21.8%	55.2%	18.4%	4.6%	0.0%	100.0%
川本地区	50	16.0%	54.0%	18.0%	10.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	18.6%	47.1%	25.7%	7.1%	1.4%	100.0%
無回答	19	10.5%	31.6%	21.1%	15.8%	21.1%	100.0%



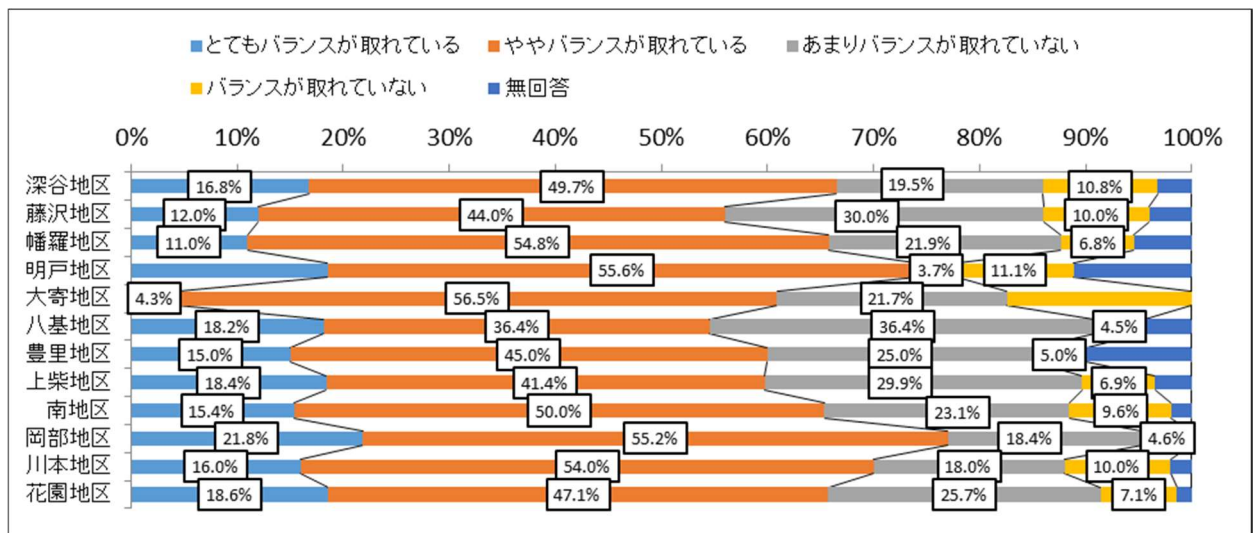
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は男性が 59.5%であるのに対して、女性は 71.1%となっています。男性よりも女性が 10 ポイント以上高いことから、男女によって意識の差があることがうかがえます。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (44.8%) であり、女性は 40 歳代 (58.7%) となっています。最も多い世代は、男性が 60 歳代 (64.0%) であり、女性は 20 歳代 (82.8%) となっています。

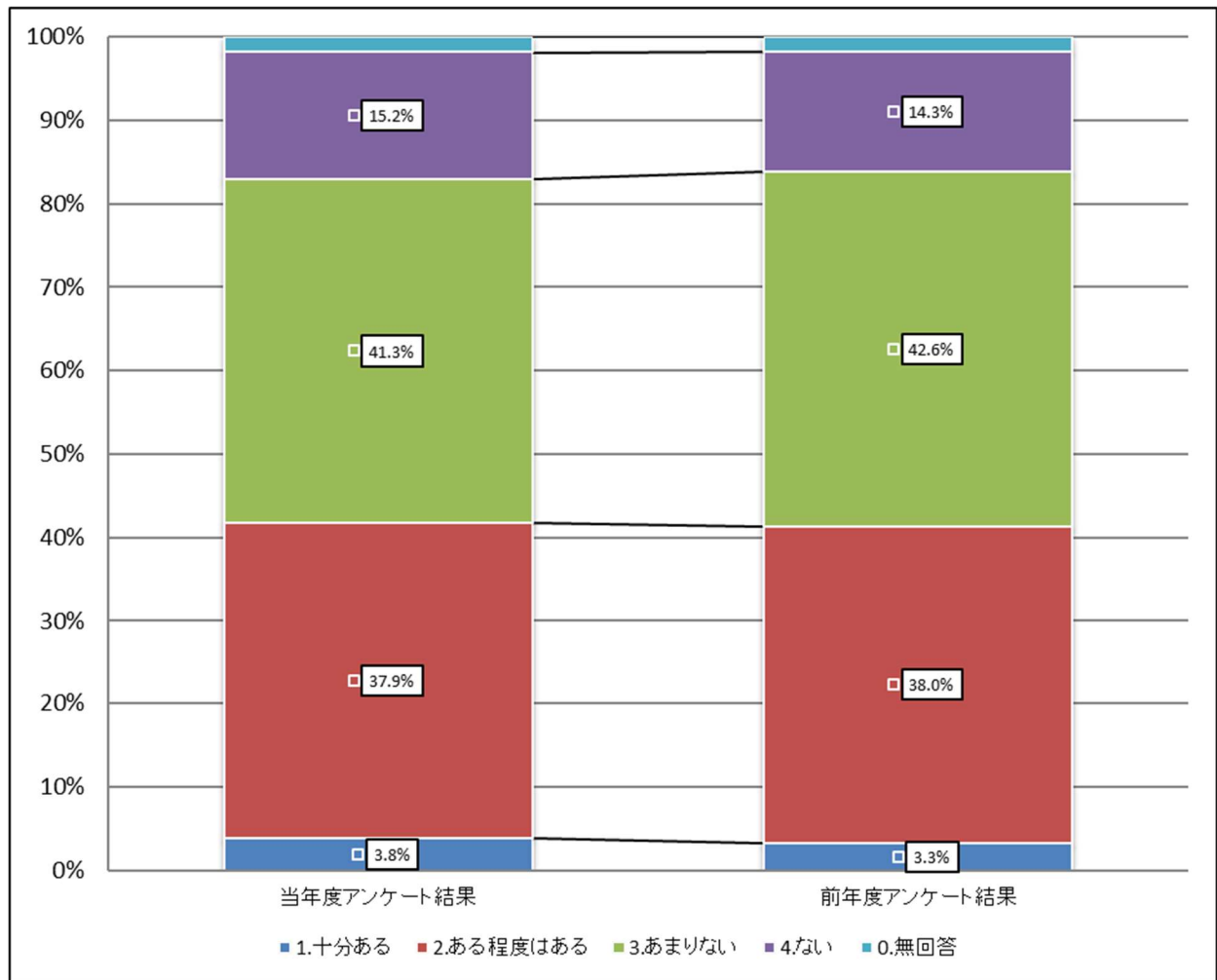
➤ 地区別



地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (54.5%) であり、次いで藤沢地区 (56.0%) となっています。最も多いのは岡部地区 (77.0%) であり、次いで明戸地区 (74.1%) となっています。

(5) 暮らし・環境について  
 防災対策の推進 (5. 問1~2)

ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。



「あまりない」と回答した人の割合が 41.3%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 37.9%、「ない」と回答した人の割合が 15.2%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 3.8%となっています。

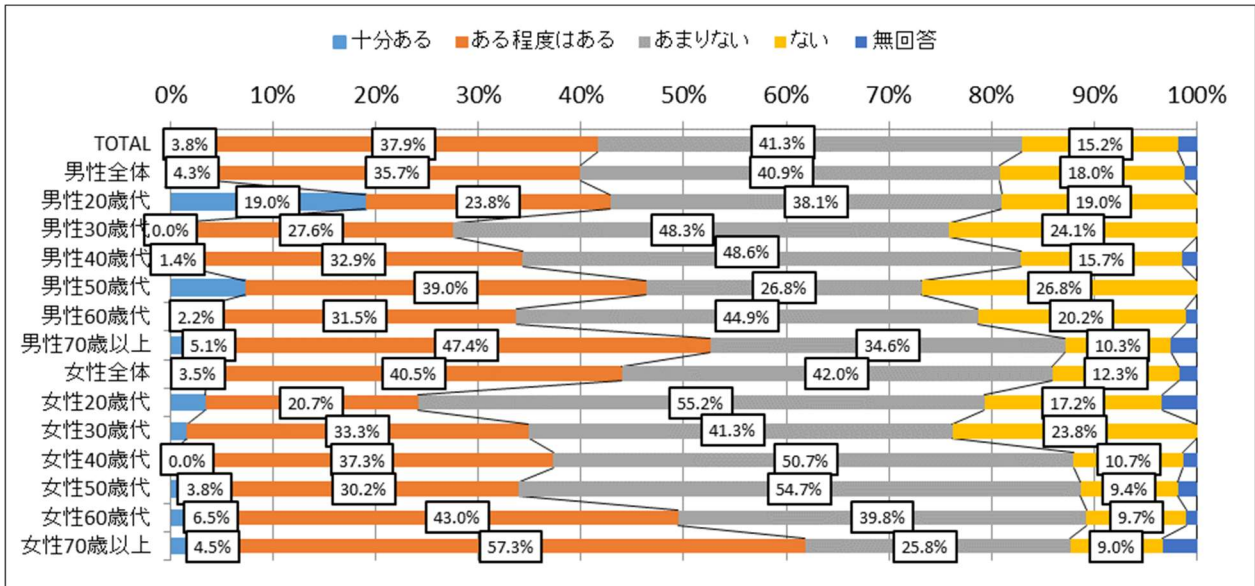
「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 41.7%であり、市民の過半数は、災害時の備え(備蓄品など)が十分ではないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 41.3%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	765	3.8%	37.9%	41.3%	15.2%	1.8%	100.0%
男性全体	328	4.3%	35.7%	40.9%	18.0%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	19.0%	23.8%	38.1%	19.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	27.6%	48.3%	24.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	1.4%	32.9%	48.6%	15.7%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	7.3%	39.0%	26.8%	26.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	2.2%	31.5%	44.9%	20.2%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	5.1%	47.4%	34.6%	10.3%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	3.5%	40.5%	42.0%	12.3%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	20.7%	55.2%	17.2%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	1.6%	33.3%	41.3%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	0.0%	37.3%	50.7%	10.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	3.8%	30.2%	54.7%	9.4%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	6.5%	43.0%	39.8%	9.7%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	4.5%	57.3%	25.8%	9.0%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	4.9%	34.6%	41.1%	17.8%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	0.0%	40.0%	40.0%	16.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	2.7%	49.3%	38.4%	8.2%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	33.3%	33.3%	18.5%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	8.7%	30.4%	43.5%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	40.9%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	35.0%	30.0%	25.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	5.7%	40.2%	43.7%	10.3%	0.0%	100.0%
南地区	52	1.9%	42.3%	42.3%	13.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	2.3%	39.1%	42.5%	16.1%	0.0%	100.0%
川本地区	50	4.0%	44.0%	34.0%	16.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	4.3%	28.6%	51.4%	15.7%	0.0%	100.0%
無回答	19	0.0%	26.3%	36.8%	21.1%	15.8%	100.0%



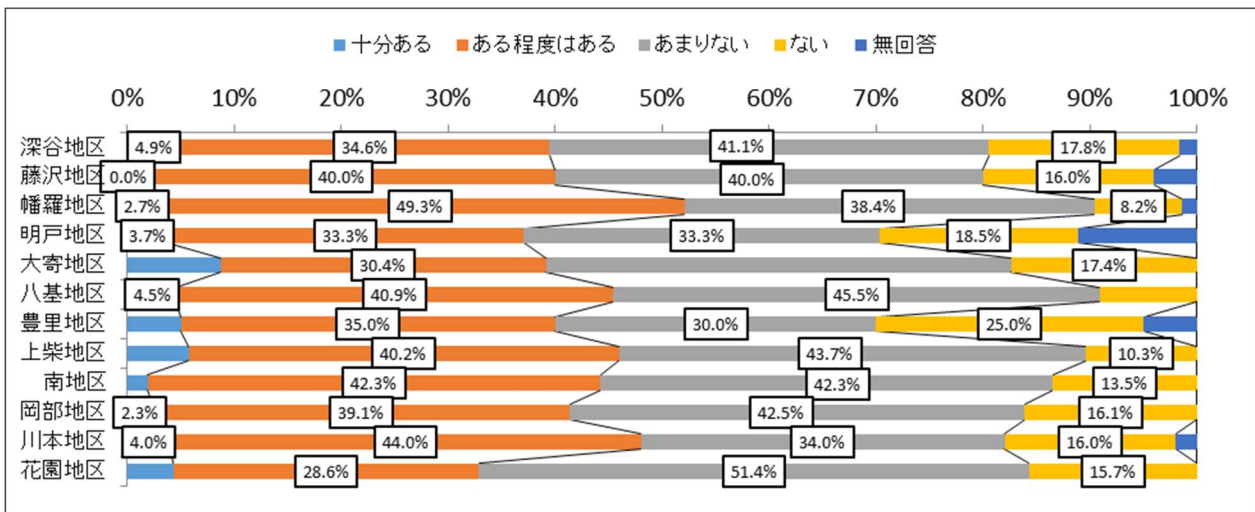
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が39.9%であるのに対して、女性は44.0%となっています。

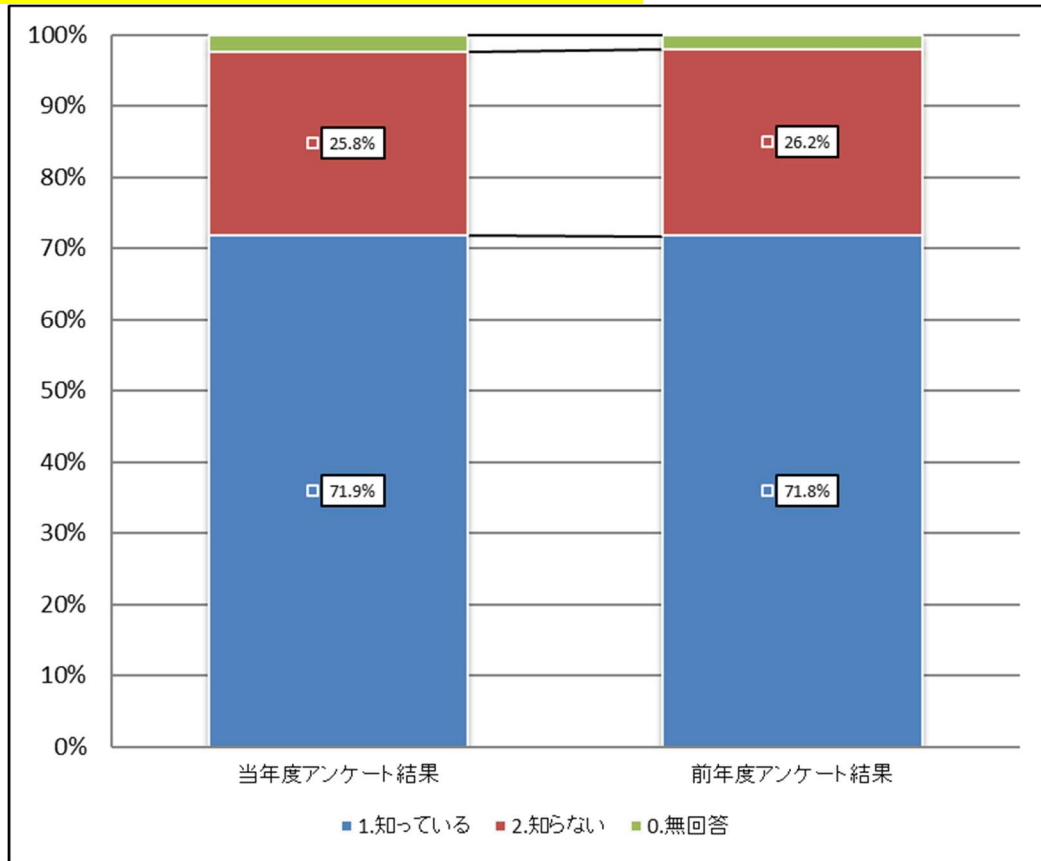
また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(27.6%)、女性が20歳代(24.1%)であり、一方で最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性52.6%、女性61.8%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区(32.9%)であり、次いで明戸地区(37.0%)となっています。最も多いのは、幡羅地区(52.1%)であり、次いで川本地区(48.0%)となっています。

## 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。



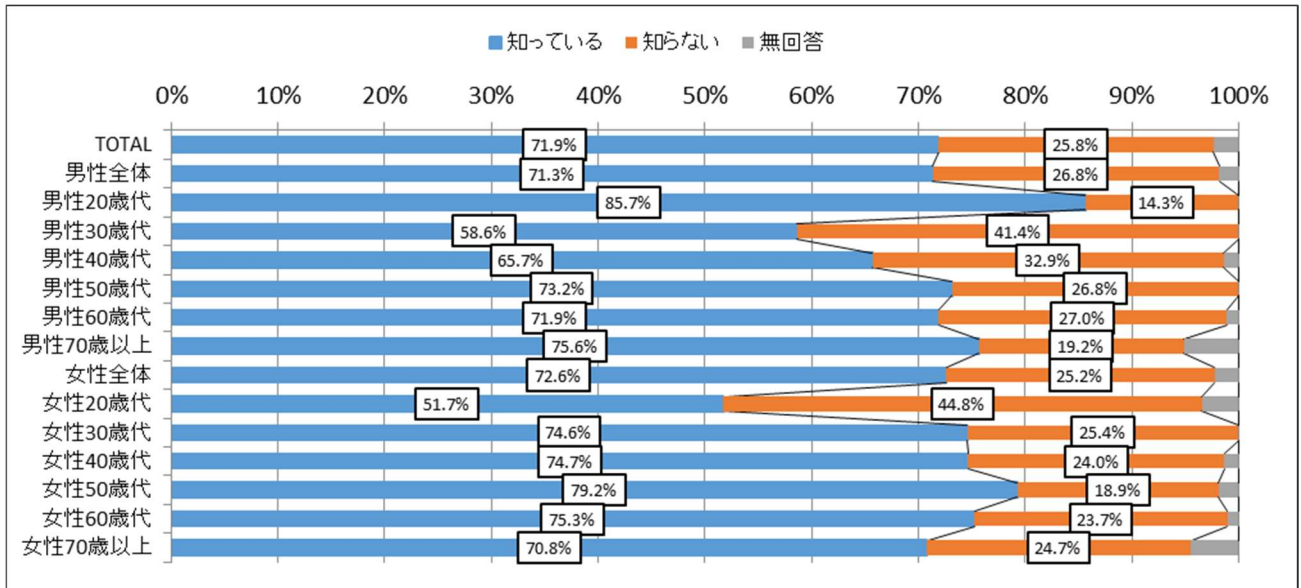
「知っている」と回答した人の割合は71.9%、「知らない」と回答した人の割合は25.8%となっています。

また、地震発生時の避難所・避難場所を知っているという人が大多数を占めているものの、まだ25.8%の人が知らない状況であることから、引き続き避難所・避難場所の周知徹底が求められます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は71.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	765	71.9%	25.8%	2.4%	100.0%
男性全体	328	71.3%	26.8%	1.8%	100.0%
男性20歳代	21	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	58.6%	41.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	65.7%	32.9%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	73.2%	26.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	71.9%	27.0%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	75.6%	19.2%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	72.6%	25.2%	2.2%	100.0%
女性20歳代	29	51.7%	44.8%	3.4%	100.0%
女性30歳代	63	74.6%	25.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	75	74.7%	24.0%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	79.2%	18.9%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	75.3%	23.7%	1.1%	100.0%
女性70歳以上	89	70.8%	24.7%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	68.6%	29.7%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	78.0%	18.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	86.3%	12.3%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	59.3%	25.9%	14.8%	100.0%
大寄地区	23	73.9%	26.1%	0.0%	100.0%
八基地区	22	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	60.0%	35.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	75.9%	24.1%	0.0%	100.0%
南地区	52	82.7%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	71.3%	28.7%	0.0%	100.0%
川本地区	50	66.0%	32.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	61.4%	34.3%	4.3%	100.0%
無回答	19	68.4%	15.8%	15.8%	100.0%

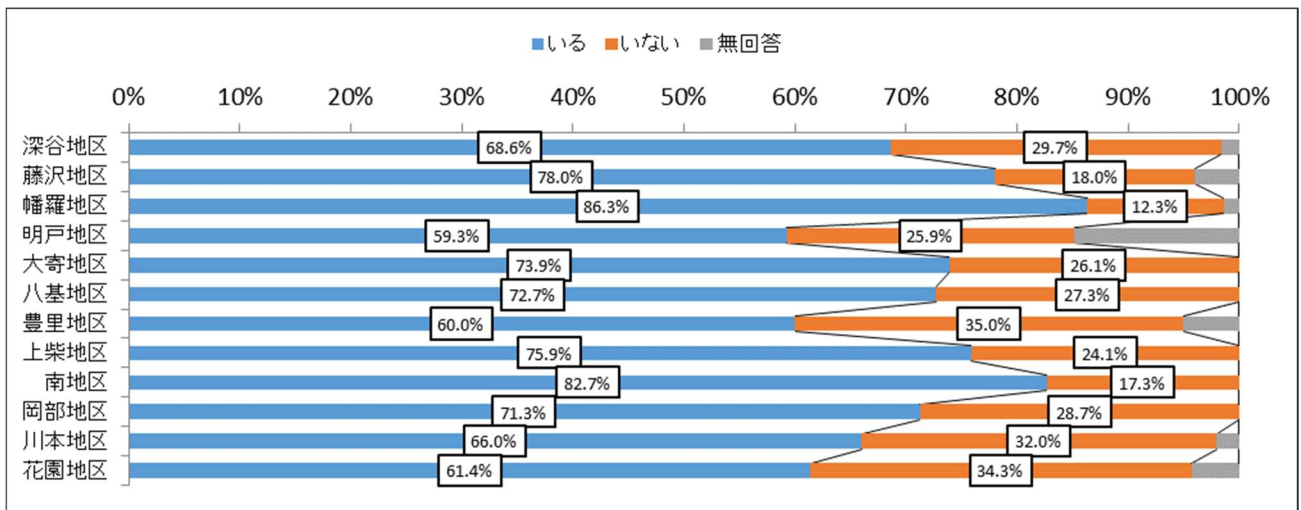
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が71.3%であるのに対して、女性は72.6%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(58.6%)、女性が20歳代(51.7%)であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代(85.7%)、女性が50歳代(79.2%)となっています。

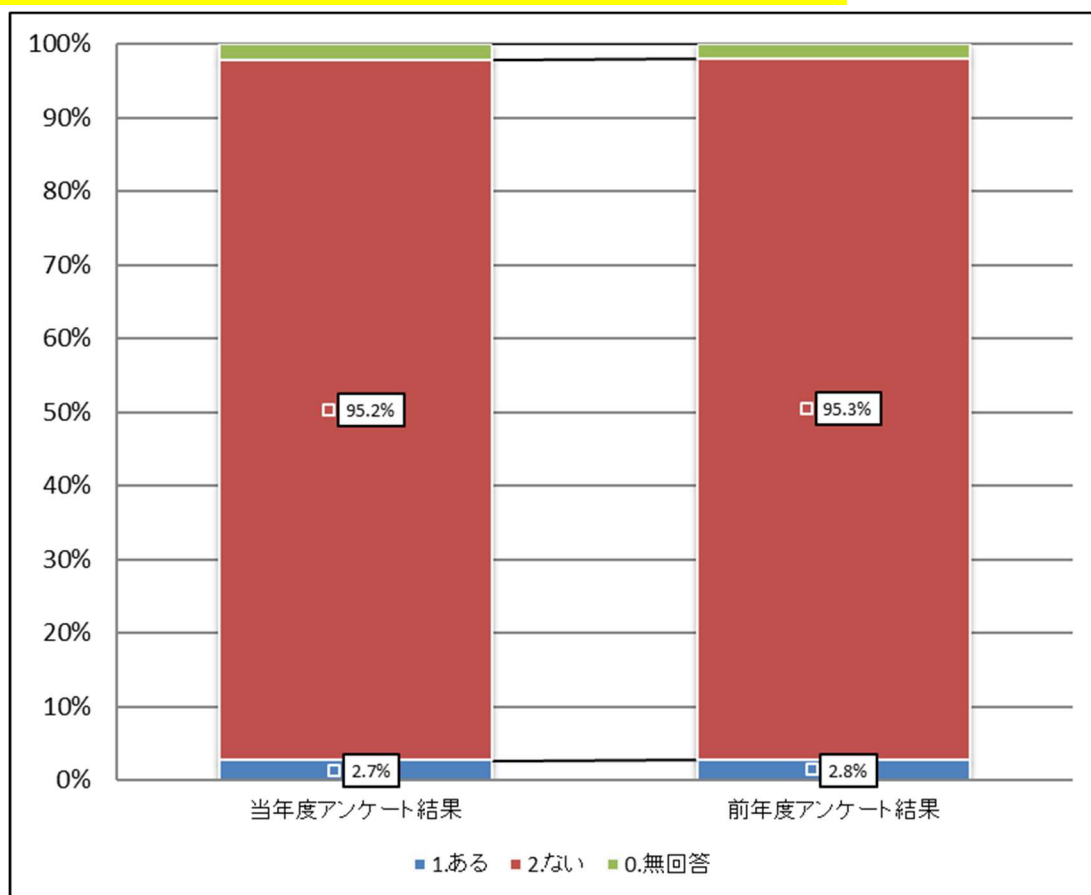
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(59.3%)であり、次いで豊里地区(60.0%)となっています。最も多いのは、幡羅地区(86.3%)であり、次いで南地区(82.7%)となっています。

## ②くらしの安全対策の推進（5. 問3～4）

この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

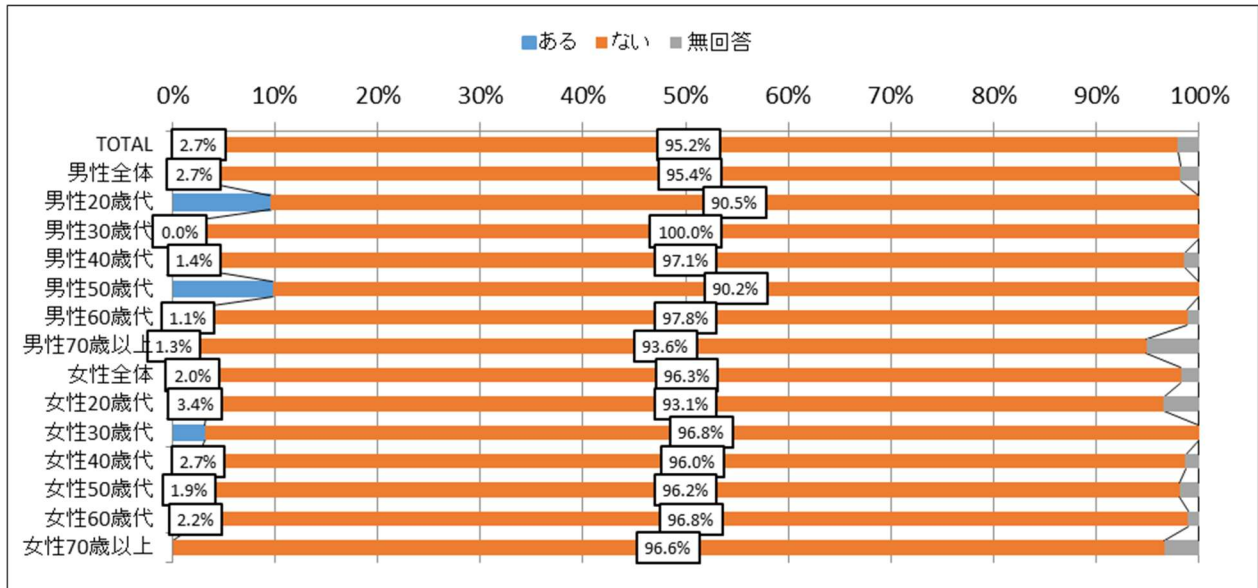


「ある」と回答した人の割合は 2.7%、「ない」と回答した人の割合は 95.2%となっており、この1年間で消費者トラブルに巻き込まれた人はほとんどいないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 2.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	765	2.7%	95.2%	2.1%	100.0%
男性全体	328	2.7%	95.4%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	21	9.5%	90.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	1.4%	97.1%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	9.8%	90.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	1.1%	97.8%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	1.3%	93.6%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	2.0%	96.3%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	93.1%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	3.2%	96.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	2.7%	96.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	1.9%	96.2%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	2.2%	96.8%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	0.0%	96.6%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	3.2%	95.1%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	2.0%	94.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	2.7%	95.9%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	85.2%	14.8%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	95.7%	4.3%	100.0%
八基地区	22	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	10.0%	85.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	1.1%	98.9%	0.0%	100.0%
南地区	52	5.8%	94.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	2.3%	97.7%	0.0%	100.0%
川本地区	50	0.0%	98.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	2.9%	95.7%	1.4%	100.0%
無回答	19	10.5%	78.9%	10.5%	100.0%

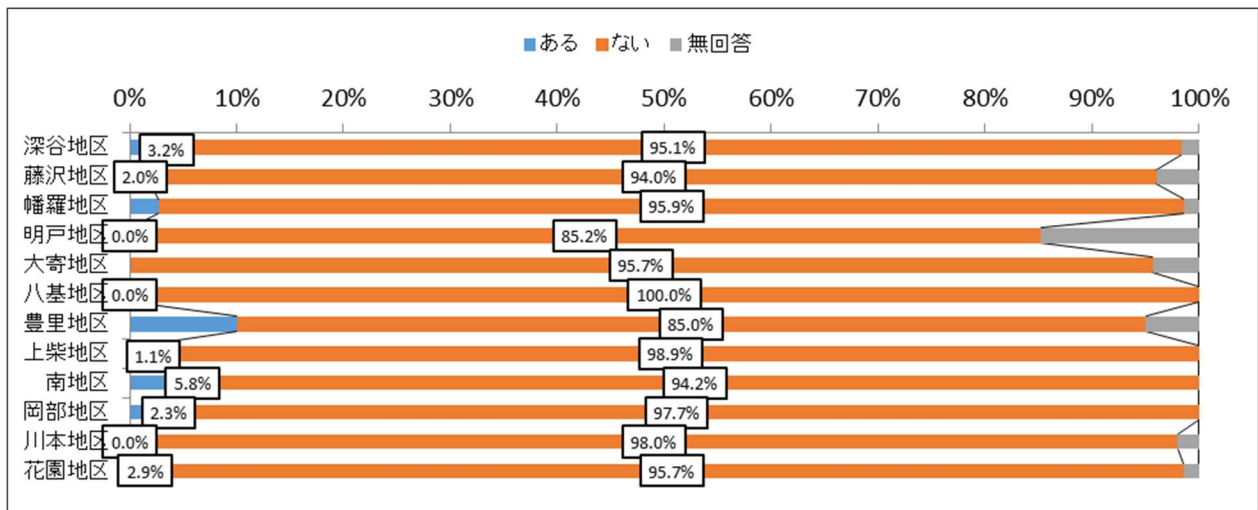
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 2.7%であるのに対して、女性は 2.0%となっています。

また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (0.0%) であり、女性が 70 歳以上 (0.0%) となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が 50 歳代 (9.8%) であり、女性が 20 歳代 (3.4%) となっています。

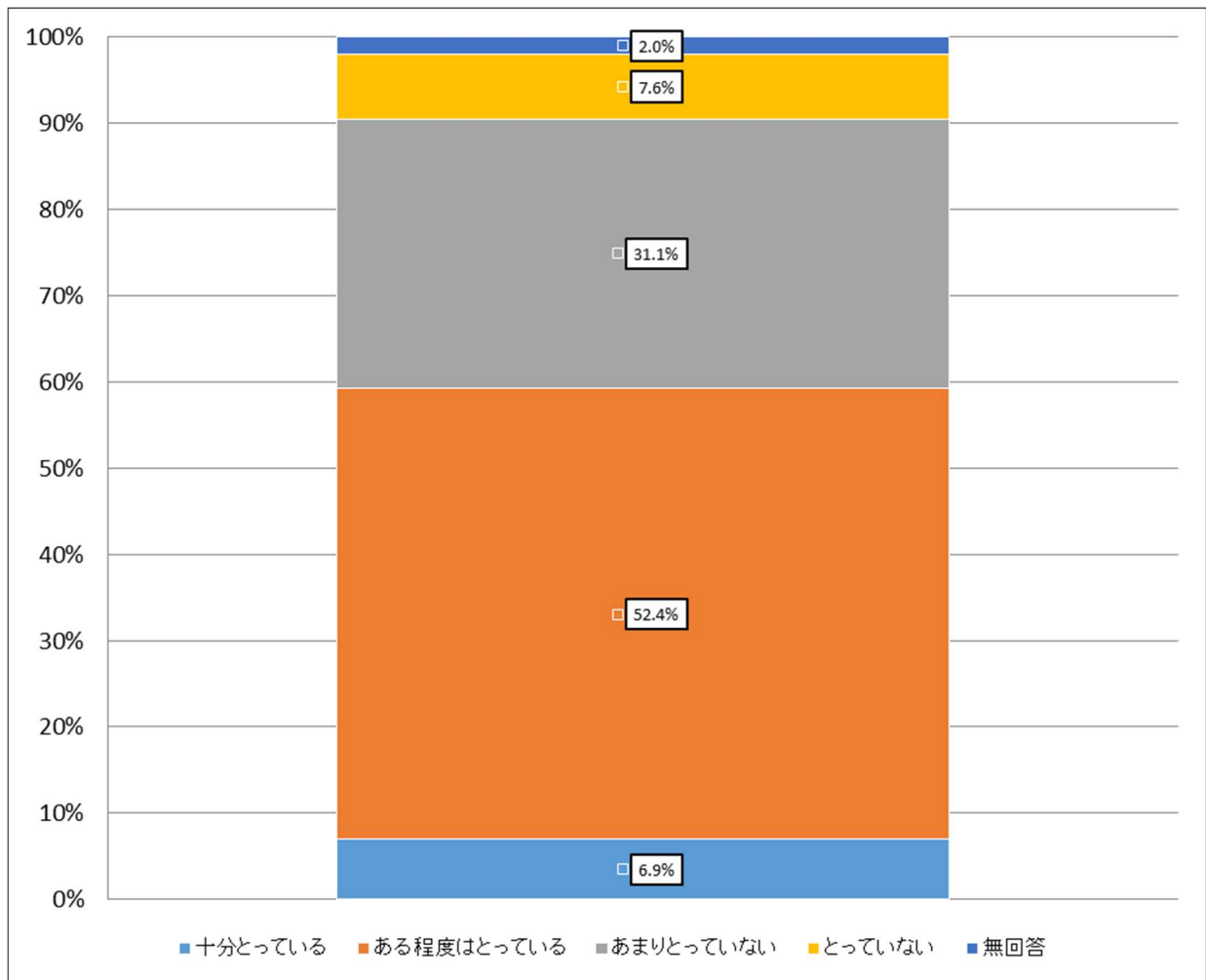
## ➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区、大寄地区、八基地区、川本地区 (0.0%) の 4 地区であり、次いで上柴地区 (1.1%) となっています。最も多いのは、豊里地区 (10.0%) であり、次いで南地区 (5.8%) となっています。



## 日ごろ、防犯対策をとっていますか。



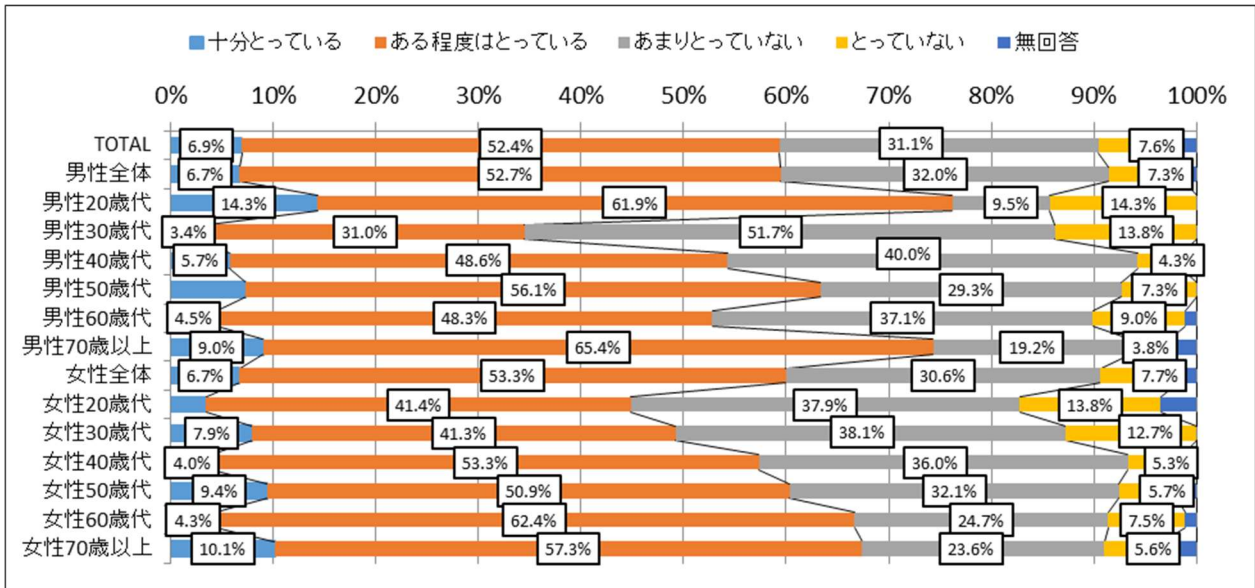
「ある程度はとっている」と回答した人の割合が 52.4%と最も多く、次いで「あまりとっていない」と回答した人の割合が 31.1%、「とっていない」と回答した人の割合が 7.6%、「十分とっている」と回答した人の割合が最も少なく 6.9%となっています。

「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は 59.3%であり、市民の約 6 割は、日ごろから防犯対策をとっていることがうかがえます。



母集団		十分とっている	ある程度はとっている	とっていない あまり	とっていない	無回答	合計
TOTAL	765	6.9%	52.4%	31.1%	7.6%	2.0%	100.0%
男性全体	328	6.7%	52.7%	32.0%	7.3%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	14.3%	61.9%	9.5%	14.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	31.0%	51.7%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	5.7%	48.6%	40.0%	4.3%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	7.3%	56.1%	29.3%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	4.5%	48.3%	37.1%	9.0%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	9.0%	65.4%	19.2%	3.8%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	6.7%	53.3%	30.6%	7.7%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	41.4%	37.9%	13.8%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	7.9%	41.3%	38.1%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	4.0%	53.3%	36.0%	5.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	9.4%	50.9%	32.1%	5.7%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	4.3%	62.4%	24.7%	7.5%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	10.1%	57.3%	23.6%	5.6%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	4.3%	53.0%	28.6%	12.4%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	8.0%	50.0%	32.0%	6.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	6.8%	61.6%	23.3%	6.8%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	14.8%	40.7%	29.6%	3.7%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	43.5%	30.4%	13.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	40.9%	50.0%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	45.0%	35.0%	10.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	6.9%	57.5%	28.7%	6.9%	0.0%	100.0%
南地区	52	5.8%	67.3%	25.0%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	4.6%	48.3%	43.7%	3.4%	0.0%	100.0%
川本地区	50	6.0%	60.0%	26.0%	6.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	42.9%	37.1%	8.6%	1.4%	100.0%
無回答	19	21.1%	36.8%	21.1%	5.3%	15.8%	100.0%

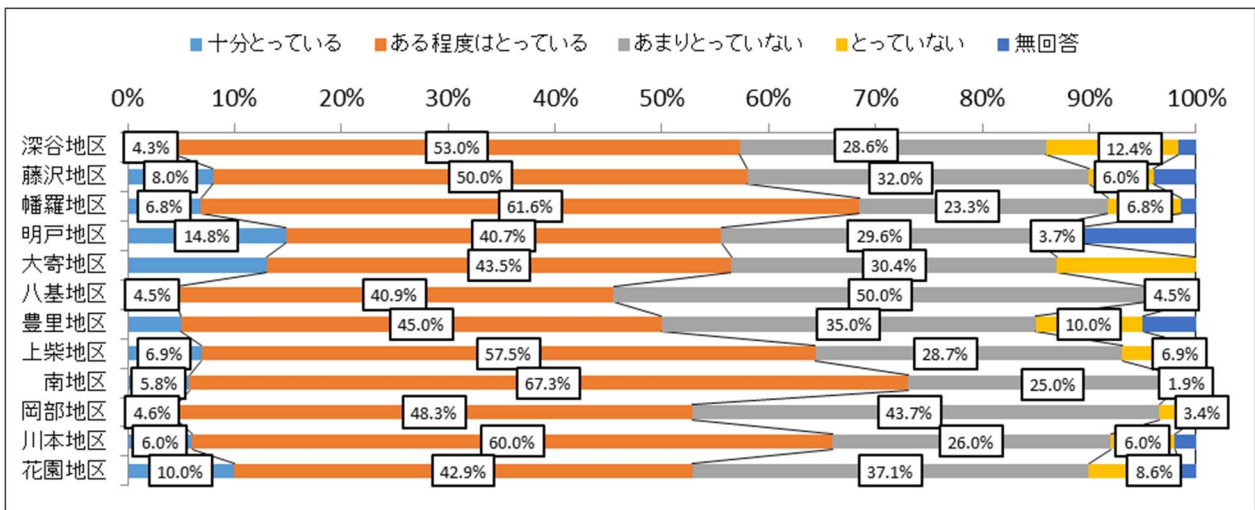
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は男性が59.5%であるのに対して、女性は60.0%となっています。

また、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(34.5%)、女性が20歳代(44.8%)であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代(76.2%)、女性が70歳以上(67.4%)となっています。

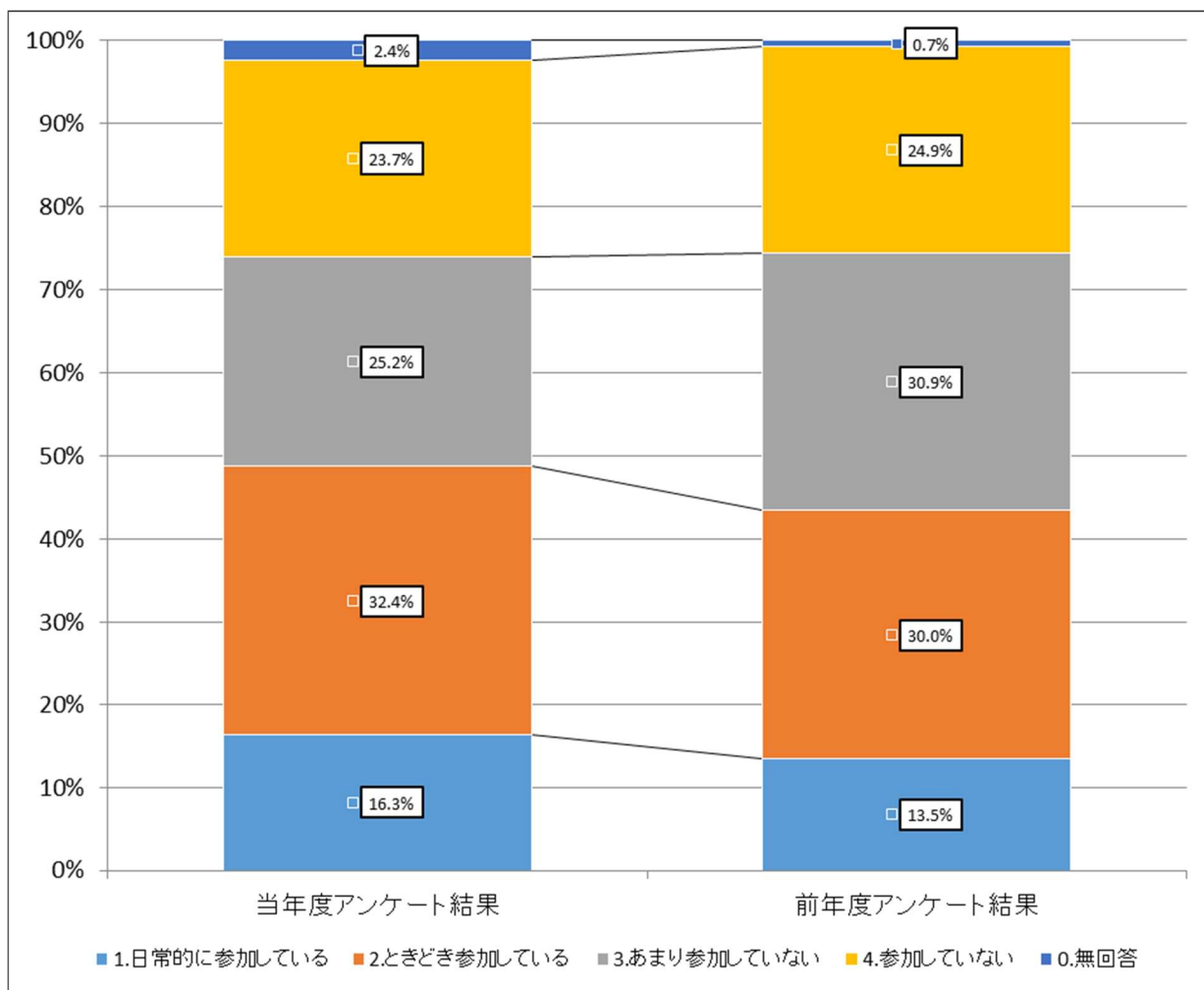
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(45.5%)であり、次いで豊里地区(50.0%)となっています。最も多いのは、南地区(73.1%)であり、次いで幡羅地区(68.5%)となっています。

### ③絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。



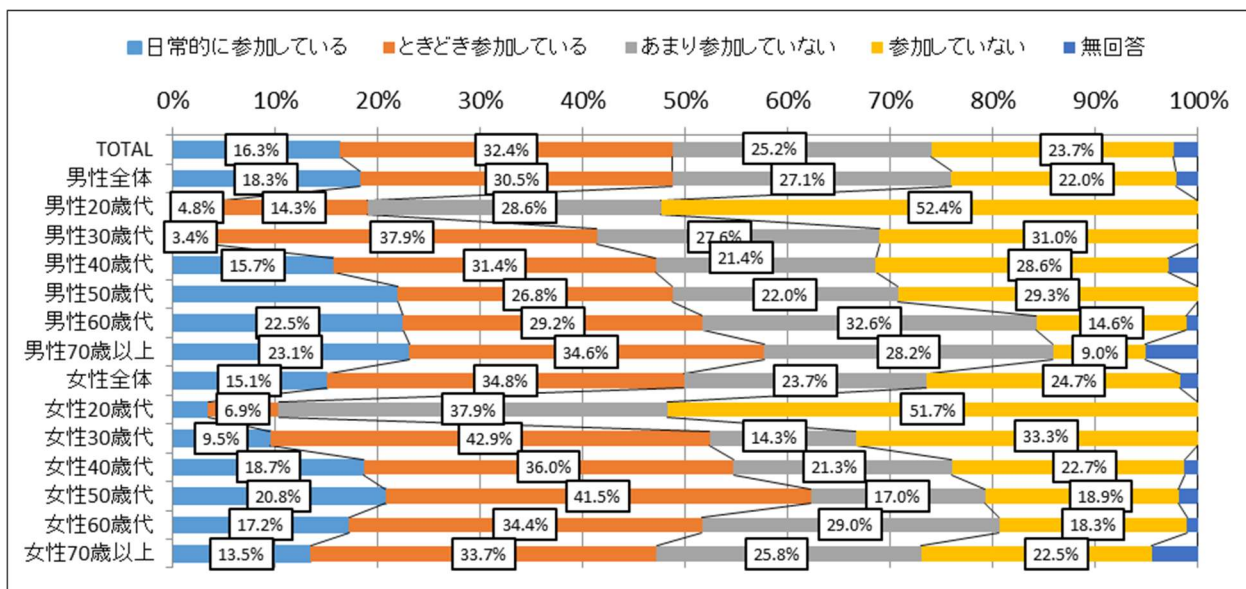
「ときどき参加している」と回答した人の割合が 32.4%と最も多く、次いで「あまり参加していない」と回答した人の割合が 25.2%、「参加していない」と回答した人の割合が 23.7%、「日常的に参加している」と回答した人の割合は最も少なく 16.3%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 48.8%であり、自治会や町内会での活動などの地域活動に参加している市民は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 43.4%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	765	16.3%	32.4%	25.2%	23.7%	2.4%	100.0%
男性全体	328	18.3%	30.5%	27.1%	22.0%	2.1%	100.0%
男性 20 歳代	21	4.8%	14.3%	28.6%	52.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	37.9%	27.6%	31.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	15.7%	31.4%	21.4%	28.6%	2.9%	100.0%
男性 50 歳代	41	22.0%	26.8%	22.0%	29.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	22.5%	29.2%	32.6%	14.6%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	23.1%	34.6%	28.2%	9.0%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	15.1%	34.8%	23.7%	24.7%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	6.9%	37.9%	51.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	9.5%	42.9%	14.3%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	18.7%	36.0%	21.3%	22.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	20.8%	41.5%	17.0%	18.9%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	17.2%	34.4%	29.0%	18.3%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	13.5%	33.7%	25.8%	22.5%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	7.6%	27.0%	28.1%	35.1%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	22.0%	36.0%	16.0%	20.0%	6.0%	100.0%
幡羅地区	73	16.4%	43.8%	21.9%	16.4%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	29.6%	29.6%	11.1%	18.5%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	52.2%	21.7%	8.7%	4.3%	100.0%
八基地区	22	45.5%	18.2%	31.8%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	40.0%	25.0%	20.0%	10.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	25.3%	31.0%	32.2%	0.0%	100.0%
南地区	52	7.7%	40.4%	30.8%	21.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	18.4%	36.8%	23.0%	21.8%	0.0%	100.0%
川本地区	50	22.0%	16.0%	34.0%	24.0%	4.0%	100.0%
花園地区	70	22.9%	44.3%	21.4%	11.4%	0.0%	100.0%
無回答	19	10.5%	26.3%	15.8%	31.6%	15.8%	100.0%

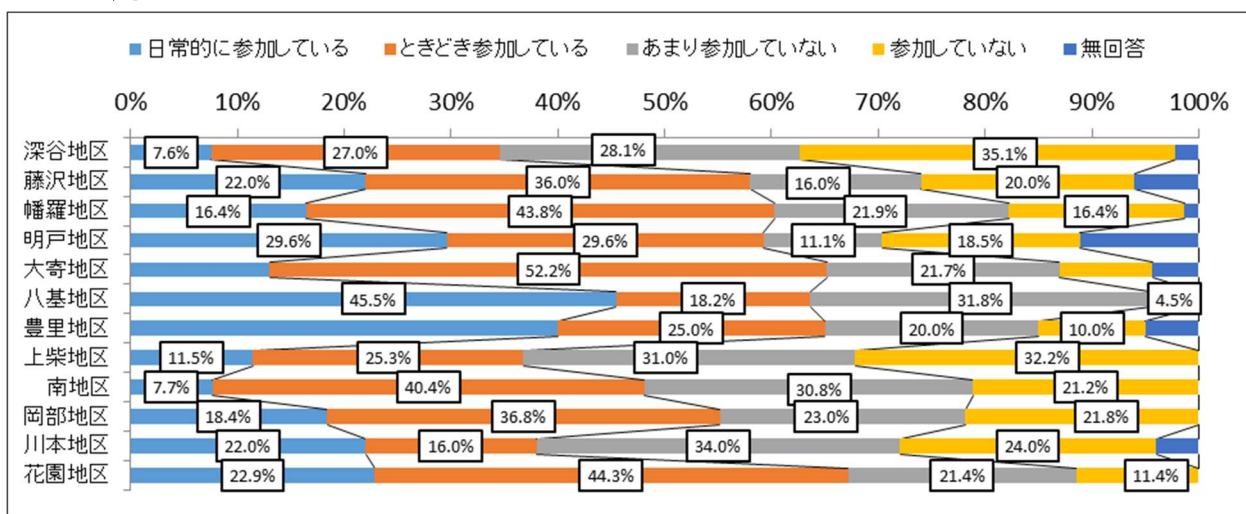
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は男性が48.8%であるのに対して、女性は49.9%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性19.0%、女性10.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上（57.7%）、女性が50歳代（62.3%）となっています。

## ➤ 地区別

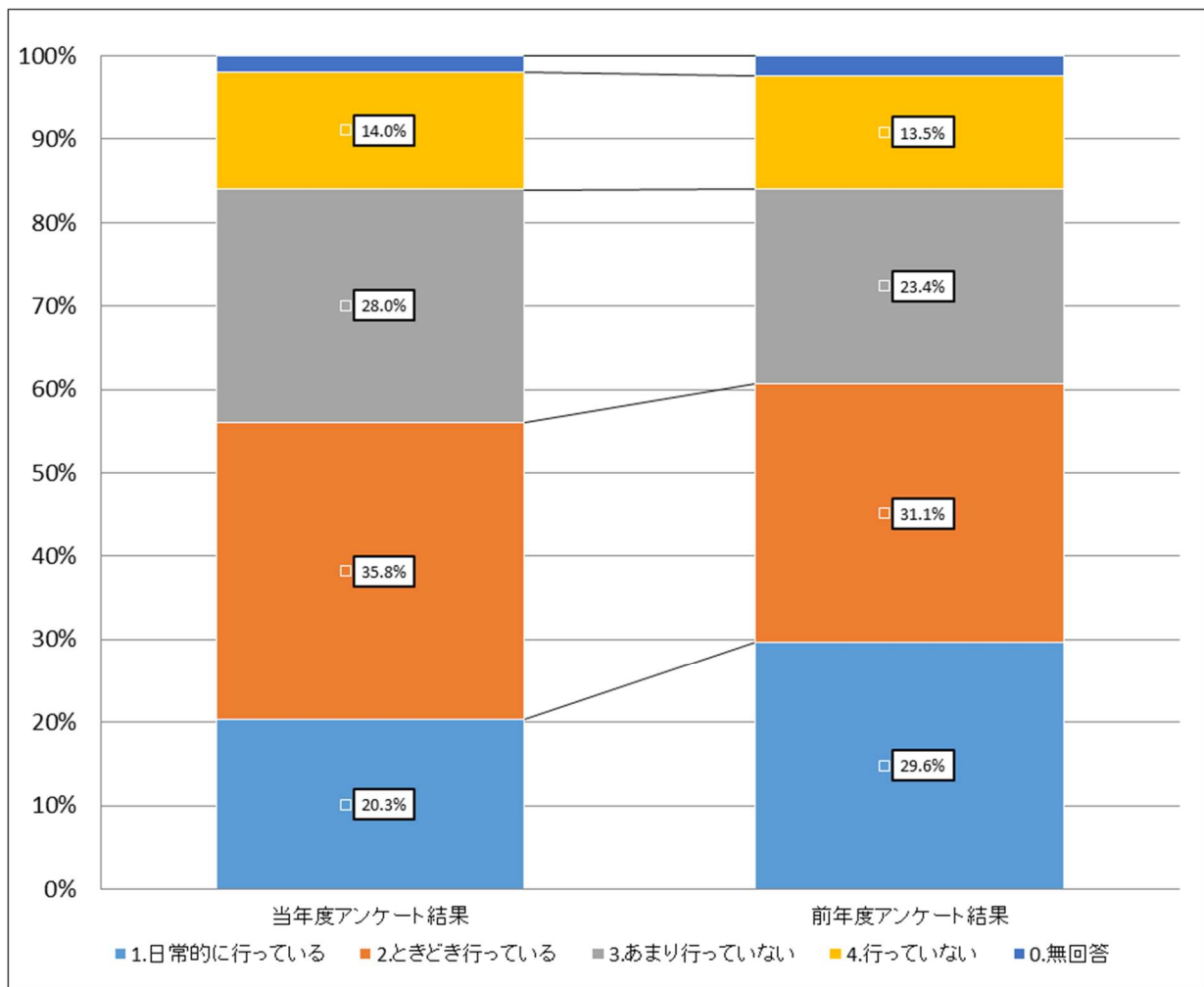


地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区（34.6%）であり、次いで上柴地区（36.8%）となっています。最も多いのは、花園地区（67.1%）であり、次いで大寄地区（65.2%）となっています。



#### ④生活環境の保全と配慮（5. 問6～8）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



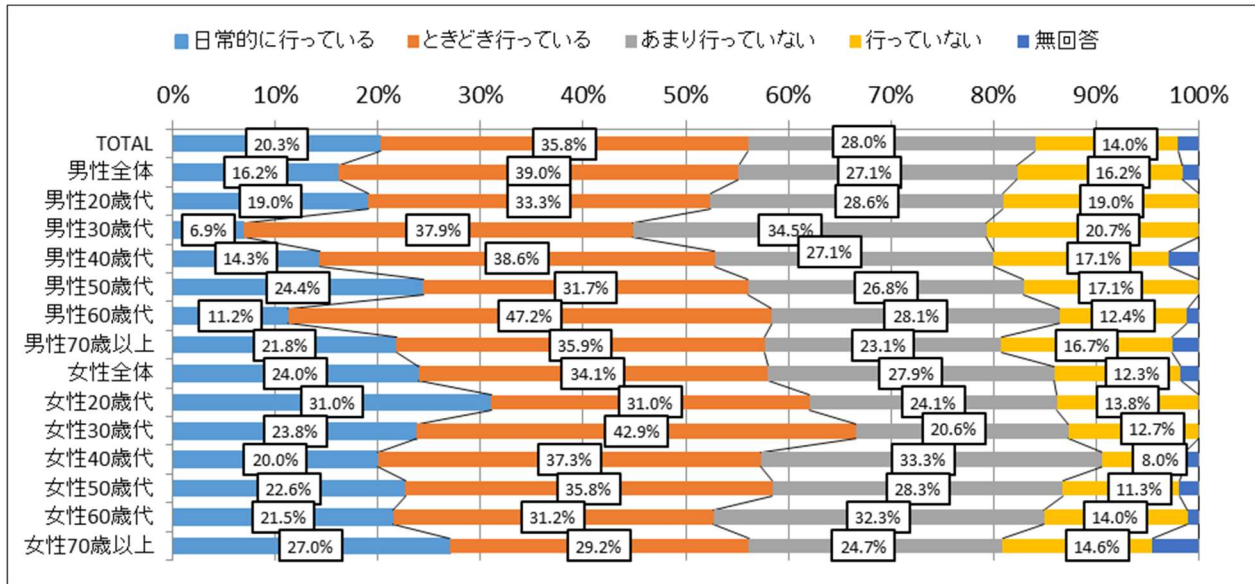
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 35.8%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 28.0%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 20.3%と、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 14.0%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、56.1%であり、6割近くの方が、環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、60.7%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	765	20.3%	35.8%	28.0%	14.0%	2.0%	100.0%
男性全体	328	16.2%	39.0%	27.1%	16.2%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	19.0%	33.3%	28.6%	19.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	6.9%	37.9%	34.5%	20.7%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	14.3%	38.6%	27.1%	17.1%	2.9%	100.0%
男性50歳代	41	24.4%	31.7%	26.8%	17.1%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	11.2%	47.2%	28.1%	12.4%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	21.8%	35.9%	23.1%	16.7%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	24.0%	34.1%	27.9%	12.3%	1.7%	100.0%
女性20歳代	29	31.0%	31.0%	24.1%	13.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	23.8%	42.9%	20.6%	12.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	75	20.0%	37.3%	33.3%	8.0%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	22.6%	35.8%	28.3%	11.3%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	21.5%	31.2%	32.3%	14.0%	1.1%	100.0%
女性70歳以上	89	27.0%	29.2%	24.7%	14.6%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	17.8%	30.8%	29.2%	20.5%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	22.0%	38.0%	24.0%	12.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	19.2%	49.3%	26.0%	4.1%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	29.6%	25.9%	18.5%	18.5%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	8.7%	56.5%	17.4%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	18.2%	31.8%	40.9%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	10.0%	40.0%	30.0%	15.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	26.4%	29.9%	29.9%	13.8%	0.0%	100.0%
南地区	52	23.1%	34.6%	25.0%	15.4%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	18.4%	41.4%	27.6%	12.6%	0.0%	100.0%
川本地区	50	24.0%	34.0%	24.0%	14.0%	4.0%	100.0%
花園地区	70	17.1%	35.7%	37.1%	10.0%	0.0%	100.0%
無回答	19	31.6%	26.3%	21.1%	5.3%	15.8%	100.0%

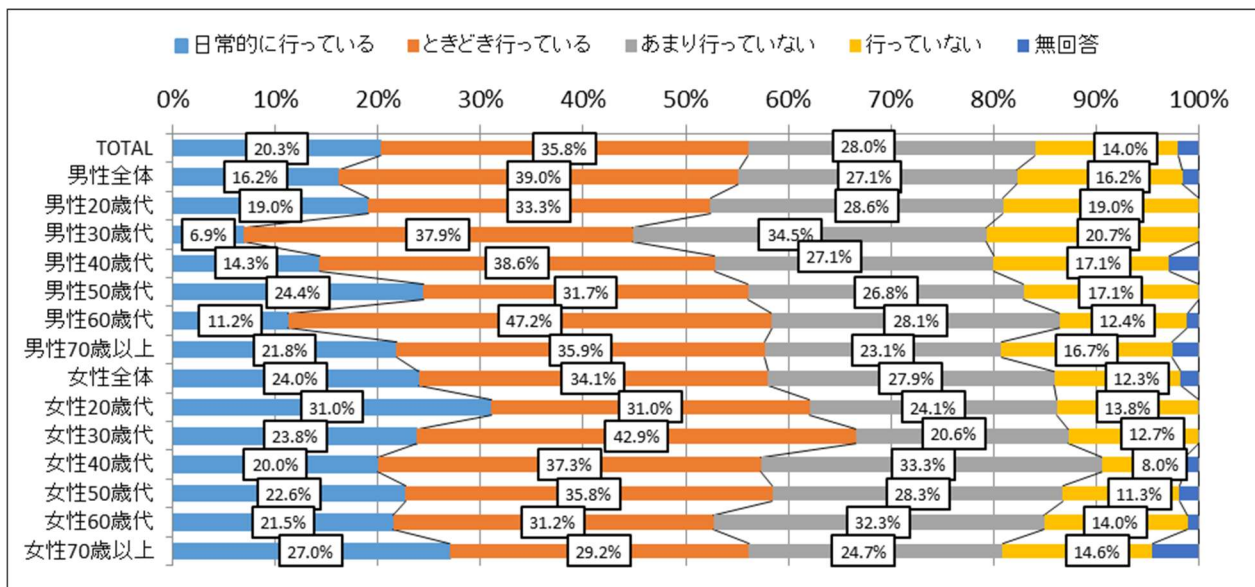
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が55.2%であるのに対して、女性は58.0%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代（44.8%）、女性は60歳代（52.7%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性は60歳代（58.4%）、女性は30歳代（66.7%）となっています。

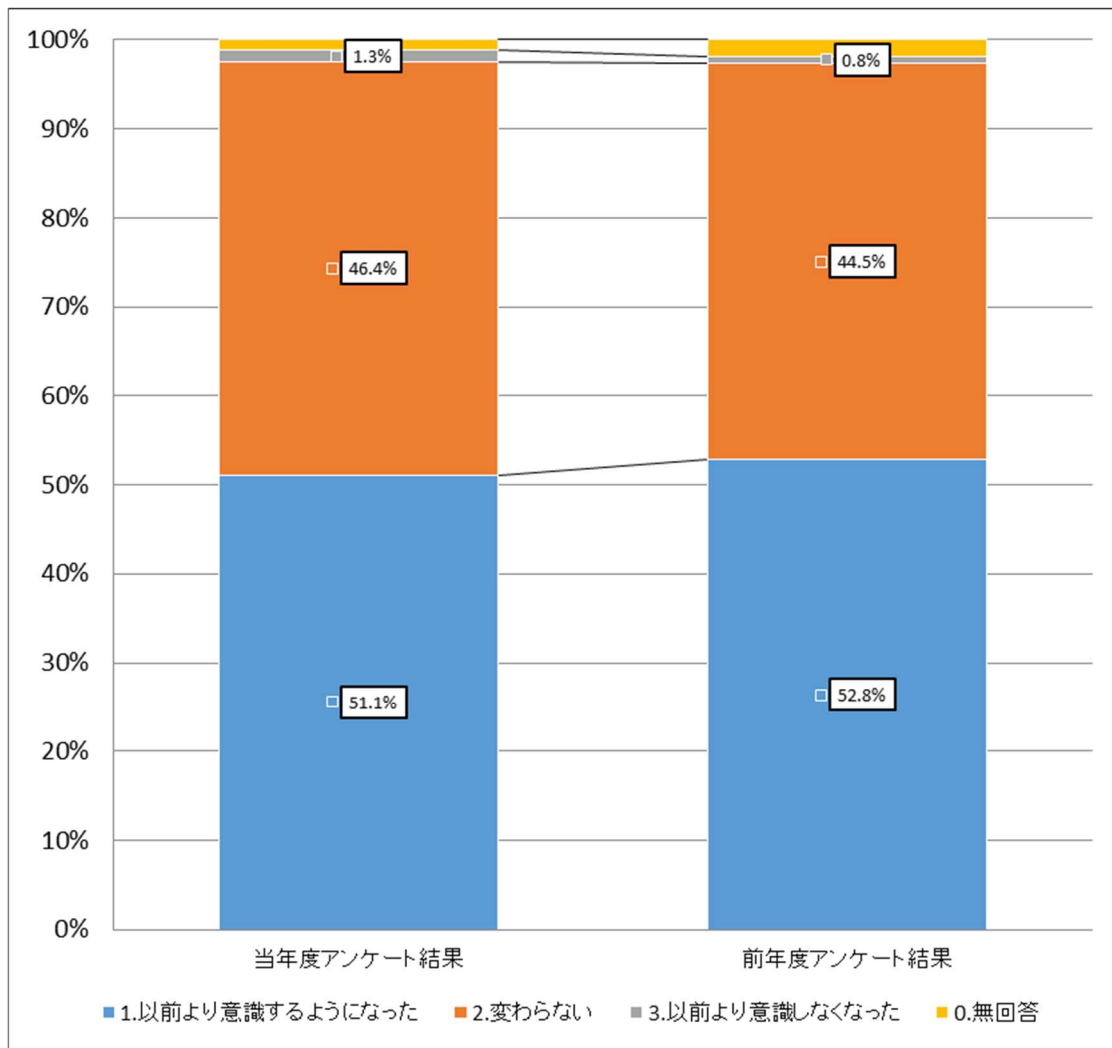
## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区（48.6%）であり、次いで八基地区・豊里地区（50.0%）となっています。最も多い地区は、幡羅地区（68.5%）であり、次いで大寄地区（65.2%）となっています。



**環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。**



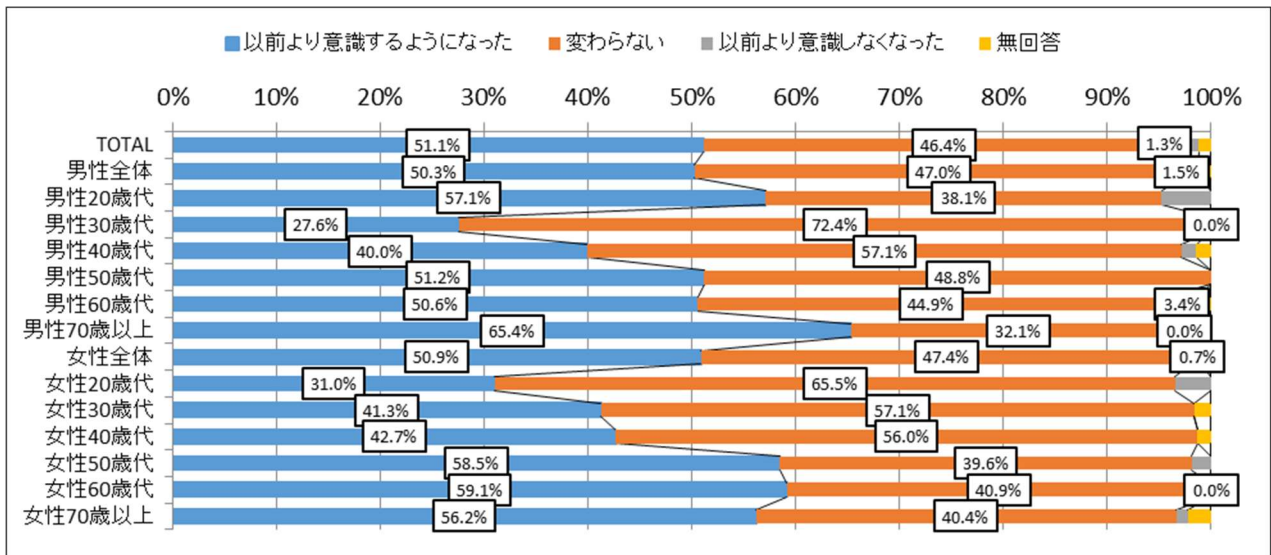
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 51.1%と最も多く、次いで、「変わらない」と回答した人の割合が 46.4%となっています。

「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合は 1.3%とごくわずかであり、多くの市民が環境問題について、関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 52.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化がないことがうかがえます。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	765	51.1%	46.4%	1.3%	1.2%	100.0%
男性全体	328	50.3%	47.0%	1.5%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	27.6%	72.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	40.0%	57.1%	1.4%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	51.2%	48.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	50.6%	44.9%	3.4%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	65.4%	32.1%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
女性全体	405	50.9%	47.4%	0.7%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	31.0%	65.5%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	41.3%	57.1%	0.0%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	42.7%	56.0%	0.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	58.5%	39.6%	1.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	59.1%	40.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	89	56.2%	40.4%	1.1%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	47.0%	50.3%	1.6%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	50.0%	48.0%	2.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	60.3%	38.4%	0.0%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	66.7%	25.9%	0.0%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	60.9%	30.4%	8.7%	0.0%	100.0%
八基地区	22	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	44.8%	52.9%	2.3%	0.0%	100.0%
南地区	52	40.4%	57.7%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	50.6%	46.0%	1.1%	2.3%	100.0%
川本地区	50	46.0%	54.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	60.0%	38.6%	0.0%	1.4%	100.0%
無回答	19	73.7%	21.1%	0.0%	5.3%	100.0%

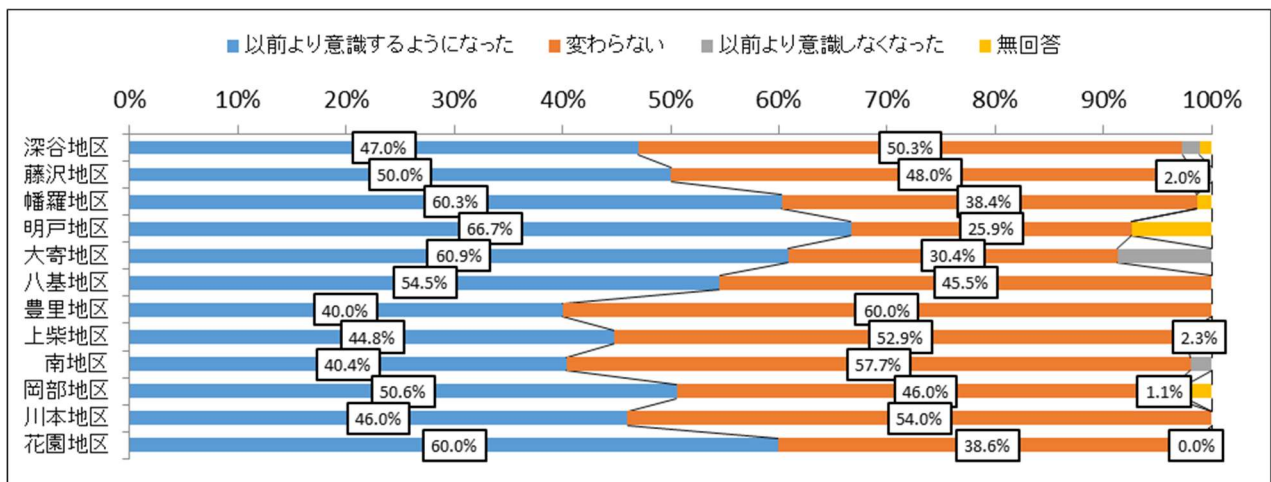
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が50.3%であるのに対して、女性は50.9%となっています。

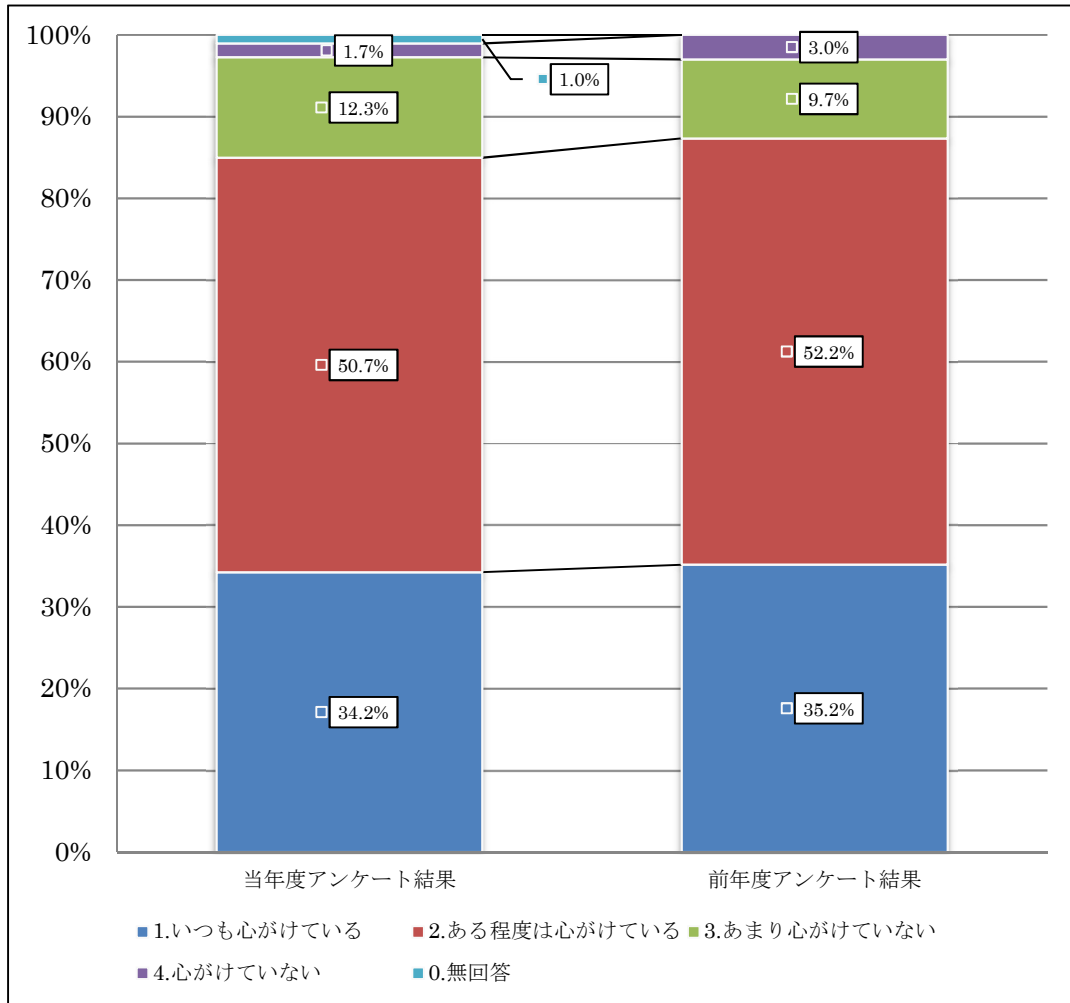
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代(27.6%)、女性は20歳代(31.0%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は70歳代以上(65.4%)、女性は60歳代(59.1%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区(40.0%)であり、次いで南地区(40.4%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(66.7%)であり、次いで大寄地区(60.9%)となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



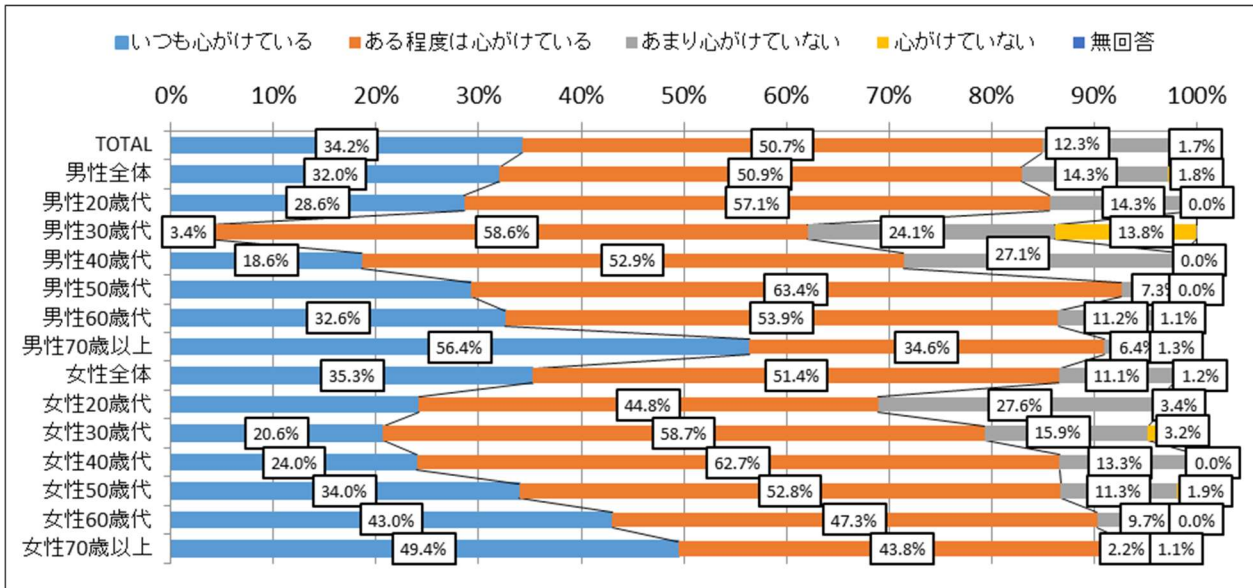
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 50.7%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 34.2%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 12.3%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.7%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 85.1%であり、大多数の市民がごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 87.4%であり、前年度アンケートと比較して、若干減少した結果となっています。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	765	34.2%	50.7%	12.3%	1.7%	1.0%	100.0%
男性全体	328	32.0%	50.9%	14.3%	1.8%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	21	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	58.6%	24.1%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	18.6%	52.9%	27.1%	0.0%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	29.3%	63.4%	7.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	32.6%	53.9%	11.2%	1.1%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	56.4%	34.6%	6.4%	1.3%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	35.3%	51.4%	11.1%	1.2%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	44.8%	27.6%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	20.6%	58.7%	15.9%	3.2%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	24.0%	62.7%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	34.0%	52.8%	11.3%	1.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	43.0%	47.3%	9.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	89	49.4%	43.8%	2.2%	1.1%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	36.8%	46.5%	13.0%	2.2%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	34.0%	48.0%	16.0%	2.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	34.2%	52.1%	12.3%	1.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	44.4%	40.7%	3.7%	3.7%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	39.1%	47.8%	4.3%	8.7%	0.0%	100.0%
八基地区	22	27.3%	59.1%	9.1%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	34.5%	44.8%	20.7%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	52	30.8%	61.5%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	25.3%	62.1%	10.3%	1.1%	1.1%	100.0%
川本地区	50	34.0%	50.0%	14.0%	2.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	27.1%	58.6%	11.4%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	19	57.9%	31.6%	5.3%	0.0%	5.3%	100.0%

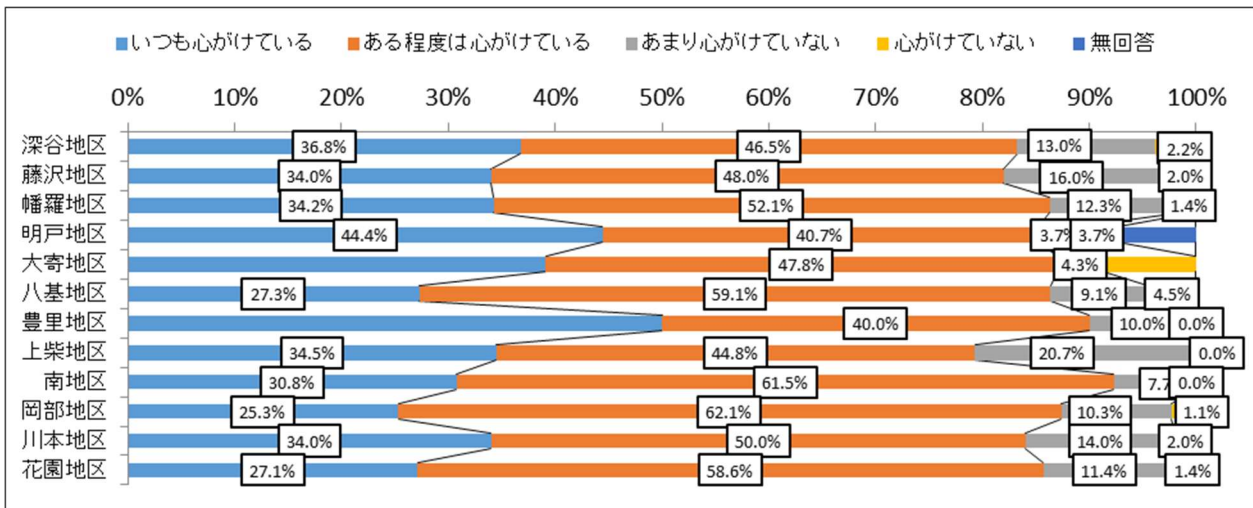
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は男性が82.9%であるのに対して、女性は86.7%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代(62.1%)、女性は20歳代(69.0%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は50歳代(92.7%)、女性は70歳以上(93.3%)となっています。

➤ 地区別

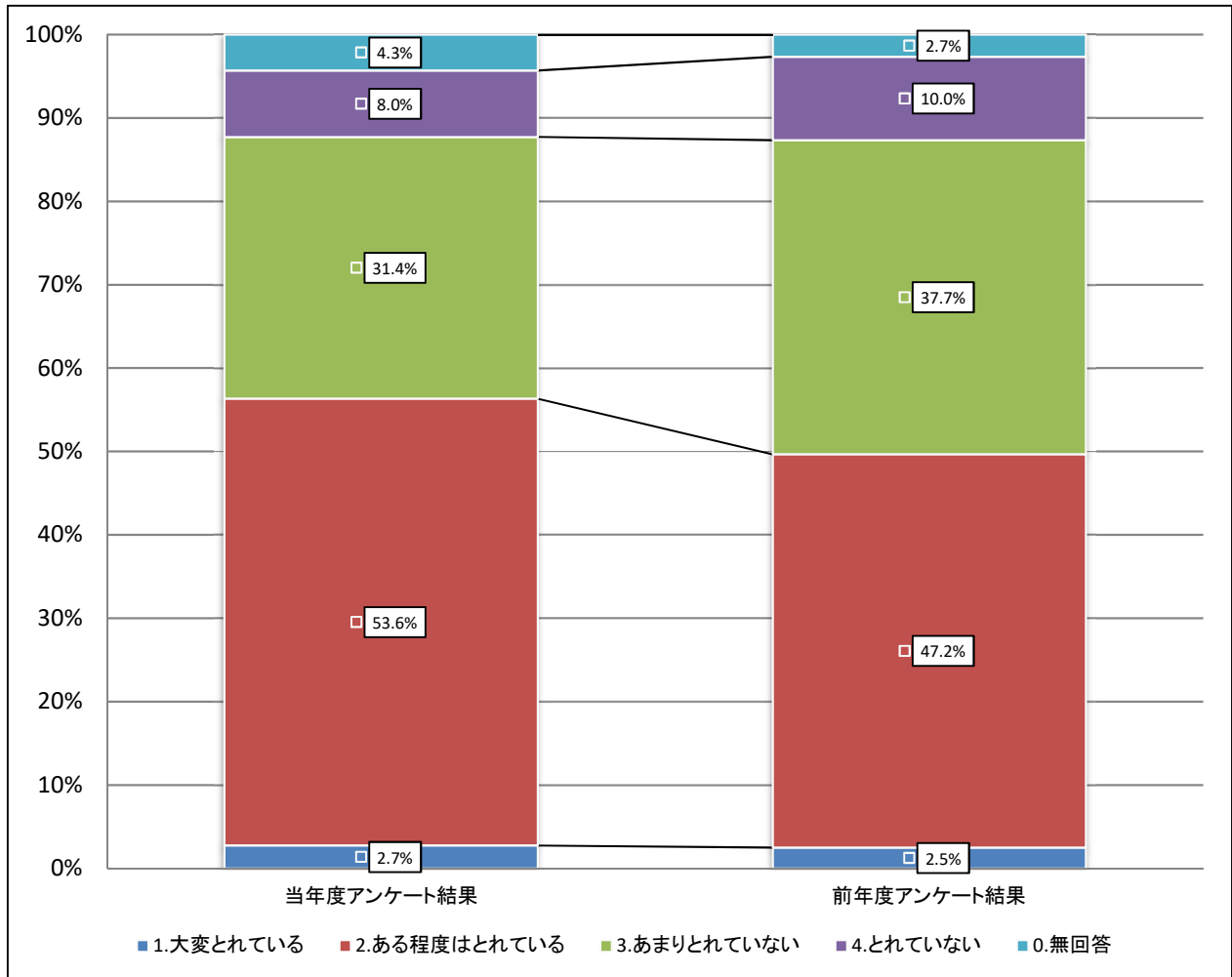


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区(79.3%)であり、次いで藤沢地区(82.0%)となっています。最も多い地区は、南地区(92.3%)であり、次いで豊里地区(90.0%)となっています。

(6) 都市・生活基盤について

①快適な空間と景観づくり（6. 問1～4）

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 53.6%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 31.4%、「とれていない」と回答した人の割合が 8.0%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 2.7%となっています。

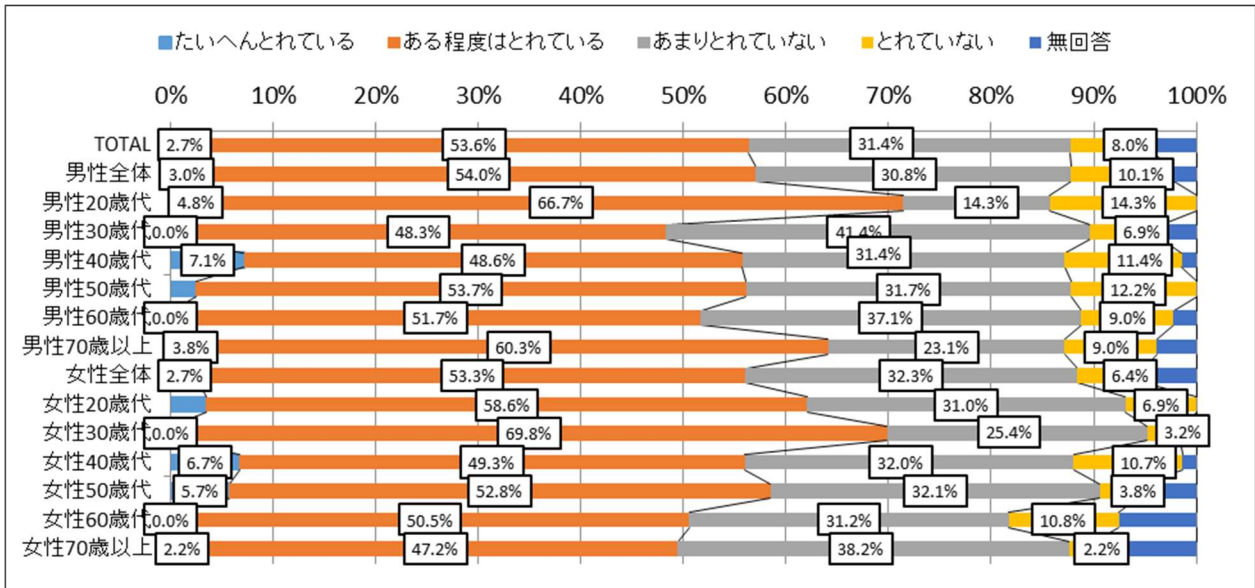
「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 56.3%であり、過半数の人が、土地利用について調和がとれていると考えていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 47.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きく増加した結果となっています。



母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	765	2.7%	53.6%	31.4%	8.0%	4.3%	100.0%
男性全体	328	3.0%	54.0%	30.8%	10.1%	2.1%	100.0%
男性20歳代	21	4.8%	66.7%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	0.0%	48.3%	41.4%	6.9%	3.4%	100.0%
男性40歳代	70	7.1%	48.6%	31.4%	11.4%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	2.4%	53.7%	31.7%	12.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	0.0%	51.7%	37.1%	9.0%	2.2%	100.0%
男性70歳以上	78	3.8%	60.3%	23.1%	9.0%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	2.7%	53.3%	32.3%	6.4%	5.2%	100.0%
女性20歳代	29	3.4%	58.6%	31.0%	6.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	0.0%	69.8%	25.4%	3.2%	1.6%	100.0%
女性40歳代	75	6.7%	49.3%	32.0%	10.7%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	5.7%	52.8%	32.1%	3.8%	5.7%	100.0%
女性60歳代	93	0.0%	50.5%	31.2%	10.8%	7.5%	100.0%
女性70歳以上	89	2.2%	47.2%	38.2%	2.2%	10.1%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	2.2%	52.4%	30.3%	9.7%	5.4%	100.0%
藤沢地区	50	2.0%	54.0%	36.0%	8.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	5.5%	60.3%	27.4%	4.1%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	40.7%	29.6%	18.5%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	43.5%	30.4%	21.7%	4.3%	100.0%
八基地区	22	4.5%	50.0%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	0.0%	50.0%	35.0%	10.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	2.3%	62.1%	27.6%	2.3%	5.7%	100.0%
南地区	52	1.9%	40.4%	34.6%	17.3%	5.8%	100.0%
岡部地区	87	1.1%	57.5%	32.2%	5.7%	3.4%	100.0%
川本地区	50	8.0%	42.0%	40.0%	8.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	60.0%	31.4%	2.9%	4.3%	100.0%
無回答	19	5.3%	63.2%	21.1%	0.0%	10.5%	100.0%

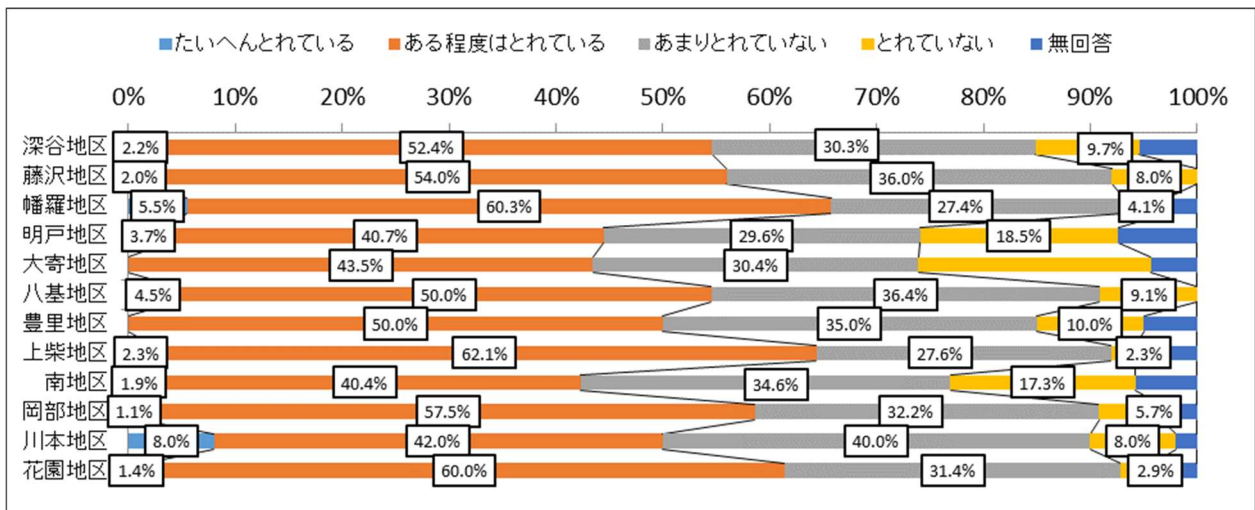
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は男性が57.0%であるのに対して、女性は56.0%となっています。

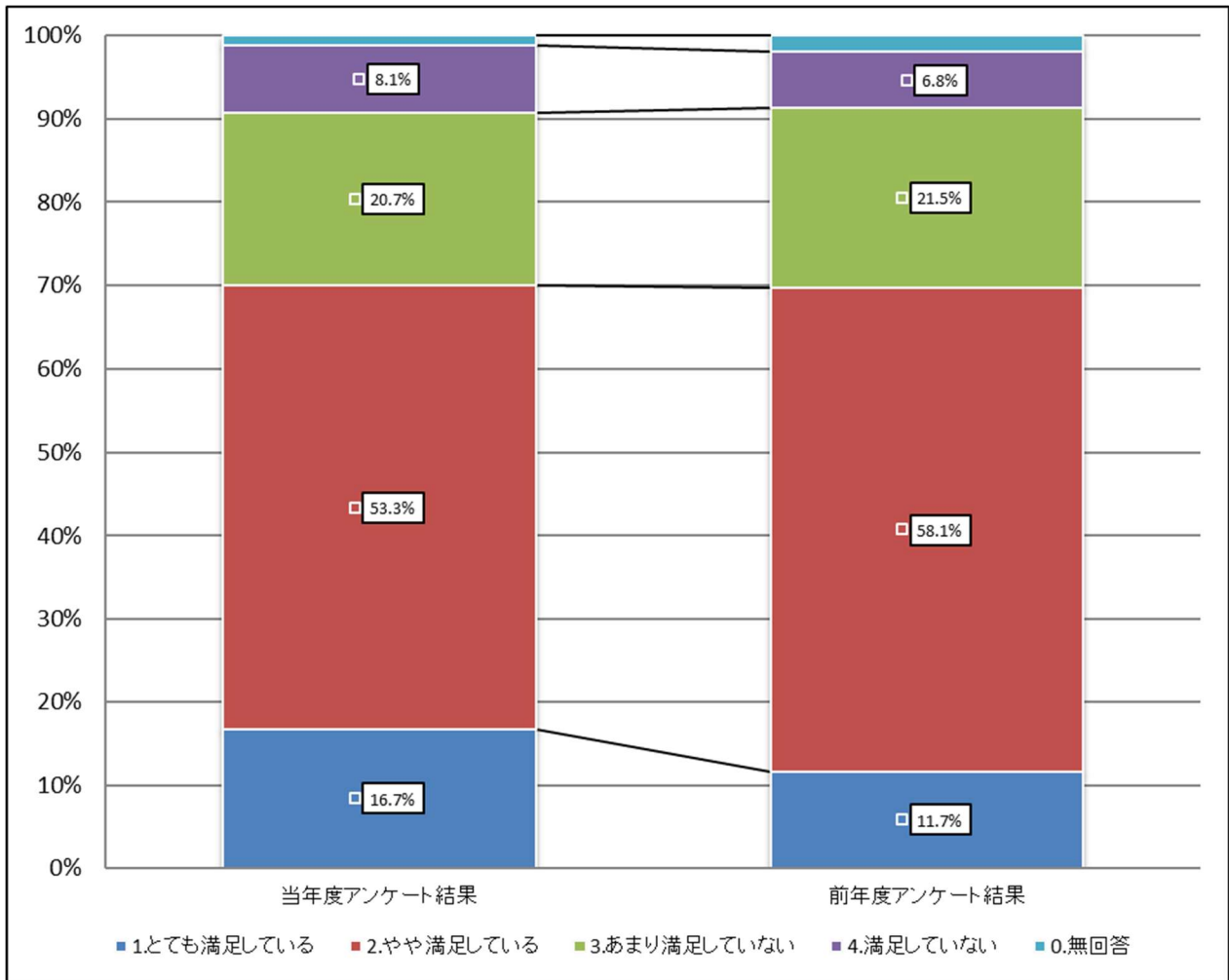
また、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代（48.3%）、女性は70歳以上（49.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（71.4%）、女性が30歳代（69.8%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区（42.3%）であり、次いで大寄地区（43.5%）となっています。最も多いのは、幡羅地区（65.8%）であり、次いで上柴地区（64.4%）となっています。

**お住まい周辺の住環境に満足していますか。**



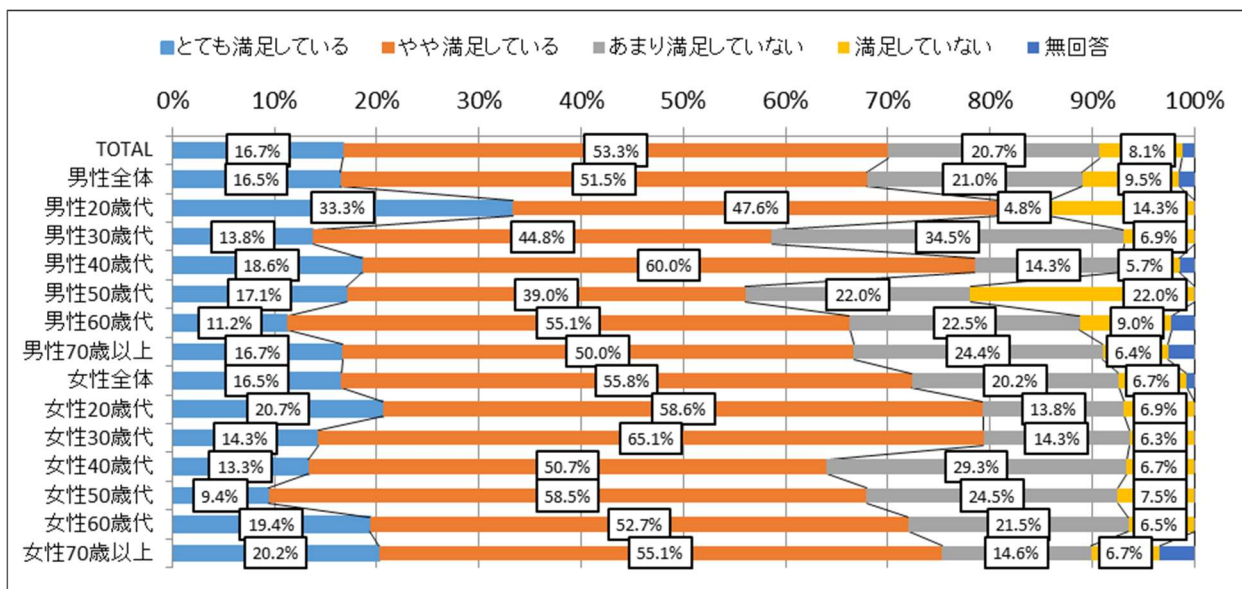
「やや満足している」と回答した人の割合が 53.3%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 20.7%、「とても満足している」と回答した人の割合が 16.7%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 8.1%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 70.1%であり、約 7 割の市民が、住まい周辺の住環境について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 69.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	765	16.7%	53.3%	20.7%	8.1%	1.2%	100.0%
男性全体	328	16.5%	51.5%	21.0%	9.5%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	33.3%	47.6%	4.8%	14.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	13.8%	44.8%	34.5%	6.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	18.6%	60.0%	14.3%	5.7%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	17.1%	39.0%	22.0%	22.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	11.2%	55.1%	22.5%	9.0%	2.2%	100.0%
男性70歳以上	78	16.7%	50.0%	24.4%	6.4%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	16.5%	55.8%	20.2%	6.7%	0.7%	100.0%
女性20歳代	29	20.7%	58.6%	13.8%	6.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	14.3%	65.1%	14.3%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	75	13.3%	50.7%	29.3%	6.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	9.4%	58.5%	24.5%	7.5%	0.0%	100.0%
女性60歳代	93	19.4%	52.7%	21.5%	6.5%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	89	20.2%	55.1%	14.6%	6.7%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	20.5%	50.8%	19.5%	7.0%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	6.0%	62.0%	24.0%	8.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	31.5%	54.8%	8.2%	5.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	51.9%	18.5%	14.8%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	4.3%	60.9%	17.4%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	50.0%	31.8%	13.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	20.0%	50.0%	20.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	21.8%	59.8%	13.8%	4.6%	0.0%	100.0%
南地区	52	17.3%	51.9%	17.3%	13.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	12.6%	52.9%	26.4%	6.9%	1.1%	100.0%
川本地区	50	16.0%	48.0%	28.0%	8.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	11.4%	61.4%	22.9%	4.3%	0.0%	100.0%
無回答	19	21.1%	42.1%	21.1%	10.5%	5.3%	100.0%

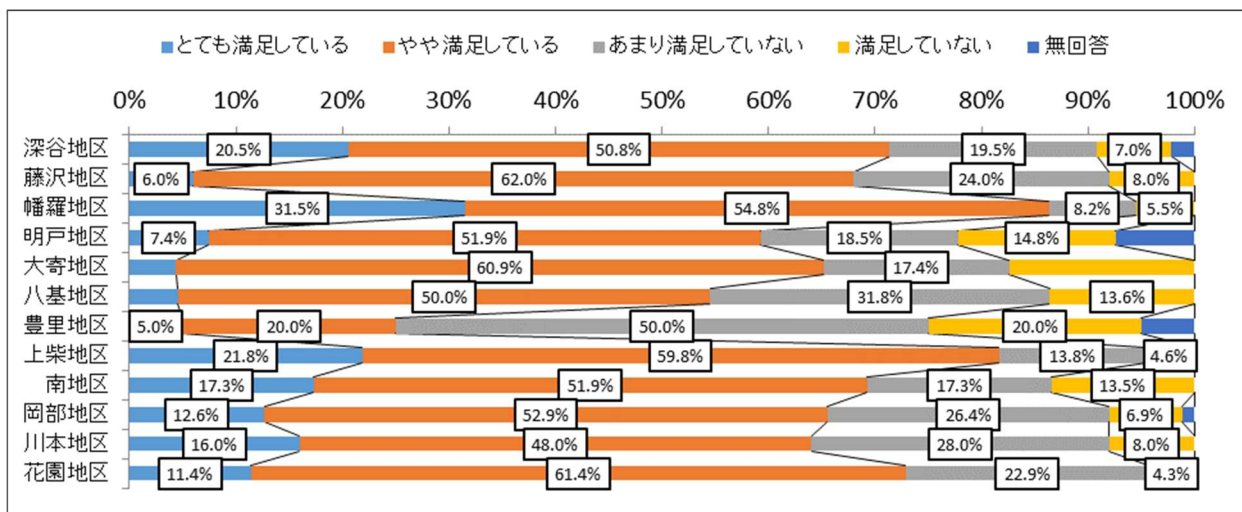
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が68.0%であるのに対して、女性は72.3%となっています。

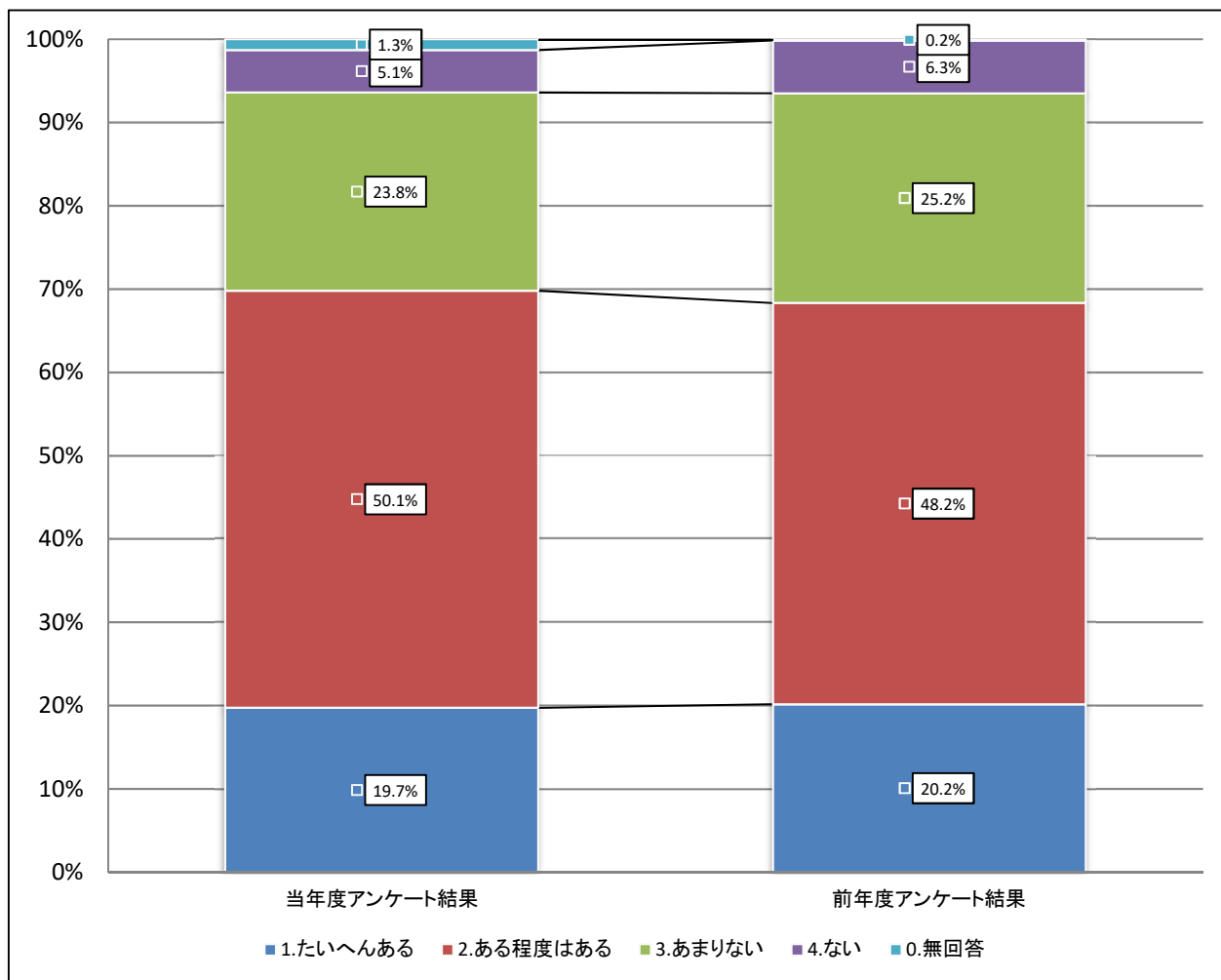
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は50歳代(56.1%)、女性は40歳代(64.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代(81.0%)、女性が30歳代(79.4%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(25.0%)であり、次いで八基地区(54.5%)となっています。最も多いのは、幡羅地区(86.3%)であり、次いで上柴地区(81.6%)となっています。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



「ある程度はある」と回答した人の割合が 50.1%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 23.8%、「たいへんある」と回答した人の割合が 19.7%、「ない」と回答した人の割合が最も少なく 5.1%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 69.8%であり、約 7 割の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。

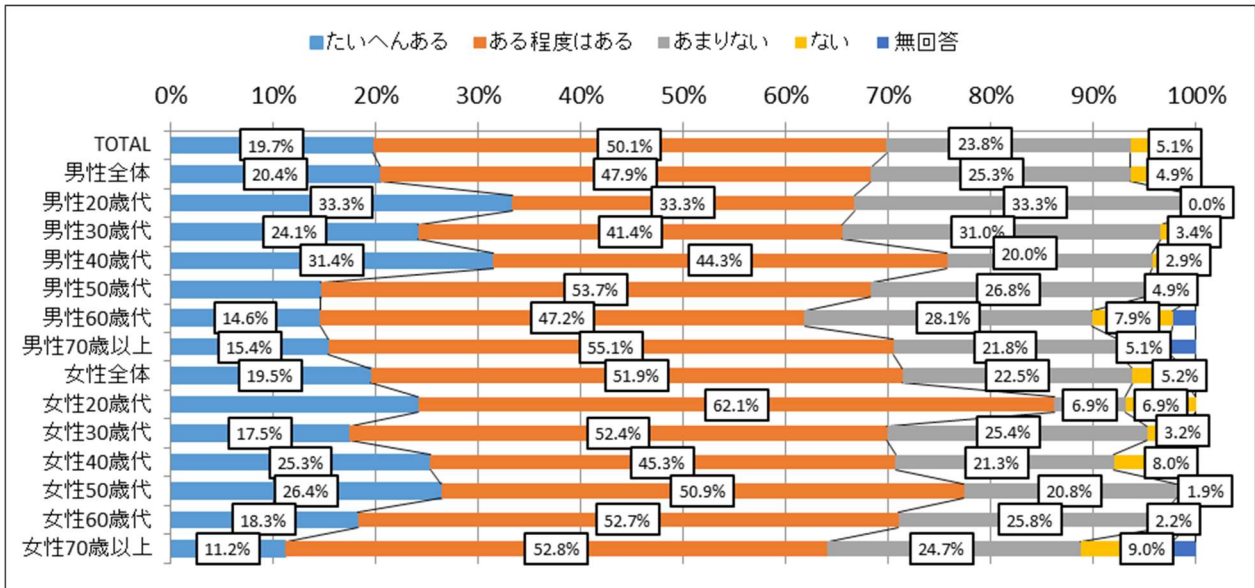
また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 68.4%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	765	19.7%	50.1%	23.8%	5.1%	1.3%	100.0%
男性全体	328	20.4%	47.9%	25.3%	4.9%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	21	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	24.1%	41.4%	31.0%	3.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	31.4%	44.3%	20.0%	2.9%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	14.6%	53.7%	26.8%	4.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	14.6%	47.2%	28.1%	7.9%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	15.4%	55.1%	21.8%	5.1%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	19.5%	51.9%	22.5%	5.2%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	62.1%	6.9%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	17.5%	52.4%	25.4%	3.2%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	25.3%	45.3%	21.3%	8.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	26.4%	50.9%	20.8%	1.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	18.3%	52.7%	25.8%	2.2%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	11.2%	52.8%	24.7%	9.0%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	10.8%	51.4%	27.0%	9.7%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	36.0%	48.0%	10.0%	6.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	13.7%	57.5%	27.4%	1.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	22.2%	40.7%	22.2%	3.7%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	30.4%	43.5%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
八基地区	22	27.3%	54.5%	9.1%	4.5%	4.5%	100.0%
豊里地区	20	45.0%	35.0%	15.0%	5.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	4.6%	56.3%	35.6%	2.3%	1.1%	100.0%
南地区	52	15.4%	57.7%	21.2%	5.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	21.8%	42.5%	28.7%	5.7%	1.1%	100.0%
川本地区	50	44.0%	46.0%	8.0%	2.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	22.9%	54.3%	18.6%	2.9%	1.4%	100.0%
無回答	19	31.6%	26.3%	36.8%	0.0%	5.3%	100.0%



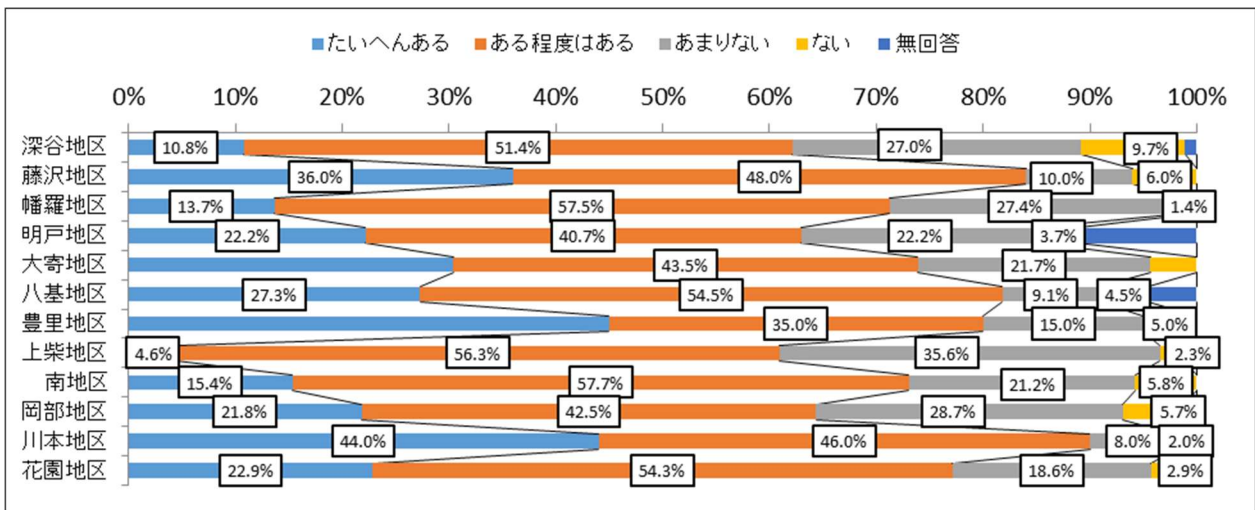
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が68.3%であるのに対して、女性は71.4%となっています。

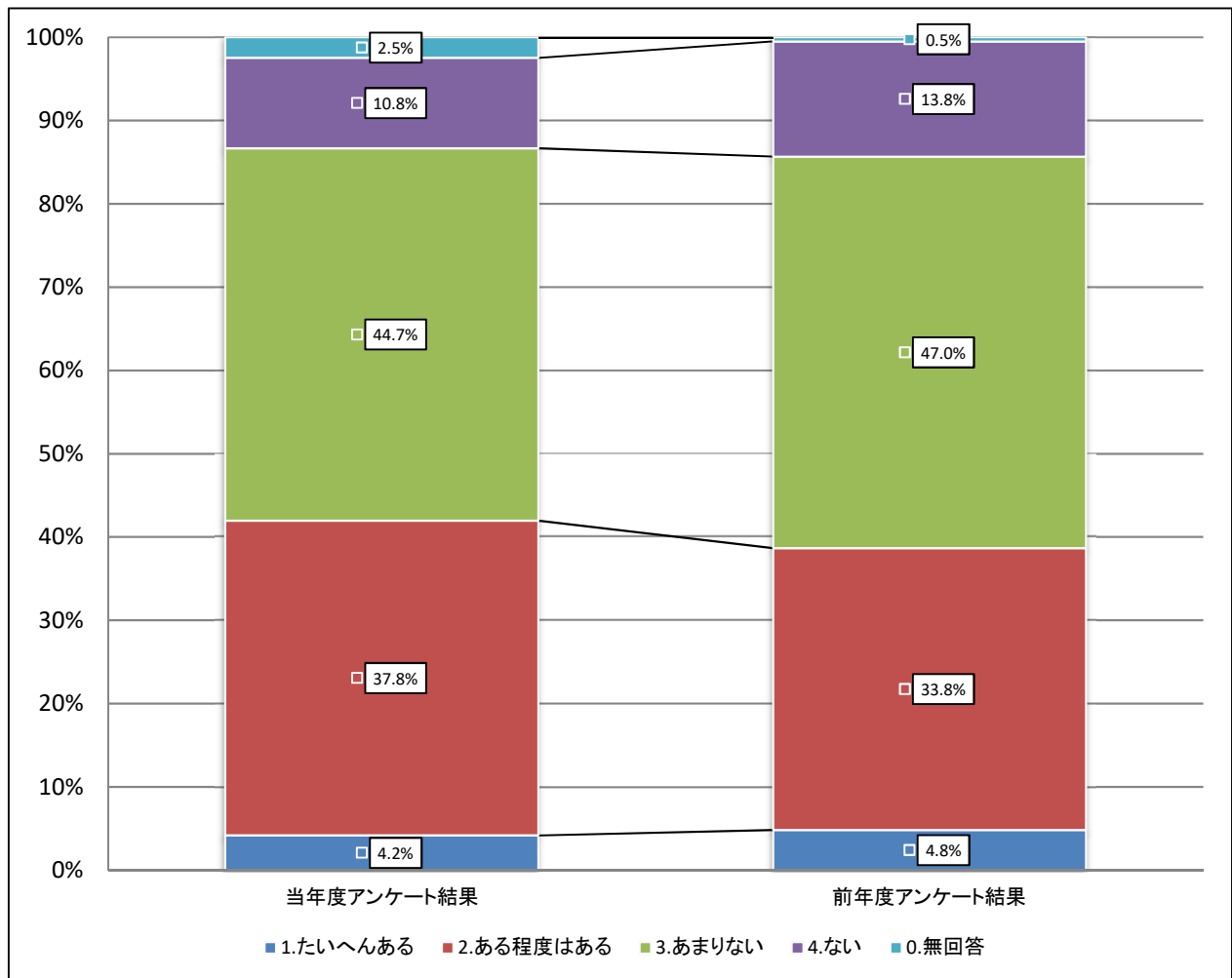
また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は60歳代（61.8%）女性は70歳以上（64.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性が40歳代（75.7%）、女性が20歳代（86.2%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、上柴地区（60.9%）であり、次いで深谷地区（62.2%）となっています。最も多いのは、川本地区（90.0%）であり、次いで藤沢地区（84.0%）となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



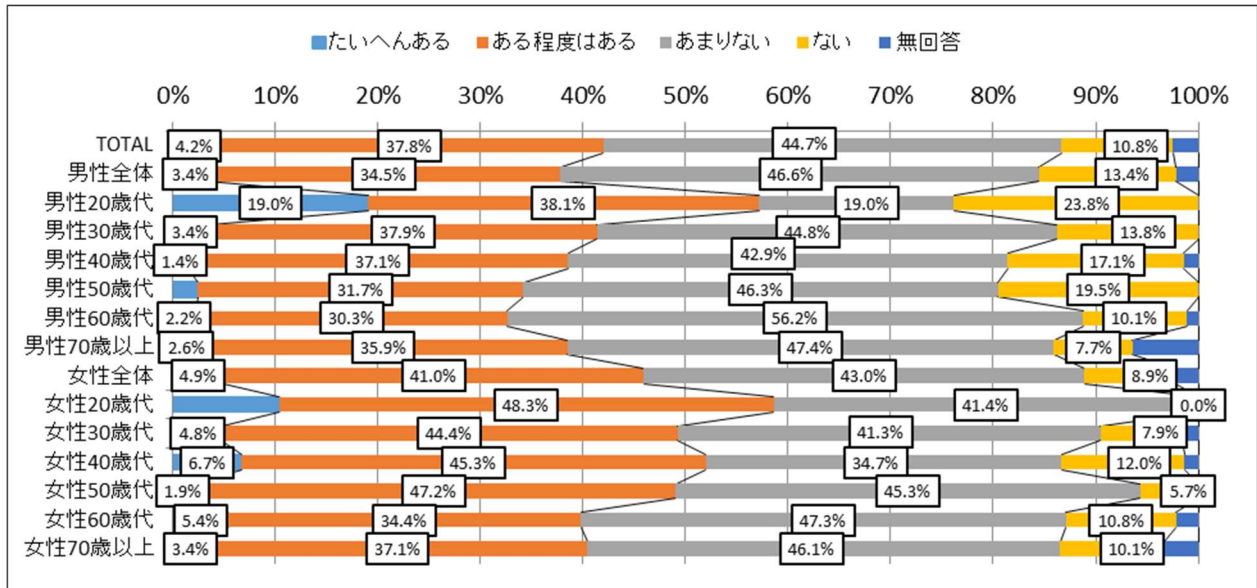
「あまりない」と回答した人の割合が 44.7%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 37.8%、「ない」と回答した人の割合が 10.8%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 4.2%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 42.0%であり、市内に魅力的なまち並みや景観があると答えた市民は、半数にも満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 38.6%であり、前年度アンケートと比較して、若干増加した結果となっています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	765	4.2%	37.8%	44.7%	10.8%	2.5%	100.0%
男性全体	328	3.4%	34.5%	46.6%	13.4%	2.1%	100.0%
男性 20 歳代	21	19.0%	38.1%	19.0%	23.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	37.9%	44.8%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	1.4%	37.1%	42.9%	17.1%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	2.4%	31.7%	46.3%	19.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	2.2%	30.3%	56.2%	10.1%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	2.6%	35.9%	47.4%	7.7%	6.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	4.9%	41.0%	43.0%	8.9%	2.2%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	48.3%	41.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	4.8%	44.4%	41.3%	7.9%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	6.7%	45.3%	34.7%	12.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	1.9%	47.2%	45.3%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	5.4%	34.4%	47.3%	10.8%	2.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	3.4%	37.1%	46.1%	10.1%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	3.2%	36.8%	42.7%	15.1%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	4.0%	40.0%	46.0%	8.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	9.6%	37.0%	39.7%	9.6%	4.1%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	33.3%	40.7%	14.8%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	30.4%	60.9%	8.7%	0.0%	100.0%
八基地区	22	9.1%	54.5%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	0.0%	30.0%	50.0%	15.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	4.6%	37.9%	50.6%	5.7%	1.1%	100.0%
南地区	52	1.9%	42.3%	38.5%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	6.9%	33.3%	50.6%	8.0%	1.1%	100.0%
川本地区	50	6.0%	32.0%	48.0%	12.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	0.0%	47.1%	42.9%	7.1%	2.9%	100.0%
無回答	19	5.3%	36.8%	42.1%	5.3%	10.5%	100.0%

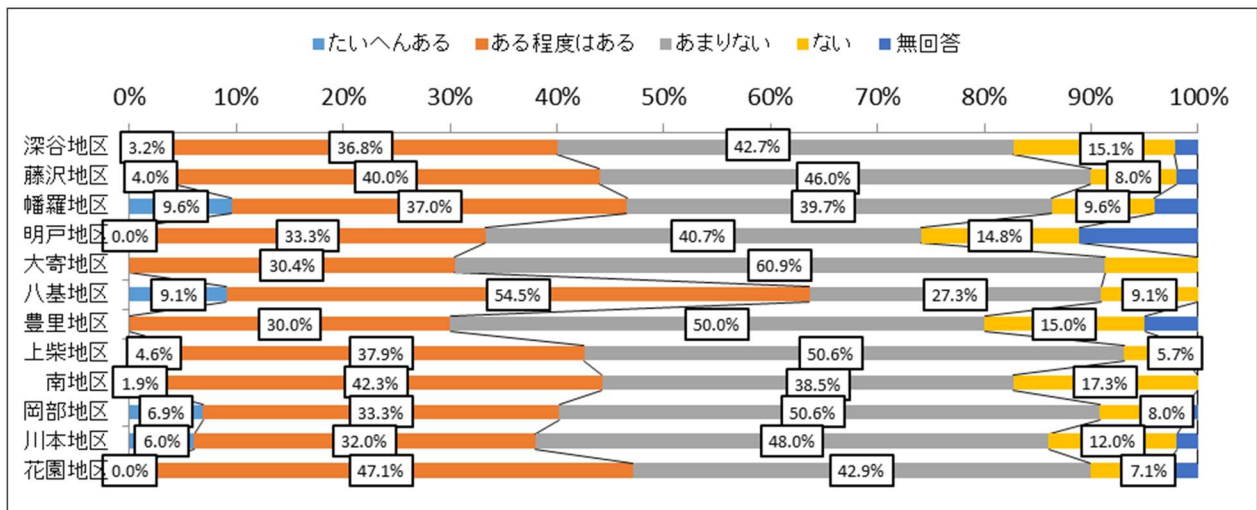
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が37.8%であるのに対して、女性は45.9%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が70歳以上（32.6%）、女性が60歳代（39.8%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性57.1%、女性58.6%）となっています。

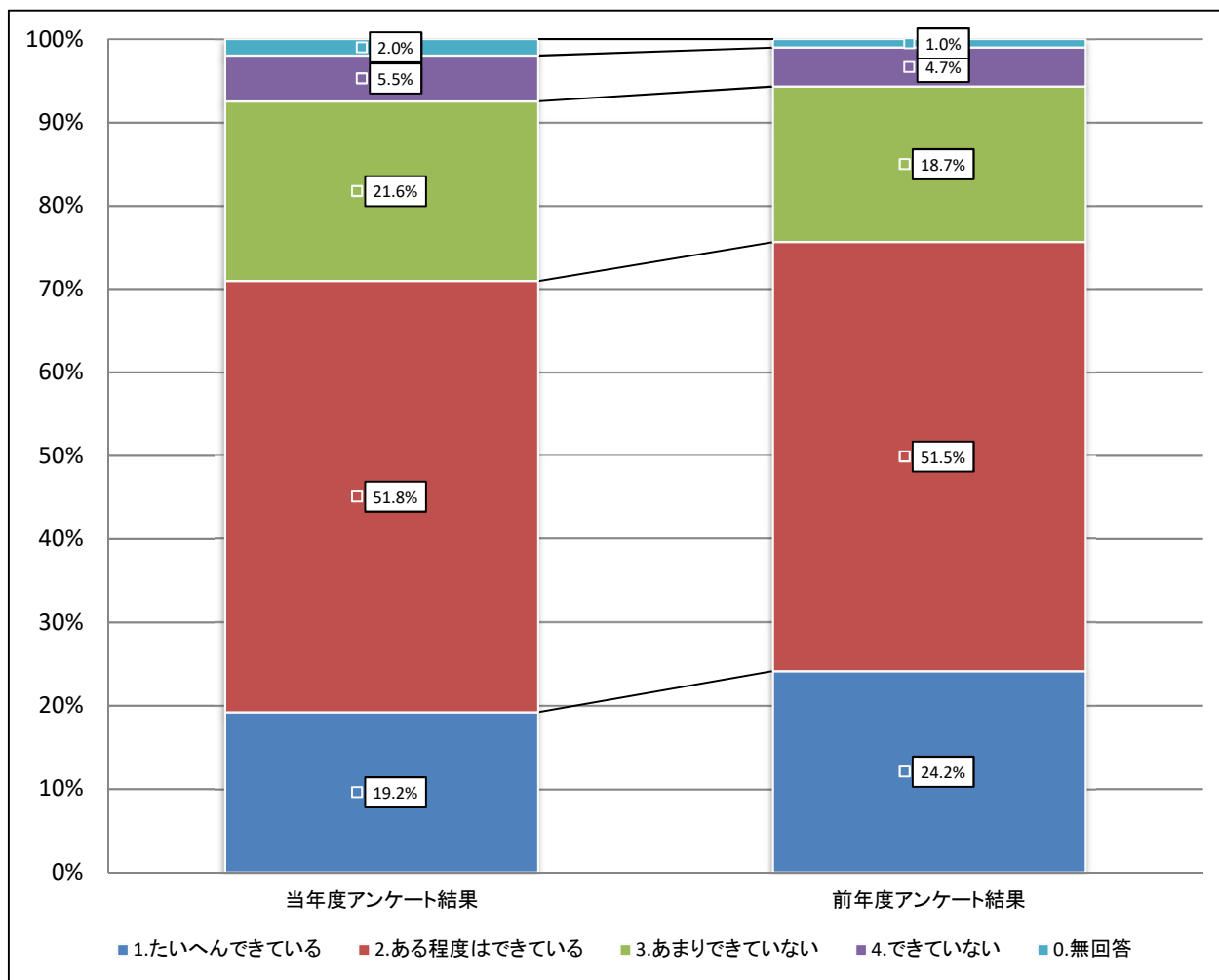
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区と豊里地区（30.0%）であり、次いで大寄地区（30.4%）となっています。最も多いのは、八基地区（63.6%）であり、次いで花園地区（47.1%）となっています。

## ②良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



「ある程度はできています」と回答した人の割合が 51.8%と最も多く、次いで「あまりできていない」と回答した人の割合が 21.6%、「たいへんできています」と回答した人の割合が 19.2%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 5.5%となっています。

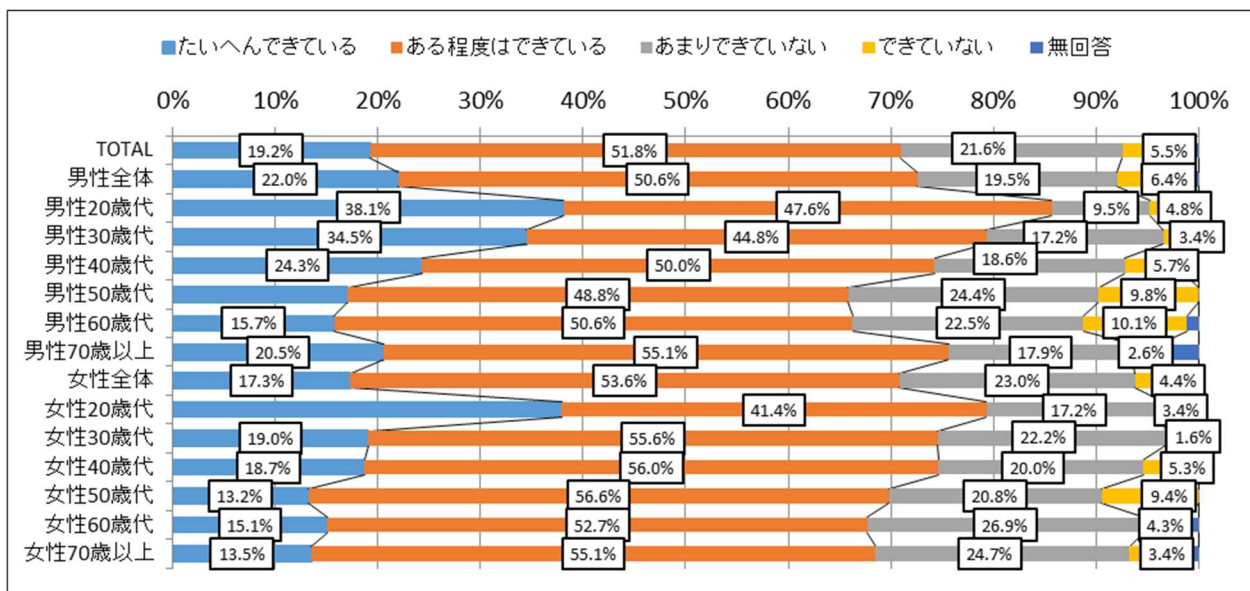
「たいへんできています」または「ある程度はできています」と回答した人の割合は 71.0%であり、7割以上の市民が、水害に対して安心した生活ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「あまりできていない」または「できていない」と回答した人の割合は 23.4%であり、前年度アンケートと比較して、若干増加した結果となっています。

母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	765	19.2%	51.8%	21.6%	5.5%	2.0%	100.0%
男性全体	328	22.0%	50.6%	19.5%	6.4%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	38.1%	47.6%	9.5%	4.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	34.5%	44.8%	17.2%	3.4%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	24.3%	50.0%	18.6%	5.7%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	17.1%	48.8%	24.4%	9.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	15.7%	50.6%	22.5%	10.1%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	20.5%	55.1%	17.9%	2.6%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	17.3%	53.6%	23.0%	4.4%	1.7%	100.0%
女性20歳代	29	37.9%	41.4%	17.2%	3.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	19.0%	55.6%	22.2%	1.6%	1.6%	100.0%
女性40歳代	75	18.7%	56.0%	20.0%	5.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	13.2%	56.6%	20.8%	9.4%	0.0%	100.0%
女性60歳代	93	15.1%	52.7%	26.9%	4.3%	1.1%	100.0%
女性70歳以上	89	13.5%	55.1%	24.7%	3.4%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	19.5%	47.0%	23.8%	8.6%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	26.0%	44.0%	26.0%	2.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	23.3%	57.5%	13.7%	2.7%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	55.6%	29.6%	3.7%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	39.1%	34.8%	13.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	54.5%	31.8%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	0.0%	20.0%	55.0%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	18.4%	56.3%	20.7%	3.4%	1.1%	100.0%
南地区	52	32.7%	50.0%	15.4%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	18.4%	60.9%	16.1%	2.3%	2.3%	100.0%
川本地区	50	18.0%	58.0%	16.0%	6.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	20.0%	57.1%	15.7%	4.3%	2.9%	100.0%
無回答	19	21.1%	42.1%	26.3%	0.0%	10.5%	100.0%



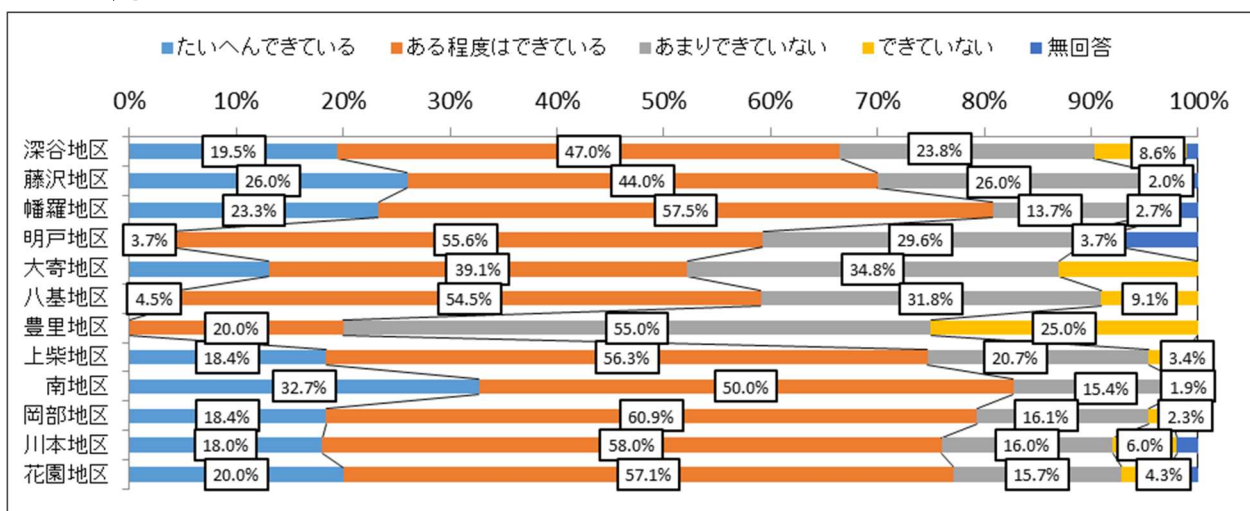
## 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は男性が72.6%であるのに対して、女性は70.9%となっています。

また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代(65.9%)、女性が60歳代(67.7%)であり、一方で最も多い世代は、男女ともに20歳代(男性85.7%、女性79.3%)となっています。

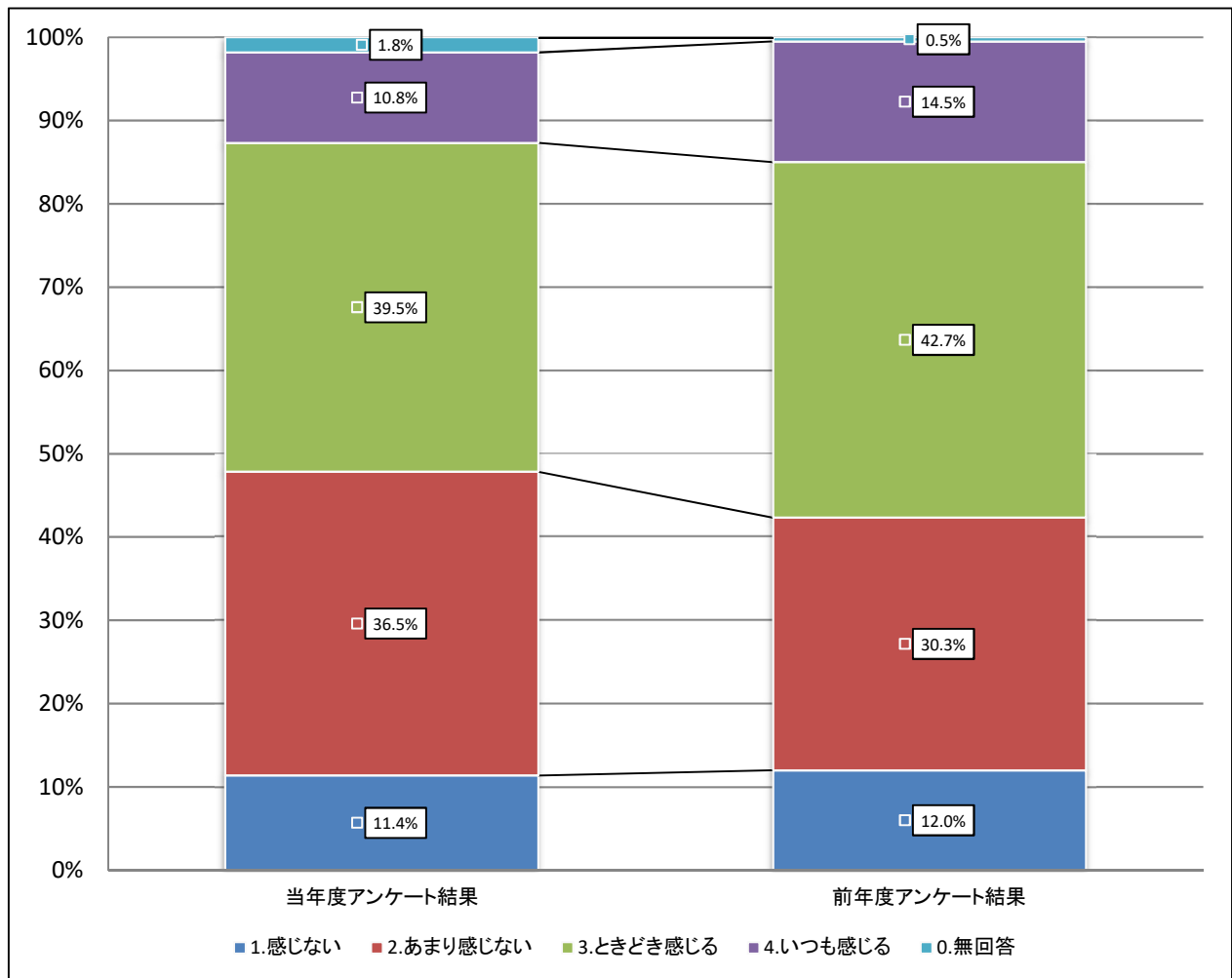
## 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(20.0%)であり、次いで大寄地区(52.2%)となっています。最も多いのは、南地区(82.7%)であり、次いで幡羅地区(80.8%)となっています。



市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

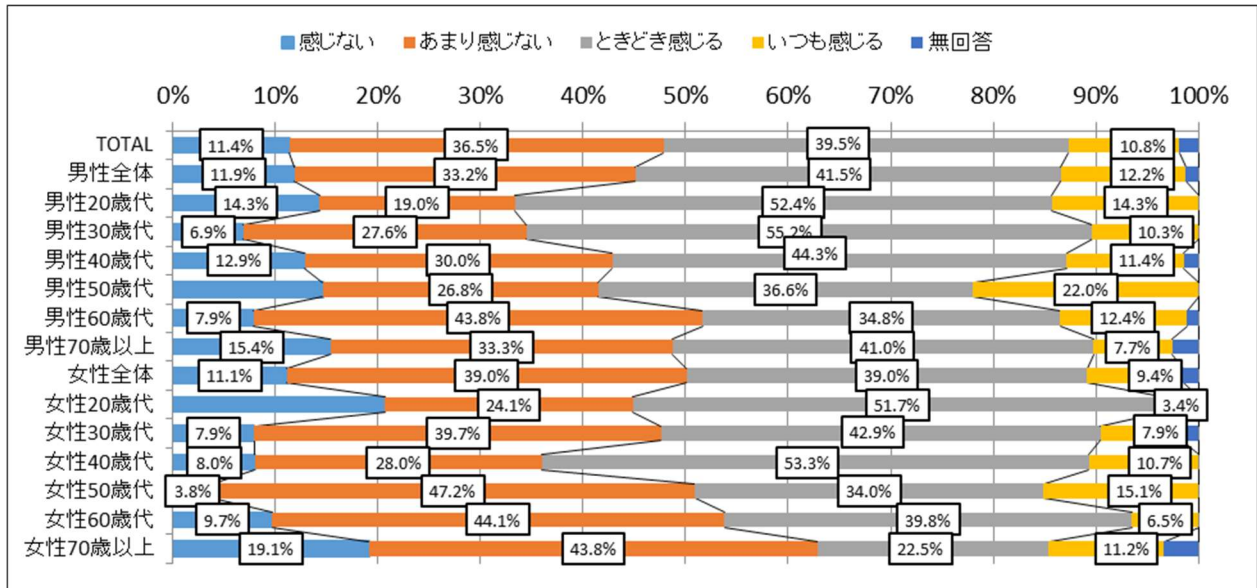


「ときどき感じる」と回答した人の割合が39.5%と最も多く、次いで「あまり感じない」と回答した人の割合が36.5%、「感じない」と回答した人の割合が11.4%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく10.8%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は47.8%にとどまり、約半数の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は42.3%であり、前年度アンケートと比較して、不便を感じていないという回答は若干増加した結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	765	11.4%	36.5%	39.5%	10.8%	1.8%	100.0%
男性全体	328	11.9%	33.2%	41.5%	12.2%	1.2%	100.0%
男性20歳代	21	14.3%	19.0%	52.4%	14.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	6.9%	27.6%	55.2%	10.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	12.9%	30.0%	44.3%	11.4%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	14.6%	26.8%	36.6%	22.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	7.9%	43.8%	34.8%	12.4%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	15.4%	33.3%	41.0%	7.7%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	11.1%	39.0%	39.0%	9.4%	1.5%	100.0%
女性20歳代	29	20.7%	24.1%	51.7%	3.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	7.9%	39.7%	42.9%	7.9%	1.6%	100.0%
女性40歳代	75	8.0%	28.0%	53.3%	10.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	3.8%	47.2%	34.0%	15.1%	0.0%	100.0%
女性60歳代	93	9.7%	44.1%	39.8%	6.5%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	89	19.1%	43.8%	22.5%	11.2%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	11.9%	31.9%	42.7%	11.9%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	12.0%	52.0%	24.0%	10.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	12.3%	35.6%	43.8%	5.5%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	48.1%	37.0%	7.4%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	4.3%	56.5%	21.7%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	40.9%	50.0%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	40.0%	25.0%	30.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	36.8%	47.1%	4.6%	0.0%	100.0%
南地区	52	15.4%	17.3%	50.0%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	12.6%	39.1%	29.9%	17.2%	1.1%	100.0%
川本地区	50	18.0%	38.0%	36.0%	8.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	37.1%	40.0%	8.6%	4.3%	100.0%
無回答	19	10.5%	26.3%	47.4%	5.3%	10.5%	100.0%

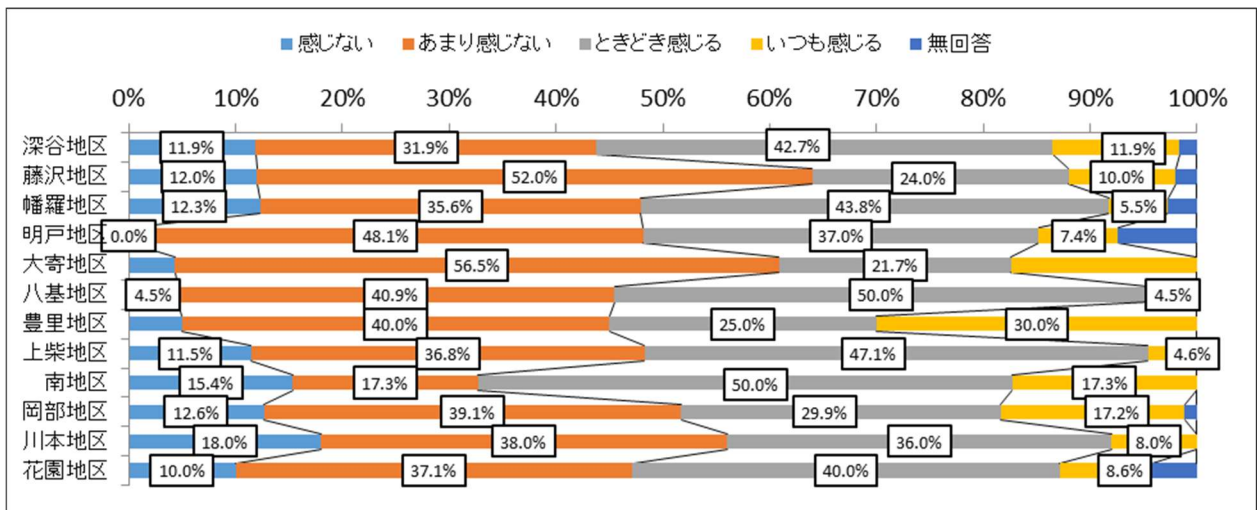
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が45.1%であるのに対して、女性は50.1%となっています。

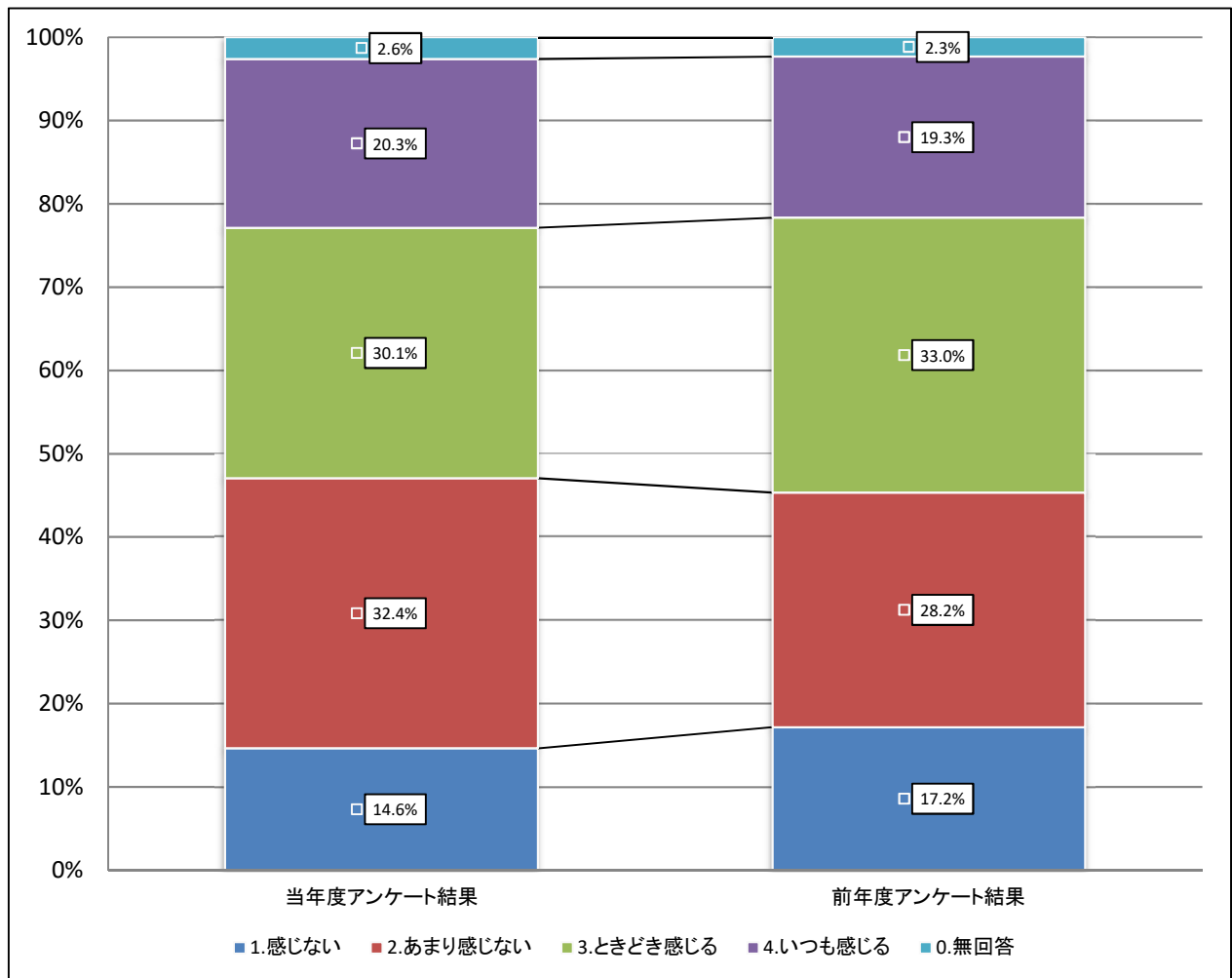
また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代（33.3%）、女性が40歳代（36.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性が60歳代（51.7%）、女性が70歳以上（62.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区（32.7%）であり、次いで深谷地区（43.8%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（64.0%）であり、次いで大寄地区（60.9%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

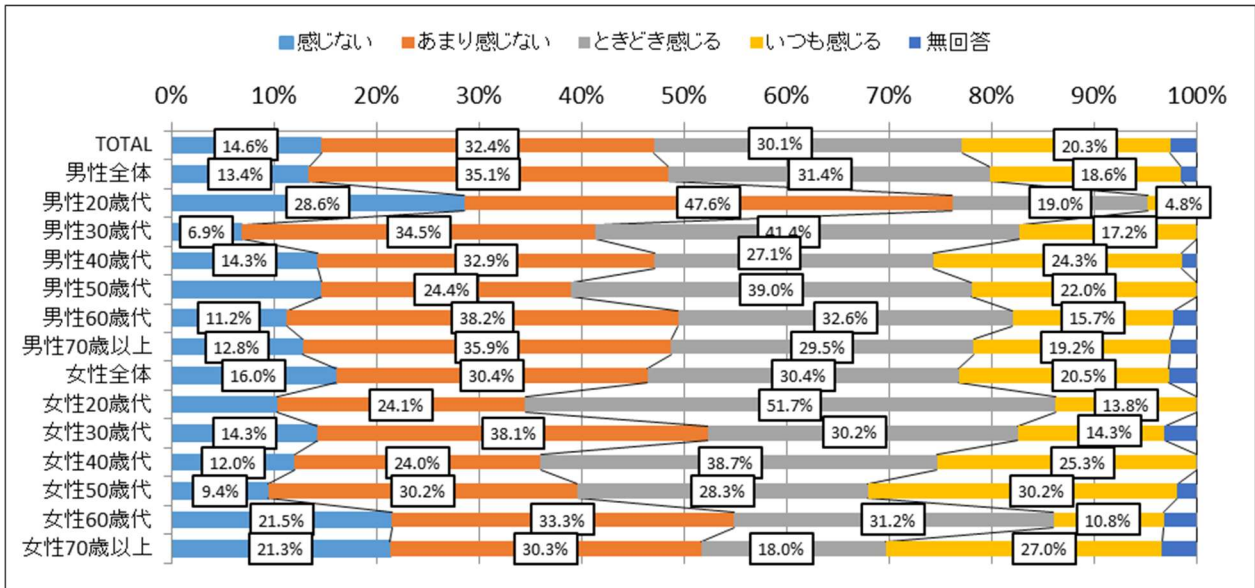


「あまり感じない」と回答した人の割合が32.4%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が30.1%、「いつも感じる」と回答した人の割合が20.3%、「感じない」と回答した人の割合が最も少なく14.6%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は47.1%にとどまり、約半数の市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は45.4%であり、前年度アンケートと比較して、若干増加した結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	765	14.6%	32.4%	30.1%	20.3%	2.6%	100.0%
男性全体	328	13.4%	35.1%	31.4%	18.6%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	28.6%	47.6%	19.0%	4.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	6.9%	34.5%	41.4%	17.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	14.3%	32.9%	27.1%	24.3%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	14.6%	24.4%	39.0%	22.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	11.2%	38.2%	32.6%	15.7%	2.2%	100.0%
男性70歳以上	78	12.8%	35.9%	29.5%	19.2%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	16.0%	30.4%	30.4%	20.5%	2.7%	100.0%
女性20歳代	29	10.3%	24.1%	51.7%	13.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	14.3%	38.1%	30.2%	14.3%	3.2%	100.0%
女性40歳代	75	12.0%	24.0%	38.7%	25.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	9.4%	30.2%	28.3%	30.2%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	21.5%	33.3%	31.2%	10.8%	3.2%	100.0%
女性70歳以上	89	21.3%	30.3%	18.0%	27.0%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	11.9%	31.9%	42.7%	11.9%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	12.0%	52.0%	24.0%	10.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	12.3%	35.6%	43.8%	5.5%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	48.1%	37.0%	7.4%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	4.3%	56.5%	21.7%	17.4%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	40.9%	50.0%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	40.0%	25.0%	30.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	36.8%	47.1%	4.6%	0.0%	100.0%
南地区	52	15.4%	17.3%	50.0%	17.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	12.6%	39.1%	29.9%	17.2%	1.1%	100.0%
川本地区	50	18.0%	38.0%	36.0%	8.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	37.1%	40.0%	8.6%	4.3%	100.0%
無回答	19	10.5%	26.3%	47.4%	5.3%	10.5%	100.0%

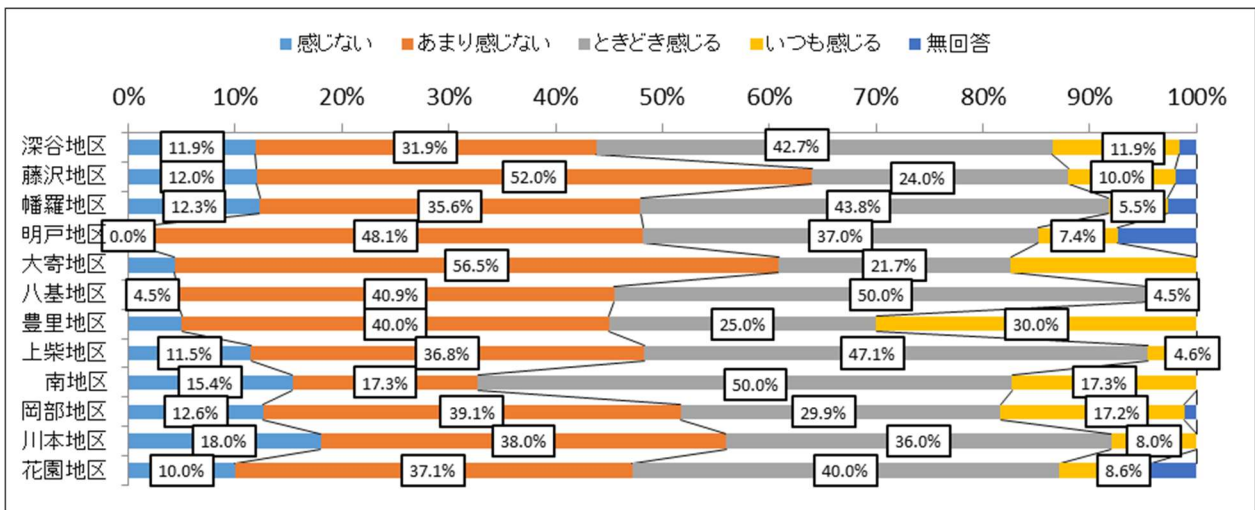
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が48.5%であるのに対して、女性は46.4%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（39.0%）、女性が20歳代（34.5%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（76.2%）、女性が60歳代（54.8%）となっています。

➤ 地区別



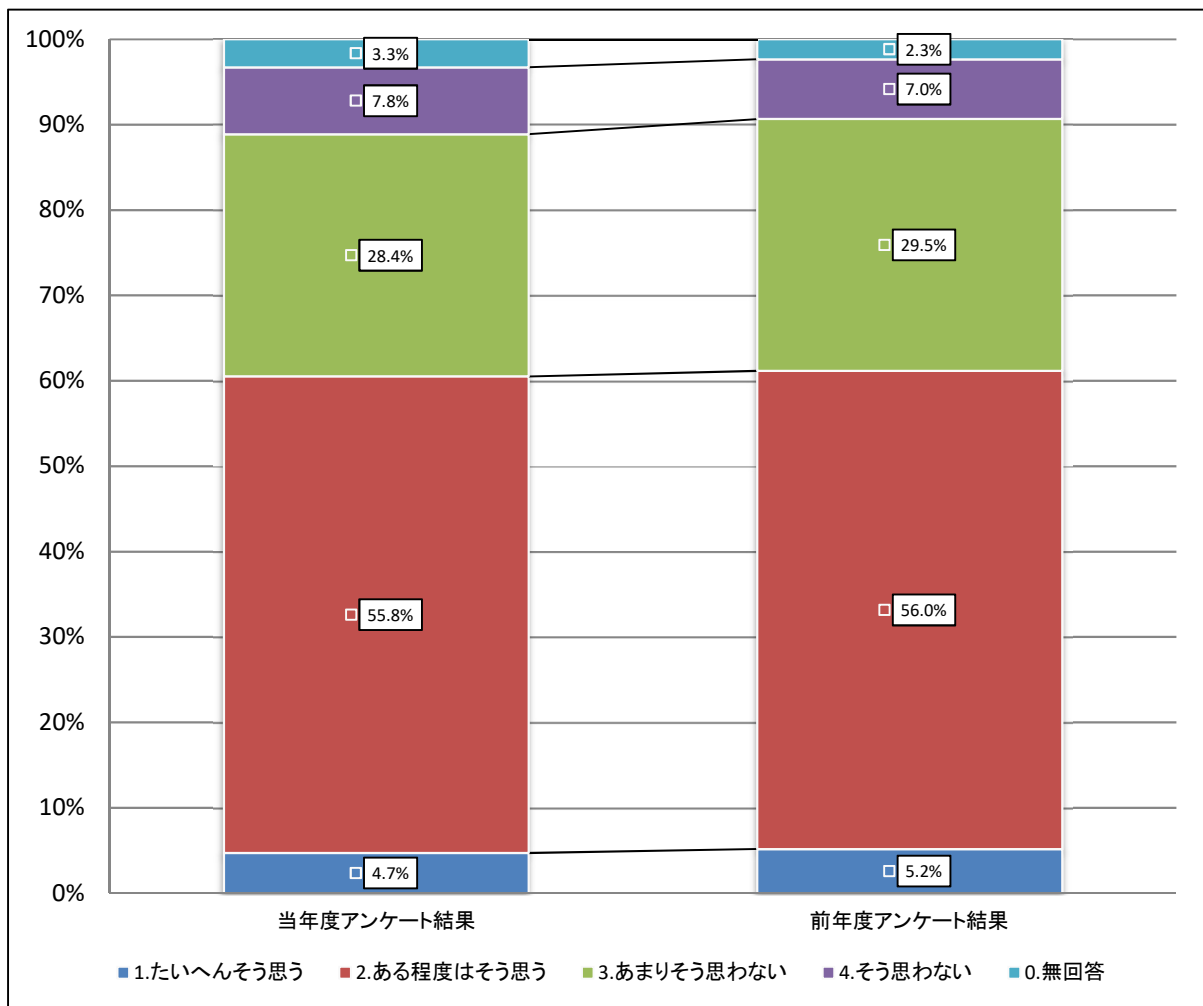
地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区（32.7%）であり、次いで深谷地区（43.8%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（64.0%）であり、次いで大寄地区（60.9%）となっています。



(7) 協働・行政経営について

①人権を尊重する社会づくり (7. 問1~4)

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 55.8%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 28.4%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.8%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.0%となっています。

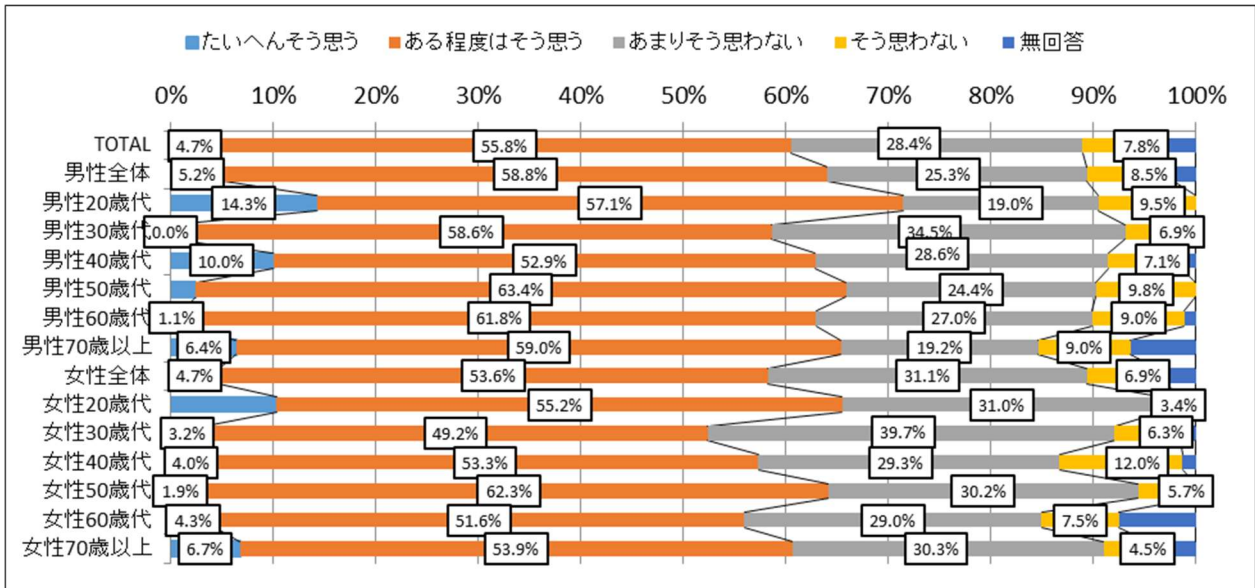
「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 60.5%であり、約 6 割の市民が、深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 61.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	765	4.7%	55.8%	28.4%	7.8%	3.3%	100.0%
男性全体	328	5.2%	58.8%	25.3%	8.5%	2.1%	100.0%
男性 20 歳代	21	14.3%	57.1%	19.0%	9.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	58.6%	34.5%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	10.0%	52.9%	28.6%	7.1%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	2.4%	63.4%	24.4%	9.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	1.1%	61.8%	27.0%	9.0%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	6.4%	59.0%	19.2%	9.0%	6.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	4.7%	53.6%	31.1%	6.9%	3.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	55.2%	31.0%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	3.2%	49.2%	39.7%	6.3%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	4.0%	53.3%	29.3%	12.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	53	1.9%	62.3%	30.2%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	4.3%	51.6%	29.0%	7.5%	7.5%	100.0%
女性 70 歳以上	89	6.7%	53.9%	30.3%	4.5%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	4.3%	50.8%	30.8%	9.7%	4.3%	100.0%
藤沢地区	50	4.0%	58.0%	24.0%	12.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	12.3%	57.5%	21.9%	5.5%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	48.1%	37.0%	3.7%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	4.3%	52.2%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	59.1%	31.8%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	0.0%	70.0%	15.0%	15.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	4.6%	59.8%	25.3%	8.0%	2.3%	100.0%
南地区	52	1.9%	57.7%	25.0%	11.5%	3.8%	100.0%
岡部地区	87	5.7%	50.6%	33.3%	8.0%	2.3%	100.0%
川本地区	50	6.0%	56.0%	32.0%	4.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	62.9%	27.1%	4.3%	4.3%	100.0%
無回答	19	0.0%	63.2%	26.3%	0.0%	10.5%	100.0%

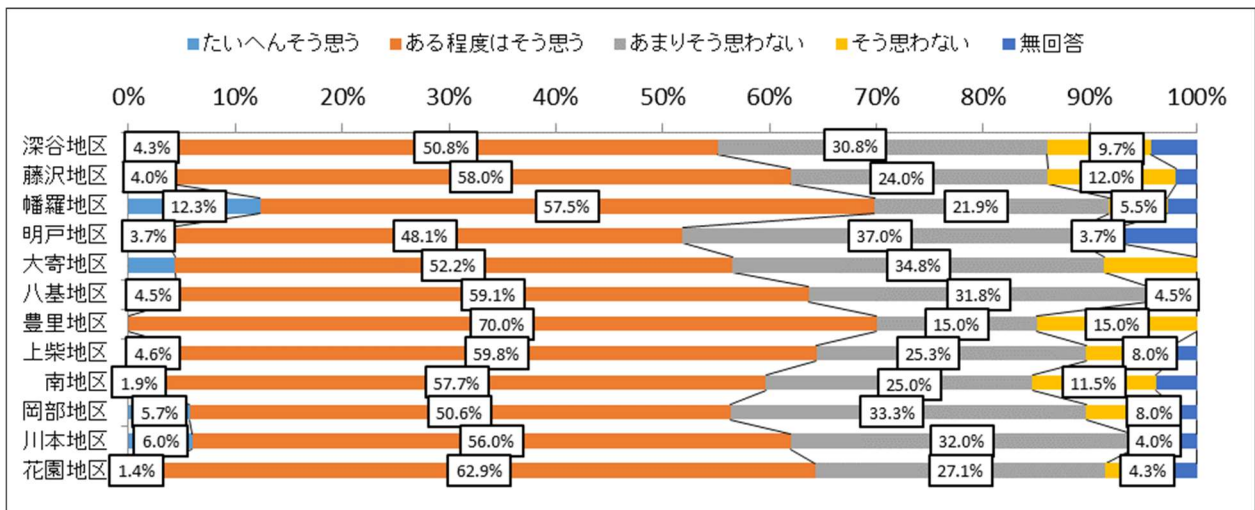
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が64.0%であるのに対して、女性は58.3%となっています。

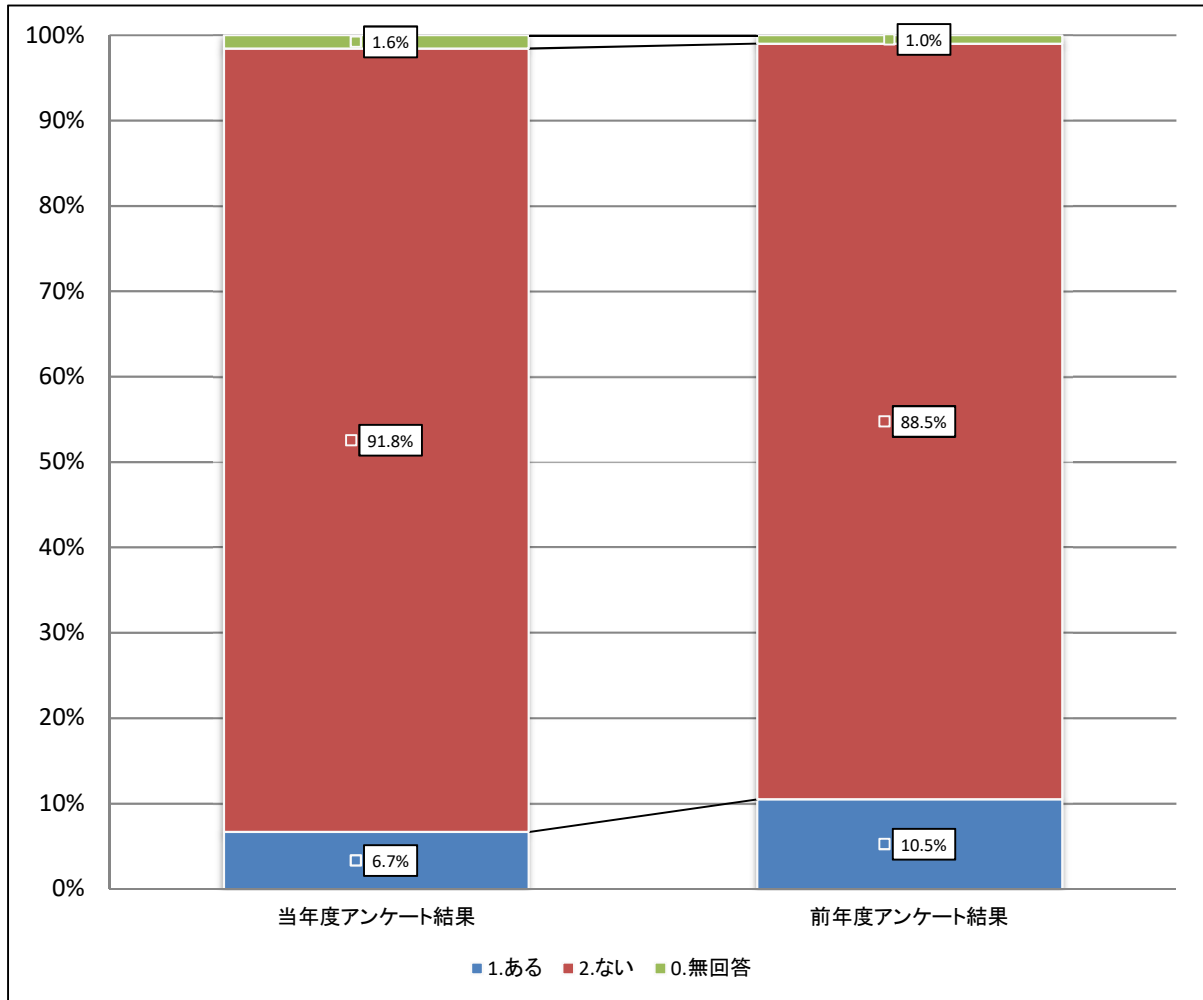
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性58.6%、女性52.4%）であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに20歳代（男性71.4%、女性65.5%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（51.9%）であり、次いで深谷地区（55.1%）となっています。最も多いのは豊里地区（70.0%）であり、次いで幡羅地区（69.9%）となっています。

**この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。**



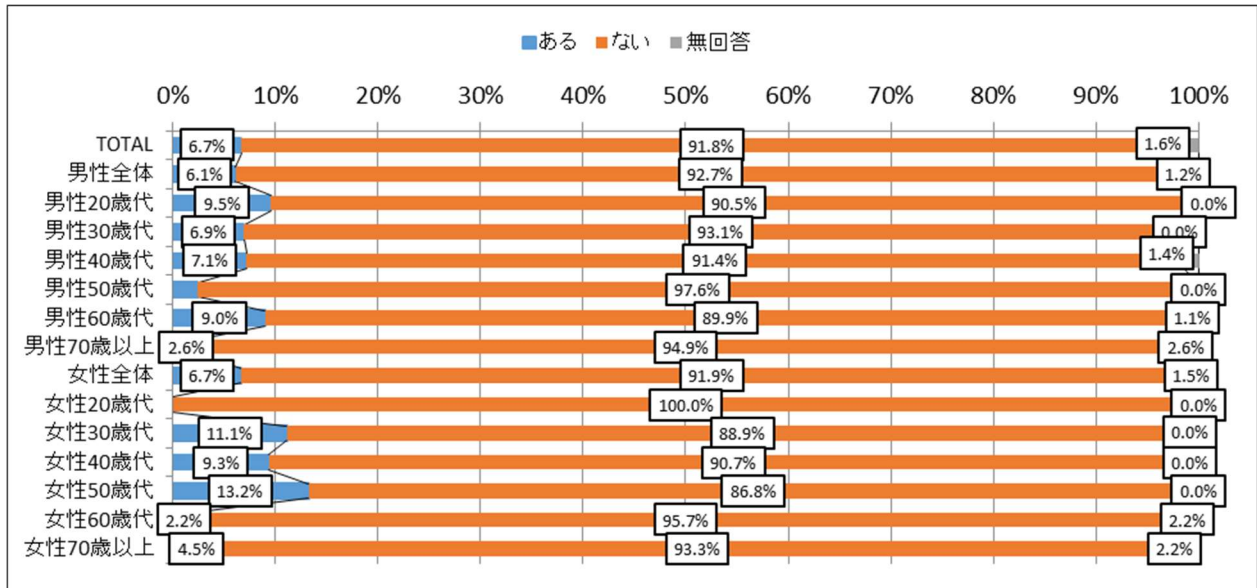
「ある」と回答した人の割合が6.7%、「ない」と回答した人の割合が91.8%となっています。

ほとんどの市民が、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったと回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ない」と回答した人の割合は88.5%であり、前年度アンケートと比較して、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったとの回答増加がうかがえます。

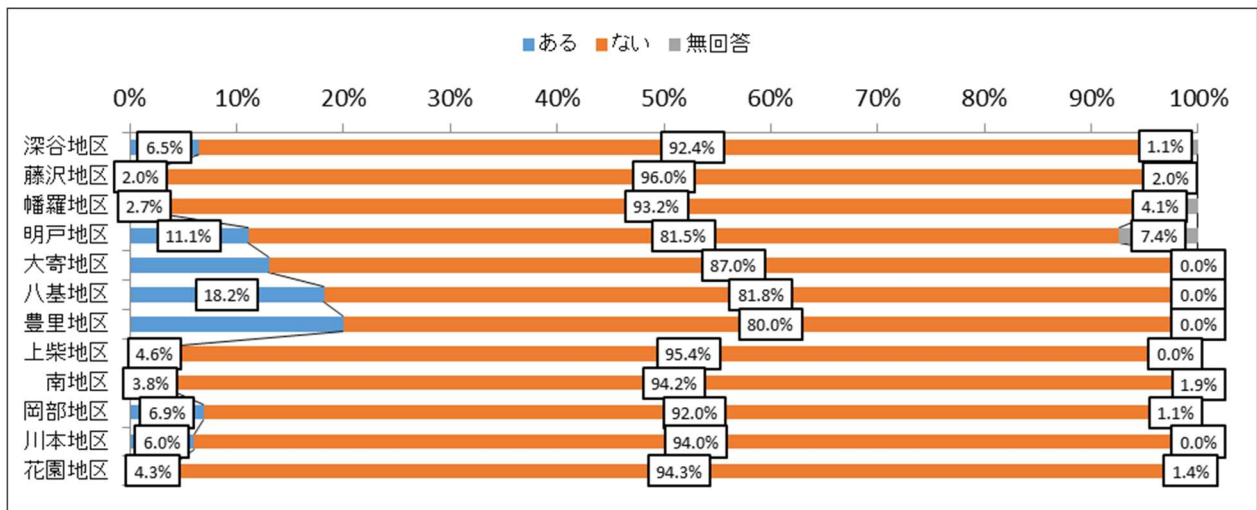
母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	765	6.7%	91.8%	1.6%	100.0%
男性全体	328	6.1%	92.7%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	9.5%	90.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	93.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	7.1%	91.4%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	2.4%	97.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	9.0%	89.9%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	2.6%	94.9%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	6.7%	91.9%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	90.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	13.2%	86.8%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	2.2%	95.7%	2.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	4.5%	93.3%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	6.5%	92.4%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	2.0%	96.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	2.7%	93.2%	4.1%	100.0%
明戸地区	27	11.1%	81.5%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	13.0%	87.0%	0.0%	100.0%
八基地区	22	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	4.6%	95.4%	0.0%	100.0%
南地区	52	3.8%	94.2%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	6.9%	92.0%	1.1%	100.0%
川本地区	50	6.0%	94.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	4.3%	94.3%	1.4%	100.0%
無回答	19	21.1%	73.7%	5.3%	100.0%

➤ 性別・世代別



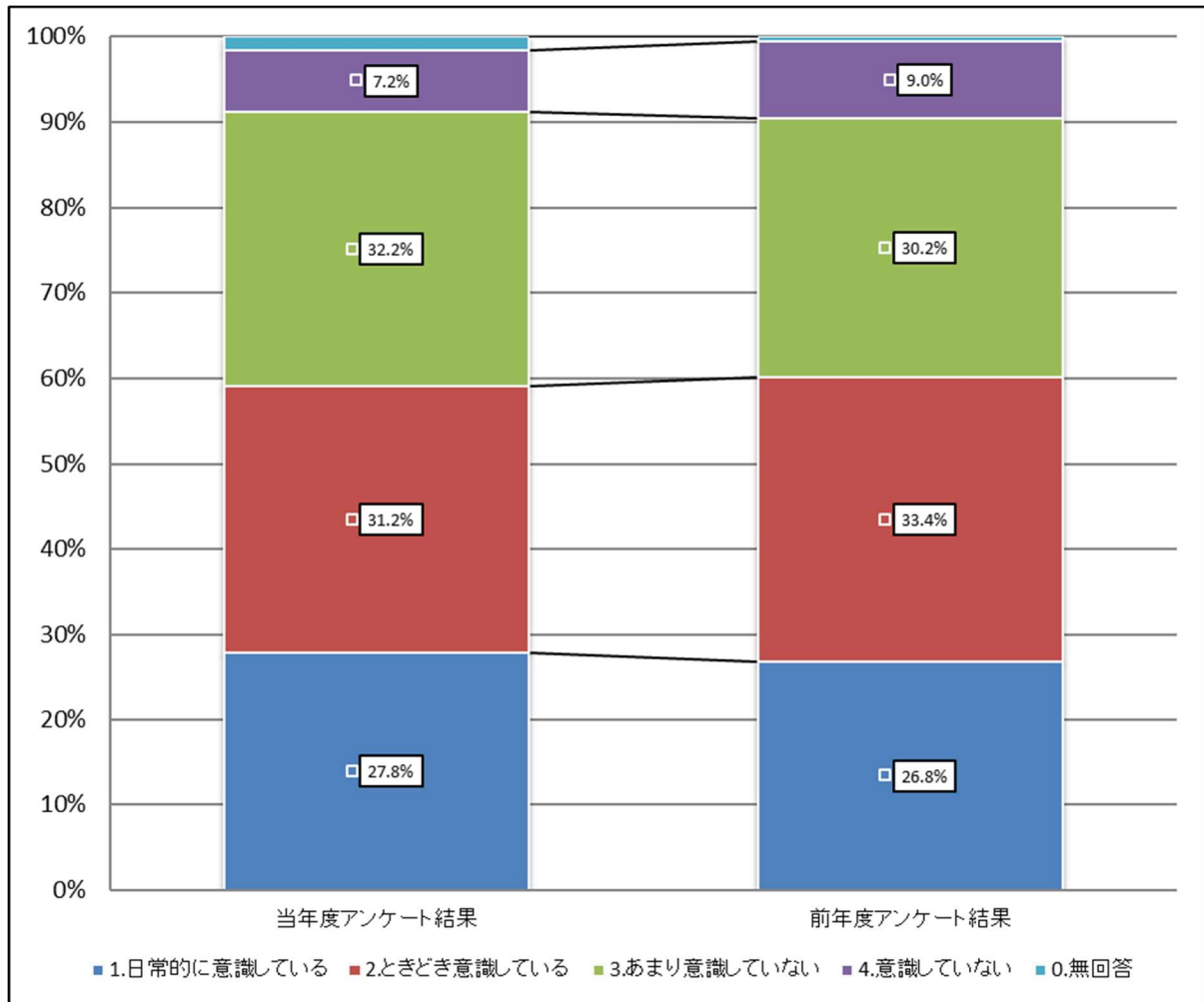
性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 6.1%であるのに対して、女性は 6.7%となっています。このことから、男女差はほとんどないことがうかがえます。また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 50 歳代 (2.4%)、女性は 20 歳代 (0.0%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 20 歳代 (9.5%) であり、女性は 50 歳代 (13.2%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区 (2.0%) であり、次いで幡羅地区 (2.7%) となっています。最も多いのは豊里地区 (20.0%) であり、次いで八基地区 (18.2%) となっています。地域によってポイントに大きな差があることがうかがえます。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



「あまり意識していない」と回答した人の割合が 32.2%と最も多く、次いで「ときどき意識している」と回答した人の割合が 31.2%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 27.8%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.2%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 59.1%であり、市民の約 6 割が日頃からお互いの人権について尊重しながら生活していることがうかがえます。

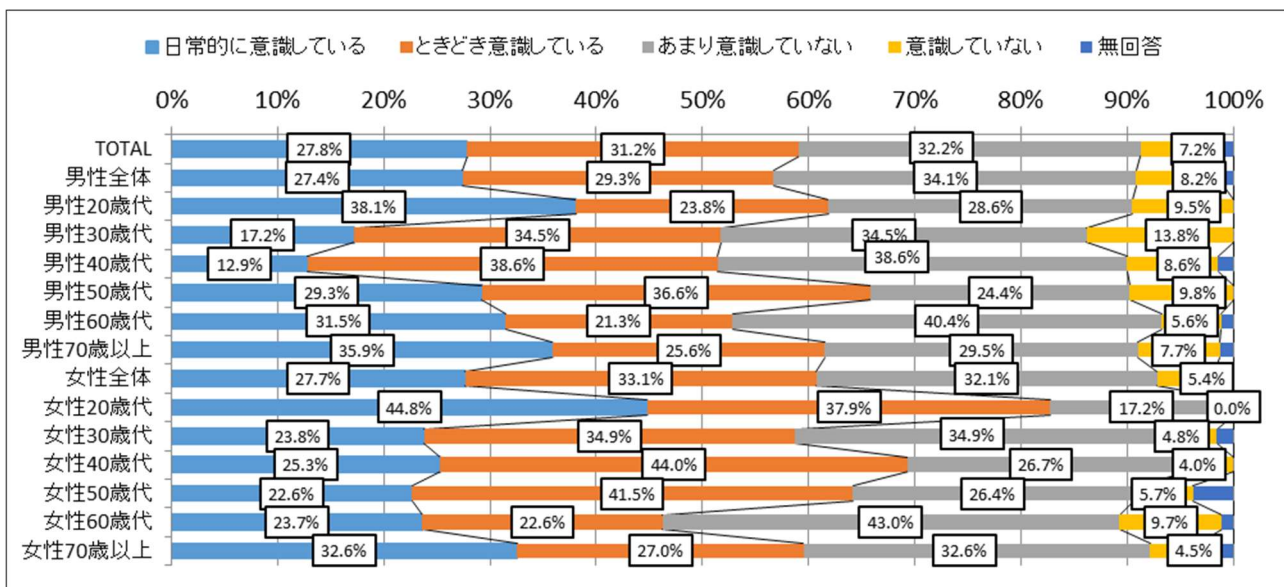
また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 60.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	765	27.8%	31.2%	32.2%	7.2%	1.6%	100.0%
男性全体	328	27.4%	29.3%	34.1%	8.2%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	23.8%	28.6%	9.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	17.2%	34.5%	34.5%	13.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	12.9%	38.6%	38.6%	8.6%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	29.3%	36.6%	24.4%	9.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	31.5%	21.3%	40.4%	5.6%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	35.9%	25.6%	29.5%	7.7%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	27.7%	33.1%	32.1%	5.4%	1.7%	100.0%
女性 20 歳代	29	44.8%	37.9%	17.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	23.8%	34.9%	34.9%	4.8%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	25.3%	44.0%	26.7%	4.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	22.6%	41.5%	26.4%	5.7%	3.8%	100.0%
女性 60 歳代	93	23.7%	22.6%	43.0%	9.7%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	32.6%	27.0%	32.6%	4.5%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	25.4%	33.5%	31.9%	8.1%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	28.0%	18.0%	46.0%	8.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	32.9%	38.4%	20.5%	6.8%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	37.0%	33.3%	18.5%	3.7%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	39.1%	17.4%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
八基地区	22	36.4%	31.8%	31.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	20.0%	45.0%	25.0%	10.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	29.9%	29.9%	33.3%	6.9%	0.0%	100.0%
南地区	52	25.0%	28.8%	30.8%	15.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	27.6%	31.0%	35.6%	4.6%	1.1%	100.0%
川本地区	50	20.0%	30.0%	46.0%	2.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	24.3%	32.9%	30.0%	8.6%	4.3%	100.0%
無回答	19	36.8%	26.3%	21.1%	5.3%	10.5%	100.0%



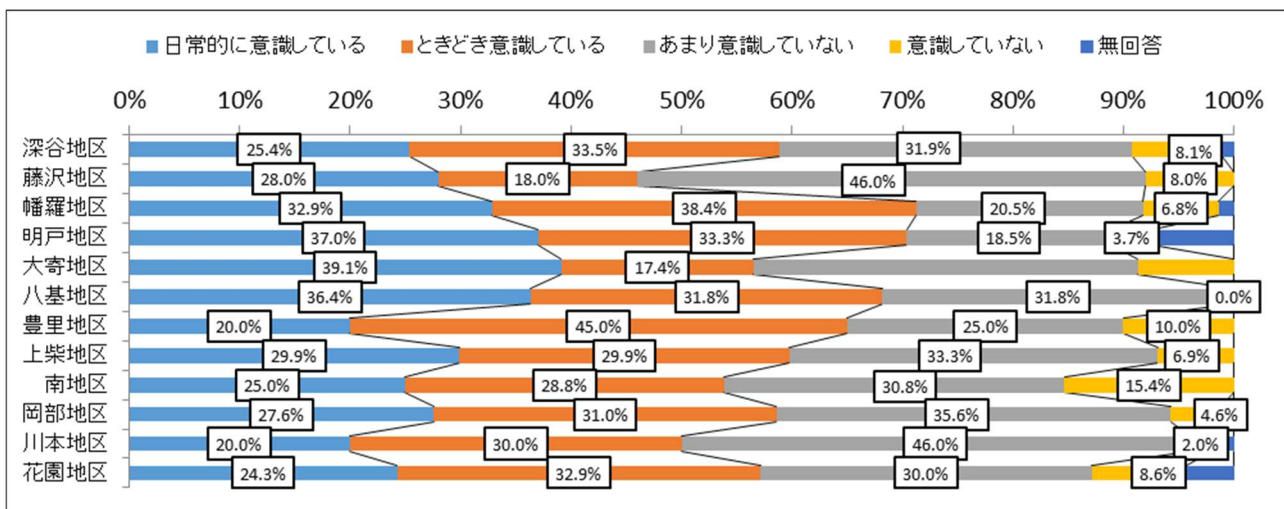
## 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は男性が56.7%であるのに対して、女性は60.7%となっています。

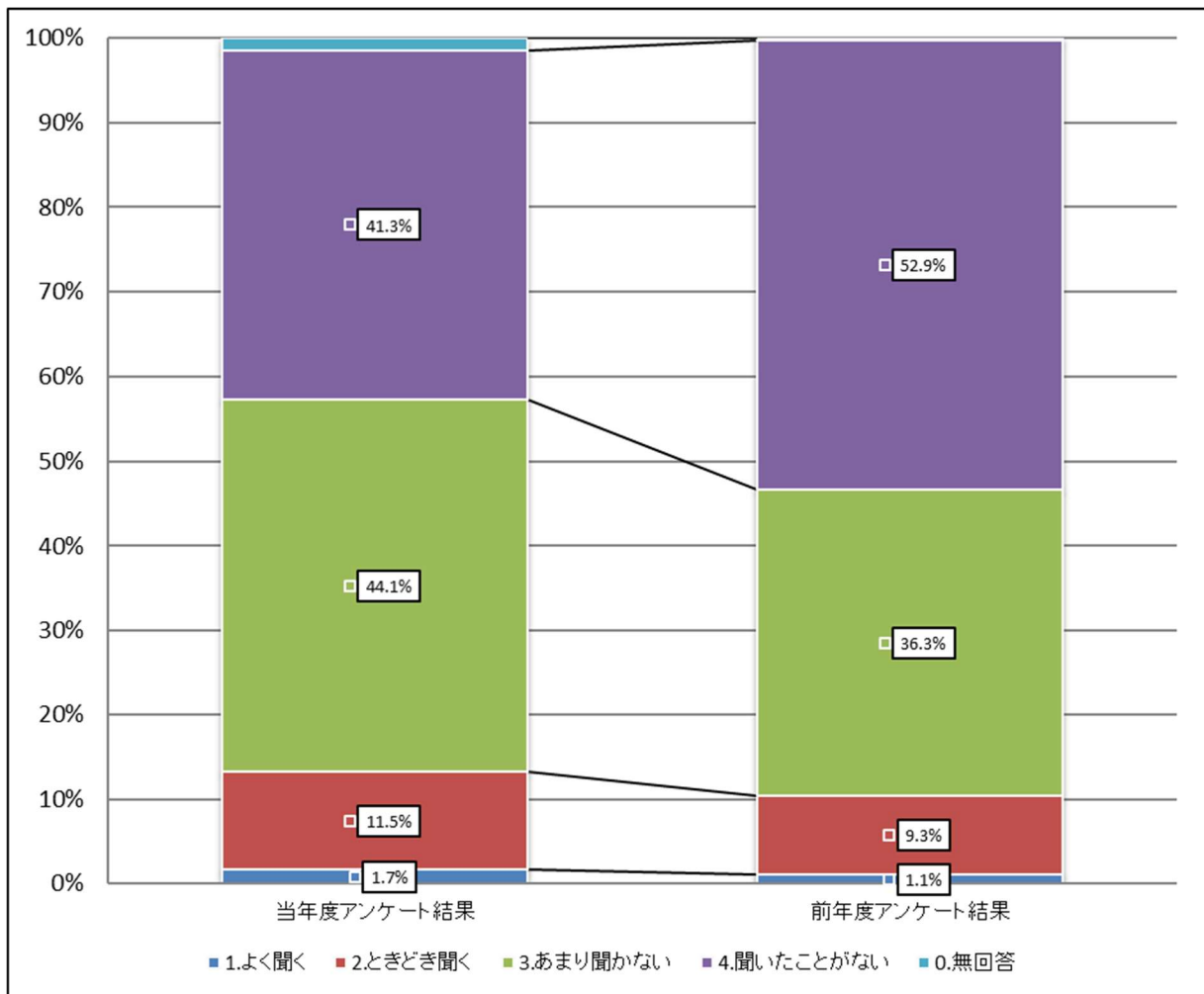
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が40歳代（51.4%）、女性が60歳代（46.2%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が50歳代（65.9%）、女性が20歳代（82.8%）となっています。

## 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区（46.0%）であり、次いで川本地区（50.0%）となっています。最も多いのは幡羅地区（71.2%）であり、次に明戸地区（70.4%）となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



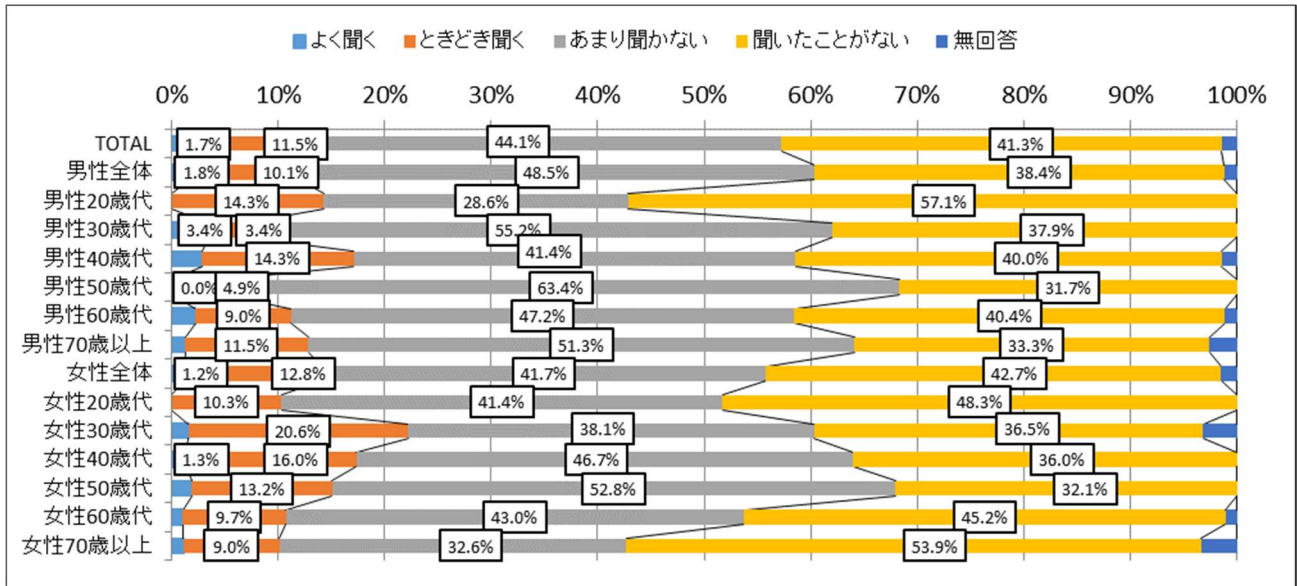
「あまり聞かない」と回答した人の割合が 44.1%と最も多く、次いで「聞いたことがない」と回答した人の割合が 41.3%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 11.5%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 1.7%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 13.2%であり、深谷市内における外国人とのトラブルはごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 10.4%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	765	1.7%	11.5%	44.1%	41.3%	1.4%	100.0%
男性全体	328	1.8%	10.1%	48.5%	38.4%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	21	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	3.4%	55.2%	37.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	2.9%	14.3%	41.4%	40.0%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	0.0%	4.9%	63.4%	31.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	2.2%	9.0%	47.2%	40.4%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	1.3%	11.5%	51.3%	33.3%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	1.2%	12.8%	41.7%	42.7%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	10.3%	41.4%	48.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	1.6%	20.6%	38.1%	36.5%	3.2%	100.0%
女性 40 歳代	75	1.3%	16.0%	46.7%	36.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	1.9%	13.2%	52.8%	32.1%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	1.1%	9.7%	43.0%	45.2%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	1.1%	9.0%	32.6%	53.9%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	2.7%	9.2%	42.2%	44.3%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	0.0%	14.0%	50.0%	36.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	0.0%	19.2%	42.5%	38.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	0.0%	25.9%	63.0%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	4.3%	52.2%	39.1%	4.3%	100.0%
八基地区	22	0.0%	4.5%	45.5%	45.5%	4.5%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	0.0%	45.0%	50.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	0.0%	12.6%	54.0%	33.3%	0.0%	100.0%
南地区	52	3.8%	15.4%	48.1%	32.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	1.1%	18.4%	42.5%	36.8%	1.1%	100.0%
川本地区	50	2.0%	18.0%	36.0%	44.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	2.9%	45.7%	48.6%	1.4%	100.0%
無回答	19	10.5%	10.5%	31.6%	42.1%	5.3%	100.0%

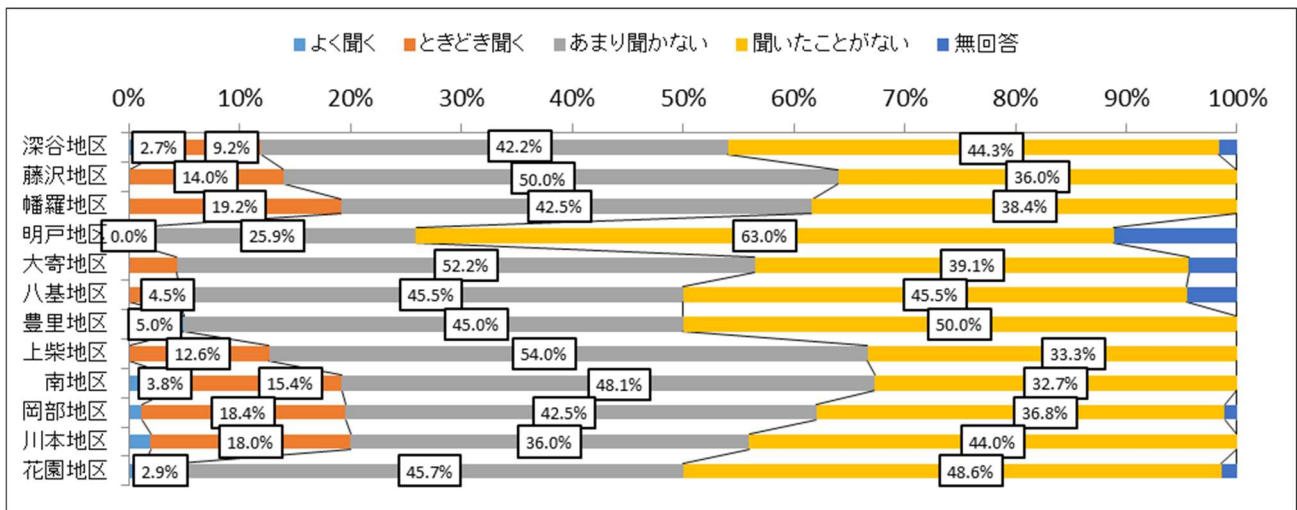
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は男性が11.9%であるのに対して、女性は14.1%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は50歳代(4.9%)であり、女性は70歳以上(10.1%)であり、一方で、最も多い世代は、男性は40歳代(17.1%)であり、女性は30歳代(22.2%)となっています。

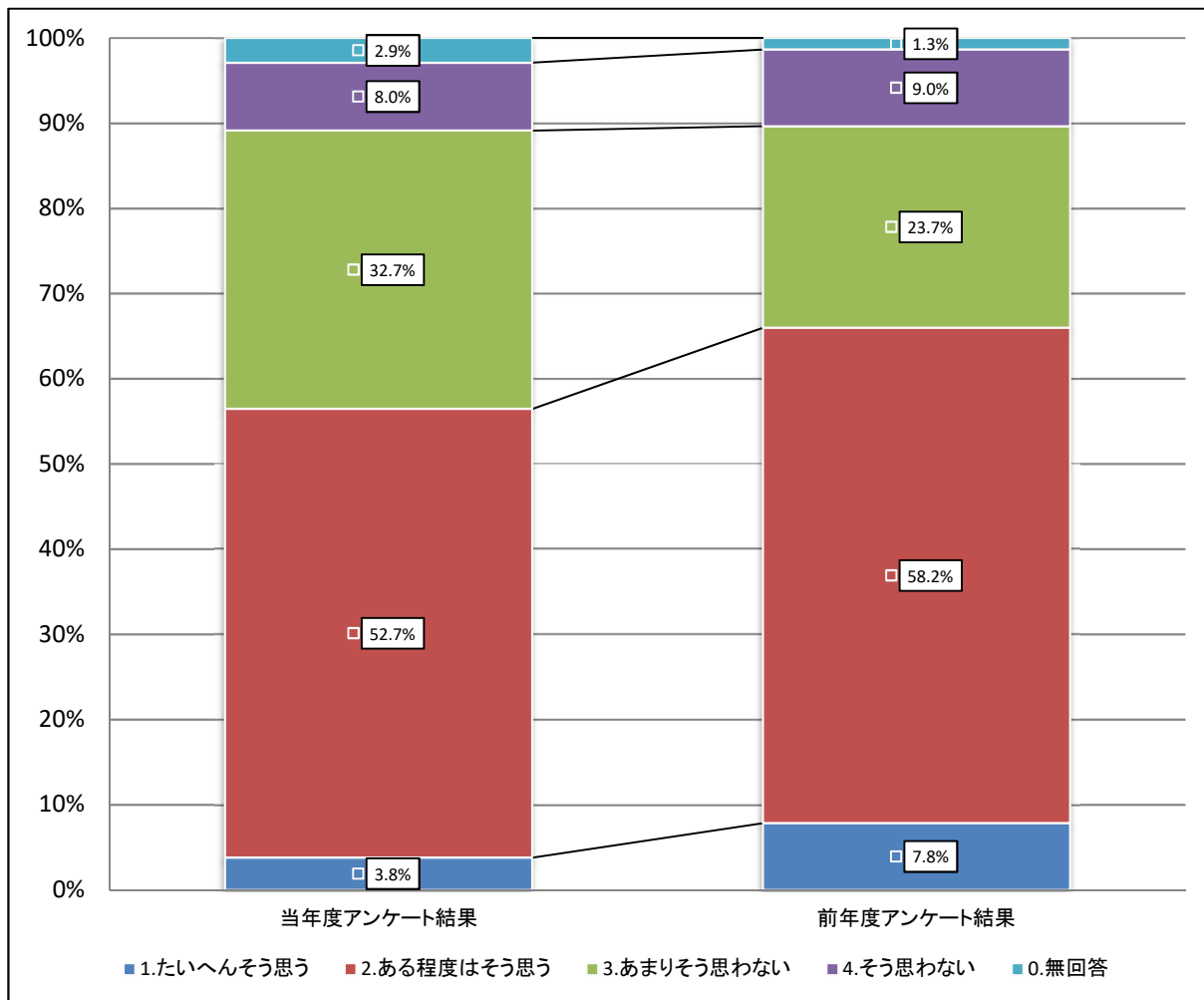
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(0.0%)であり、次いで花園地区(4.3%)となっています。最も多いのは川本地区(20.0%)であり、次いで岡部地区(19.5%)となっています。

## ②男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～6）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると思いますか。



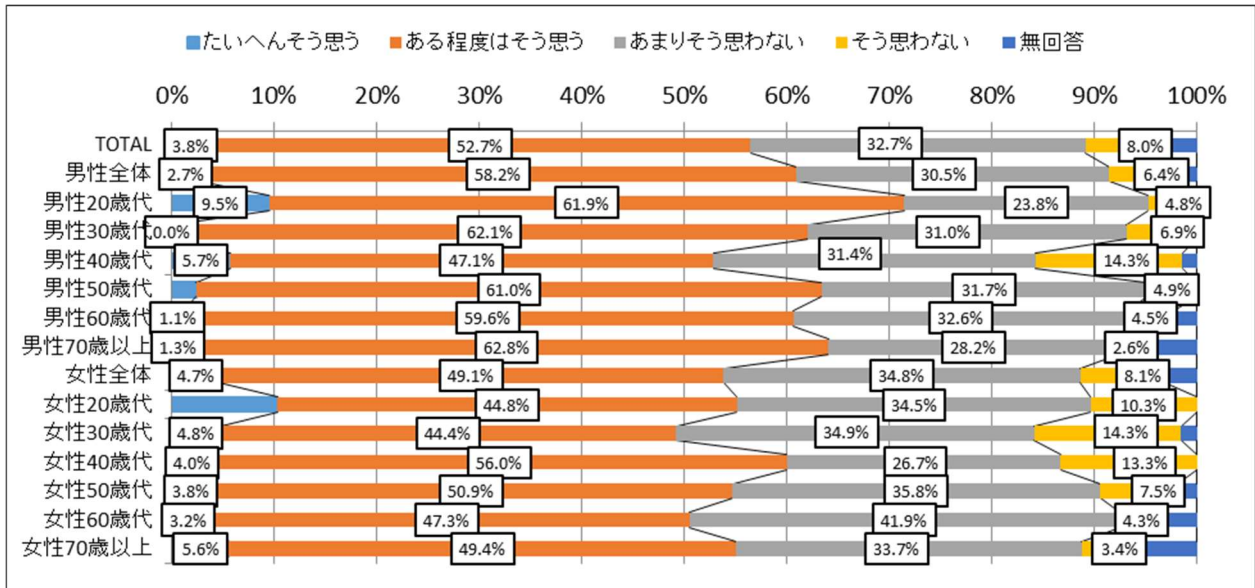
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 52.7%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 32.7%、「そう思わない」と回答した人の割合が 8.0%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 3.8%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 56.5%であり、性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると感じている市民が過半数を占めることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 66%であり、前年度アンケートと比較して、性別に関係なく、家庭、地域、職場で均等な役割分担がされていると感じているとの回答の減少がうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	765	3.8%	52.7%	32.7%	8.0%	2.9%	100.0%
男性全体	328	2.7%	58.2%	30.5%	6.4%	2.1%	100.0%
男性 20 歳代	21	9.5%	61.9%	23.8%	4.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	62.1%	31.0%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	5.7%	47.1%	31.4%	14.3%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	2.4%	61.0%	31.7%	4.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	1.1%	59.6%	32.6%	4.5%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	1.3%	62.8%	28.2%	2.6%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	4.7%	49.1%	34.8%	8.1%	3.2%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	44.8%	34.5%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	4.8%	44.4%	34.9%	14.3%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	4.0%	56.0%	26.7%	13.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	3.8%	50.9%	35.8%	7.5%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	3.2%	47.3%	41.9%	4.3%	3.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	5.6%	49.4%	33.7%	3.4%	7.9%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	1.6%	51.9%	31.4%	11.9%	3.2%	100.0%
藤沢地区	50	4.0%	56.0%	26.0%	10.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	4.1%	46.6%	43.8%	4.1%	1.4%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	29.6%	48.1%	3.7%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	65.2%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
八基地区	22	4.5%	68.2%	22.7%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	10.0%	55.0%	25.0%	5.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	1.1%	58.6%	31.0%	6.9%	2.3%	100.0%
南地区	52	3.8%	50.0%	32.7%	11.5%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	5.7%	57.5%	28.7%	6.9%	1.1%	100.0%
川本地区	50	4.0%	58.0%	30.0%	6.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	8.6%	48.6%	34.3%	4.3%	4.3%	100.0%
無回答	19	0.0%	31.6%	47.4%	15.8%	5.3%	100.0%



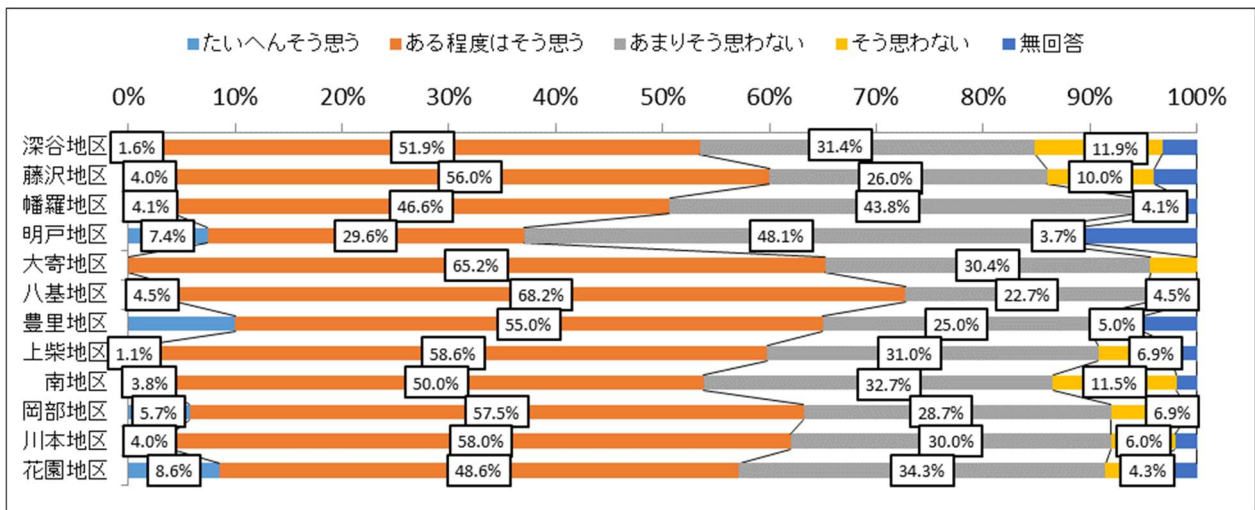
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が61.0%であるのに対して、女性は53.8%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が40歳代(52.9%)、女性は30歳代(49.2%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(71.4%)であり、女性は40歳代(60.0%)となっています。

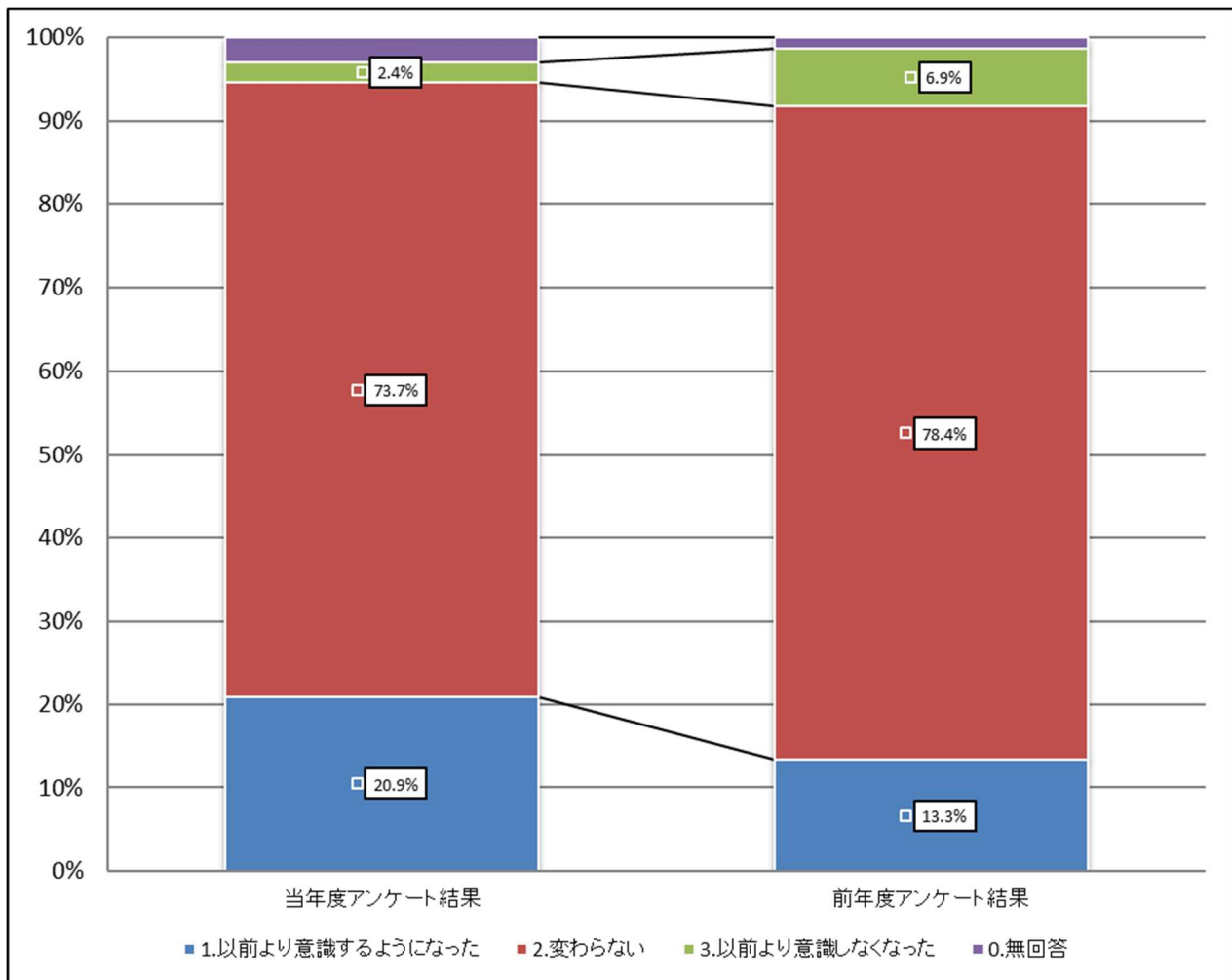
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(37.0%)であり、次いで幡羅地区(50.7%)となっています。最も多いのは八基地区(72.7%)であり、次いで大寄地区(65.2%)となっています。



## 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

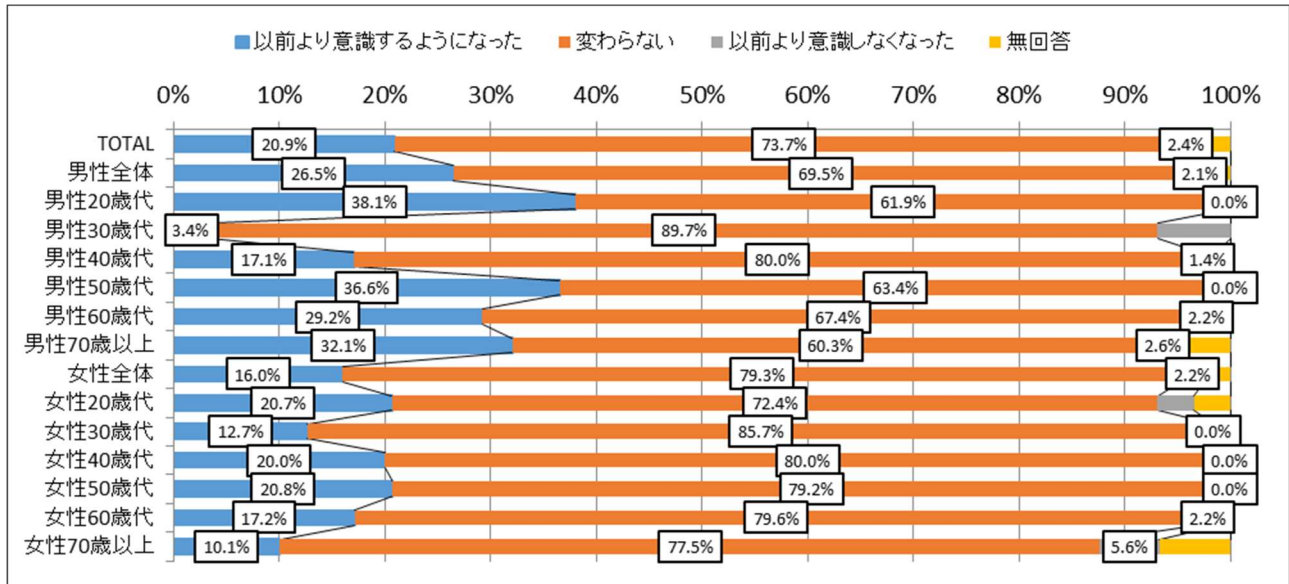


「変わらない」と回答した人の割合が 73.7%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 20.9%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が 2.4%となっており、男女共同参画に対する意識は、以前から変わっていないと感じる市民が大多数を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 13.3%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	765	20.9%	73.7%	2.4%	3.0%	100.0%
男性全体	328	26.5%	69.5%	2.1%	1.8%	100.0%
男性 20 歳代	21	38.1%	61.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	3.4%	89.7%	6.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	17.1%	80.0%	1.4%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	36.6%	63.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	29.2%	67.4%	2.2%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	32.1%	60.3%	2.6%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
女性全体	405	16.0%	79.3%	2.2%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	72.4%	3.4%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	63	12.7%	85.7%	0.0%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	20.8%	79.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	93	17.2%	79.6%	2.2%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	10.1%	77.5%	5.6%	6.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	17.8%	76.8%	2.2%	3.2%	100.0%
藤沢地区	50	12.0%	82.0%	2.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	34.2%	63.0%	0.0%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	14.8%	74.1%	0.0%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	21.7%	60.9%	8.7%	8.7%	100.0%
八基地区	22	22.7%	77.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	35.0%	65.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	29.9%	66.7%	1.1%	2.3%	100.0%
南地区	52	11.5%	86.5%	1.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	20.7%	74.7%	2.3%	2.3%	100.0%
川本地区	50	14.0%	84.0%	2.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	17.1%	72.9%	7.1%	2.9%	100.0%
無回答	19	31.6%	52.6%	5.3%	10.5%	100.0%

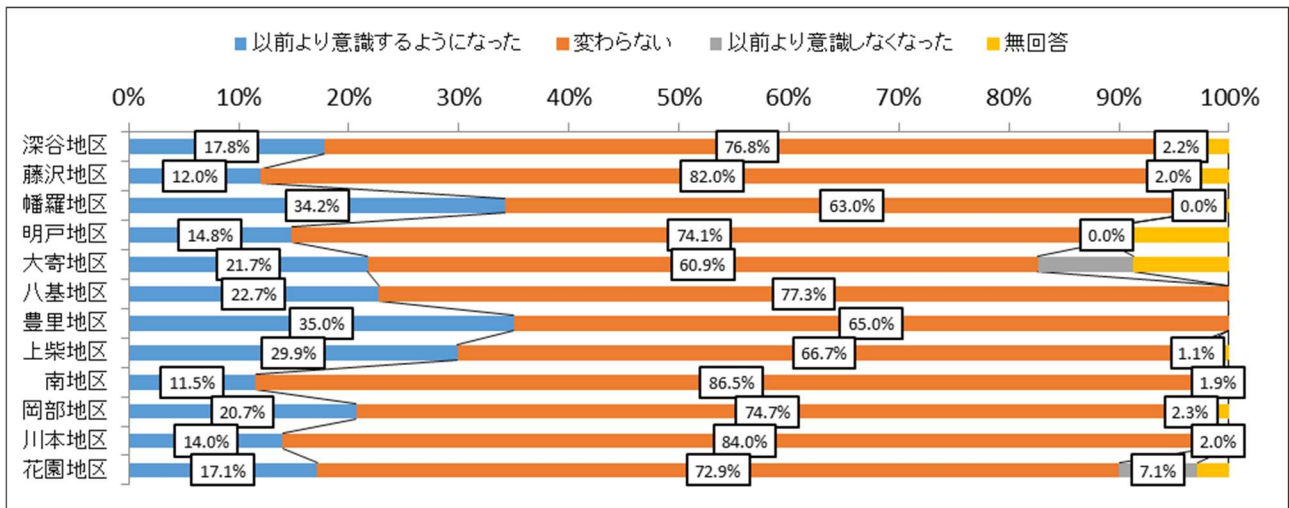
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が26.5%であるのに対して、女性は16.0%となっています。このことから、男女によって差があることがうかがえます。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(3.4%)、女性が70歳以上(10.1%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(38.1%)、女性が50歳代(20.8%)となっています。

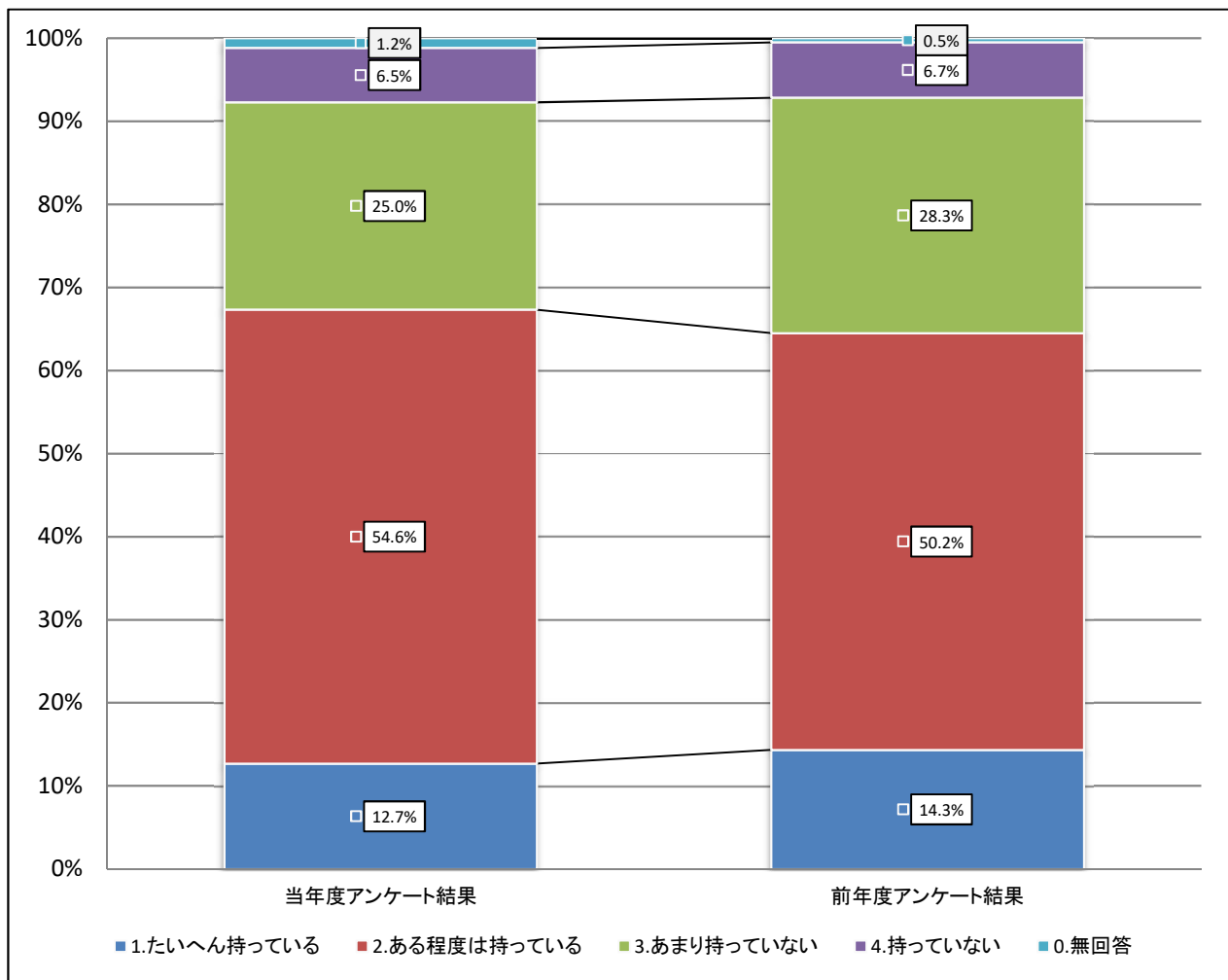
➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区(11.5%)であり、次いで藤沢地区(12.0%)となっています。最も多いのは豊里地区(35.0%)であり、次いで幡羅地区(34.2%)となっています。

④ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問7～9）

市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。



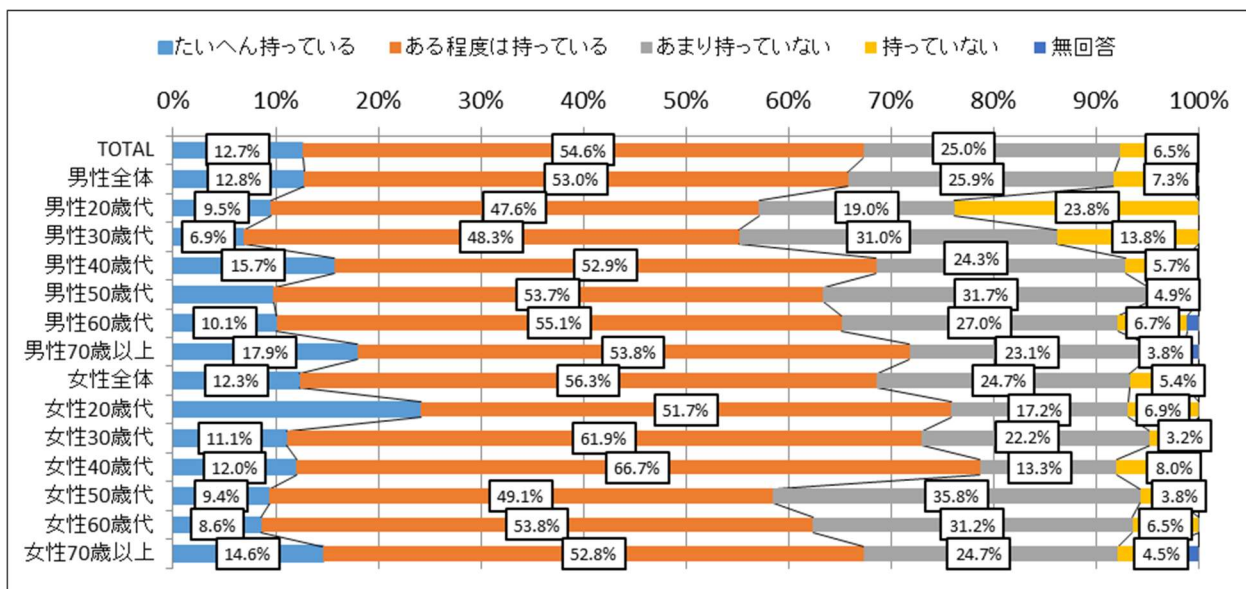
「ある程度は持っている」と回答した人の割合が 54.6%と最も多く、次いで「あまり持っていない」と回答した人の割合が 25.0%、「たいへん持っている」と回答した人の割合が 12.7%、「持っていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.5%となっています。

「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 67.3%であり、約 7 割の市民は、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 50.2%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへん持っている	ある程度は持っている	あまり持っていない	持っていない	無回答	合計
TOTAL	765	12.7%	54.6%	25.0%	6.5%	1.2%	100.0%
男性全体	328	12.8%	53.0%	25.9%	7.3%	0.9%	100.0%
男性20歳代	21	9.5%	47.6%	19.0%	23.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	6.9%	48.3%	31.0%	13.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	15.7%	52.9%	24.3%	5.7%	1.4%	100.0%
男性50歳代	41	9.8%	53.7%	31.7%	4.9%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	10.1%	55.1%	27.0%	6.7%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	17.9%	53.8%	23.1%	3.8%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	12.3%	56.3%	24.7%	5.4%	1.2%	100.0%
女性20歳代	29	24.1%	51.7%	17.2%	6.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	11.1%	61.9%	22.2%	3.2%	1.6%	100.0%
女性40歳代	75	12.0%	66.7%	13.3%	8.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	9.4%	49.1%	35.8%	3.8%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	8.6%	53.8%	31.2%	6.5%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	89	14.6%	52.8%	24.7%	4.5%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	185	11.4%	53.5%	22.2%	11.4%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	10.0%	62.0%	22.0%	6.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	73	24.7%	56.2%	16.4%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	51.9%	25.9%	7.4%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	8.7%	56.5%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
八基地区	22	9.1%	59.1%	27.3%	4.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	60.0%	20.0%	5.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	10.3%	59.8%	27.6%	2.3%	0.0%	100.0%
南地区	52	13.5%	53.8%	26.9%	5.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	12.6%	57.5%	26.4%	2.3%	1.1%	100.0%
川本地区	50	12.0%	34.0%	44.0%	10.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	54.3%	27.1%	5.7%	2.9%	100.0%
無回答	19	21.1%	52.6%	5.3%	15.8%	5.3%	100.0%

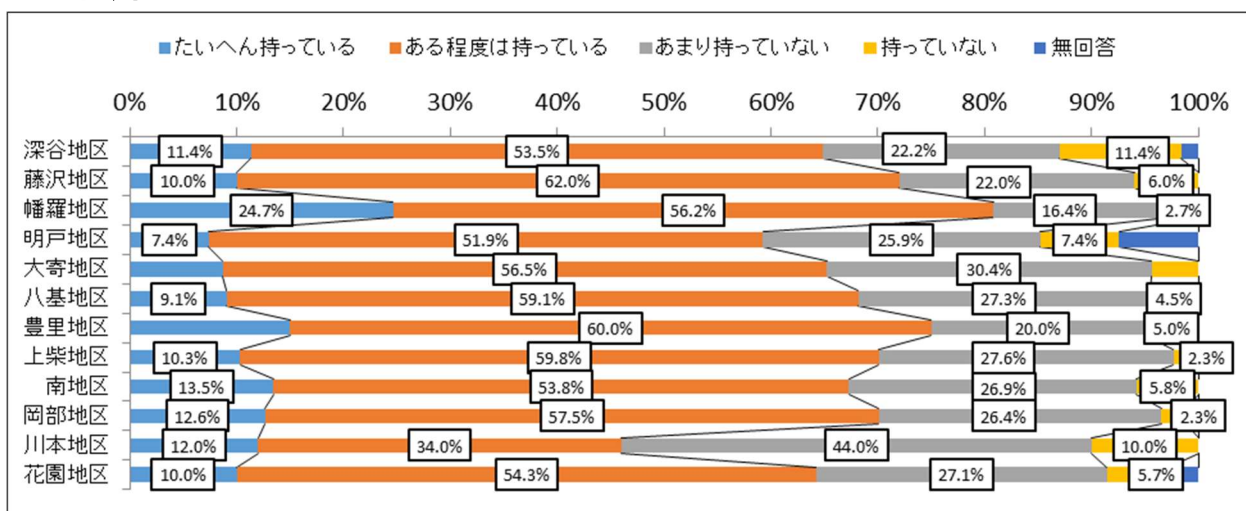
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は男性が 65.9%であるのに対して、女性は 68.6%となっています。

また、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (55.2%)、女性は 50 歳代 (58.5%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (71.8%) であり、女性は 40 歳代 (78.7%) となっています。

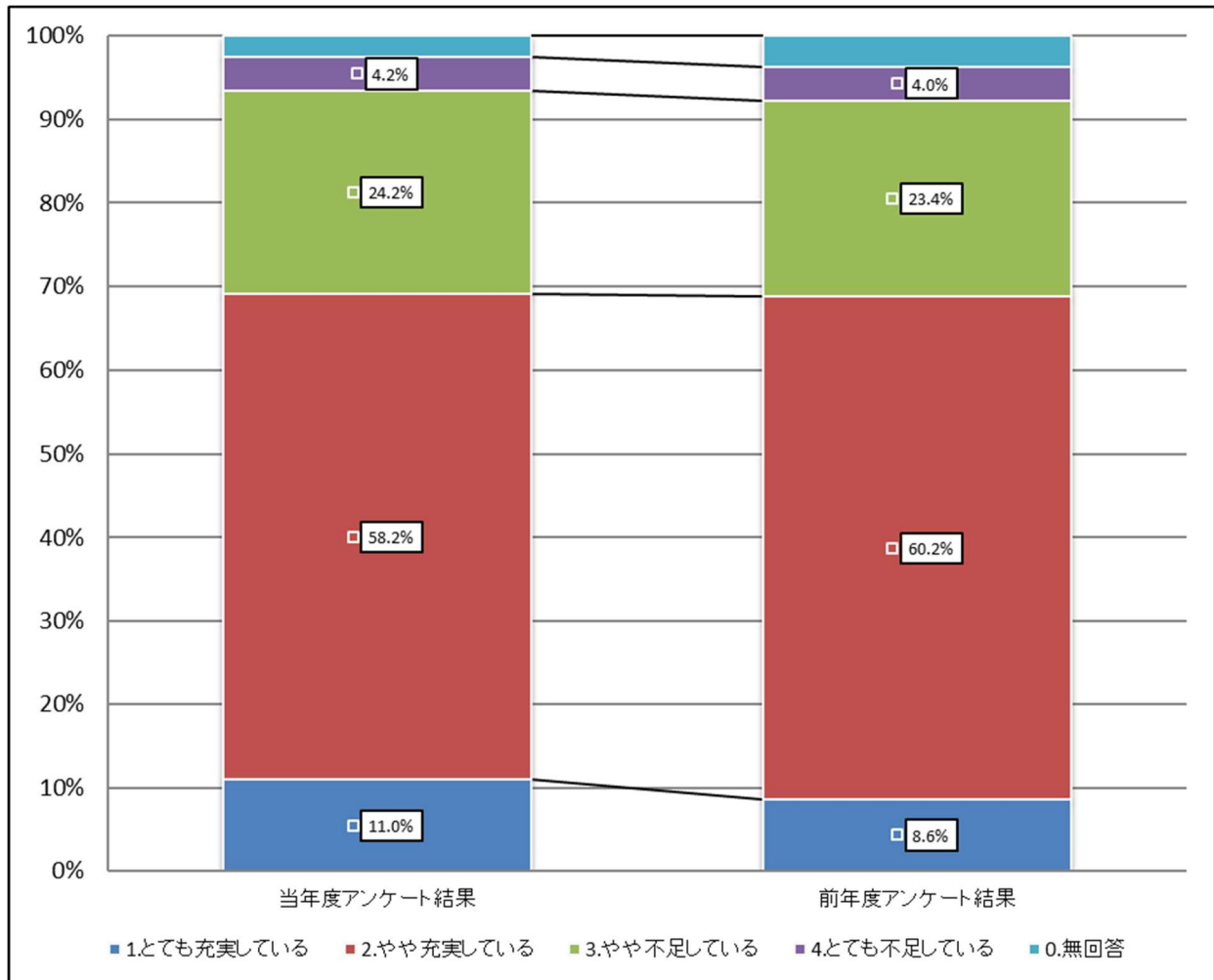
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区 (46.0%) であり、次いで明戸地区 (59.3%) となっています。最も多いのは幡羅地区 (80.8%) であり、次いで豊里地区 (75.0%) となっています。



市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。



「やや充実している」と回答した人の割合が 58.2%と最も多く、次いで「やや不足している」と回答した人の割合が 24.2%、「とても充実している」と回答した人の割合が 11.0%、「とても不足している」と回答した人の割合が最も少なく 4.2%となっています。

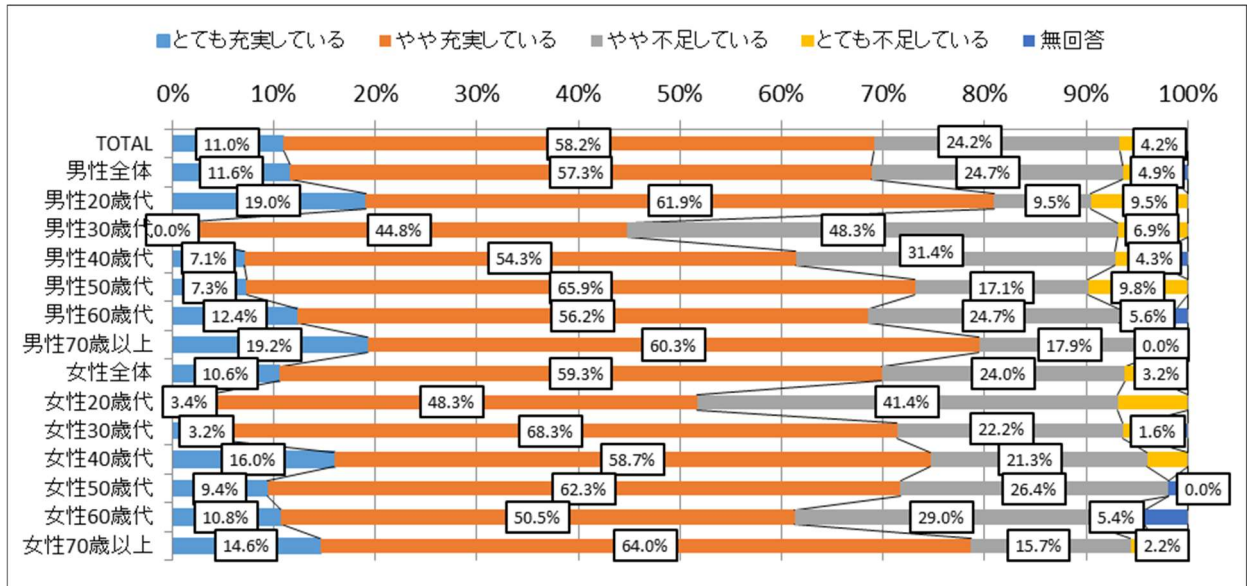
「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 69.2%であり、市から得られる情報および公表手段は充実していると感じている市民が約 7 割を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 68.8%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		とても充実している	やや充実している	やや不足している	とても不足している	無回答	合計
TOTAL	765	11.0%	58.2%	24.2%	4.2%	2.5%	100.0%
男性全体	328	11.6%	57.3%	24.7%	4.9%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	19.0%	61.9%	9.5%	9.5%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	0.0%	44.8%	48.3%	6.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	7.1%	54.3%	31.4%	4.3%	2.9%	100.0%
男性50歳代	41	7.3%	65.9%	17.1%	9.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	12.4%	56.2%	24.7%	5.6%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	19.2%	60.3%	17.9%	0.0%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	10.6%	59.3%	24.0%	3.2%	3.0%	100.0%
女性20歳代	29	3.4%	48.3%	41.4%	6.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	3.2%	68.3%	22.2%	1.6%	4.8%	100.0%
女性40歳代	75	16.0%	58.7%	21.3%	4.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	53	9.4%	62.3%	26.4%	0.0%	1.9%	100.0%
女性60歳代	93	10.8%	50.5%	29.0%	5.4%	4.3%	100.0%
女性70歳以上	89	14.6%	64.0%	15.7%	2.2%	3.4%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	9.2%	56.8%	24.9%	7.0%	2.2%	100.0%
藤沢地区	50	6.0%	66.0%	26.0%	0.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	13.7%	65.8%	17.8%	2.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	51.9%	22.2%	0.0%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	21.7%	39.1%	34.8%	0.0%	4.3%	100.0%
八基地区	22	9.1%	54.5%	27.3%	4.5%	4.5%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	45.0%	20.0%	15.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	11.5%	56.3%	28.7%	2.3%	1.1%	100.0%
南地区	52	13.5%	51.9%	25.0%	9.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	8.0%	63.2%	24.1%	2.3%	2.3%	100.0%
川本地区	50	10.0%	58.0%	24.0%	4.0%	4.0%	100.0%
花園地区	70	12.9%	61.4%	21.4%	0.0%	4.3%	100.0%
無回答	19	5.3%	63.2%	15.8%	10.5%	5.3%	100.0%

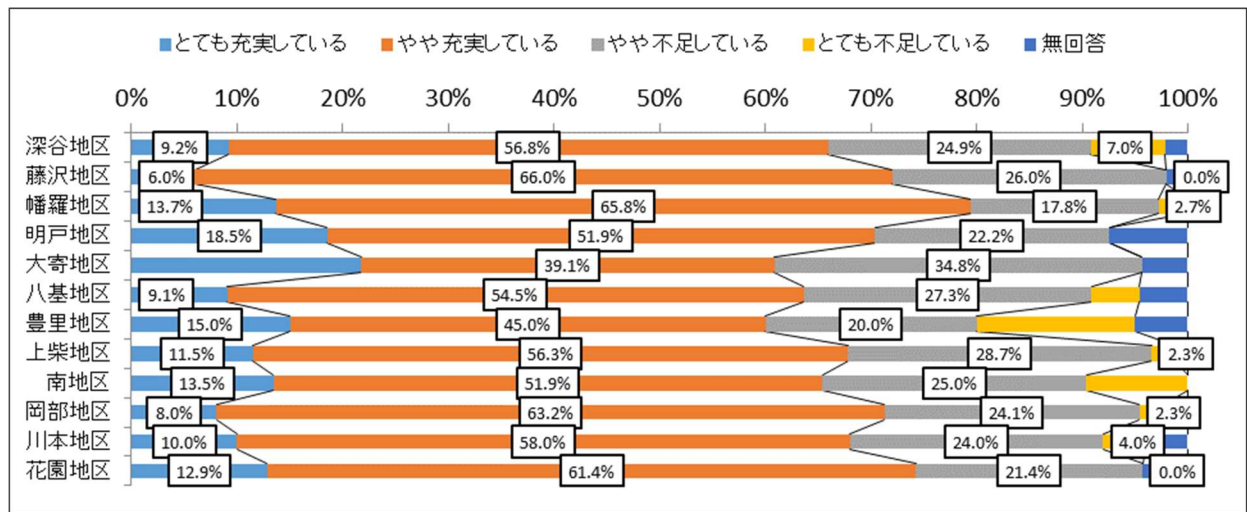
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は男性が68.9%であるのに対して、女性は69.9%となっています。

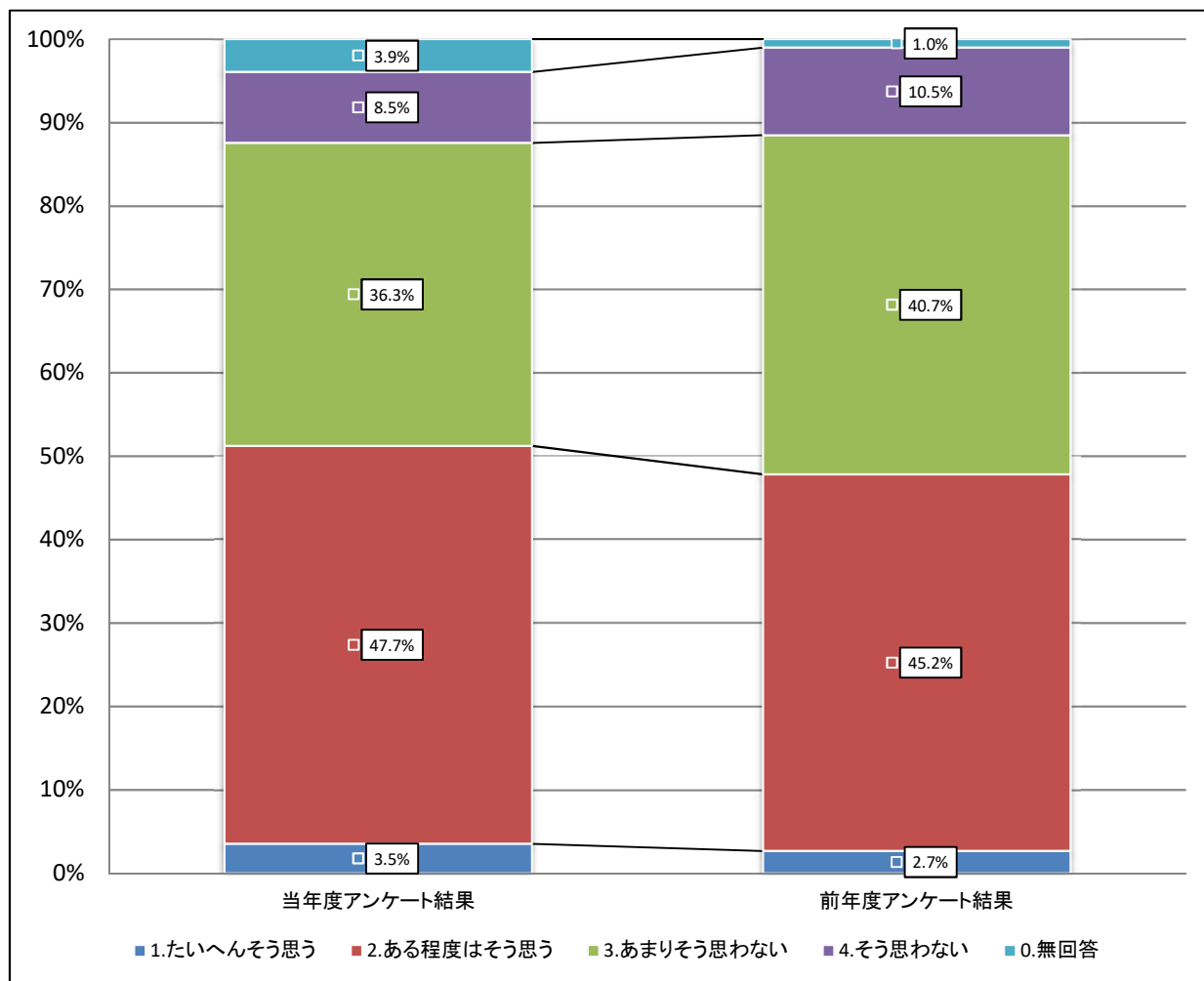
また、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(44.8%)、女性は20歳代(51.7%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(81.0%)であり、女性は70歳以上(78.7%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(60.0%)であり、次いで大寄地区(60.9%)となっています。最も多いのは幡羅地区(79.5%)であり、次いで花園地区(74.3%)となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



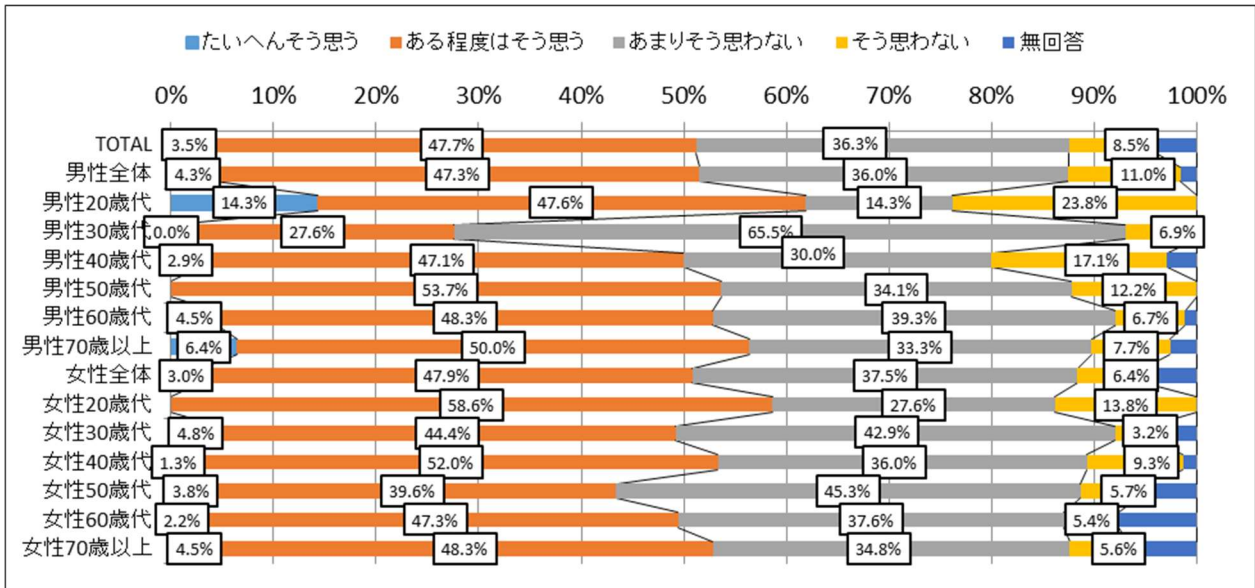
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 47.7%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 36.3%、「そう思わない」と回答した人の割合が 8.5%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 3.5%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 51.2%であり、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じている市民が約半数を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 47.9%であり、前年度アンケートと比較して、増加したことがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	765	3.5%	47.7%	36.3%	8.5%	3.9%	100.0%
男性全体	328	4.3%	47.3%	36.0%	11.0%	1.5%	100.0%
男性20歳代	21	14.3%	47.6%	14.3%	23.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	29	0.0%	27.6%	65.5%	6.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	70	2.9%	47.1%	30.0%	17.1%	2.9%	100.0%
男性50歳代	41	0.0%	53.7%	34.1%	12.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	4.5%	48.3%	39.3%	6.7%	1.1%	100.0%
男性70歳以上	78	6.4%	50.0%	33.3%	7.7%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	3.0%	47.9%	37.5%	6.4%	5.2%	100.0%
女性20歳代	29	0.0%	58.6%	27.6%	13.8%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	4.8%	44.4%	42.9%	3.2%	4.8%	100.0%
女性40歳代	75	1.3%	52.0%	36.0%	9.3%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	3.8%	39.6%	45.3%	5.7%	5.7%	100.0%
女性60歳代	93	2.2%	47.3%	37.6%	5.4%	7.5%	100.0%
女性70歳以上	89	4.5%	48.3%	34.8%	5.6%	6.7%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	2.7%	47.6%	36.2%	9.7%	3.8%	100.0%
藤沢地区	50	4.0%	52.0%	34.0%	8.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	5.5%	53.4%	34.2%	4.1%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	40.7%	37.0%	7.4%	11.1%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	52.2%	26.1%	17.4%	4.3%	100.0%
八基地区	22	9.1%	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	15.0%	30.0%	35.0%	20.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	2.3%	48.3%	41.4%	6.9%	1.1%	100.0%
南地区	52	1.9%	38.5%	36.5%	19.2%	3.8%	100.0%
岡部地区	87	5.7%	47.1%	37.9%	5.7%	3.4%	100.0%
川本地区	50	2.0%	52.0%	32.0%	8.0%	6.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	52.9%	34.3%	4.3%	7.1%	100.0%
無回答	19	0.0%	36.8%	42.1%	10.5%	10.5%	100.0%

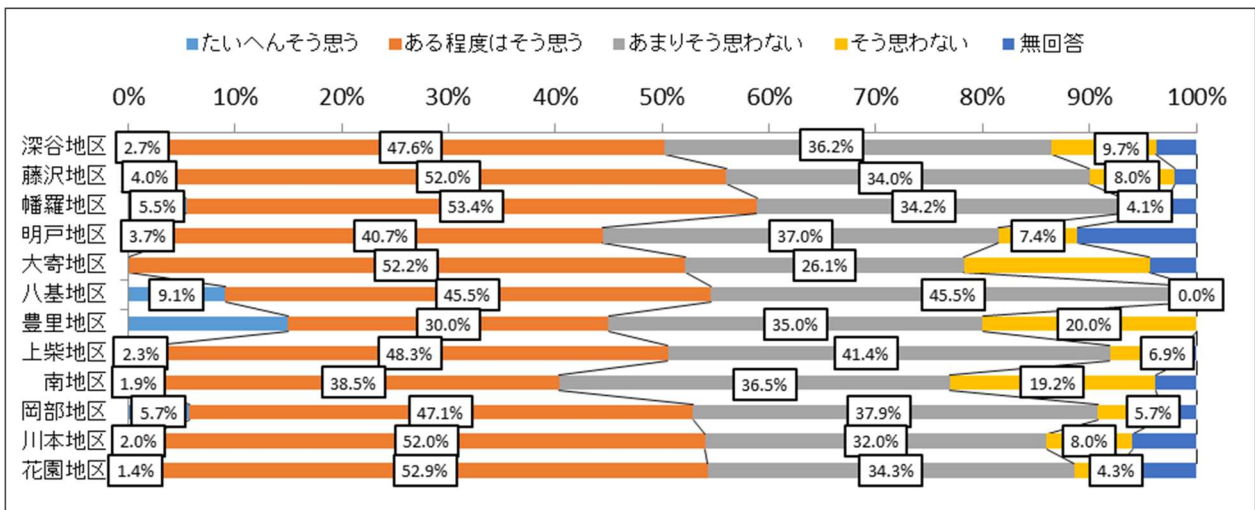
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が51.5%であるのに対して、女性は50.9%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(27.6%)、女性は50歳代(43.4%)であり、一方で、最も多い世代は、男女ともに20歳代(男性61.9%、女性58.6%)となっています。

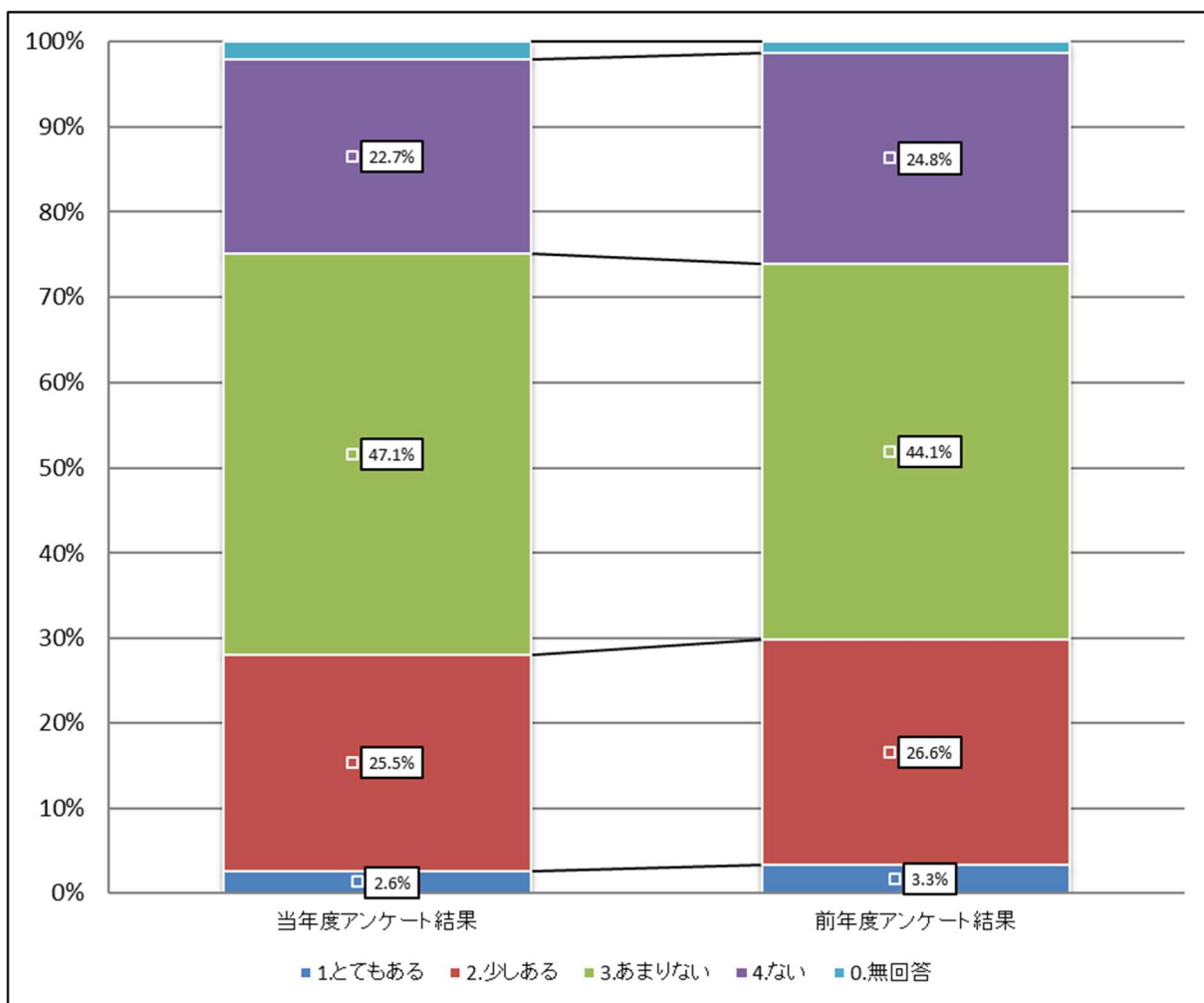
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、南地区(40.4%)であり、次いで明戸地区(44.4%)となっています。最も多いのは幡羅地区(58.9%)であり、次いで藤沢地区(56.0%)となっています。

#### ④絆でつながるひとづくり（7. 問10～13）

市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。



「あまりない」と回答した人の割合が 47.1%と最も多く、次いで「少しある」と回答した人の割合が 25.5%、「ない」と回答した人の割合が 22.7%、「とてもある」と回答した人の割合は最も少なく 2.6%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 28.1%であり、市民の多くは NPO 団体での活動やボランティア活動に対して興味をもっていないことがうかがえます。

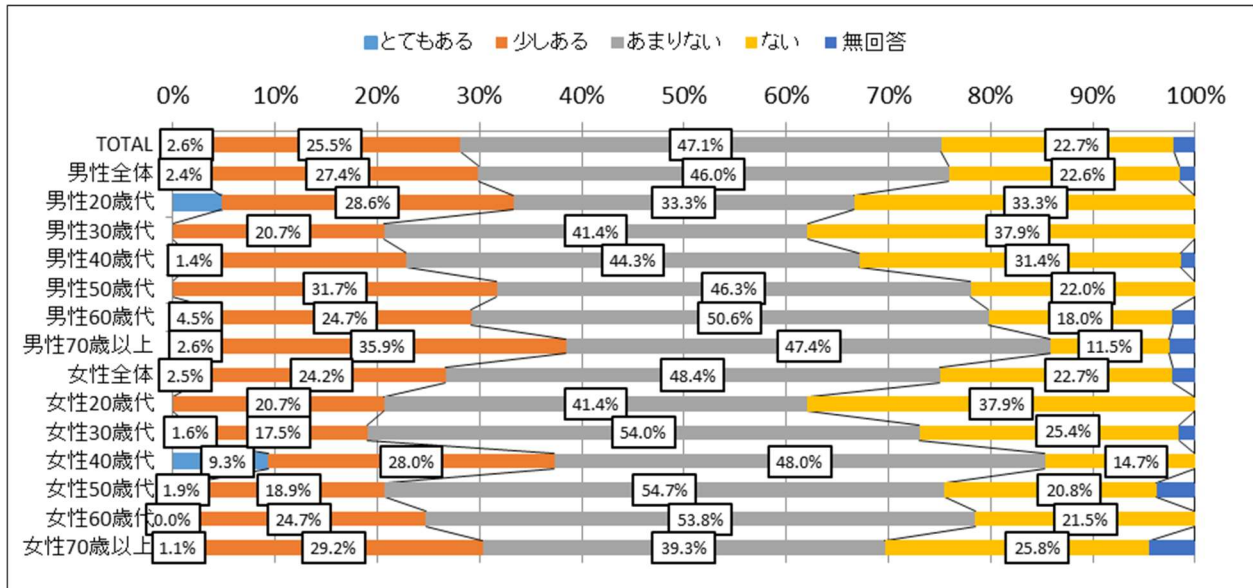
また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 29.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	765	2.6%	25.5%	47.1%	22.7%	2.1%	100.0%
男性全体	328	2.4%	27.4%	46.0%	22.6%	1.5%	100.0%
男性 20 歳代	21	4.8%	28.6%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	0.0%	20.7%	41.4%	37.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	1.4%	21.4%	44.3%	31.4%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	0.0%	31.7%	46.3%	22.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	4.5%	24.7%	50.6%	18.0%	2.2%	100.0%
男性 70 歳以上	78	2.6%	35.9%	47.4%	11.5%	2.6%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	405	2.5%	24.2%	48.4%	22.7%	2.2%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	20.7%	41.4%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	1.6%	17.5%	54.0%	25.4%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	28.0%	48.0%	14.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	1.9%	18.9%	54.7%	20.8%	3.8%	100.0%
女性 60 歳代	93	0.0%	24.7%	53.8%	21.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	89	1.1%	29.2%	39.3%	25.8%	4.5%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
深谷地区	185	1.1%	24.9%	45.9%	26.5%	1.6%	100.0%
藤沢地区	50	0.0%	24.0%	44.0%	28.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	6.8%	23.3%	52.1%	17.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	29.6%	40.7%	14.8%	14.8%	100.0%
大寄地区	23	0.0%	26.1%	39.1%	30.4%	4.3%	100.0%
八基地区	22	0.0%	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	5.0%	15.0%	50.0%	30.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	3.4%	27.6%	49.4%	19.5%	0.0%	100.0%
南地区	52	3.8%	23.1%	51.9%	21.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	2.3%	25.3%	51.7%	19.5%	1.1%	100.0%
川本地区	50	2.0%	24.0%	50.0%	24.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	5.7%	27.1%	38.6%	22.9%	5.7%	100.0%
無回答	19	0.0%	52.6%	21.1%	21.1%	5.3%	100.0%



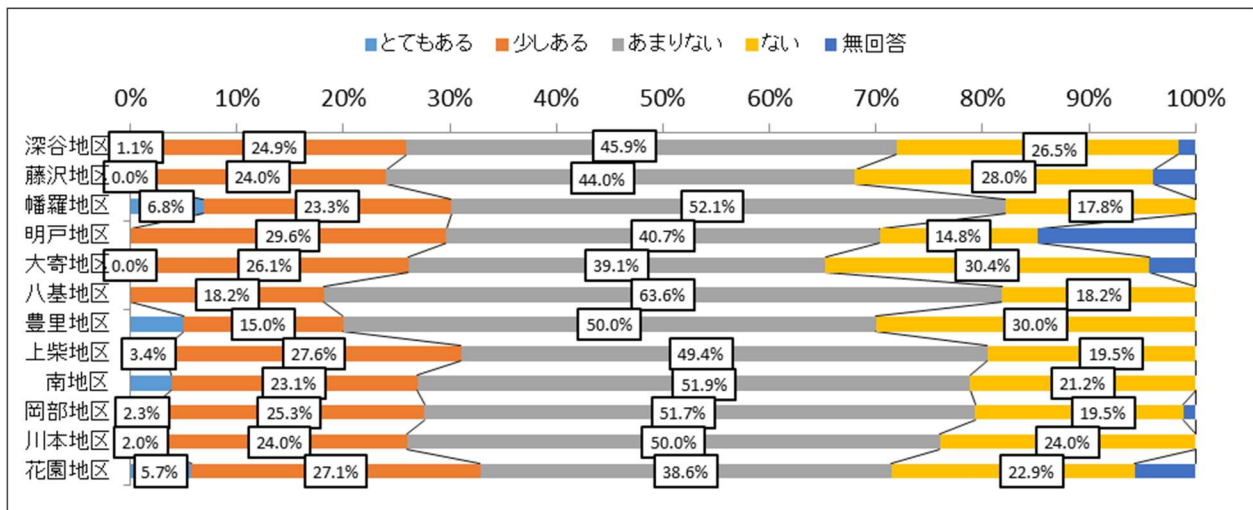
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が29.9%であるのに対して、女性は26.7%となっています。

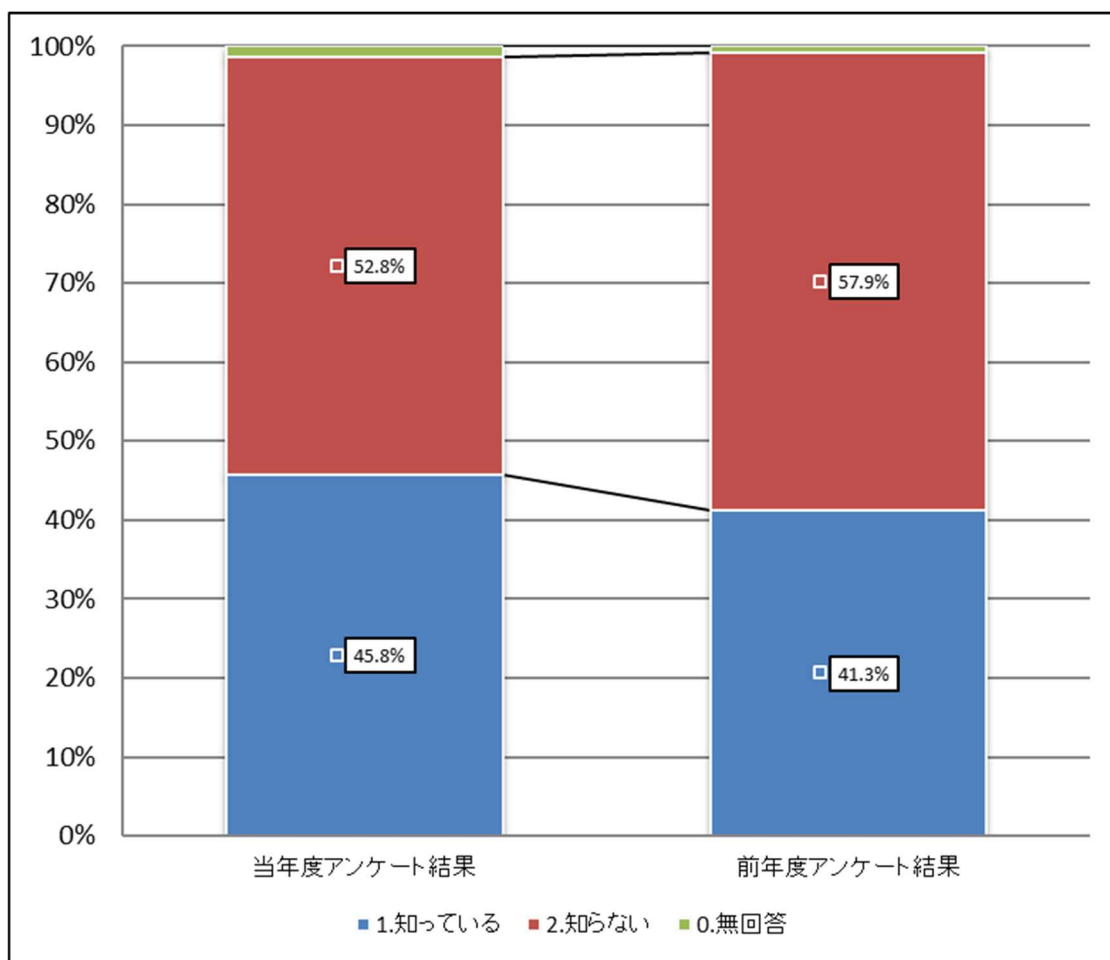
「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代（20.7%）、女性が30歳代（19.0%）となっています。最も多い世代は、男性が70歳以上（38.5%）、女性が40歳代（37.3%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（18.2%）であり、次いで豊里地区（20.0%）となっています。最も多いのは花園地区（32.9%）であり、次いで上柴地区（31.0%）となっています。

## 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

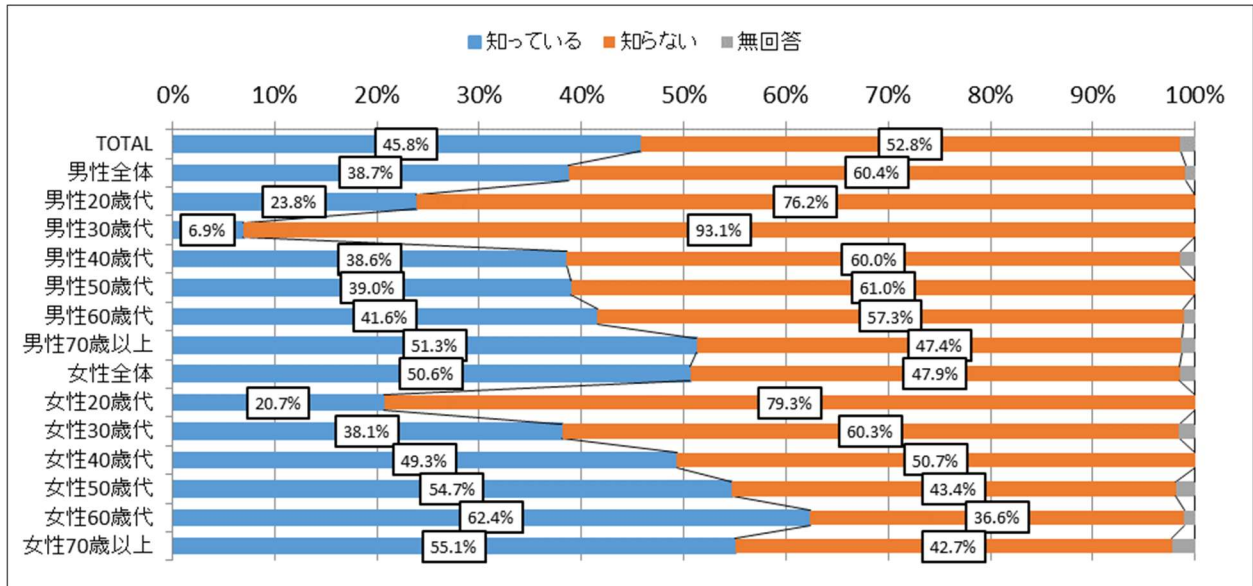


「知らない」と回答した人の割合は 52.8%、「知っている」と回答した人の割合は 45.8% であり、過半数の人が市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 41.3% であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	765	45.8%	52.8%	1.4%	100.0%
男性全体	328	38.7%	60.4%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	21	23.8%	76.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	6.9%	93.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	38.6%	60.0%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	39.0%	61.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	41.6%	57.3%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	51.3%	47.4%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	50.6%	47.9%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	79.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	38.1%	60.3%	1.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	49.3%	50.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	54.7%	43.4%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	62.4%	36.6%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	89	55.1%	42.7%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	38.4%	60.5%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	54.0%	44.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	47.9%	52.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	33.3%	59.3%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	65.2%	30.4%	4.3%	100.0%
八基地区	22	40.9%	59.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	55.0%	45.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	49.4%	50.6%	0.0%	100.0%
南地区	52	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	87	41.4%	57.5%	1.1%	100.0%
川本地区	50	44.0%	56.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	41.4%	54.3%	4.3%	100.0%
無回答	19	36.8%	57.9%	5.3%	100.0%

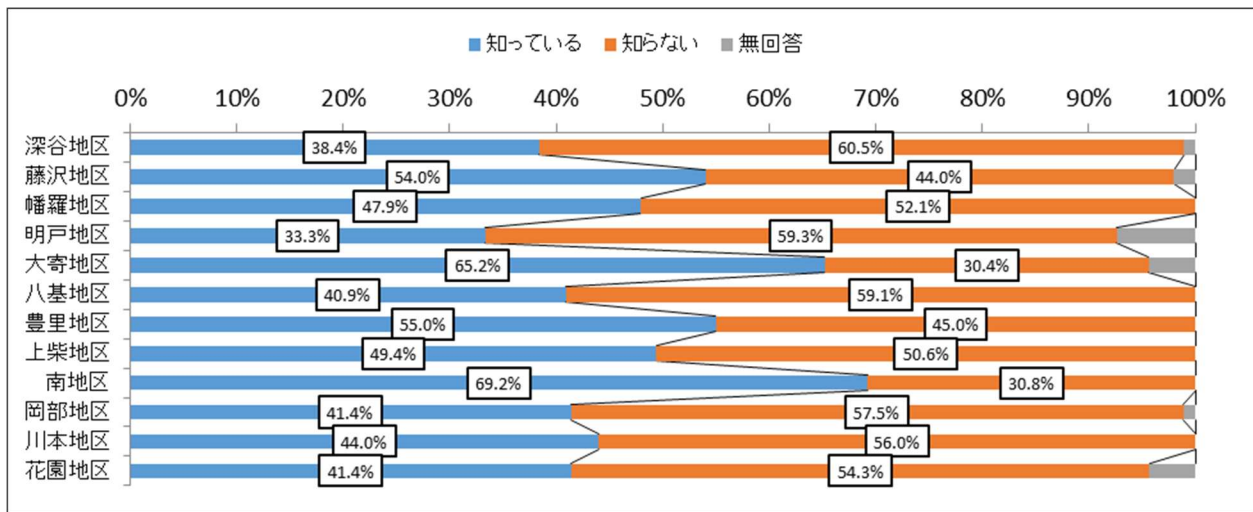
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が38.7%であるのに対して、女性は50.6%となっています。男女によって、差があることがうかがえます。

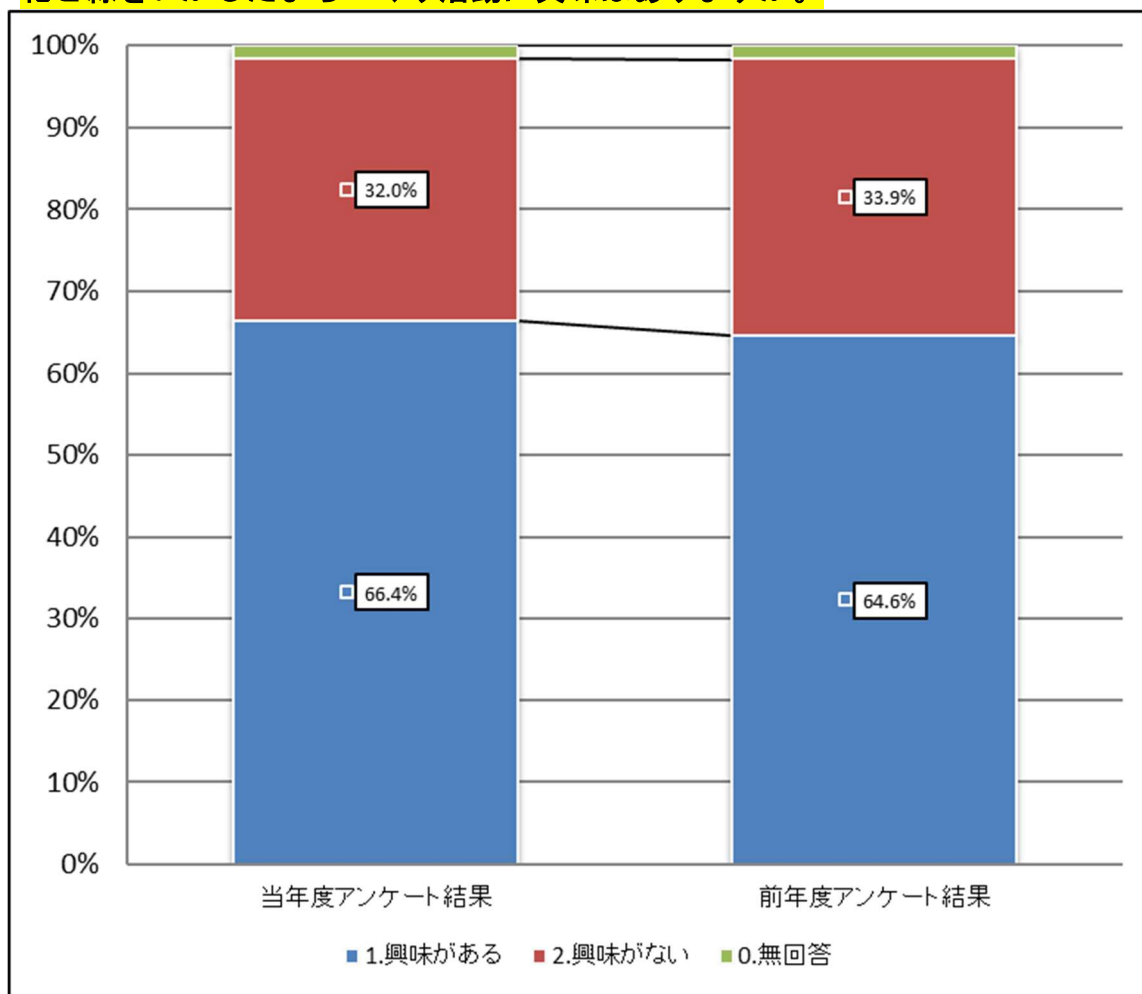
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(6.9%)、女性が20歳代(20.7%)であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(51.3%)、女性が60歳代(62.4%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(33.3%)であり、次いで深谷地区(38.4%)となっています。最も多いのは南地区(69.2%)であり、次いで大寄地区(65.2%)となっています。

## 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。



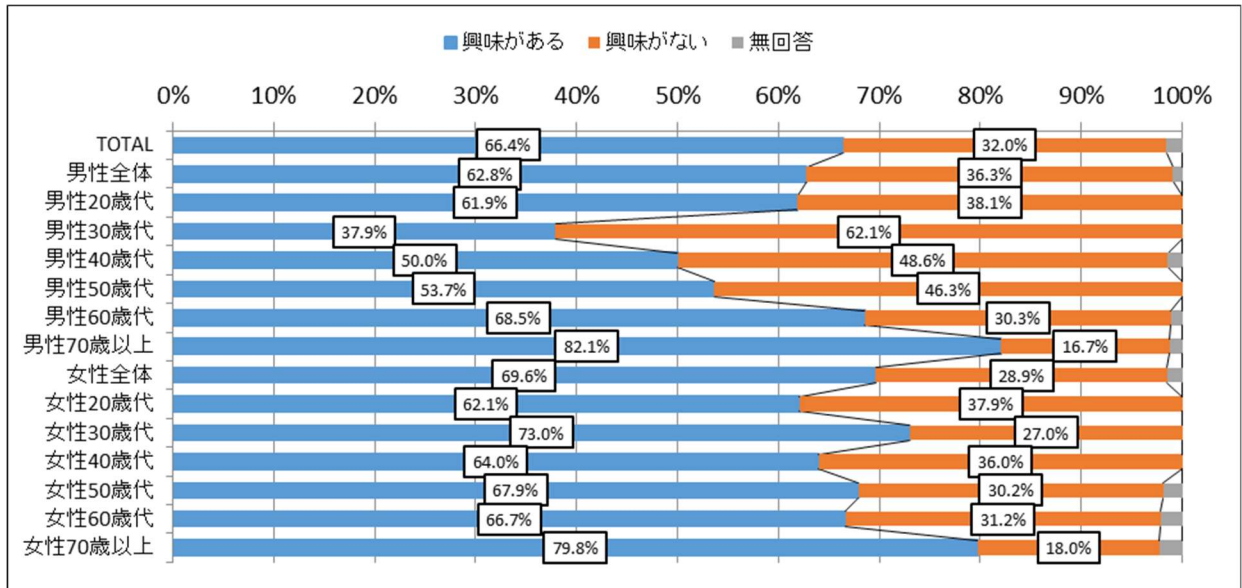
「興味がある」と回答した人の割合は 66.4%、「興味がない」と回答した人の割合は 32.0% であり、市民の 6 割以上が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 64.6% であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	765	66.4%	32.0%	1.6%	100.0%
男性全体	328	62.8%	36.3%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	21	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	29	37.9%	62.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	70	50.0%	48.6%	1.4%	100.0%
男性 50 歳代	41	53.7%	46.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	89	68.5%	30.3%	1.1%	100.0%
男性 70 歳以上	78	82.1%	16.7%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	69.6%	28.9%	1.5%	100.0%
女性 20 歳代	29	62.1%	37.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	63	73.0%	27.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	64.0%	36.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	53	67.9%	30.2%	1.9%	100.0%
女性 60 歳代	93	66.7%	31.2%	2.2%	100.0%
女性 70 歳以上	89	79.8%	18.0%	2.2%	100.0%
女性年齢不詳	3	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	68.6%	30.3%	1.1%	100.0%
藤沢地区	50	66.0%	32.0%	2.0%	100.0%
幡羅地区	73	76.7%	23.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	74.1%	18.5%	7.4%	100.0%
大寄地区	23	65.2%	30.4%	4.3%	100.0%
八基地区	22	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	87	66.7%	32.2%	1.1%	100.0%
南地区	52	65.4%	32.7%	1.9%	100.0%
岡部地区	87	64.4%	34.5%	1.1%	100.0%
川本地区	50	56.0%	44.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	57.1%	40.0%	2.9%	100.0%
無回答	19	78.9%	15.8%	5.3%	100.0%



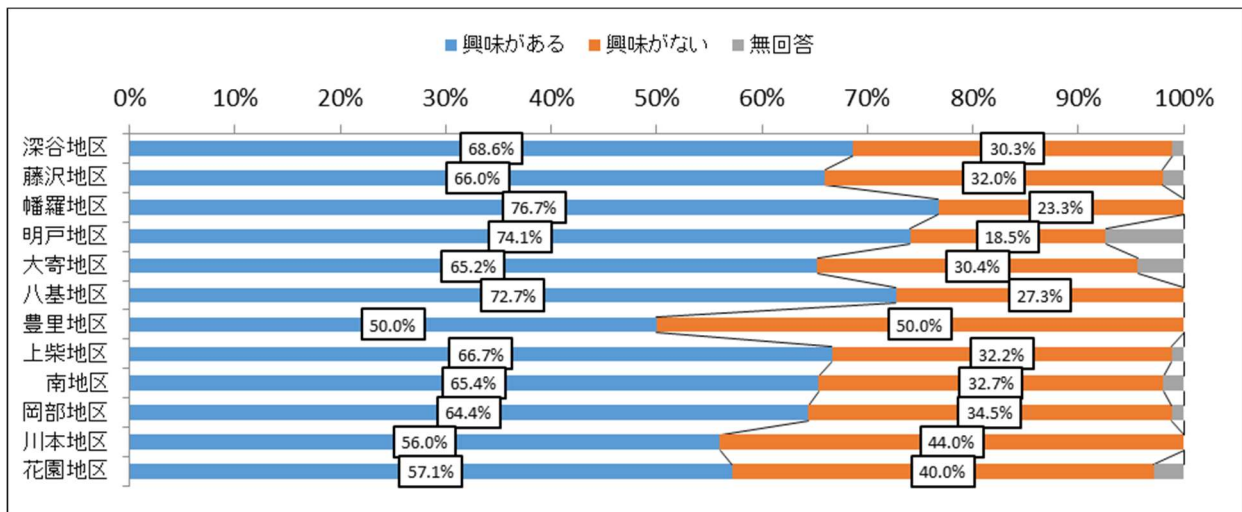
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は男性が62.8%であるのに対して、女性は69.6%となっています。

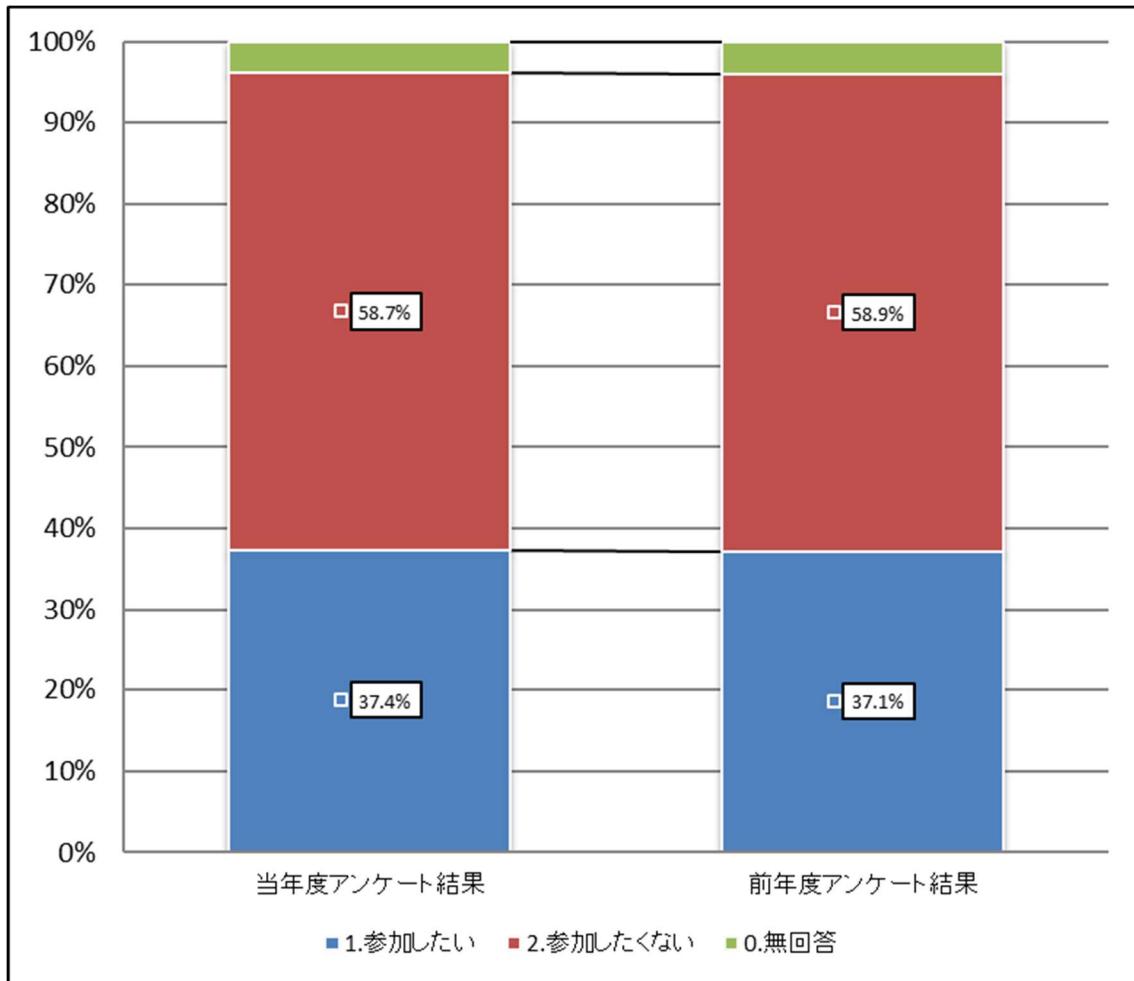
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(37.9%)、女性が20歳代(62.1%)となっています。最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性82.1%、女性79.8%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(50.0%)であり、次いで川本地区(56.0%)となっています。最も多いのは幡羅地区(76.7%)であり、次いで明戸地区(74.1%)となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



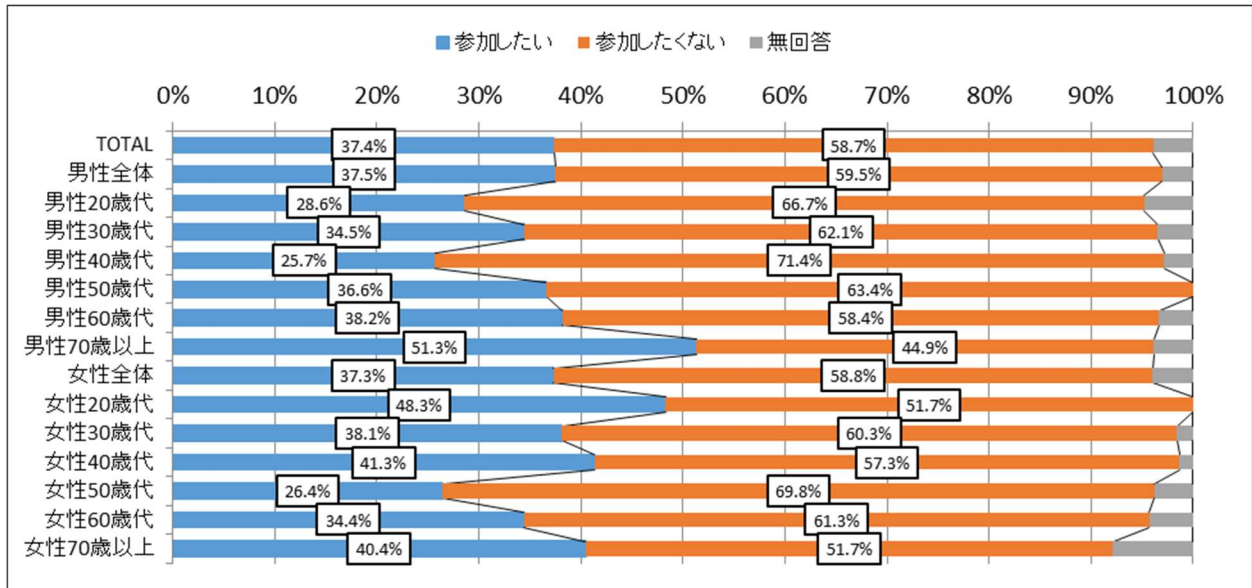
「参加したくない」と回答した人の割合は58.7%であり、「参加したい」と回答した人の割合は37.4%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の66.4%を占めるものの、実際に活動に参加したいと思うまでには至っていない市民が多数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は37.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	765	37.4%	58.7%	3.9%	100.0%
男性全体	328	37.5%	59.5%	3.0%	100.0%
男性20歳代	21	28.6%	66.7%	4.8%	100.0%
男性30歳代	29	34.5%	62.1%	3.4%	100.0%
男性40歳代	70	25.7%	71.4%	2.9%	100.0%
男性50歳代	41	36.6%	63.4%	0.0%	100.0%
男性60歳代	89	38.2%	58.4%	3.4%	100.0%
男性70歳以上	78	51.3%	44.9%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—
女性全体	405	37.3%	58.8%	4.0%	100.0%
女性20歳代	29	48.3%	51.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	38.1%	60.3%	1.6%	100.0%
女性40歳代	75	41.3%	57.3%	1.3%	100.0%
女性50歳代	53	26.4%	69.8%	3.8%	100.0%
女性60歳代	93	34.4%	61.3%	4.3%	100.0%
女性70歳以上	89	40.4%	51.7%	7.9%	100.0%
女性年齢不詳	3	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%
深谷地区	185	36.2%	60.0%	3.8%	100.0%
藤沢地区	50	46.0%	50.0%	4.0%	100.0%
幡羅地区	73	43.8%	53.4%	2.7%	100.0%
明戸地区	27	33.3%	51.9%	14.8%	100.0%
大寄地区	23	26.1%	65.2%	8.7%	100.0%
八基地区	22	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	20	30.0%	65.0%	5.0%	100.0%
上柴地区	87	40.2%	58.6%	1.1%	100.0%
南地区	52	34.6%	61.5%	3.8%	100.0%
岡部地区	87	36.8%	60.9%	2.3%	100.0%
川本地区	50	24.0%	74.0%	2.0%	100.0%
花園地区	70	35.7%	57.1%	7.1%	100.0%
無回答	19	57.9%	36.8%	5.3%	100.0%

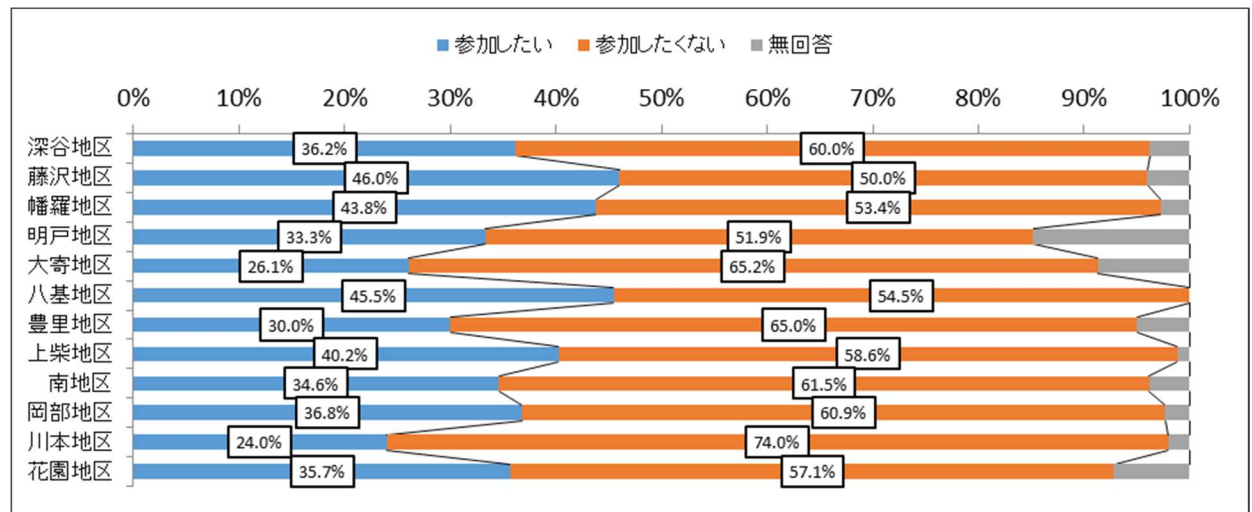
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は男性が37.5%であるのに対して、女性は37.3%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が40歳代(25.7%)であり、女性は50歳代(26.4%)となっています。最も多い世代は、男性が70歳以上(51.3%)、女性が20歳代(48.3%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区(24.0%)であり、次いで大寄地区(26.1%)となっています。最も多いのは藤沢地区(46.0%)であり、次いで八基地区(45.5%)となっています。

### 3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

#### (1) 深谷市全体

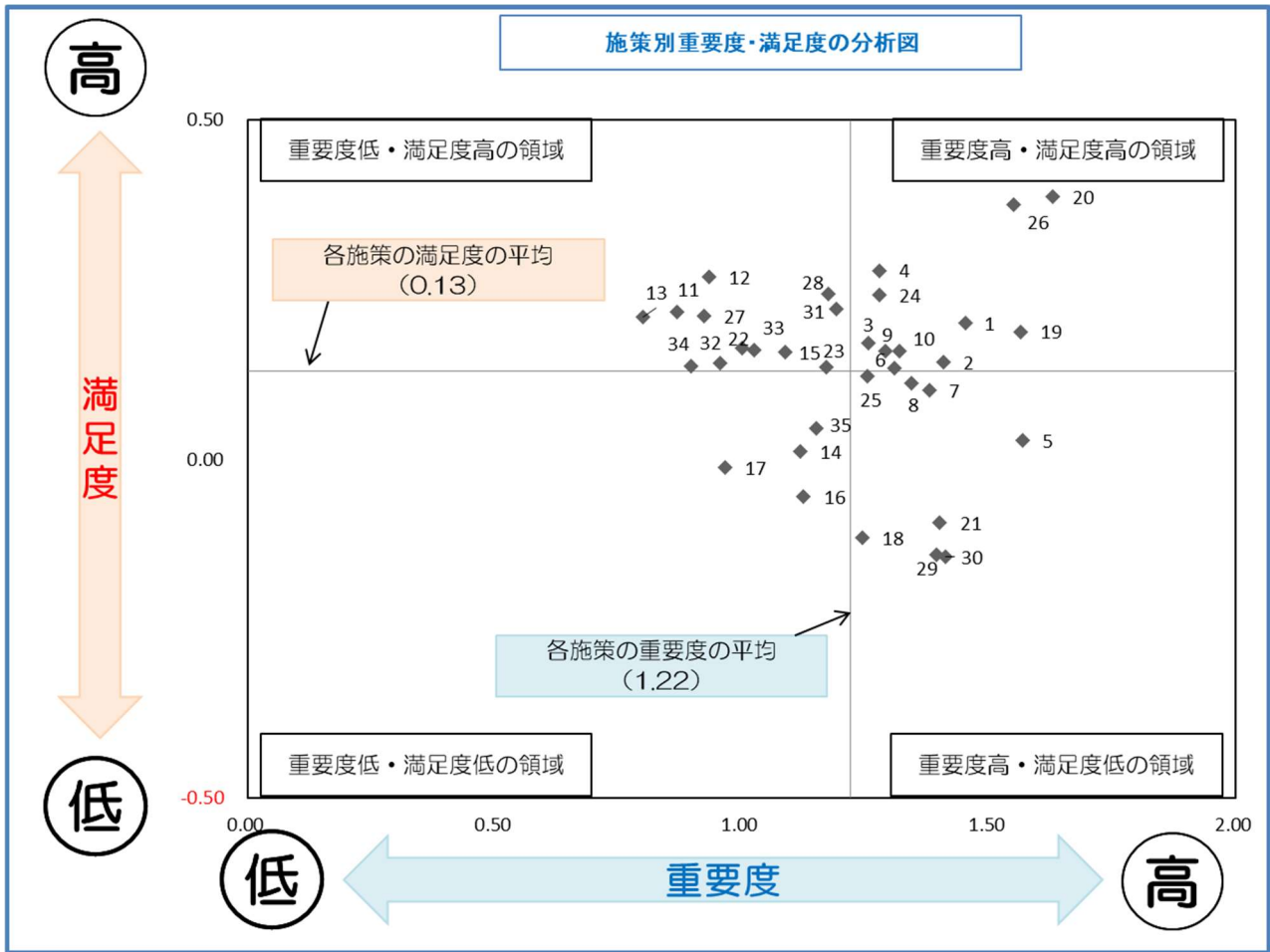
##### ① 施策別重要度・満足度一覧

施策			重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1	子育て支援の充実	1.45	0.20
	2	保育サービスの充実	1.41	0.14
	3	青少年の健全育成の推進	1.26	0.17
	4	健康づくりの推進	1.28	0.28
	5	地域医療体制の充実	1.57	0.03
	6	地域福祉の推進	1.31	0.13
	7	高齢者福祉の推進	1.38	0.10
	8	障害者福祉の推進	1.34	0.11
2.教育・文化	9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1.29	0.16
	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1.32	0.16
	11	生涯学習の推進	0.87	0.22
	12	郷土の歴史・文化の継承と活用	0.93	0.27
	13	スポーツ・レクリエーションの推進	0.80	0.21
3.産業振興	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.12	0.01
	15	農畜産物の販売流通体制の充実	1.09	0.16
	16	商工業の振興	1.13	-0.05
	17	観光資源の整備と活用	0.97	-0.01
	18	就労環境の整備	1.24	-0.12
4.暮らし・環境	19	災害に強い防災体制の推進	1.56	0.19
	20	消防・救急体制の充実	1.63	0.39
	21	防犯・空き家対策の推進	1.40	-0.09
	22	地域コミュニティの推進	1.00	0.16
	23	自然・生活環境の保全	1.17	0.14
	24	環境衛生の推進	1.28	0.24
	25	良好な市街地・住環境形成の推進	1.25	0.12
5.都市・生活基礎	26	水の安定供給と下水処理の適正化	1.55	0.38
	27	自然・文化を生かした景観形成	0.92	0.21
	28	治水対策の推進	1.18	0.24
	29	道路・交通環境整備の推進	1.39	-0.14
	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.41	-0.14
	31	人権・個性が尊重される社会の実現	1.19	0.22
6.協働・行政経営	32	男女共同参画の実現	0.96	0.14
	33	情報発信・共有の推進	1.03	0.16
	34	市民との協働・交流の推進	0.90	0.14
	35	行財政運営の推進	1.15	0.05
平均値			1.22	0.13

重要度の平均値は 1.22 となっており、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.13 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。



② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
28	治水対策の推進	19	災害に強い防災体制の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	20	消防・救急体制の充実
32	男女共同参画の実現	24	環境衛生の推進
33	情報発信・共有の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### <重要度高・満足度高>

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「青少年の健全育成の推進」、「健康づくりの推進」、「地域福祉の推進」、「生きる力」を育む学校教育の推進、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「災害に強い防災体制の推進」、「消防・救急体制の充実」、「環境衛生の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### <重要度高・満足度低>

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「高齢者福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「就労環境の整備」、「防犯・空き家対策の推進」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」の8施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### <重要度低・満足度高>

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「地域コミュニティの推進」、「自然・生活環境の保全」、「自然・文化を生かした景観形成」、「治水対策の推進」、「人権・個性が尊重される社会の実現」、「男女共同参画の実現」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」の12施策が該当します。

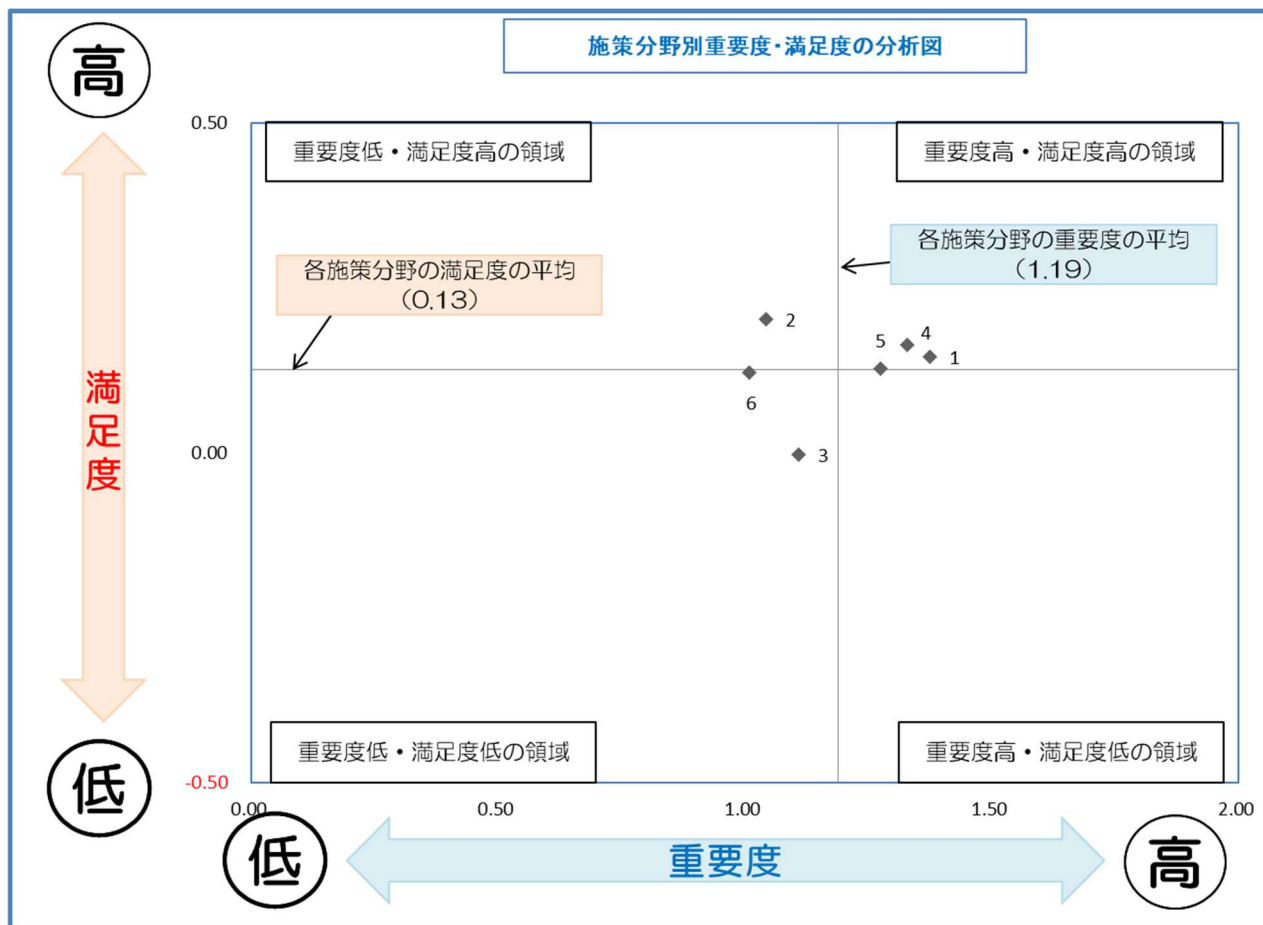
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

#### <重要度低・満足度低>

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「行財政運営の推進」の4施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

### ③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興		
6	協働・行政経営		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

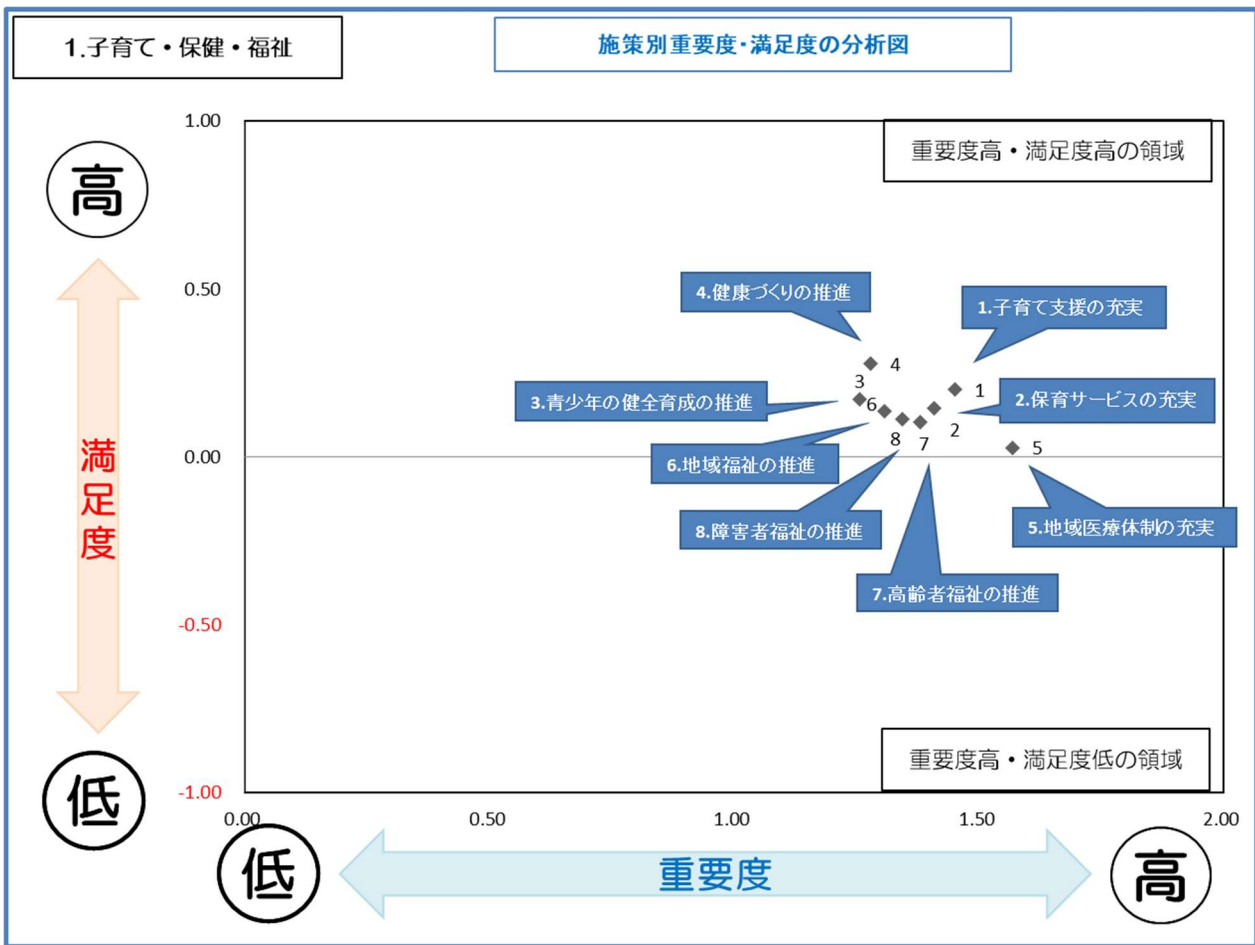
<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「子育て・保健・福祉」、「暮らし・環境」、「都市・生活基礎」の3分野が該当します。

<重要度高・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、本調査での該当はありませんでした。

<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「教育・文化」の1分野が該当します。

<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「産業振興」、「協働・行政経営」の2分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

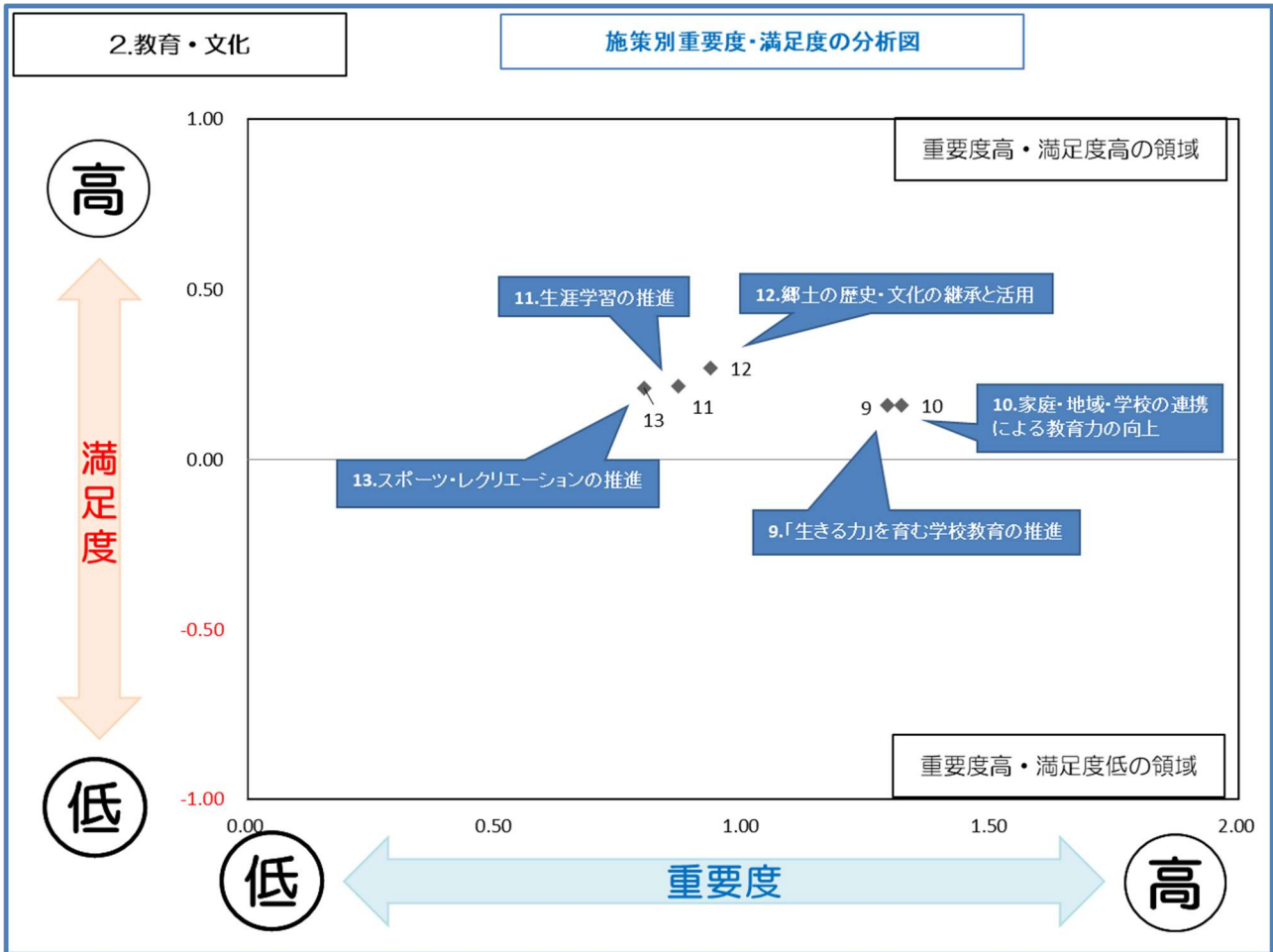


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「5. 地域医療体制の充実」となりました。

「5. 地域医療体制の充実」は重要度が高い施策であるものの、満足度が低いことがうかがえます。

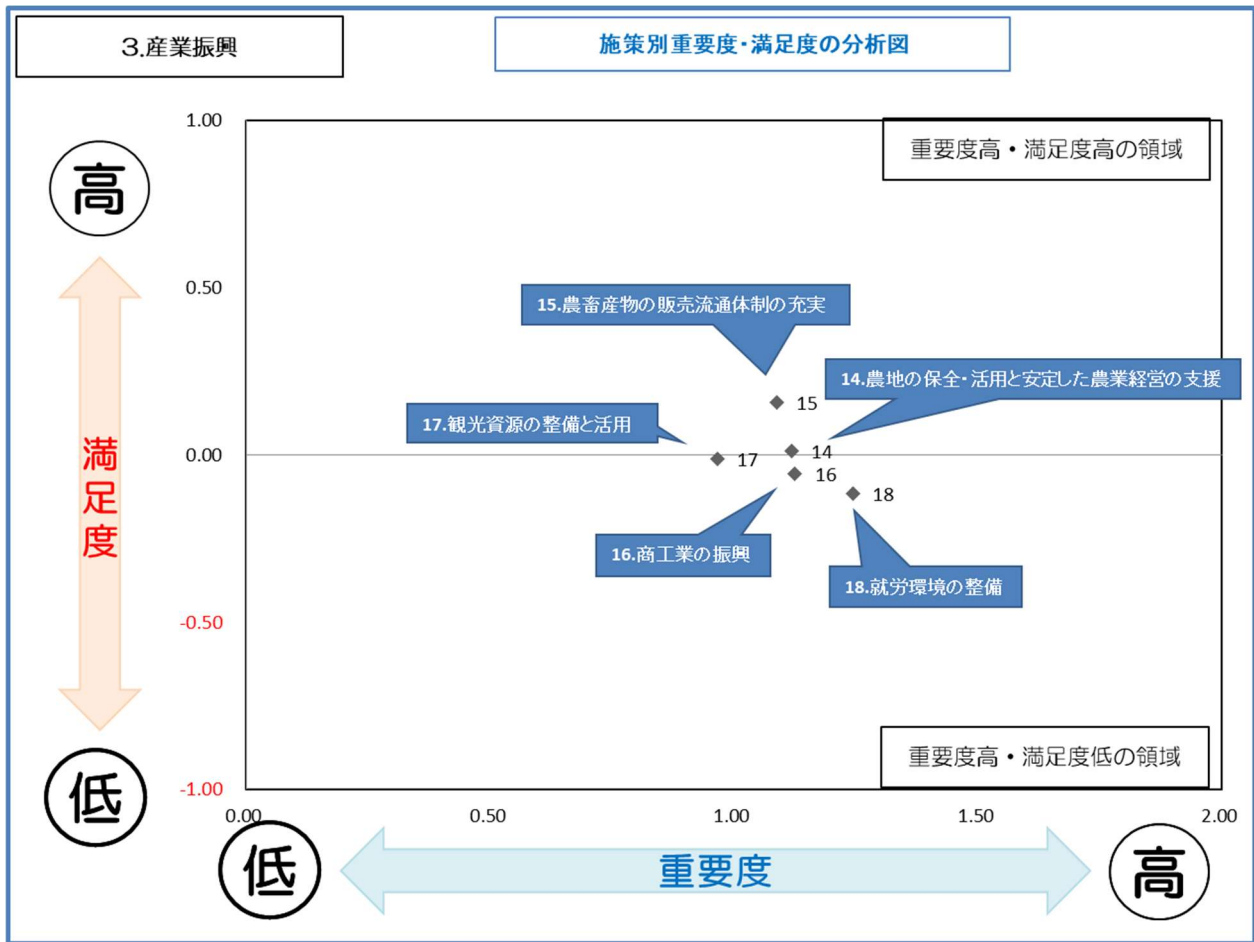
## < 2. 教育・文化 >



教育・文化分野に係る施策は5施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、最も低かった施策は「13. スポーツ・レクリエーションの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「12. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、最も低かった施策は「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」と「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」となりました。

### < 3. 産業振興 >



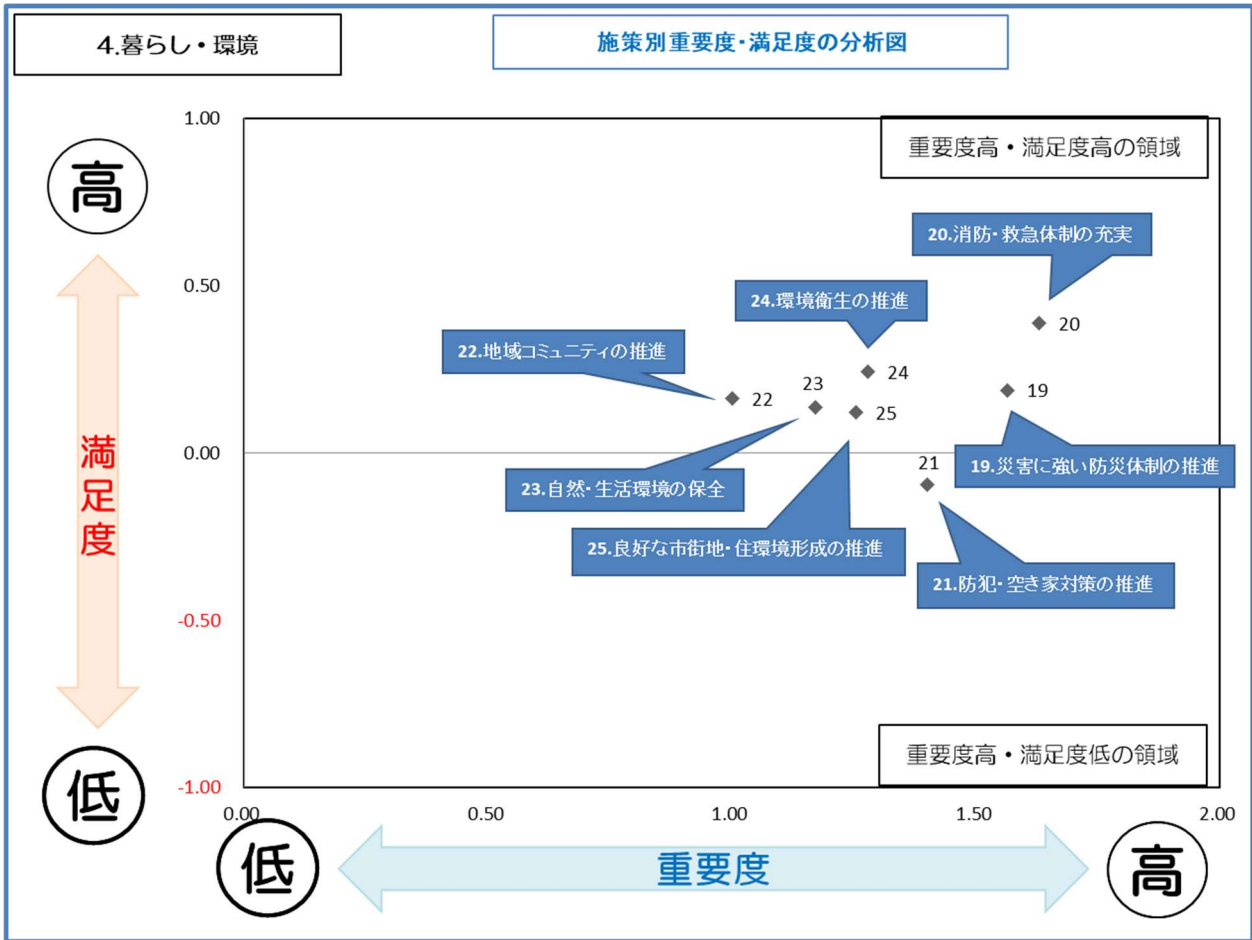
産業振興分野に係る施策は5施策あり、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支」と「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」の2施策において重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「18. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「17. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「18. 就労環境の整備」となりました。

「18. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低くなっていることがうかがえます。



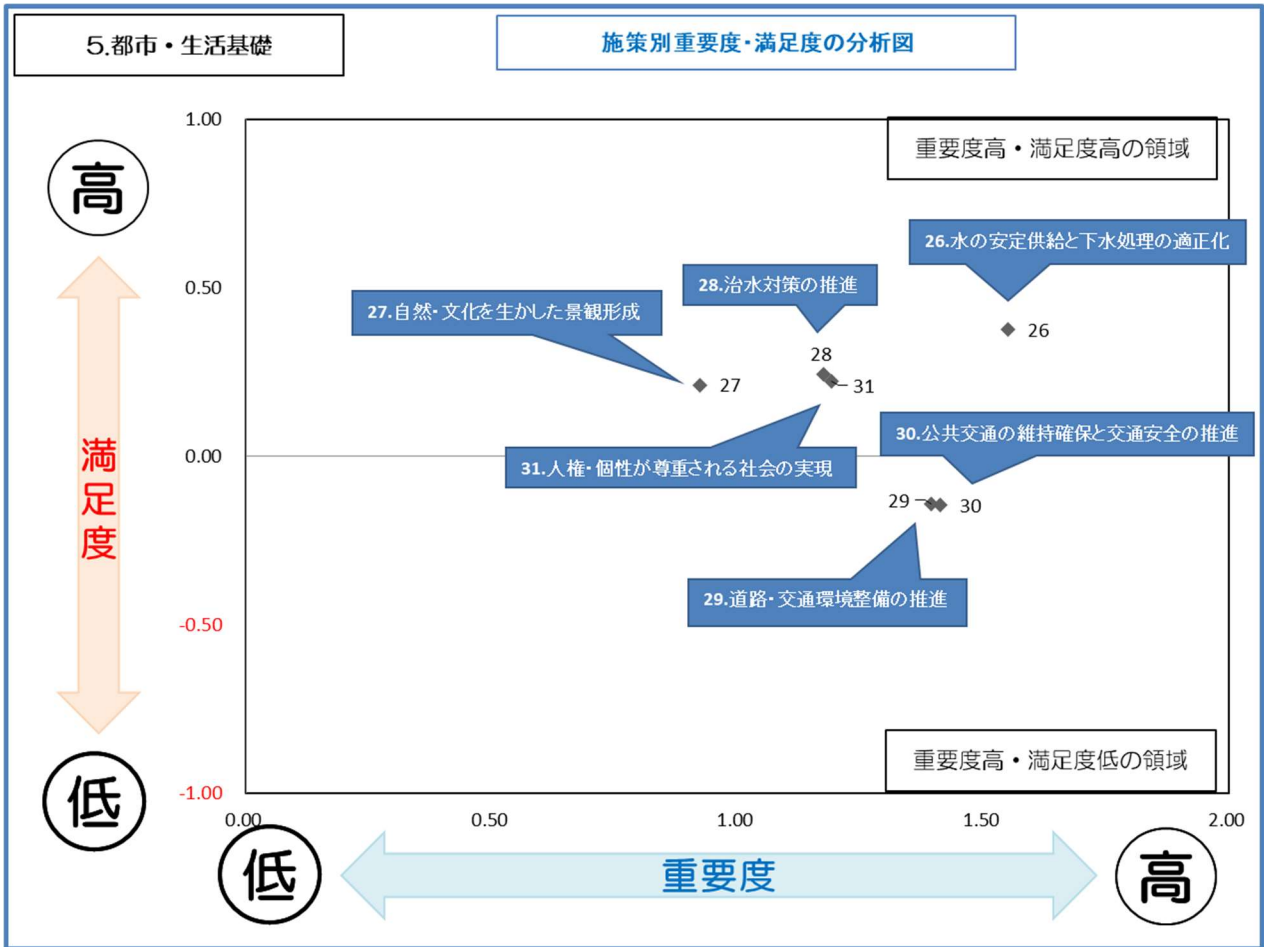
#### < 4. 暮らし・環境 >



暮らし・環境分野に係る施策は7施策あり、「19. 災害に強い防災体制の推進」「20. 消防・救急体制の充実」「22. 地域コミュニティの推進」「23. 自然・生活環境の保全」「24. 環境衛生の推進」「25. 良好な市街地・住環境形成の推進」の6施策において重要度高・満足度高に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「22. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「21. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

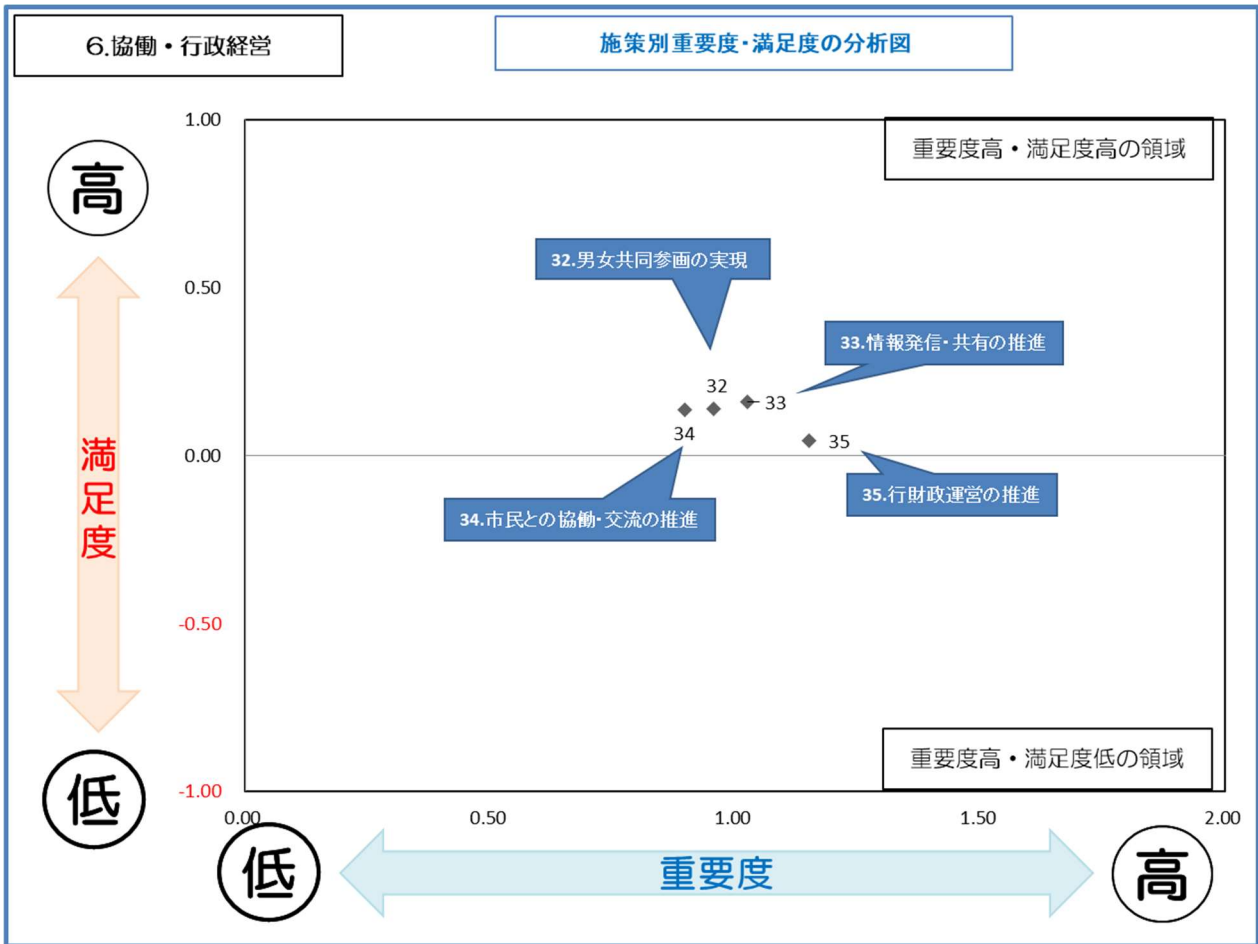
< 5. 都市・生活基礎 >



都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」「27. 自然・文化を生かした景観形成」「28. 治水対策の推進」「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」の4施策において重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「27. 自然・文化を生かした景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 道路・交通環境整備の推進」となりました。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は4施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「35. 行財政運営の推進」、最も低かった施策は「34. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「33. 情報発信・共有の推進」、最も低かった施策は「35. 行財政運営の推進」となりました。

「35. 行財政運営の推進」は重要度が高い施策であるものの、満足度が低いことがうかがえます。

## (2) 地区別

### ➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	7	高齢者福祉の推進
28	治水対策の推進	19	災害に強い防災体制の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	20	消防・救急体制の充実
34	市民との協働・交流の推進	24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1	子育て支援の充実
16	商工業の振興	2	保育サービスの充実
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
18	就労環境の整備	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
22	地域コミュニティの推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
23	自然・生活環境の保全	21	防犯・空き家対策の推進
32	男女共同参画の実現	25	良好な市街地・住環境形成の推進
33	情報発信・共有の推進	29	道路・交通環境整備の推進
35	行財政運営の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水野安定供給と下水処理の適正化」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」などの施策が挙げられ、このうち、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「32. 男女共同参画の実現」、「33. 情報発信・共有の推進」、「17. 観光資源の整備と活用」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
22	地域コミュニティの推進	4	健康づくりの推進
27	自然・文化を生かした景観形成	5	地域医療体制の充実
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	情報発信・共有の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
34	市民との協働・交流の推進	19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		15	農畜産物の販売流通体制の充実
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		35	行財政運営の推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、「29. 道路・交通環境整備の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、「29. 道路・交通環境整備の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	5	地域医療体制の充実
23	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
24	環境衛生の推進	7	高齢者福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	8	障害者福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
28	治水対策の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
32	男女共同参画の実現	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
33	情報発信・共有の推進	19	災害に強い防災体制の推進
34	市民との協働・交流の推進	20	消防・救急体制の充実
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		35	行財政運営の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
16	商工業の振興	21	防犯・空き家対策の推進
17	観光資源の整備と活用	29	道路・交通環境整備の推進
18	就労環境の整備	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「1. 子育て支援の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられます。比較的重要度が高い施策の中で、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、重要度に比べ満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備」、「16. 商工業の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	5	地域医療体制の充実
2	保育サービスの充実	20	消防・救急体制の充実
4	健康づくりの推進	24	環境衛生の推進
6	地域福祉の推進		
9	「生きる力」を育む学校教育の推進		
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上		
11	生涯学習の推進		
12	郷土の歴史・文化の継承と活用		
23	自然・生活環境の保全		
26	水の安定供給と下水処理の適正化		
27	自然・文化を生かした景観形成		
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	19	災害に強い防災体制の推進
7	高齢者福祉の推進	21	防犯・空き家対策の推進
8	障害者福祉の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進		
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援		
15	農畜産物の販売流通体制の充実		
16	商工業の振興		
17	観光資源の整備と活用		
18	就労環境の整備		
22	地域コミュニティの推進		
25	良好な市街地・住環境形成の推進		
28	治水対策の推進		
29	道路・交通環境整備の推進		
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
35	行財政運営の推進		

明戸地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の重質」、「24. 環境衛生の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」や「21. 防犯・空き家対策の推進」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「22. 地域コミュニティの推進」、「3. 青少年の健全育成の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。



➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
25	良好な市街地・住環境形成の推進	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
13	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	2	保育サービスの充実
16	商工業の振興	3	青少年の健全育成の推進
17	観光資源の整備と活用	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	5	地域医療体制の充実
28	治水対策の推進	6	地域福祉の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	7	高齢者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	8	障害者福祉の推進
33	情報発信・共有の推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
34	市民との協働・交流の推進	18	就労環境の整備
35	行財政運営の推進	19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「6. 地域福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「32. 男女共同参画の実現」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育サービスの充実
32	男女共同参画の実現	3	青少年の健全育成の推進
34	市民との協働・交流の推進	4	健康づくりの推進
		5	地域医療体制の充実
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		12	郷土の歴史・文化の継承と活用
		19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		22	地域コミュニティの推進
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		29	道路・交通環境整備の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
		33	情報発信・共有の推進
		35	行財政運営の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
		6	地域福祉の推進
		7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		15	農畜産物の販売流通体制の充実
		16	商工業の振興
		17	観光資源の整備と活用
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		23	自然・生活環境の保全
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		27	自然・文化を生かした景観形成
		28	治水対策の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

八基地区では、重要度が高い施策として、高い順に「19. 災害に強い防災体制の推進」、  
「20. 消防・救急体制の充実」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、「26. 水の安全  
供給と下水処理の適正化」「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このう  
ち、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」や「21. 防犯・空き家対策の推進」に関し  
ては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1	子育て支援の充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
24	環境衛生の推進	8	障害者福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	20	消防・救急体制の充実
31	人権・個性が尊重される社会の実現	21	防犯・空き家対策の推進
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	19	災害に強い防災体制の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	26	水の安定供給と下水処理の適正化
15	農畜産物の販売流通体制の充実	29	道路・交通環境整備の推進
16	商工業の振興	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
18	就労環境の整備		
22	地域コミュニティの推進		
23	自然・生活環境の保全		
25	良好な市街地・住環境形成の推進		
28	治水対策の推進		

豊里地区では、重要度が高い施策として、高い順に「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「19. 災害に強い防災体制の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」や「19. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「22. 地域コミュニティの推進」、「3. 青少年の健全育成の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	2	保育サービスの充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	情報発信・共有の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
34	市民との協働・交流の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		35	行財政運営の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「19. 災害に強い防災体制の推進」「5. 地域医療体制の充実」、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」などの施策が挙げられ、このうち、「2. 保育サービスの充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
13	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	2	保育サービスの充実
32	男女共同参画の実現	8	障害者福祉の推進
33	情報発信・共有の推進	19	災害に強い防災体制の推進
		20	消防・救急体制の充実
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	4	健康づくりの推進
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
28	治水対策の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
31	人権・個性が尊重される社会の実現	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
34	市民との協働・交流の推進	15	農畜産物の販売流通体制の充実
35	行財政運営の推進	16	商工業の振興
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		23	自然・生活環境の保全
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

南地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「29. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「29. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「34. 市民との協働・交流の推進」、「11. 生涯学習の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
28	治水対策の推進	20	消防・救急体制の充実
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
16	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
18	就労環境の整備	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
22	地域コミュニティの推進	19	災害に強い防災体制の推進
23	自然・生活環境の保全	21	防犯・空き家対策の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	24	環境衛生の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	26	水の安定供給と下水処理の適正化
31	人権・個性が尊重される社会の実現	29	道路・交通環境整備の推進
32	男女共同参画の実現	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		

岡部地区では、重要度が高い施策として、高い順に「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「1. 子育て支援の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「6. 地域福祉の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「6. 地域福祉の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「27. 自然・文化を生かした景観形成」、「32. 男女共同参画の実現」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。



➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
8	障害者福祉の推進	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
22	地域コミュニティの推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
25	良好な市街地・住環境形成の推進	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
28	治水対策の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
32	男女共同参画の実現	31	人権・個性が尊重される社会の実現
33	情報発信・共有の推進	35	行財政運営の推進
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		16	商工業の振興
		18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「18. 就労環境の整備」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「18. 就労環境の整備」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「23. 自然・生活環境の保全」、「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。



➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
8	障害者福祉の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	6	地域福祉の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	7	高齢者福祉の推進
16	商工業の振興	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
21	防犯・空き家対策の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
22	地域コミュニティの推進	19	災害に強い防災体制の推進
23	自然・生活環境の保全	20	消防・救急体制の充実
24	環境衛生の推進	25	良好な市街地・住環境形成の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	26	水の安定供給と下水処理の適正化
28	治水対策の推進	31	人権・個性が尊重される社会の実現
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	観光資源の整備と活用	2	保育サービスの充実
		18	就労環境の整備
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、高い順に「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

#### 4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

##### （1）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・医療体制の充実。今年度から、深谷日赤の救急外来小児科医不在日が多くなった。喘息の子供がいるので、いざという時は行田総合まで行かなければならない。（深谷の夜間子どもは軽いかぜなどだけ）何回も喘息で入院しているので心配。安心していただけないです。改善してほしい！！
- ・子育てしていた頃、母子家庭だった事もあり多々不安もありました。でも行政だったり近所だったり身近な人々に大変助けられたと感じています。本当にいつもありがとうございます。
- ・ひとり親でも住みやすい環境にしてほしい。住居・教育の費用が負担がかかっている。
- ・私は花園幼稚園内にある学童に通わせております保護者の者です。花園保育園内の学童からこちらに移動になりました。学童の先生もとても親切にしてくれています。1の質問があります。おむかえに行く際に、小学校の駐車場に車を置き、幼稚園に向かうのですが、なぜかぐるっとまわって入らなければならないと指導を受けました。市の決まり事だからとの事でした。学童は、親だけでなく、祖父母もむかえに行きまです。夏はいいですが、冬は暗く、危ないと思います。1度、市の職員さんの目を見ていただきたいです。なぜ近くの門からの出入りがだめなのかもおしえていただきたいです。
- ・日赤は大きい病院にもかかわらず、受入が非常に悪い。埼玉医大には地域連携小児夜間診療があり、深谷の小児科医も参加している。市であれだけ大きい日赤は全くキノウしていないので、子供のためにも充実させてほしい。・高崎線の籠原駅近くのふみきり（牧場踏切）は終日右折禁止にした方がよい。非常に交通量が多く、右折車のために渋滞も発生しており、非常に危険。
- ・高齢者福祉を。年をとり、免許証も返納した場合、足となるバス、タクシー（無料）になると良い 国民年金は減るばかり、地域のもようし場へ行くにも足がなくては参加出来ず、楽しめない
- ・経済的に余裕のあるお年寄りに行政サービスが手厚いと思う。子育て世代やこれからの子どもたちへの投資が必要。子どもたちやその周りの友人たちも地元で仕事がないと、深谷を離れてしまう。深谷には、高齢者と外国人が多いまちになってしまうのではないかと心配である。
- ・住宅地が増え、子育て世代の家庭が増えているので、保育園や病児保育の施設を充実させて欲しい

## (2) <教育・文化>に関する意見

- ・ 1、以前教育委員会に生涯学習についてどの様な学習があるか聞きに行った時こちらの希望より委員会側からどれがいいか決める様な話がありどの様な学習があるのかわからずにきまり帰って来たことがあった。出来たら全学習を公開にしてほしい。2、駅前の開発を考えてほしい。どこの街も駅前開発に力を入れている。3、渋沢栄一が好んだ「煮ぼうとう」を食べる所がない。もっとPRして欲しい。
- ・ 南公民館主催のイベントに参加したいのですが、申し込み時間帯がいつも早く、仕事で申し込みに行けない。あと人気のある企画は先着順だから特に行けない。例えば、今回の企画が先着外になった人には、別の企画に参加したい人用に優先権などあったらいいなといつも思います。・ パパママカードが使える所をもっと増やしてほしいです。
- ・ <教育・文化>に関すること スポーツ・レクリエーションの推進→理解できる情報があまりない。区画整理事業において、その地区の今後の情報等がわからず、生活設計に老後の不安があることから、個別の情報を知らせるべきであると思われる？
- ・ 70才以上の高齢者にも体操教室とか野原を散策して楽しむという教室があれば良いと思います。
- ・ 音楽や美術。その他の文化的な活動をしていく方がこれからも増えていくと思います。そういった活動が精神的に若々しさを保ち、健康寿命を伸ばしていくこととなると思いますが、そういった方々が、日々の活動を発表する場、表現する場所があると良いですね。文化的な活動を観る機会も増えたら人生がもっと豊かになるからです。市が主催となるような比較的大規模な物ではなく、多くの方が気軽に楽しめる場が増えていくと良いと思っています。前橋市の児童文化学館は、図書館と萩原朔太郎記念館とキャパ100~150のホールが入っていて、アマチュアの演奏家が時々コンサートを開いていたりします。とても良い空間だと思いました。・ 本庄氏のはにぽんプラザは公民館と視聴覚ホール、カフェ、自習や談話のできるフリースペースがあり、学習する中高生やサークル活動をするママサークル、高齢者のグループ等さまざまな年齢の方々が交流しあえる施設で深谷にもあると良いなあと感じました。人が交流し、かわりあえる街ができたなら、活気のある街をつくっていけるように思います。・ 障害者や高齢者が実際に使ってみたらどう不便だろうか、使いやすいだろうかという視点を忘れずに施設づくりを考えてほしいです。・ 街づくりに関してではありませんが…。広報の記事に、それぞれの施設の電話番号だけでなく、住所も載せてください。合併後はどこでやっているのか全くわからない事が多いです。
- ・ 私はビッグタイトルを利用することが多いのですが、大会を行なう時の使用料が高すぎると思います。市民体育館が、大会で使えなくなってしまった分、どこか新しい体育館（バドミントンコート6面くらい）の大きさのものがほしいと思います。健康のためにスポーツやレクリエーションなど交流の場がたくさん必要だと思いますし、なるべく利用する人の負担が少なくていいものづくりをしてほしいです。

### (3) <産業振興>に関する意見

- ・ 地場産業のさらなる活性化を希望
- ・ 深谷駅周辺及び商店街が疲弊している。(将来が心配である) 深谷の商店街に全く魅力を感じない。買い物は他の都市へ出掛ける。
- ・ 買い物の中心が上柴、アリオ周辺になっています。私はそこに住んでいるのでとても便利です。運動の為に歩いていきます。少し離れている「ビッグタートル」では人が多く集まるのにまわりには店らしい物もなくとても不便です。出来ましたら駐車場の一角にでも深谷市内で作る野菜、その野菜等で作った弁当などを売るちょっとした直売所的なのがあったらいいなと思います。運動に通っている人の中にも主婦もいます。帰りに野菜など買うことが出来たらいいし、又近くに住んでいるお年寄りも散歩がてら出かけてきて人に会い話も出来楽しいと思え、心も体も健康に向かうと思います。特に運動した後にお腹も空くし甘いものが欲しくなります。ぜひ、直売所を作ってください
- ・ ◎産業振興に力を入れるべきと考えます。・ 企業誘致 (商業施設含む) ・ 観光施設等の整備 (5年後に向けて) ・ 農業資源の活用 (深谷市の強みを活かしてきれていない) ・ イベントの見直し (産業祭・花フェスタ) →何を目的に開催しているのかわからない。人を集めるだけのイベントならば意味がない。
- ・ 私は農家出身で毎日牛乳2パック愛飲しています。近くの酪農家を見るに経営は大変だと思えますし、さらに従事者の高齢化、労働条件の過酷だと思えます。今後、後継者不足により農家数は減少が予想され大規模経営が理想だと思っています。私達が安心して健康維持のための牛乳や乳製品は必要不可欠だと思っています。行政も何かお手伝いできないものでしょうか (企業の参入など)
- ・ 税金が高いので安くしてほしい。私は農業を営んでおり、深谷の特産品等を日本全体の人々の為に日々努力し、届けたい、そういう思いで仕事に取り組んでますが農作物等の値段が近年高値している中、農家の取り分が非常に少ない、何か対策や制度等を設けてほしい。若者の農業離れの一番の原因だと思う。
- ・ 花園アウトレットモール建設事業について 開業を楽しみにしています。現在ははなぞの道の駅をはじめ、直売所 (農産物) 周辺は、市外の人利用が多いと思います (駐車場の車ナンバーより) ので、アウトレットが開業すれば、さらに、深谷市に人が集まり、深谷市の良いところをアピールできる場となり、経済効果が期待できると思います。・ 最近、高齢者の自動車運転事故のニュースが多く見られます。行田市の人から、運転免許証自主返納者支援事業 (自主的に運転免許証を返納した方の移動手段を確保することを目的として、タクシーの利用券を交付する) のことを聞きました。くるりんや、デマンドバスでは、まだまだ不便なところがあるので、深谷市でも、あくまでも、申請した人が対象という条件で、検討してほしいと思います。

#### (4) <暮らし・環境>に関する意見

- ・災害の時の対応が充実し、安心できる町づくりをしてほしい。犯罪がなく安心して生活できる町づくりに取り組んでほしい。
- ・あまり外部との交流を持っていないため参考になる回答ができなかったと思います。行政のこと等どういふふうに進められているかよく知らないの、すみません。比較的住み良いまちだと思っています。ありがたいです。災害がおこった時の対処が一番気になります。地域ごとにどう動くといいか教えてくれるところはありますか？
- ・河川の整備が不十分で、川がきたない。(吉野川) 上流に肥料製造所があり、夏場においがひどく、何の対策もされてない。なんとかしてほしい。
- ・子ども達の登下校の時間帯に、もっと見守り隊の方々が増えてくださると助かります。パトカーも見かけるだけでも、保護者としては安心するものです。
- ・市民がワクワクすることをふやしてほしい。無料や低額でみられる音楽イベント、他イベントを定期的によくやっていただきたい。街が明るくなりますし、人も集まります。深谷市はイベントが少ないと思います。緑を大切に自然を残したり作ったりしてほしいです。緑(自然)は心を豊かにします。渋沢栄一さんかんれんの企画もしていただけたらと思います
- ・深谷市に住んで、そろそろ4年目です。今のところ、(現状)問題ない。引越してすぐに、下着ドロボーに会った。けいさつをよんで、けんしょうをしてもらった。初めは、不安であった。
- ・私は県外からこちらに来ましたが、災害がとても心配です。(私の地元は東日本大震災の際、かなりのダメージを受けました。)"深谷"という地名、豪雨や大きな地震 etc が起こった際、壊滅的な被害が広範囲に及ぶのではないかと不安です。日頃から、地域ごとの訓練やハザードマップの周知、特にキケンな場所の公開 etc を行い、災害に強いまちづくりを進めて頂きたいです。
- ・最近の深谷市は、メディアにも取り上げられることも多く、これからもっと発展していく街になるだろうと勝手に感じております。今後オープンするであろうアウトレットモールの影響もどのように反映されていくのか楽しみです。子育て中の身としては、とにかく安全で安心して暮らしていける街であって欲しいです。現時点では、とても満足していますし、住みやすい街だと思っています。
- ・前に住んでいた所では雑紙回収に積極的でした。小・中・幼・保、会社でも雑紙をとと言われていました。雑紙がいくら位の収入になるかわかりませんが、少しでも足しになるならもっと広めてみては？と思います。この間学校の資源回収で雑紙を持っていたら回収の先生に「これは何？」と言われたので、深谷は雑紙回収の認知度が低いんだなと感じました。

## (5) <都市・生活基盤>に関する意見

- ・免許書を返納しても、買物が安心してできるまちづくりになっていったらいいなと思います。
- ・通学路の整備
- ・就学前の子ども達が、雨や雪の日でも安心して遊ぶ事ができる広い場所を作って欲しい
- ・商業施設を充実して欲しい。ショッピングモールなどないので、市外 or 県外まで行かないといけない。アウトレットができないと噂で聞いたが、それをはっきりとしてほしい。できるのを楽しみにしているのに、いっこうにできないので残念です。若い人が楽しめる所が少なすぎる。
- ・民間、公共のバス共に本数が少なくて、利用しづらいです。10分おきにとはいいませませんが、せめて朝、夕は1時間に3～5本、日中、夜間は2本程度、運行してほしいです。そうすれば、バス利用者の増加につながると思います。
- ・南地区に住んでいますが、交番の設置をお願いしたい・子供たちが遊べる公園や、お年寄りの方が休めるいこいの場を増やしてほしい。・外灯が主要道路にはありますが、少し奥に入った細い道にはありません。もう少し増やしてもらえると、防犯対策につながると思います。・歩行者の安全確保の為、頑丈なガードレールの設置。・子供からお年寄りの方まで、住み易い、充実した街環境になれば良いと思います。
- ・公園の整備→子供から高齢の人が利用し易い公園を作ってほしい。例として、伊勢崎市民の森公園や高崎市の観音山ファミリーパークの様な公園を作ってほしいと思います。この様な公園があればウォーキングなどで利用する人も増え、健康の推進にも繋がるし、災害が発生した際にも大変有効な場所になると思います。
- ・地域により生活の利便性の格差が激しいと感じています。買物にも困る買物難民の地域もあるので、市民のみなさんが快適な生活ができるようお考えいただきたい。
- ・早く上下水道完備にしてほしい。用水路の整備をもっと徹底してほしい。
- ・コミュニティバス。デマンドバスを利用するたびにありがたいと感謝しております。コミュニティは深谷駅まで行きますが、残念な事に乗る時は我家からバス停まで遠いのです。又デマンドは近いのですが市役所までしか行きません。せめてもう半分でも先まで行ってくれたら助かります。病院もそうです。コミュニティは病院の近くまで行きますがデマンドはダメです。もう少し乗せてくれたらといつも思います。何とかならないでしょうか。市長様お願い申し上げます。
- ・駅前がさみしすぎます。小さくても駅のそばにスーパーが必要です。

## (6) <協働・行政経営>に関する意見

- ・道路、道の植物の整備ができていて綺麗な所と、そうでない所がある様に思うので、市全体が目が行き届いた街づくりになっていることが防犯対策につながっていくと思います。Twitterで情報を確認したりしています。ぜひ今後もSNS等でこまめにリアルタイム情報をアップしてもらえると色々な情報が得られるので助かります。情報は迅速にいただけるとこちらでも対応、強力しやすいのでよろしくお願い致します。
- ・市政について日々深く考える事があまり無い状況の中で今般のアンケートを記入していることであらためて市制に関心をより一層持たないといけないと再認識した次第です。特に若い世代（これからの人達）には、市政に関心を持って頂く事が必要と考えます。（今後、深谷市が良い意味で発展していく為にも）市政の実情を知る・考える機会を増やしていく事が重要かと思い、その方法の一つとして企業に参画願い、従業員レクリエーション等の行事に”深谷市を知ってみよう！”的なテーマで市政の勉強会を設けたり”市役所見学”等日々生活している中で”深谷市”（自身が住んでいる街）をより身近に感じていく環境作りが急務かと考えます。
- ・県外から引越してきたばかりなので深谷市についてはあまりまだ分かりません。自治会に入っていないので市の広報などが見られず情報が入ってきにくいと感じます。以前住んでいた地域では広報を全戸配布していました。
- ・高齢化、少子化、財政も厳しくなると思うが小島市長、深谷市職員に期待しています。頑張れ、頑張ろう！
- ・インフラの老朽化に対して財政縮小が予想される昨今、何を優先し何を我慢するのか、市としての指針が知りたい。
- ・パソコンもなく、広報も届かないので、全くわかりません。
- ・子供のイベント、他の市に比べ少ないと思います。アウトレットに関しても、税金が上るだけで市民にメリットは有るのか？新しく駅を作ったが、利用しない市民は多く、ただ税が上るのは、住んでいる方としては、不満がある。よりよいまちづくりを考えるなら、市会議員の得を考える前に、子供の事を考えた、子育てをする世帯の事を支援出来る市にしてほしい。正直、今は住んでいて不満が多く有る。深谷市HPの子供のイベント等、見づらく、何が有るか分からない。
- ・ゆりかごから墓場までと言いますが人生一つしかない生命を安心して過せる町づくりを期待します。
- ・フラワークイーンではなく、フラワー隊など男性がいても良いと思いました。
- ・高齢者に解りやすいアンケートお願いします



### 3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

#### 1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

##### 1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい   | 69.4% |
| 2. 当分の間は住みたい   | 24.3% |
| 3. できれば転居したい   | 3.1%  |
| 4. すぐにもでも転居したい | 0.5%  |
| 無回答            | 2.6%  |

##### 2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 参加している     | 13.2% |
| 2. ときどき参加している | 10.1% |
| 3. あまり参加していない | 8.4%  |
| 4. 参加していない    | 64.1% |
| 無回答           | 4.3%  |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う      | 14.0% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 51.2% |
| 3. あまり両立できていないと思う  | 19.8% |
| 4. 両立できていないと思う     | 15.1% |
| 無回答                | 0.0%  |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 9.1%  |
| 2. ある程度はそう思う | 63.6% |
| 3. あまりそう思わない | 18.2% |
| 4. そう思わない    | 9.1%  |
| 無回答          | 0.0%  |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 27.6% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 32.0% |
| 3. あまり取り組んでいない | 22.1% |
| 4. 取り組んでいない    | 16.5% |
| 無回答            | 1.8%  |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 受けている  | 73.3% |
| 2. 受けていない | 25.0% |
| 無回答       | 1.7%  |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- |        |       |
|--------|-------|
| 1. いる  | 76.9% |
| 2. いない | 20.9% |
| 無回答    | 2.2%  |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 43.7% |
| 2. ときどき気をつけている | 37.4% |
| 3. あまり気をつけていない | 14.8% |
| 4. 気をつけていない    | 2.4%  |
| 無回答            | 1.8%  |

問8. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- |        |       |
|--------|-------|
| 1. いる  | 53.6% |
| 2. いない | 42.1% |
| 無回答    | 4.3%  |

##### 3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 11.1% |
| 2. ときどき実践している | 22.1% |
| 3. あまり実践していない | 24.4% |
| 4. 実践していない    | 38.7% |

無回答 3.7%

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった  | 5.6%  |
| 2. ある程度はあった | 23.9% |
| 3. あまりなかった  | 28.4% |
| 4. なかった     | 39.7% |

無回答 2.4%

問3. スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 12.7% |
| 2. ときどき行っている | 25.4% |
| 3. あまり行っていない | 23.5% |
| 4. 行っていない    | 36.3% |

無回答 2.1%

#### 4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする   | 16.7% |
| 2. たまに目にする  | 42.9% |
| 3. あまり目にしない | 26.4% |
| 4. 目にしない    | 11.5% |

無回答 2.5%

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けている  | 21.8% |
| 2. たまに心掛けている  | 39.6% |
| 3. あまり心掛けていない | 27.5% |
| 4. 心掛けていない    | 9.0%  |

無回答 2.1%

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている  | 16.2% |
| 2. ややバランスが取れている   | 49.0% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 22.4% |
| 4. バランスが取れていない    | 8.8%  |

無回答 3.7%

#### 5. 暮らし・環境について

問1. ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 十分ある    | 3.8%  |
| 2. ある程度はある | 37.9% |
| 3. あまりない   | 41.3% |
| 4. ない      | 15.2% |

無回答 1.8%

問2. 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 71.9% |
| 2. 知らない  | 25.8% |

無回答 2.4%

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2.7%  |
| 2. ない | 95.2% |

無回答 2.1%

問4. 日ごろ、防犯対策をとっていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 十分とっている    | 6.9%  |
| 2. ある程度はとっている | 52.4% |
| 3. あまりとっていない  | 31.1% |
| 4. とっていない     | 7.6%  |

無回答 2.0%

問5. 地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 16.3% |
| 2. ときどき参加している | 32.4% |
| 3. あまり参加していない | 25.2% |
| 4. 参加していない    | 23.7% |

無回答 2.4%

問6. 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 20.3% |
| 2. ときどき行っている | 35.8% |
| 3. あまり行っていない | 28.0% |
| 4. 行っていない    | 14.0% |

無回答 2.0%

問7. 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 51.1% |
| 2. 変わらない          | 46.4% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 1.3%  |
| 無回答               | 1.2%  |

問8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている   | 34.2% |
| 2. ある程度は心がけている | 50.7% |
| 3. あまり心がけていない  | 12.3% |
| 4. 心がけていない     | 1.7%  |
| 無回答            | 1.0%  |

## 6. 都市・生活基盤について

問1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている  | 2.7%  |
| 2. ある程度はとれている | 53.6% |
| 3. あまりとれていない  | 31.4% |
| 4. とれていない     | 8.0%  |
| 無回答           | 4.3%  |

問2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している  | 16.7% |
| 2. やや満足している   | 53.3% |
| 3. あまり満足していない | 20.7% |
| 4. 満足していない    | 8.1%  |
| 無回答           | 1.2%  |

問3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. たいへんある  | 19.7% |
| 2. ある程度はある | 50.1% |
| 3. あまりない   | 23.8% |
| 4. ない      | 5.1%  |
| 無回答        | 1.3%  |

問4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. たいへんある  | 4.2%  |
| 2. ある程度はある | 37.8% |
| 3. あまりない   | 44.7% |
| 4. ない      | 10.8% |
| 無回答        | 2.5%  |

問5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている  | 19.2% |
| 2. ある程度はできている | 51.8% |
| 3. あまりできていない  | 21.6% |
| 4. できていない     | 5.5%  |
| 無回答           | 2.0%  |

問6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 感じない    | 11.4% |
| 2. あまり感じない | 36.5% |
| 3. ときどき感じる | 39.5% |
| 4. いつも感じる  | 10.8% |
| 無回答        | 1.8%  |

問7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 感じない    | 14.6% |
| 2. あまり感じない | 32.4% |
| 3. ときどき感じる | 30.1% |
| 4. いつも感じる  | 20.3% |
| 無回答        | 2.6%  |

## 7. 協働・行政経営について

問1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 4.7%  |
| 2. ある程度はそう思う | 55.8% |
| 3. あまりそう思わない | 28.4% |
| 4. そう思わない    | 7.8%  |
| 無回答          | 3.3%  |

問2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 6.7%  |
| 2. ない | 91.8% |
| 無回答   | 1.6%  |

問3. お互いの人権について意識をして生活をしていきますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 27.8% |
| 2. ときどき意識している | 31.2% |
| 3. あまり意識していない | 32.2% |
| 4. 意識していない    | 7.2%  |
| 無回答           | 1.6%  |

問4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く     | 1.7%  |
| 2. ときどき聞く   | 11.5% |
| 3. あまり聞かない  | 44.1% |
| 4. 聞いたことがない | 41.3% |
| 無回答         | 1.4%  |

問5. 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 3.8%  |
| 2. ある程度はそう思う | 52.7% |
| 3. あまりそう思わない | 32.7% |
| 4. そう思わない    | 8.0%  |
| 無回答          | 2.9%  |

問6. 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 20.9% |
| 2. 変わらない          | 73.7% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 2.4%  |
| 無回答               | 3.0%  |

問7. 市の財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへん持っている  | 12.7% |
| 2. ある程度は持っている | 54.6% |
| 3. あまり持っていない  | 25.0% |
| 4. 持っていない     | 6.5%  |
| 無回答           | 1.2%  |

問8. 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. とても充実している | 11.0% |
| 2. やや充実している  | 58.2% |
| 3. やや不足している  | 24.2% |
| 4. とても不足している | 4.2%  |
| 無回答          | 2.5%  |

問9. 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 3.5%  |
| 2. ある程度はそう思う | 47.7% |
| 3. あまりそう思わない | 36.3% |
| 4. そう思わない    | 8.5%  |
| 無回答          | 3.9%  |

問10. 市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 2.6%  |
| 2. 少しある  | 25.5% |
| 3. あまりない | 47.1% |
| 4. ない    | 22.7% |
| 無回答      | 2.1%  |

問11. 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 45.8% |
| 2. 知らない  | 52.8% |
| 無回答      | 1.4%  |

問12. 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 66.4% |
| 2. 興味がない | 32.0% |
| 無回答      | 1.6%  |

問13. 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 参加したい   | 37.4% |
| 2. 参加したくない | 58.7% |
| 無回答        | 3.9%  |

## 2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？  
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

### ●重要度に関する回答

	重要度 (%)					無回答 (%)	重要度 (点数)
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

### ◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	65.8	17.3	2.5	0.5	7.5	6.5	1.45
保育サービスの充実	62.9	18.3	2.1	0.5	8.8	7.5	1.41
青少年の健全育成の推進	52.4	26.4	4.3	0.7	8.8	7.5	1.26
健康づくりの推進	51.1	32.4	5.6	0.5	3.9	6.4	1.28
地域医療体制の充実	70.8	17.3	2.1	0.0	3.7	6.1	1.57
地域福祉の推進	51.8	32.4	4.6	0.3	4.4	6.5	1.31
高齢者福祉の推進	56.6	29.9	3.5	0.8	3.4	5.8	1.38
障害者福祉の推進	55.6	28.0	3.9	0.4	5.2	6.9	1.34

### ◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	55.2	24.4	3.8	0.9	8.5	7.2	1.29
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	54.4	27.8	3.4	0.7	7.2	6.5	1.32
生涯学習の推進	32.5	38.0	13.6	1.3	7.3	7.2	0.87
郷土の歴史・文化の継承と活用	33.1	41.3	11.1	1.4	6.7	6.4	0.93
スポーツ・レクリエーションの推進	29.7	40.0	14.4	2.5	6.9	6.5	0.80

### ◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	43.3	32.4	5.5	0.8	11.5	6.5	1.12
農畜産物の販売流通体制の充実	40.7	33.9	5.4	0.5	12.7	6.9	1.09
商工業の振興	40.8	36.5	4.7	0.4	10.8	6.8	1.13
観光資源の整備と活用	36.5	35.3	10.3	0.7	10.2	7.1	0.97
就労環境の整備	50.2	29.0	3.1	0.9	9.4	7.3	1.24

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度 (点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	70.2	18.4	1.8	0.3	3.1	6.1	1.56
消防・救急体制の充実	72.7	18.6	0.9	0.0	2.7	5.1	1.63
防犯・空き家対策の推進	56.6	30.7	3.3	0.3	3.1	6.0	1.40
地域コミュニティの推進	36.1	41.4	11.9	0.8	3.8	6.0	1.00
自然・生活環境の保全	43.7	38.2	6.3	1.0	4.2	6.7	1.17
環境衛生の推進	49.8	34.2	4.7	0.7	4.1	6.5	1.28

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	48.0	34.9	5.2	0.1	4.3	7.5	1.25
水の安定供給と下水処理の適正化	67.5	22.1	1.7	0.1	2.9	5.8	1.55
自然・文化を生かした景観形成	33.3	40.0	12.2	1.0	6.9	6.5	0.92
治水対策の推進	46.8	30.8	6.4	0.3	8.4	7.3	1.18
道路・交通環境整備の推進	56.6	30.1	3.7	0.1	3.1	6.4	1.39
公共交通の維持確保と交通安全の推進	57.6	29.0	2.6	0.3	3.9	6.5	1.41

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	46.3	33.1	5.6	0.4	7.8	6.8	1.19
男女共同参画の実現	35.3	37.6	9.4	1.6	9.0	7.1	0.96
情報発信・共有の推進	37.1	38.6	8.4	0.9	7.7	7.3	1.03
市民との協働・交流の推進	30.8	41.4	10.2	1.6	9.3	6.7	0.90
行財政運営の推進	44.3	33.1	5.6	0.5	9.8	6.7	1.15

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度 (点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	5.2	35.7	15.0	5.5	28.6	9.9	0.20
保育サービスの充実	4.7	32.5	14.5	6.5	30.8	10.8	0.14
青少年の健全育成の推進	2.1	34.0	11.9	4.6	36.5	11.0	0.17
健康づくりの推進	6.1	41.7	15.9	5.1	21.3	9.8	0.28
地域医療体制の充実	5.8	36.2	22.7	11.1	15.3	8.9	0.03
地域福祉の推進	3.7	35.8	16.9	6.4	27.7	9.5	0.13
高齢者福祉の推進	4.4	33.3	16.3	7.8	29.2	8.9	0.10
障害者福祉の推進	4.6	28.6	15.3	5.6	36.2	9.7	0.11

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	3.5	29.3	14.4	3.0	39.0	10.8	0.16
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	4.3	30.8	15.9	3.8	34.6	10.5	0.16
生涯学習の推進	3.4	33.5	13.1	2.7	36.9	10.5	0.22
郷土の歴史・文化の継承と活用	5.0	35.3	13.3	2.5	33.9	10.1	0.27
スポーツ・レクリエーションの推進	4.2	35.2	15.0	3.8	32.0	9.8	0.21

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	2.0	25.9	16.6	6.0	40.3	9.3	0.01
農畜産物の販売流通体制の充実	2.7	32.0	12.8	4.4	38.0	9.9	0.16
商工業の振興	1.4	25.6	17.0	8.5	37.5	9.9	-0.05
観光資源の整備と活用	1.7	28.9	16.7	8.4	34.8	9.5	-0.01
就労環境の整備	1.4	24.7	19.5	9.8	34.6	9.9	-0.12



満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	6.1	35.2	16.6	6.0	26.3	9.8	0.19
消防・救急体制の充実	10.1	42.1	13.6	5.0	20.7	8.6	0.39
防犯・空き家対策の推進	2.6	28.0	22.1	10.2	27.8	9.3	-0.09
地域コミュニティの推進	2.5	37.0	17.3	4.2	29.9	9.2	0.16
自然・生活環境の保全	3.3	36.5	17.1	6.1	27.5	9.5	0.14
環境衛生の推進	6.1	37.5	15.7	5.0	26.1	9.5	0.24

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	3.3	38.0	19.5	6.4	22.1	10.7	0.12
水の安定供給と下水処理の適正化	9.8	44.2	12.2	7.1	17.9	8.9	0.38
自然・文化を生かした景観形成	3.9	38.3	15.8	4.6	27.8	9.5	0.21
治水対策の推進	5.1	35.6	11.0	5.2	33.3	9.8	0.24
道路・交通環境整備の推進	3.0	33.1	23.1	15.0	16.7	9.0	-0.14
公共交通の維持確保と交通安全の推進	2.9	32.8	21.3	15.8	17.9	9.3	-0.14

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	3.0	36.6	12.5	3.9	34.2	9.7	0.22
男女共同参画の実現	2.1	32.8	14.0	4.4	36.7	9.9	0.14
情報発信・共有の推進	2.7	34.8	15.6	4.3	32.4	10.2	0.16
市民との協働・交流の推進	1.8	32.8	14.1	4.3	37.4	9.5	0.14
行財政運営の推進	2.5	27.7	16.1	6.0	38.6	9.2	0.05

### 3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

336 件

### 4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別 (無回答 4.2%)	1	男性 (42.9%)	2	女性 (52.9%)	
イ. 年齢 (無回答 1.8%)	1	20 歳代 (6.5%)	2	30 歳代 (12.0%)	3 40 歳代 (19.0%)
	4	50 歳代 (12.4%)	5	60 歳代 (24.2%)	6 70 歳以上 (24.1%)
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 2.5%)	1	深谷地区 (24.2%)	2	藤沢地区 (6.5%)	3 幡羅地区 (9.5%)
	4	明戸地区 (3.5%)	5	大寄地区 (3.0%)	6 八基地区 (2.9%)
	7	豊里地区 (2.6%)	8	上柴地区 (11.4%)	9 南地区 (6.8%)
	10	岡部地区 (11.4%)	11	川本地区 (6.5%)	12 花園地区 (9.2%)